

学修ガイド 2026年度

工学部

社会環境工学科・建築学科・電子情報工学科・生命工学科



北海学園大学

Hokkai-Gakuen University

〈目次〉

建学の精神, ミッション・ビジョン [▶](#)

「個人情報の取り扱い」について [▶](#)

情報システムについて [▶](#)

工学部履修ガイド [▶](#)

証明書・届出 [▶](#)

学長賞 [▶](#)

研究不正防止に関する取り組み [▶](#)

HGU数理・データサイエンス教育プログラム [▶](#)

北海学園大学の沿革 [▶](#)

サポート体制 [▶](#)

大学の施設, 構内マップ [▶](#)

履修登録G-PLUS! 操作方法 [▶](#)

学則及び規程関係 [▶](#)

学修ガイドは教育目的や履修・授業、各種届出など学生の皆さんが大学で4年間学修するために必要な項目を示したものです。重要事項が含まれますので、学生の皆さんはこれらをよく読み、しっかり理解したうえで学修に励んでください。

また、マークが付いている箇所にはリンクが設定されていますので、詳細をご覧になる場合はそちらからご覧ください。

(1) 建学の精神, ミッション・ビジョン

建学の精神

北海学園大学は、「開拓者精神」(Pioneer Spirit)を建学の精神としています。初代学長の上原轍三郎(1883-1972)は、第一回入学式の式辞のなかで、「開拓精神」あるいは「開拓者精神」をもって本学学生のモットーとすべきことを説きました。爾来、学生たちや教職員の間で、「開拓者精神」が本学の建学の精神と見なされています。

この精神は、明示的には「北海学園の父」と称される浅羽靖(1854-1914)に由来するものですが、それはさらに大津和多理(1857-1917)にまで遡ることができます。札幌農学校第三期生の大津が1885(明治18)年に設立した北海英語学校は、学校法人北海学園のそもそもの揺籃ですが、この学校は北海道開拓に資する人材育成のために創設された、札幌農学校に入学するための予備校でした。したがって、「開拓精神」ないし「開拓者精神」は、大津をして北海英語学校の設立へと駆り立てた、当の精神でもあったのです。

大津の志を継いだ浅羽靖のもとで、やがて北海中学(北海高等学校の前身)と札幌商業学校(北海学園札幌高等学校の前身)が設立され、風雪に耐えたその基盤と教育実績の上に、1950(昭和25)年に北海短期大学が、さらにその2年後に短大を改組転換して、現在の北海学園大学が創設されました。本学は4年制大学としては、今年で74年目となりますが、その背後には141年に及ぶ長い苦節の歴史があるのです。

「徒に官に依拠せず自らの努力をもて立つ」という自主独立の開拓者精神は、近時は「二つのじりつ」——自立と自律——と言い換えられることもあります。かくして、今では「開拓者精神」と「自立と自律」が、本学のスクール・モットーとなっています。

ミッション・ビジョン

【前文】

北海学園大学の建学の精神である自主独立の「開拓者精神」は、個人の幸福追求や民主主義の礎として普遍的な価値を有する。しかしまた、北海道の歴史と現実を前に批判的に継承されるべきものである。

すなわち、第一に「開拓者精神」を生み出した北海道開拓は、植民地支配と開発至上主義の潮流の下で、アイヌに対する土地収奪・同化政策と不可分に進められたこと、第二に「自主独立」の人間、すなわち明治期の私学が育成しようとした能動的市民とは、女性や障害者を排

除したものであったこと、第三に「徒に官に依拠せず自らの努力をもて立つ」との自助論は、貧困が自己責任とされ、経済的に恵まれない人びとに対する生活保障・支援が国家・社会の責務とみなされていなかった時代の産物であること、などである。

したがって21世紀の現在、自主独立の「開拓者精神」とは、二つの「じりつ」すなわち「自立」と「自律」による独立自尊の精神を基礎とすると同時に、他者を尊重することによって生まれる「共生・協働・共創」を通して具現化されなくてはならない。そのため本学は、「開拓者精神」「自立・自律」「共生・協働・共創」を教職員、さらには学生・同窓生が共有しうる「中核的価値観」として定め、次のミッションとビジョンに基づき、具体的な施策を策定する。

【ミッション】

1952(昭和27)年創立の北海学園大学は、自主独立の「開拓者精神」を建学の精神とし、1885(明治18)年創立の北海英語学校の系譜を引く北海道最古の私立総合大学として、次のような研究・教育の諸活動を通し、人類の福祉と北海道・日本・世界の未来形成に寄与することを使命とする。

【研究の目標】

本学は、「学問の自由」に基づく教員個人の自律的な研究活動を前提として、学生とともに真理を探究し、「新たな知」を創造することで、学問の発展に尽くす。さらに各学部・研究所および開発研究所*1を中心に、北海道をはじめとする現代社会の直面する諸課題の解決にあたり、もって人類の福祉に貢献する。

【教育の目標】

本学は、建学以来重んじてきた「教育の機会均等」をさらに推し進めるとともに、学生の自主性を最大限に尊重し、豊かな人間性を育む教養を基礎に、学生による自らの可能性の追求を支援する教育を行う。それによって、常に真理を探究する構えと専門の学知に支えられた高い道義性と知性を兼ね備え、自己のキャリアの持続的発展と他者との自由な連帯を通し、未来を切り拓くパイオニアの育成に努める。

【ビジョン】

1. 北海道の知の拠点

本学は、建学以来、常に北海道とともに歩んできた大学としての使命を果たすべく、新たな基金の創設とこれに基づく各種奨学金制度の拡充、安定した学生生活環境の提供などによって、「教育の機会均等」をさらに推し進める。また、地域連携推進機構*1を核とした北海道庁・道内市町村・民間企業および他大学との連携と同窓生との連帯の下に、少子高齢化・人口減少をはじめとする地域の直面する課題に応え、あわせて大学出版会・市民公開講座などを通してその成果を地域と共有し、豊かで活力あふれる北海道の持続的発展を目指す。

2. 可能性に開かれたカリキュラム

本学は、教学マネジメントの確立によって不断に教育の改善を行い、一般教育・各学部の専門教育の緊密な連携の下に教育の質保証を行った上で、海外協定校の増加

やダブル・ディグリー制の導入による海外留学制度と、国内他大学との単位互換制度などによる国内留学制度を拡充する。あわせて学部・学科の枠にとらわれない多様な学びを支援することで、学生が教養を基礎に自らの可能性を追求し、「予測不能な時代」に柔軟に対応しうる総合的な知性を獲得できるカリキュラムの構築を目指す。

3. 多様性にかかれたキャンパス

本学は、自然と共生し、自他を尊重する社会の実現に向け、多様性にかかれた入学者選抜制度の実施、すべての学生に「安心・安全」なユニバーサル・デザインに基づく敷地建物の再構築、学生の「自立・自律」を目的とした、ピアサポートをはじめとする学生・教育支援制度の充実などを通して、多種多様な社会・文化的背景を持つ人びとが出会い、生き生きと学びあうことのできるキャンパスの実現を目指す。

4. 活力ある教職員の協働体

本学は、ビジョン1～3を達成し、研究・教育機関としての持続的な発展を可能にするために、既存の委員会・事務組織の抜本的な再編成を行うことで、広報・国際交流・学生支援などの機能を強化する。あわせて多様性にかかれた人事を行い、教職協働をさらに推進するとともに、子育て・介護支援をはじめとする教職員の福利厚生制度を拡充する。さらに、公文書を一元的に管理するアーカイブズの設置と相俟って、学長ガバナンスの下での組織の適正かつ効率的な運営を目指す。

* 1 令和8年4月1日 北方共創圏研究センターに改組。北方共創圏研究センターについては、以下のURLから北方共創圏研究センター規程を参照してください。

https://www.hgu.jp/about/pdf/regulations_university.pdf

(2) 「個人情報の取り扱い」について

本学では、教育・研究、学生支援、社会貢献などに必要な業務をおこなうにあたり、大学に関わりのある個人（学生およびその学費支給者・保証人・受験生・卒業生・教職員など）の情報を活用しています。これらの個人情報については関連する法令を遵守し、以下のとおり、利用目的を明確にし、個人情報の適正な利用と適切な保護に努め、必要な安全管理措置を講じています。学生各位の理解と協力をお願いします。

1. 個人情報の利用目的

学生の個人情報は、以下の教育研究および学生支援に必要な業務を遂行するために利用し、利用目的を変更した場合は、本人に通知又は掲示板等に公表します。

(1) 学生の個人情報

- 1) 入学に関する業務：入学志願、入学選抜実施、合否判定、入学手続きに関する業務など
- 2) 学籍に関する業務：個人基本情報の管理、学籍異動、学費、クラス編成、学生証交付、証明書作成に関する業務など
- 3) 教育に関する業務：履修登録、授業・試験実施、成績処理、進級・卒業判定、学位記授与、

海外留学に関する業務など

- 4) 研究に関する業務：研究活動支援に関する業務など
 - 5) 学修支援に関する業務：教務指導、履修相談、図書館・コンピュータ実習室など学内施設利用に関する業務など
 - 6) 学生生活支援に関する業務：奨学金、学生相談、健康維持促進、課外活動に関する業務など
 - 7) 就職活動およびその支援に関する業務：キャリア形成、就職相談、求職登録、就職斡旋に関する業務など
 - 8) 学生・学費支給者・保証人などへの連絡業務：学修支援のための連絡、成績通知、進級・卒業判定通知、学生生活支援のための連絡業務など
- (2) 学費支給者および保証人の個人情報

学費支給者・保証人への連絡業務：成績通知、進級・卒業判定通知発送、学費納付に関する連絡、各種送付物の発送、学修支援のための連絡、学生生活支援のための連絡業務など

2. 個人情報の第三者提供について

個人情報は、原則として、あらかじめ本人の同意を得ることなく第三者に提供することはありませんが、法令に基づく場合、人の生命・身体・財産その他の権利・利益を保護するために必要であると判断できる場合、および緊急の必要がある場合などは、例外的に個人情報を開示することがあります。

3. 学費支給者への成績開示などについて

学費支給者に対しては、学期ごとの学修成果を「成績通知書」として送付し、教務指導や学修・生活相談における教職員からの指導や助言が必要な場合には、履修登録情報や成績情報などを開示します。

4. 学生への連絡方法について

教育指導上あるいは学生生活支援上、学生本人への連絡・通知などが必要になった場合には、G-PLUS!を通して行います。ほか、関係掲示板に掲示することもあります。

5. 相談窓口

個人情報について開示・訂正・削除・利用停止などを請求することができます。不明な点や手続きなどについては、学部事務窓口にご相談ください。

(3) 情報システムについて

学内ネットワーク

学内ネットワークとは、大学からの利用許可を受けた者のみが利用できる認証ネットワークシステムです。学内ネットワークにアクセスするためには、個人認証のため、学内ネットワークアカウント（ユーザID・パスワード）を利用します。

詳細はLMSコース「[学内ネットワーク利用関連コンテンツ](#)」を確認してください。※学内ネットワークアカウントでのログインが必要です。

G-PLUS!

G-PLUS!とは、北海学園大学オリジナルの学生総合支援システムのことです。主な機能としては、大学からのメッセージ受信、履修登録、履修・成績情報の確認、シラバス検索、MY時間割、その他システムへのリンクなどがあります。

以下の時間帯は、メンテナンスのため使用できません。

[毎日 3:00AM~6:00AM]

- ・ G-PLUS! 

LMS

LMSとは、授業管理システムのことで、担当教員が履修者に対して、講義資料の配布、レポート、小テスト、アンケート、映像教材提示などを行い、授業によっては出席管理機能を使用します。

以下の時間帯は、メンテナンスのため使用できません。

[日曜日 3:00AM~4:00AM]

- ・ LMS 

GLEXA

GLEXAは、語学教育に特化した授業管理システムのことです。動画・音声を活用した授業を受けることができます。

Gmail

本学では、Gmailを学内のWebメールシステムとして利用しています。学生・教職員全員が利用することができます。

Microsoft 365

2025年11月から、Microsoft 365の無償利用が開始しました。北海学園大学に在籍するすべての学生に大学ライセンスが付与されており、各種サービスの利用が可能です。詳細はG-PLUS!の「公開お知らせ」を確認してください。

(4) 工学部履修ガイド

CONTENTS 2026(令和8)年度

工学部3つのポリシー	7
2026(令和8)年度 工学部行事日程表	8
はじめに 	
カリキュラムの概要	10
連絡	10
窓口と掲示板	11
オフィス・アワー	12
ガイダンス	12
1. 各種届出・学費納入	12
各種届出	12
学費	12
2. 授業	12
授業	12
授業時間	13
シラバスの見方	13
授業に関するお知らせ	15
授業欠席届	15
休講・補講	15
遠隔授業	15
成績評価	16
定期試験	16
期間外試験	18
3. 進級・卒業・成績	18
各種要件	18
成績(工)	18
教務指導と退学勧告	19
成績照会	20
9月期卒業	20
4. 履修登録	20
履修登録	20
計算機実習室(山鼻校舎)	23
5. 工学部学生からのよくある質問	25

I 教育課程

【社会環境工学科】

社会環境工学科カリキュラム・マップ	29
学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)	29
教育課程編成方針(カリキュラム・ポリシー)	29
カリキュラム・ツリー	35
初年次教育プログラム	36

【社会環境工学科】2017年度(平成29年度)以降入学者

社会環境工学科の目指す技術者像と学習・教育到達目標	39
社会環境工学科の学習・教育到達目標と評価方法	40
社会環境コースの学習・教育到達目標と達成度評価	42
環境情報コースの学習・教育到達目標と達成度評価	46

社会環境工学科の履修要件〔2017年度（平成29年度）以降入学者〕	50
1. 目標修得単位	50
2. 進級要件（1年次から2年次へ）	51
3. 「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」着手条件	52
4. 卒業見込証明書の発行条件	52
5. 卒業要件	53
社会環境工学科開講科目系統図	54
一般教育科目一覧表	56
授業科目履修上の注意	64
1. 授業科目と単位数	64
2. 授業科目の区分とその概要	64
3. 「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」の着手および卒業見込証明書	66
4. 学修ガイドの各授業科目とシラバスにおける記載事項	66
5. 測量に関する証明書について	66
6. 免許・資格取得・その他	68
【建築学科】	
建築学科カリキュラム・マップ	70
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	70
教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）	70
カリキュラム・ツリー	77
初年次教育プログラム	78
【建築学科】2017年度（平成29年度）以降入学者	
建築学科の教育・学習目標	81
1. はじめに	84
2. 単位とは	84
3. 授業科目の区分	84
4. 建築学科開講科目一覧表	85
5. 1年次から2年次への進級要件について（2017年度以降入学者の場合）	92
6. 卒業要件について（2017年度以降入学者の場合）	92
7. 卒業見込証明書の発行条件について	92
8. 各授業科目とシラバスに関する注意	93
9. 履修計画の目安	93
10. 建築士試験の受験資格について（2017年度以降入学者用）	94
11. 免許・資格取得・その他	98
【電子情報工学科】2018年度（平成30年度）以降入学者	
電子情報工学科カリキュラム・マップ	100
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	100
教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）	100
カリキュラム・ツリー	102
初年次教育プログラム	108
開講科目系統図	111
電子情報工学科 一般教育科目一覧表	112
進級および卒業要件・目標修得単位	117
1. 進級要件（1年次から2年次へ）	117
2. 進級要件（3年次から4年次へ）	117
3. 卒業見込証明書の発行条件	117
4. 卒業要件	117
5. 目標修得単位	118
履修上の注意	119
1. 授業時間と単位数について	119
2. 授業科目について	119
3. その他の注意	120
4. 免許・資格取得・その他	121

【生命工学科】	
生命工学科カリキュラム・マップ	123
学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）	123
教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）	123
カリキュラム・ツリー	130
初年次教育プログラム	131
【生命工学科】2022年度（令和4年度）以降入学者	
生命工学科の学習・教育到達目標	134
開講科目系統図	138
一般教育科目一覧表	139
生命工学科の進級・卒業要件と目標修得単位数	141
1. 進級要件（1年次から2年次へ）	141
2. 進級要件（3年次から4年次へ）	141
3. 卒業見込証明書の発行条件	141
4. 卒業要件	141
5. 目標修得単位数	142
授業科目履修上の注意	143
1. 授業時間と単位数について	143
2. 授業科目について	144
3. 学修ガイドの各授業科目とシラバスの記載事項に関する注意	144
4. 免許・資格取得・その他	145
【生命工学科】2017年度（平成29年度）～2021年度（令和3年度）入学者	
生命工学科の学習・教育到達目標	147
開講科目系統図	151
一般教育科目一覧表	152
生命工学科の進級・卒業要件と目標修得単位数	154
1. 進級要件（1年次から2年次へ）	154
2. 進級要件（3年次から4年次へ）	154
3. 卒業見込証明書の発行条件	154
4. 卒業要件	154
5. 目標修得単位数	155
授業科目履修上の注意	156
1. 授業時間と単位数について	156
2. 授業科目について	157
3. 学修ガイドの各授業科目とシラバスの記載事項に関する注意	157
4. 免許・資格取得・その他	158

II 数学受講に向けてのガイド

数学受講に向けてのガイド	160
--------------	-----

III 工学部1年次一般教育科目のセミナーについて

工学部1年次 一般教育科目のセミナーについて	164
一般教育科目セミナー受講申込書	166

IV 工学部規則・規程

北海学園大学工学部規則	168
北海学園大学工学部転学部規程	171
北海学園大学工学部転学科規程	171

工学部 3 つのポリシー

Faculty of Engineering's Three Policies

3つのポリシーとは、学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）、教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）、入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）のことで、工学部の基本ポリシーのことを言います。

学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

工学部では、所定の単位を所定の期間で修得し、常に真理を探究する構えと専門の学知に支えられた高い道義性・倫理観と知性を兼ね備え、現代社会の直面する諸課題の解決に貢献できる知識と能力を身につけた者に学士の学位を授与します。

教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

工学部では、教養を基礎に自らの可能性を追求し、「予測不能な時代」に柔軟に対応しうる総合的な知性を獲得できるカリキュラムを提供します。1年次には大学生にふさわしい見識と豊かな人間性を養うための科目と専門分野の入門的な科目を配置しています。2年次以降は学科特性に応じた専門的知識と応用力を涵養するための科目を配置しています。技術者として必要な道義性・倫理観を養う科目は全ての学科に設けられています。実験・実習科目では、講義科目で学んだ知識をより深く理解するとともに技術者としての素養を身につけます。学習の集大成として4年次では、自ら課題を設定し卒業研究として取り組みます。

入学者受入方針（アドミッション・ポリシー）

工学部では、建学の精神である自主独立の「開拓者精神」に基づいて、社会に存在する諸課題の解決に工学的な視点から貢献できる人材の育成に主眼を置いています。しっかりとした基礎学力、数理的な思考力やコミュニケーション力などを十分に有し、新しい知識を学ぶことで広範囲な「ものづくり」や「サービスづくり」を通じ、持続可能で住みよい社会の実現に関心がある人を求めています。学科特性に応じて多様性に富んだ入学者選抜を行っています。

[豊] 豊平校舎 1年次
 [工] 山鼻校舎 2～4年次
 記載なしは[豊・工]
 再試験は工学部4年次開講定期試験実施科目のみ
 (予定)の行事については別途掲示にて確認すること

2026(令和8)年度 工学部行事日程表

月	日	月 火 水 木 金 土	月 日	行 事 予 定
4月		1 2 3 4	3月27日(金)～	在学生向け資料配信予定(2～4年次)
	5	6 7 8 9 10 11	4月2日(木) 4月3日(金)	入学式 新入生ガイダンス 健康診断【山】(工学部2～4年次) 健康診断【豊】(工学部1年次)
	12	13 14 15 16 17 18	4月4日(土) 4月8日(水)	第1学期 授業開始
	19	20 21 22 23 24 25	4月11日(土)～4月15日(水) 4月18日(土)～4月22日(水)	第1学期 履修登録期間(全学年) 第1学期 履修登録変更期間(全学年)
	26	27 28 29 30	4月20日(月)	9月期卒業申込受付開始(予定)
5月		1 2	5月7日(木) 5月16日(土)	振替月曜日授業 学園創立記念日
	3	4 5 6 7 8 9		
	10	11 12 13 14 15 16		
	17	18 19 20 21 22 23		
	24 31	25 26 27 28 29 30		
6月		1 2 3 4 5 6	6月19日(金)～6月21日(日) 6月24日(水)	第71回 対東北学院大学定期戦(仙台) 実験生物に感謝する日(予定)
	7	8 9 10 11 12 13		
	14	15 16 17 18 19 20		
	21	22 23 24 25 26 27		
	28	29 30		
7月		1 2 3 4	7月8日(水) 7月17日(金) 7月23日(木) 7月30日(木) 7月31日(金)～8月6日(木)	第1学期 補講時間割揭示(予定) 予備日① 予備日② 第1学期 授業終了 第1学期 定期試験期間
	5	6 7 8 9 10 11		
	12	13 14 15 16 17 18		
	19	20 21 22 23 24 25		
	26	27 28 29 30 31		
8月		1	7月31日(金)～8月6日(木) 8月7日(金) 8月7日(金) 8月8日(土)～9月19日(土) 8月13日(木)～8月16日(日)	第1学期 定期試験期間 第1学期 定期試験予備日 9月期卒業申込締切 夏季休業 全学休業(事務取扱休止)
	2	3 4 5 6 7 8		
	9	10 11 12 13 14 15		
	16	17 18 19 20 21 22		
	23 30	24 31	25 26 27 28 29	
9月		1 2 3 4 5	9月8日(火) 9月11日(金)	9月期卒業審査教授会 9月期卒業生発表・学費支給者宛成績通知発送
	6	7 8 9 10 11 12	9月24日(木) 9月26日(土)～9月30日(水) 9月30日(水)	第1学期 WEB成績公開開始(全学年) 第2学期 授業開始 第2学期 履修登録変更期間(全学年) 9月期卒業証書・学位記授与式
	13	14 15 16 17 18 19		
	20	21 22 23 24 25 26		
	27	28 29 30		

月	日 月 火 水 木 金 土	月 日	行 事 予 定
10 月	<p>1 2 3</p> <p>4 5 6 7 8 9 10</p> <p>11 12 13 14 15 16 17</p> <p>18 19 20 21 22 23 24</p> <p>25 26 27 28 29 30 31</p>	<p>10月10日(土)~10月12日(月)</p> <p>10月15日(木)</p>	<p>第75回十月祭(豊平校舎)・第55回工学祭(山鼻校舎)</p> <p>振替月曜日授業</p>
11 月	<p>1 2 3 4 5 6 7</p> <p>8 9 10 11 12 13 14</p> <p>15 16 17 18 19 20 21</p> <p>22 23 24 25 26 27 28</p> <p>29 30</p>	<p>11月25日(水)</p>	<p>振替月曜日授業</p>
12 月	<p>1 2 3 4 5</p> <p>6 7 8 9 10 11 12</p> <p>13 14 15 16 17 18 19</p> <p>20 21 22 23 24 25 26</p> <p>27 28 29 30 31</p>	<p>12月15日(火)</p> <p>12月25日(金)</p> <p>12月26日(土)~1月7日(木)</p>	<p>第2学期 補講時間割揭示(予定)</p> <p>振替土曜日授業</p> <p>冬季休業</p>
1 月	<p>1 2</p> <p>3 4 5 6 7 8 9</p> <p>10 11 12 13 14 15 16</p> <p>17 18 19 20 21 22 23</p> <p>24/31 25 26 27 28 29 30</p>	<p>1月8日(金)</p> <p>1月8日(金)~2月3日(水)</p> <p>1月15日(金)</p> <p>1月16日(土)~1月17日(日)</p> <p>1月21日(木)</p> <p>1月22日(金)</p> <p>1月29日(金)</p> <p>1月30日(土)~2月5日(金)</p>	<p>第2学期 授業再開</p> <p>転学部・転学科・転コース 受付期間(予定)</p> <p>大学入学共通テスト準備日(全学休講)</p> <p>大学入学共通テスト</p> <p>予備日①</p> <p>予備日②</p> <p>第2学期 授業終了</p> <p>第2学期 定期試験</p>
2 月	<p>1 2 3 4 5 6</p> <p>7 8 9 10 11 12 13</p> <p>14 15 16 17 18 19 20</p> <p>21 22 23 24 25 26 27</p> <p>28</p>	<p>1月8日(金)~2月3日(水)</p> <p>1月30日(土)~2月5日(金)</p> <p>2月6日(土)</p> <p>2月8日(月)</p> <p>2月9日(火)</p> <p>2月10日(水)</p>	<p>転学部・転学科・転コース 受付期間(予定)</p> <p>第2学期 定期試験</p> <p>第2学期 定期試験予備日</p> <p>一般選抜準備日</p> <p>一般選抜【A日程】</p> <p>一般選抜【B日程】</p>
3 月	<p>1 2 3 4 5 6</p> <p>7 8 9 10 11 12 13</p> <p>14 15 16 17 18 19 20</p> <p>21 22 23 24 25 26 27</p> <p>28 29 30 31</p>	<p>3月3日(水)~3月10日(水)</p> <p>3月10日(水)</p> <p>3月11日(木)</p> <p>3月21日(日)</p> <p>3月27日(土)~</p>	<p>科目等履修生・研究生 受付期間(予定)</p> <p>卒業生発表・学費支給者宛成績発送(4年次)</p> <p>第2学期 WEB成績公開開始(4年次)</p> <p>進級生発表(1年次, 電子・生命3年次)・学費支給者宛成績発送(1~3年次)</p> <p>第2学期 WEB成績公開開始(1~3年次)</p> <p>卒業証書・学位記授与式, 卒業祝賀会</p> <p>在学生向け資料配信(2~4年次)(予定)</p>

窓口と掲示板

学生の皆さんからの、問い合わせ・相談事項の取扱い窓口については、下記の通りです。

主な相談窓口	主な業務	主な相談事項	確認すべき掲示板
教務センター 事務室 [7号館1階]	教務上の相談全般 (工学部1年)	履修 学業成績 休講・補講 授業欠席届・試験欠席届 休学・退学・転学部・転学科等 定期試験 学生証 その他	工学部掲示板(豊平校舎) [3号館1階学生玄関ロビー]
	全学共通の科目・ 課程全般	一般教育科目に関する事 教職課程に関する事 図書館学課程(2年次開講)に関する事 学芸員課程に関する事 社会教育主事課程に関する事 その他	教務センター掲示板(1・2部) [3号館1階学生玄関ロビー] 学生玄関前移動式掲示板 [3号館1階学生玄関ロビー] 各課程掲示板 [3号館1階学生玄関ロビー]
工学部事務室 [山鼻校舎2号館2階]	教務上の相談全般	履修 学業成績 休講・補講 授業欠席届・試験欠席届 休学・退学・転学部・転学科等 定期試験 学生証 その他	工学部掲示板 [山鼻校舎1-2号館間 2階渡り廊下]
	学生生活全般 学納金関係の納付全般 就職活動全般 など	履修 学業成績 休講・補講 授業欠席届・試験欠席届 休学・退学・転学部・転学科等 定期試験 学生証 その他	
学生部事務室 [文化系部室棟1階]	学生生活全般	奨学金に関する事 健康診断に関する事 学生相談に関する事 サークル等に関する事 忘れ物等に関する事 学割の発行 その他	学生部掲示板 [5号館1階他]
会計課 [1号館1階]	学納金関係の納付全般	授業料に関する事	
キャリア支援 センター [1号館1階]	就職活動全般	就職活動に関する事 インターンシップに関する事 公務員試験に関する事 その他	キャリア支援センター 掲示板 [1号館1階・3号館1階]
庶務課(学術・ 国際交流担当) [1号館1階]	国際交流全般	留学等全般に関する事	学術・国際交流掲示板 [1号館1階]
コンピュータ 実習室 [5号館3階他]	コンピュータ実習室の PCについて	PCの利用方法に関する事	コンピュータ実習室掲示板 [各実習室]
入試課 [1号館1階]	入試全般	入学試験に関する事	入試課掲示板 [1号館1階]

窓口取扱時間 平日 9:00~16:00 (昼休み 12:40~13:40を除く)

土曜日 9:00~12:40 ※日曜・祝日のほか、窓口業務を行わない日があります。また、窓口によって
は取扱時間が異なります。詳細は学修ガイド、掲示等を確認して下さい。

オフィス・アワー

教員が学生からの履修、授業などに関する相談や質問に応じるために設定した時間帯です。その時間帯は教員が自分の研究室に在室していますので直接会って話をすることができます。

在室の時間帯や・連絡方法については工学部掲示板を参照して下さい。

ガイダンス

学修上の連絡や指導のため、「新入生ガイダンス」や「語学ガイダンス」、「各課程ガイダンス」、「卒業研究ガイダンス」などが行われます。その他、「奨学金ガイダンス」、「就職ガイダンス」など様々なガイダンスも行われます。該当するガイダンスには必ず出席して下さい。

このほか「個人ガイダンス」、「成績不良者ガイダンス」、「卒業延期者ガイダンス」、「留年者ガイダンス」など大学から個別に呼出される場合があります。

1. 各種届出・学費納入

各種届出

住所変更届、学生証更新願（住所変更など記載事項の変更がある場合）、学生証再発行願（紛失した場合）などは工学部事務室（1年次は教務センター事務室）で手続きをして下さい。詳細は、167頁「各種届出・学籍に関する手続き」を参照して下さい。G-PLUS!で様式をダウンロードできるものもあります。

学 費

学費の納入期限は以下のとおりです。

第1期 4月20日 第2期 9月30日

納入期日を経過してもなお納入しない学生は学則第31条により除籍となります。

特別な事情により学費を納期に納入困難な場合は、納入期限の10日前までに学費延納願を工学部事務室（1年次は会計課）に提出し許可を受けて下さい。

2. 授業

授 業

本学では、各学期15週にわたって授業が行われます。工学部では1年次は豊平校舎、2～4年次は山鼻校舎で授業を行います。（2～4年次は、一部の科目を除き、豊平校舎の受講はできません。）2年次以上の学生が1年次科目を履修しなくても十分に要件が満たされるような科目構成になっていますが、偏った履修計画では卒業要件を満たすことができない場合（特に分野区分による要件）もありますので十分に注意して計画して下さい。

また、本学の授業は基本的に対面形式で行われますが、授業科目の一部で遠隔授業（オンライン）を実施する場合があります。

授業時間

[経済学部1部・経営学部1部・法学部1部・人文学部1部・工学部]

時限	時間帯
1時限	9:00～10:30
2時限	10:40～12:10
3時限	12:40～14:10
4時限	14:20～15:50
5時限	16:00～17:30

[経済学部2部・経営学部2部・法学部2部・人文学部2部]

時限	時間帯
1時限	17:50～19:20
2時限	19:30～21:00

シラバスの見方

1) シラバスとは

「シラバス」とは、各科目の授業計画のことです。授業の目的や到達目標、回ごとの授業内容、そして成績評価方法・基準などを明記したものです。シラバスは、授業科目の履修を決める際の資料となるとともに、授業の準備学修や復習を進めるための参考となるものです。この他にも、この「学修ガイド」内のカリキュラム・マップやツリー、ナンバリングなども確認しながら、履修登録の作業を進めてください。

2) シラバスを構成している各項目に関する留意点

以下では、シラバスを構成している各項目の内容と留意点について記載します。開講対象の学部学科や学年などについて制限がある場合もありますので、必ず各自の「時間割」とあわせて確認するようにしてください。

項目	記載内容の説明と留意点（※）
授業科目名	※同じ科目名でも、開講対象学部・学科が異なる場合がありますので、履修可能かどうか時間割で確認してください。
科目分野名	カリキュラム体系上の位置づけ（その科目が該当する分野）が記載されます。各学科における主要授業科目には、主（学科）が記載されています。
担当者	※同じ科目名でも、学科・クラスなどによって担当教員が異なる場合がありますので、「時間割」で各自の担当教員を確認してください。
授業形態	授業の実施形態を以下の分類で記載しています。 対面授業のみ：教室等で授業実施 対面（ブレンド型）：主に対面授業だが、オンデマンド授業も実施 遠隔（ハイフレックス型）：対面と同時にライブ配信も実施 受講形態は学生が選択 遠隔（オンライン型）：すべての授業をオンラインで実施 その他：学外研修など上記いずれにもあてはまらない授業形態
単位数	修得できる単位数を記載しています
学期	授業の実施時期（第1学期／第2学期／通年）が記載されています ※学期の半分（8回）で行われる授業や、指定期間に実施される「集中講義」などもありますので、「授業計画」や「履修上の留意点」で確認してください。

開講年次	対象となる学年と部（1部／2部）・学科を記載しています ※対象学年より上級年次は原則として下級年次の科目を履修可能です 例：「1年」：1～4年生が履修可能 ただし、特定の学年のみ履修可能な場合もありますので「履修上の留意点」で確認してください。
授業の概要	その科目の目的やテーマ，内容，方法など，授業の概要が記載されています
授業のねらい／目標	授業を通じて，どのような知識・能力を身につけることができるかが記載されています
授業計画／授業方法	各回に予定されている授業内容と方法を記載しています ※回により教員が異なる科目の場合は担当教員名が記載されます 【授業方法】 ※例「GPW」の表記は「グループワークやペアワーク」のことです。 講義：講義 講読：講読または輪読 GPW：グループワークまたはペアワーク 実習系：実習，実験，実技，練習 プレゼン：プレゼンテーション DB：ディスカッションまたはディベート 演習（工）：工学部の演習科目 反転：反転授業（動画教材等で事前学習を行った上で受講する） 双方向：ICT機器を利用した双方向型授業 その他：上記のいずれにもあてはまらない授業方法
自学自修の内容 予習の内容／予習の時間 復習の内容／復習の時間	授業の事前事後に，学生が自主的に行う必要がある学修内容を，予習と復習に分けて記載し，それぞれに必要な時間を示しています
事後指導・フィードバック	理解度の確認や知識定着のための自学自修方法，課題・レポート・答案などに対するフィードバック（改善点の指示や評価の連絡）方法を記載しています
成績基準・ 評価方法・割合 └成績基準 └評価方法と割合	評価基準と方法・割合を記載しています 評価方法が複数ある場合は，方法ごとに評価全体に占める割合を記載しています
履修上の留意点	履修に際して留意すべき点を記載しています ※とくに履修条件については必ず確認が必要です
教科書	授業で使用する教科書を記載しています ※購入については担当教員からの指示や大学生協Webサイト等で確認の上，早めに購入してください。ただし，抽選科目については抽選の結果履修できない場合がありますので注意してください。
参考書	自学自修の参考となる書籍や資料を記載しています ※必ず必要というわけではないため，担当教員の指示にしたがってください
教育リソースの活用	国内外の大学等提供の教育リソースや担当教員作成のコンテンツを授業で使っているかどうかについて記載しています リソース提供：この授業の講義教材などのコンテンツを公開 他大学のコンテンツを教材利用：教材として授業で使っている 自学自修用：オープンリソースを自学自修用に提供 その他：それ以外の方法で活用 なし：利用していない

実務経験の有無	教員の実務経験（大学等の教員以外の経験）の有無を記載しています ※「高等教育の修学支援新制度」において、本学が指定・申請した一部の科目のみ「有」と記載されています。実務経験の有無とは必ずしも一致せず、実務経験があっても「無」と記載されていることがあります。
実務経験の授業での活用内容	上記の「実務経験の有無」が「有」の場合に、実務経験が授業でどのように生かされているかが記載されています
関係資料	授業の理解を助け深めるための関係資料がある場合に記載されます

授業に関するお知らせ

「休講情報」や「教室変更」、「講義連絡」など授業に関するお知らせは、G-PLUS!（学生総合支援システム）で行われます。また、科目ごとにLMS（授業管理システム）の機能やコンテンツを使用した連絡も行われますので、確認を習慣づけてください。

授業欠席届

授業を欠席するときには「授業欠席届」に欠席理由の証明書（写し）や資料を添付し、担当教員に提出してください。必要になる証明書（写し）や資料の詳細は、授業欠席届に記載していますので参照してください。
また、授業欠席届はG-PLUS!のキャビネットからダウンロードをして作成してください。
なお、授業欠席届は欠席理由を明確にすることが目的の届出です。本学に公欠制度はありませんので欠席の取り扱い担当教員の判断となります。

休講・補講

1) 休講

担当教員の出張・校務・病気などにより、授業が休講となる場合があります。休講の際にはG-PLUS!配信やMY時間割で連絡します。ただし、履修登録確認前の休講については、休講情報閲覧で確認してください。

2) 対面授業の代わりに行われるオンライン授業

対面授業の代わりに「オンラインによる授業」が実施される場合があります。実施の際には担当教員からLMS等で詳細についての説明と連絡が行われます。

3) 補講

休講があった授業については、補講が実施される場合があります。補講が実施される日程は原則、予備日です。なお、補講は授業内・G-PLUS!配信で周知のうえ、通常講義とは曜日・時限・教室が異なる場合がありますので注意してください。実施科目、曜日、時限、教室等は予備日の約2週間前にG-PLUS!にて配信します。
なお、場合によっては予備日以外にも補講が実施されることがあります。

遠隔授業

本学の授業は基本的に対面形式で行われますが、2022年度より、授業科目の一部で遠隔授業（オンライン）が導入されました。これは、新型コロナウイルス感染拡大による特例措置ではなく、正式な制度として導入されるものです。

学則第22条第4項に定められているとおり、1～4年生の間で修得した遠隔授業科目は、60単位まで卒業要件単位に含まれます。

ただし、法令上の特例措置により2021年度以前に遠隔授業として実施した授業科目は、上記の修得単位数に含まれません。

【注意点】

60単位を超えて修得した単位は、卒業要件単位に含まれず、非卒業要件単位に位置づけられますのでご注意ください。そのため、卒業要件単位のうち、遠隔授業科目がどの群にあたるか等注意深く確認しながら履修計画を立てる必要があります。また、修得した遠隔授業の単位数は自分自身で把握するよう努めてください。

遠隔授業科目は、シラバス及び時間割で確認できます。なお、遠隔授業の実施回数も授業によって異なり、全ての授業回数で遠隔授業を実施するとは限りませんので、シラバスをよく確認してください。

※自分の遠隔授業科目の修得状況や履修登録状況が不明な場合は、各学部事務室にお問い合わせください。

成績評価

成績評価方法については、授業期間中の試験やレポート・課題提出、各学期末（16週目）に実施する定期試験など科目によって異なります。成績評価方法については、各科目のシラバスやLMSに詳細が記載されています。なお、学則第22条により、出席時数3分の2以下については、単位の認定がされません。

GPA（Grade Point Average）

GPAとは、履修科目の成績を一定のポイント（GP）に置き換えて、学習到達度を客観的に評価するものです。各科目の成績を、秀＝4点、優＝3点、良＝2点、可＝1点、不可・欠＝0点と数値化をします。ただし、この成績評価になじまない一部の科目は、合または否で評価し、GPは付きません。

北海学園大学では学則に基づく各科目の成績評価の基準に従いGPA（Grade Point Average）の基準を設け、その基準から「学期GPA」「年度GPA」「通算GPA」の3種類で算出しています。

・GPAによる成績評価

※工学部では、以下の科目はGPA対象外科目とし、GPの算出はされません。

- ・海外文化Ⅰ～Ⅳ
- ・教養科目特別講義（情報リテラシー）

定期試験

定期試験とは、各学期末（16週目）の「定期試験」期間に実施される筆記試験を指します。原則として、その科目の授業が行われている曜日時限・教室で実施され（科目によっては別の曜日時限で実施されることもある）、試験時間は原則60分です。

なお、定期試験を受験する際には、以下を留意のうえ受験してください。

1) 「定期試験」受験心得

1. 座席

受験者は、座席表による座席指定がある場合には、指定座席で受験する。

2. 学生証の提示

- (1) 受験者は、学生証を机上（通路側）に提示する。
- (2) 学生証を忘れた者は、各学部事務室または教務センター事務室（工学部1年生）窓口設置の「学生証不携帯・紛失届」に記入し、科目担当者に証明物を添えて提示する。
証明物を持参していない場合は、試験終了後、科目担当者が付き添い、事務室にて個人情報を口頭で確認し、本人確認を行う。
- (3) 有効期限が経過した学生証では、受験できない。

3. 入室

原則として、試験開始後20分までは入室することができるが、試験開始後20分を超えて遅刻した者は受験できない。ただし、科目担当者の判断によっては許可することがある。

4. 退室

原則として、試験開始後30分までは退室できないが、科目担当者の指示によって変更されることがある。

5. 机上許可物

試験場において机上に置いてよいのは、学生証、筆記具、消しゴム、参照許可物、時計、ペットボトル等（ただし、ふた付きのもの・本体のみ）とする。これ以外のものは、鞆にしまい、机の中には何も置かないこと。

6. 参照許可物

科目担当者から事前に指示があり、自ら持参したものに限り、試験場での貸し借りを禁ずる。
持ち込み許可の六法全書は、特段の指示がない限り大学指定のものとする。

【大学指定の六法全書】

有斐閣：『六法全書』、『ポケット六法』
信山社：『法学六法』
三省堂：『デイリー六法』

7. 物品貸借・私語の禁止

試験中の物品の貸借および私語を禁ずる。大学は文房具その他の貸し出しを行わない。

8. 不正行為

定期試験における「不正行為」とは以下のいずれかに該当する試験時間中の行為とする。

- ①試験の内容に関係する事柄について、参照許可物以外の所持品、身体、机または壁などに書き込みを行い、それを参照して答案を作成する行為。
- ②情報機器（スマートフォン、スマートウォッチなど）やこれに類するものを、かばんなどにしまわず、身につけていたり手に持っていたりすること、およびそれらを使用する行為。
- ③他人の答案を筆写する行為、自己の答案を筆写させる行為、または答案用紙を交換する行為。
- ④使用が許可されていない物品を使用する行為。
- ⑤試験監督者の許可を受けることなく、物品の貸借などをする行為。
- ⑥言語、動作または情報機器などにより他人に連絡する行為または連絡を受ける行為。
- ⑦他人の身代わりとなって受験する行為、または他人を自己の身代わりとして受験させる行為。
- ⑧答案用紙を教室外に持ちだす行為。
- ⑨その他、試験監督者の指示に従わない行為、または公正な試験を妨げると認められる行為。

9. 不正行為に対する措置

- (1) ①～⑨に該当または類する行為と科目担当者に判断された場合には、受験自体は続行し、試験終了後、科目担当者の指示に従う。諸手続及び事情聴取等が終了し、不正行為の判断が示されるまでは、すべての試験受験を許可する。
- (2) 不正行為と認定された場合は、次の措置がとられる。
 - 1) 当該科目の単位を認定しない。
 - 2) 定期試験実施期間中に筆記試験を実施する全科目の試験を0点とする。
 - 3) 「学生の懲戒及び教育的措置に関する規程」に基づき「懲戒」を含めた処置をとる。

10. 欠席者対応

病気その他のやむを得ない事情により、定期試験を受けることができない、または受けることのできなかった者は、「定期試験欠席届」に証明資料を添付して、当該試験終了3日後までに科目担当者に提出すること。対応については科目担当者の指示に従う。

2) 再試験

定期試験で不合格となった4年次開講科目について、本人の申し込みにより実施する試験で、工学部のみで行なわれます。再試験を受験するためには以下の手続きが必要となります。

1. 4年次開講科目* 可否発表の結果、不合格となった科目について申し込みできます。再試験受験申込書を工学部事務室で受け取り、受験料として1科目1000円分の申請書を自動証明書発行機で購入し、再試験受験申込書と申請書を受付期間内に提出して下さい。
2. 再試験受験許可証（1. の手続きの際に受け取る）と学生証を持参し、再試験を受験して下さい。
※再試験時間割は、掲示・G-PLUS!で配信します。

- ※定期試験を欠席した者は再試験を受験することはできません。
- ※1～3年次開講科目（必修科目含む）の再試験は実施しません。（4年次開講科目*とは、「4年次において履修している科目」ではありません。）
- ※再試験に対する追試験、再試験は実施しません。
- ※再試験の結果が合格であっても、成績の評価は可に留まります。

期間外試験

通常の授業時間の中、あるいは、それぞれの学期の最後の授業時間に試験を実施することがあります。また、レポートや作品提出などで評価する科目もあります。前回の評価が「特試（特欠）」となっている科目がある場合は、期間外試験やレポート課題の有無等について、担当教員に必ず確認して下さい。

3. 進級・卒業・成績

各種要件（条件）

工学部では1年次から2年次へ移行するための「進級要件」（電子情報工学科および生命工学科は3年次から4年次への進級要件も設定されています）、卒業については「卒業要件」が設定されています。この要件は学科や入学年度によって異なりますのでよく確認して下さい。不明な点があれば、工学部事務室（1年次は教務センター事務室）まで相談に来て下さい。

また、社会環境工学科では「卒業研究着手条件」が設定されています。卒業研究は4年間の集大成となる必修科目です。3年次終了時に条件を満たしていない場合は、4年次に進級しても、その年度には卒業研究が履修できず、卒業できません。

各種要件（条件）については、各学科教育課程のページで確認して下さい。

成績（工）

履修した科目は試験またはそれ以外の方法（レポート・作品提出等）により授業担当者の評価を教授会の議を経て認定後、単位*修得となります。

成績評価基準表

評点	評価		GP*	合否
90点～100点	S	秀	4	合格
80点～89点	A	優	3	
70点～79点	B	良	2	
60点～69点	C	可	1	
59点以下	D	不可	0	不合格
<u>特試*</u>		特試		
<u>特欠*</u>		特欠		
欠席	E	欠		欠席

ただし、この成績評価になじまない一部の科目は、合、否とし、GPは付きません。*GPは次項「GPA」を参照。

各自の成績については、年2回9月と3月に、評価・修得単位数等を示した「成績通知書」を学費支給者へ郵送しています。あわせてG-PLUS!成績照会画面でも確認できます。ただし、G-PLUS!の成績照会画面では、必要科目数の確認ができません。必要科目数の要件がある学科（社会環境工・電子情報工・生命工）の学生は、必ず成績通知書で成績を確認してください。

単位*

学則第20条に規定されており、科目ごとに単位が配当されています。原則としては毎週1回の授業（1時限）2時間（実質45分を1時間と考える）を半期15回授業が行われることで2時間×15回＝30時間となります。講

義では15時間をもって1単位と規定されているので、この場合は2単位が配当される計算になります。講義形式のほかには外国語、演習・実験などで1単位に相当する授業時間数は異なっています。

特試（特欠）*（2021年度以前入学者まで適用。2022年度以降入学者は、この制度は適用されません。）

評価としては不合格です。「不（欠）」との違いは次年度の授業の出席が義務付けられていないことです。他の科目と時間割上、同一の曜日・時間に講義が重なったときに、いずれかの科目が「特試（特欠）」だと履修登録の制限がなくなり、どちらの科目も履修登録することが出来ます。その際「特試（特欠）」科目の出席が義務付けられません。しかし、授業内でテストを実施されている科目や、前年度と担当教員が変わっている科目は、担当教員に確認が必要となります。また、特試（特欠）はあくまで「不（欠）」なので、授業が重なっていない限りは授業に出席して下さい。

教務指導と退学勧告

1. 各学科が定める所定の条件（GPAが基準を下回る、など）に該当する学生に対しては、学習状況の改善のための面談（第1学期末；工学部成績不良者ガイダンス、第2学期末；工学部成績不良者・留年者・卒業延期者等ガイダンス）を実施します。
2. 3期以上連続（休学期間は除く）で上述の面談の条件に該当した学生に対しては、学生が所属する学科での審議を経て、退学勧告を行うことがあります。

ただし、退学勧告は学習改善を目的としたものであり、むやみに退学させることを目的としたものではありません。

成績不良者・卒業延期者ガイダンス対象基準

第1学期

	1年次	2年次	3年次	4年次
社会環境 工学科	総修得単位数12単位以下、通算GPA1.0未満、一般教育科目の人文科学・社会科学の合計が2単位以下のいずれか	総修得単位数50単位以下、又は学期GPA1.0未満	総修得単位数85単位以下、又は学期GPA1.0未満	卒業延期が確定
建築学科	総修得単位数16単位以下、又は通算GPA1.0以下	総修得単位数40単位以下、又は学期GPA1.0以下	総修得単位数70単位以下、又は学期GPA1.0以下	卒業延期が確定
電子情報 工学科	総修得単位数16単位以下、又は通算GPA1.0以下	総修得単位数55単位以下、又は学期GPA1.0以下	総修得単位数80単位以下、又は学期GPA1.0以下	卒業延期が確定
生命工学科	総修得単位数16単位以下、又は通算GPAか学期GPAのどちらかが1.0以下	総修得単位数50単位以下、又は通算GPAか学期GPAのどちらかが1.0以下	総修得単位数85単位以下、又は通算GPAか学期GPAのどちらかが1.0以下	卒業延期が確定

第2学期

	1年次	2年次	3年次	4年次
社会環境 工学科	留年者	総修得単位数70単位未満, 又は 学期GPA1.0未満	卒研未着手者	卒業延期者
建築学科	留年者	総修得単位数55単位以下, 又は 学期GPAが1.0以下	総修得単位数85単位 以下, 又は学期GPA が1.0以下	卒業延期者
電子情報 工学科	留年者	総修得単位数70単位以下, 又は 学期GPAが1.0以下	留年者	卒業延期者
生命工学科	留年者	総修得単位数70単位以下, 又は 通算GPAか学期GPAのどちら かが1.0以下	留年者	卒業延期者

※外国人留学生についても同様の基準とする。

成績照会

当該学期に履修した科目の評価について疑義が生じた場合は、成績照会期間内に、申請用紙を工学部事務室（1年次は教務センター事務室）へ提出して下さい。申請書に基づき調査のうえ回答します。申請用紙はG-PLUS!でダウンロードできます。成績照会期間は、掲示等でお知らせします。

9月期卒業

卒業延期者を対象に9月期卒業制度が導入されています。条件を満たし手続きをした者のみが、9月に卒業できます。詳細はガイダンスまたは掲示等で連絡します。

4. 履修登録

履修登録

履修登録とは、単位を修得したい科目を申請し、登録をすることです。毎年4月にその年度に履修する科目を登録します。

大学では基本的に各自が履修計画を立て、卒業に必要な単位を修得していきます。科目の選定は慎重に行なって下さい。また、一旦登録した科目は、各自責任をもって履修しなければなりません。

登録した授業科目は、学部長が履修を承認します（工学部規則第5条）。学部長の承認を受けていない授業科目の受講および試験の受験は認められません。

1) 履修登録の前に

1. 履修科目の選択

「シラバス」・「学修ガイド」をよく読み、進級要件・卒業要件等を念頭に計画的に履修登録をして下さい。当該年次だけでなく4年間の卒業までの履修計画をイメージしておく必要があります。進級要件・卒業要件等の詳細は、「各学科教育課程」で確認して下さい。

2. 時間割表の作成

履修する科目を決めたら、自分の時間割を作成して下さい。

履修登録期間より以前に申込みが必要な科目もあります。ガイダンスや配付資料で申込み方法と許可発表日時を確認して下さい。

2) 履修上限単位

1年間に履修できる単位数の上限は次のとおりです。

2022年度以降入学者対象

全学科	1年間に履修できる上限単位数
1年	52単位
2～4年	48単位

2021年度以前入学者対象

学科	1年間に履修できる上限単位数
社会環境工学科 建築学科2～4年 電子情報工学科 生命工学科	60単位

学科	1年間に履修できる 上限単位数
建築学科1年	70単位

ただし、次の科目の履修単位は、この制限には含みません。

- ・各種課程科目（ただし、学部専門科目に配当されている科目は単位の履修制限に含まれる。）
- ・海外文化Ⅰ～Ⅳ
- ・インターンシップ
- ・特試（特欠）科目（2021年度以前入学者まで適用）

3) 履修相談

卒業や進級に必要な科目や単位数などに不明な点がある場合は、履修登録をするまでに必ず相談して下さい（1年次は教務センター工学部窓口、2～4年次は工学部事務室（教務））。その際、各自で作成した時間割等を持参して下さい。

4) 授業開始

【授業開始日】 第1学期：4月8日(水) 第2学期：9月24日(木)

履修登録の前に第1学期の授業は開始されます。履修を希望する科目、既に履修が決定している科目の授業に出席して下さい。

5) 注意事項

- 各学年に開講されている授業科目は、原則としてその年次において履修することが望ましいでしょう。ただし、下級年次において不合格となった必修科目は優先して履修して下さい。時間割は毎年変更されますので、今年度の時間割を基に履修計画をたてると翌年以降履修出来なくなる場合があります。
- 同じ曜日時限に2科目以上重複して履修することはできません。ただし、前回の評価で特試（特欠）がついた科目を履修する場合は、特試（特欠）科目と同じ曜日時限に別な科目を履修することができます。
- すでに単位を修得している科目は履修できません。
- 入学年度によって履修できない科目があります。開講科目については、学修ガイドの「各学科教育課程」および時間割を参照して下さい。
- 時間割のクラスや学生番号（奇数・偶数など）の指定を守って下さい。ただし、上級年次の学生で上記の指定外での履修を希望する場合は、科目担当教員に相談の上、工学部事務室（教務）に申し出て下さい。例えば、社会環境工学科の「情報処理Ⅰ・演習」及び「情報処理Ⅱ・演習」（ともに2年次開講科目）は、クラス別の開講となります。再履修（3・4年次）の学生で、P1クラスの学生は、原則として、P2クラスの開講時限で受講することとなりますが、時間割上、3年次の必修科目と重複する場合は、P1クラスの開講時限で履修登録することが可能です。
- 同一科目が、1学期・2学期それぞれに開講されている場合には、どちらか一方しか履修することができません。担当者が異なっても同一科目を履修することはできません。
- 2～4年次の学生は、下級年次に開講されている授業科目を履修することができますが、以下の場合を除き豊平校舎の授業科目を履修することができません。
 - ① 課程科目
 - ② 体育科目
 - ③ 3～4年次開講の英語以外の外国語科目
 - ④ 半期連続科目の英語以外の外国語科目

⑤ 特別に履修希望がある場合（事前相談が必要）

⑥ 教養科目特別講義（情報リテラシー）

※山鼻校舎における一般教育科目の開講科目一覧（参考）

「芸術論Ⅰ」（2年1学期）	「日本国憲法」（2年2学期）
「芸術論Ⅱ」（2年2学期）	「地球科学Ⅰ」（2年1学期）
「外国文学Ⅰ」（2年1学期）	「地球科学Ⅱ」（2年2学期）
「外国文学Ⅱ」（2年2学期）	「宇宙科学Ⅰ」（2年1学期）
「言語学Ⅰ」（2年1学期）	「宇宙科学Ⅱ」（2年2学期）
「言語学Ⅱ」（2年2学期）	「英語コミュニケーションⅠ」（2年1学期）
「マスコミ論」（2年1学期）	「英語コミュニケーションⅡ」（2年2学期）

注意）開講科目は今後変更する場合があります。

8. 上級年次に開講されている授業科目は、履修することができません。ただし、英語以外の外国語科目は、所定の手続きを行うことで上級年次に開講されている授業科目を履修できる場合があります。詳細は、「英語以外の外国語ガイダンス」で説明します。
9. 英語科目・体育実技を履修する場合は、受講申込みのうえ、許可が必要となります。受講希望者は当該科目のガイダンスに必ず出席してください。（2～4年次はLMSを参照のこと）
また、受講許可者発表の掲示等で受講が許可されていることを確認してから履修登録を行ってください。科目によっては、許可科目が自動的に履修登録されている場合もありますが、その場合も必ずG-PLUS!の履修確認画面で登録されていることを確認してください。
10. 英語以外の外国語科目は、「〇〇語基礎Ⅰ」「〇〇語会話Ⅰ」、第2学期土曜日開講の「半期連続科目」等で事前申込が必要です。語種により対象となる科目が若干異なるので、ガイダンスやLMSの「英語以外のガイダンスと事前申込（独・仏・中・露・韓）」、教務センターの掲示板等で詳細を確認してください。
11. 一般教育科目では、過去の履修人数の実績を考慮し、履修制限を設定する授業科目があります。履修制限が設定されている授業科目は、事前に履修の抽選申請が必要になります。具体的な制限科目や抽選申請のスケジュールについては、G-PLUS!, LMS, 教務センター掲示板で確認してください。なお、抽選の結果、当選となった場合は必ず履修登録をしなければなりません。履修計画をしっかりと考えたうえで申請してください。
12. 一般教育セミナーを履修する場合は、受講申込みが必要な科目もあります。詳しくは巻末の「工学部1年次一般教育科目のセミナーについて」を参照のうえ、履修してください。
13. 卒業研究およびシビルエンジニアリングデザインセミナーは、希望調査を行い配属が決定されます。掲示等で配属の発表を確認してから該当科目の履修登録を行って下さい。なお、1学期履修登録期間までに配属が発表されない場合は、1学期履修変更期間に登録して下さい。
14. インターンシップは、今年度の開講はありません。
15. 履修登録変更期間終了後は、履修登録科目の変更を認めません。
16. 2学期にも履修変更期間がありますが、追加・削除できない科目がありますので注意して下さい。以下の科目が対象となります。英語科目が進級・卒業要件に含まれる学科は、2学期に追加ができないことをふまえて履修登録をして下さい。

対象科目

- | |
|--|
| <ul style="list-style-type: none">・体育実技全科目（削除のみ可）・一般教育科目のセミナー（ただし、数学セミナーⅠ・Ⅱは除く）・抽選科目・英語科目（削除のみ可）・その他、課程科目についても変更できない科目があります。別途掲示するので各自確認して下さい。 |
|--|

17. 遠隔授業において60単位を超えて修得した単位は、卒業要件単位に含まれず、非卒業要件単位に位置づけられますのでご注意ください。

そのため、自分が所属する学科の卒業要件単位のうち、遠隔授業科目がどの群にあたるか等注意深く確認しながら履修計画を立てる必要があります。また、修得した遠隔授業の単位数は自分自身で把握するよう努めてください。遠隔授業の対象である科目は、シラバス及び時間割で確認できます。なお、遠隔授業の実施回数も授業によって異なり、全ての授業回数で遠隔授業を実施するとは限りませんので、シラバスをよく確認してください。

6) 履修登録の手順

履修登録はG-PLUS!を利用して行います。学修ガイド巻末の「履修登録G-PLUS!操作方法」を参考に登録して下さい。(G-PLUS!を利用するためにはユーザIDとパスワードが必要です。)

1. 履修登録期間

【履修登録期間】 4月11日(土)～4月15日(水)

学内外のPC又はスマートフォンから登録できます。

履修登録期間内であれば何度でも登録作業をやり直すことができます。

2. 履修登録の確認

4月17日(金)

履修登録の結果をG-PLUS!履修確認で表示します。

この時にエラー等で履修ができていない科目など、登録時の内容とは異なる場合がありますので必ず確認して下さい。

3. 履修登録の変更

【履修登録変更期間】 4月18日(土)～4月22日(水)

2.に記載の履修登録結果を確認したうえで、登録内容を変更する場合はこの期間で変更して下さい。第1学期については、この期間以降の履修変更が認められません。

4. 履修登録の最終確認

4月24日(金)

G-PLUS!の履修確認で登録内容を必ず確認してください。1年生は教務センター事務室で希望者のみ「履修登録確認書」を配付します。希望する学生は、申し出て下さい。

履修登録後に時間割や担当教員などが変更になる場合があります。これらの変更についてはG-PLUS!の講義連絡や学内掲示板でお知らせします。

5. 第2学期の履修変更

【履修登録変更期間】 9月26日(土)～9月30日(水)

第2学期の履修登録内容を変更する場合はこの期間で変更して下さい。第2学期の履修変更には変更対象外科目がありますので、「学修ガイド」やG-PLUS!のお知らせ情報などで事前に確認して下さい。この期間以降の履修変更は認められません。

6. 第2学期履修変更期間終了後の確認

10月2日(金)

G-PLUS!の履修確認で登録内容を必ず確認してください。1年生は希望者のみ教務センター事務室で「履修登録確認書」を配付します。希望する学生は、申し出て下さい。

7) 計算機実習室(山鼻校舎)

1. 工学部計算機実習室概要

本実習室は、情報関連科目およびコンピュータを利用する科目の授業、授業時間外での実習(OPEN利用)、一般の授業において参考となるデータの収集やレポート作成等、教育・研究を主たる目的として設置されています。

設備については、令和8年1月現在次の通りです（内容は設備更新により変更となる場合があります）。

- 実習室Ⅰ CELCIUS J5010 65台
- 実習室Ⅱ ESPRIMO G5011/H 89台
- 実習室Ⅲ ESPRIMO K5010/H 10台
- 実習室Ⅳ ESPRIMO K558/T 74台
- ソフトウェア

実習室Ⅰのみ

Adobe Creative Cloud（Photoshop, Illustrator等）

実習室Ⅰ～Ⅳ

MATLAB R2023b, Archicad, Anaconda3, Tera Term Pro Ver4.106, Visual Studio 2022
Community, Microsoft Office, エクセル統計など

2. 利用時間

- OPEN利用できる時間

◇授業開講期間（補講日を含む）

月～金 9：00～19：45

（実習室Ⅳは18：00まで）

土 9：00～14：45

（上記の時間は変更されることがありますので、掲示で確認して下さい。）

◇長期休業期間（夏季・春季）

月～金 9：00～16：45

作業期間中の閉室についてはその都度掲示、計算機実習室HPでお知らせします。

- 閉室日

日曜、祝祭日、創立記念日（5月16日）、入学式、卒業式、年末・年始、入学試験日。その他学校行事及び機器保守点検・修理などによる臨時的閉室については、その都度掲示、計算機実習室HPでお知らせします。

3. 利用資格

利用資格者は、次に該当する者とします。

- (1) 本学教職員（非常勤講師を含む）
 - (2) 本学工学部学生，大学院生，研究生，科目等履修生
 - (3) その他，工学部コンピュータシステム運営委員会が利用を認めた者
- 利用有効期間は、(1)は在職中、(2)・(3)は在籍中とします。

4. 利用の手続きについて

本実習室のコンピュータを使用するためには、IDとパスワードの取得が必要です。各自のIDとパスワードは、入学時に一括で登録してあります。失念した場合などは実習室受付に問い合わせてください。

5. 利用上の注意

計算機実習室受付にて配布されている、「工学部計算機システムおよび計算機実習室利用に関する厳守事項」に詳細が記載されていますので、熟読のうえ規則を守って利用してください（「工学部計算機システムおよび計算機実習室利用に関する厳守事項」は工学部計算機実習室HPでも閲覧することができます）。

規則違反をした場合、「北海学園大学工学部計算機システムおよび計算機実習室に関する運用・管理内規」第5条により、その利用者のユーザーアカウントの抹消、学則等に基づく処分がなされることがありますので注意してください。

5. 工学部学生からのよくある質問

工学部の学生からよくある質問をQ&Aにまとめました。
各項目の詳細については、学修ガイドに掲載されています。
意外と知らない学生が多いようです。みなさんは大丈夫ですか……？

Q 事務室って何時まで？

A 窓口取扱時間（1年次：豊平校舎教務センター内工学部窓口，2～4年次：山鼻校舎工学部事務室）
平日は，9：00～16：00（昼休み 12：40～13：40）
土曜日は，9：00～12：40 日曜・祝日のほか，窓口業務を行わない日があります。

Q 在学・成績・卒業見込などの証明書が欲しい。

A 自動証明書発行機を利用し，即日交付を受けることができます。利用案内及び発行できる証明書等の説明は，自動証明書発行機付近にありますので各自確認をしてください。
また，4年次の学生（就職登録が完了し卒業見込が発行できる学生）は無償で卒業見込・成績証明書・健康診断証明書を各3部発行することができます。時期は，卒業見込・成績証明書は4月から，健康診断証明書は例年5月中旬ですが詳細は掲示およびG-PLUS!にてお知らせします。

Q 引越しをして住所・電話番号等が変更になりました。手続は何かありますか？

A 本人・保証人・学費支給者いずれかの方の住所が変更した時は，工学部事務室（1年次は教務センター事務室）に住所変更届兼学生証更新願を提出してください。
本人の住所が変更になった場合，学生証も更新されます。
用紙はG-PLUS!でダウンロードできます。

Q やむを得ない事情により授業を欠席しなければなりません。手続は何かありますか？

A 欠席期間の前後数日以内に，担当教員宛に授業欠席届および証明書を提出して下さい。用紙はG-PLUS!でダウンロードできます。
なお，欠席の取扱いについては，授業の担当者によって異なる場合があります。

Q 履修登録って？

A 履修登録とは，受講したい科目を申請し，登録する事です。G-PLUS!で履修する科目を登録します。履修登録は全学生必須の条件です。必ず登録する必要があります。
また，登録内容は，G-PLUS!または履修登録確認書（1年次）によって各学生が確認する事となっています。G-PLUS!の履修確認及び履修登録確認書の配布の時期はこの学修ガイドで確認して下さい。
履修科目は，進級・卒業等の各種要件の理解を十分に深め，慎重に履修計画を立てた上で，登録して下さい。

Q 履修登録の変更はできますか？

A 履修登録変更期間内であれば，G-PLUS!で変更が可能です。（LMSの自己登録では履修の変更はできません。）ただし，一部訂正ができない科目もあり，履修変更期間後は変更できません。よって，今年度の単位修得は不可能です。必修科目・選択科目問わず評価の対象になりません。そうならないように，必ず各自で正しく登録されたのかを確認して下さい。

Q 定期試験の欠席者対応と再試験の違いは……？

A 病気その他のやむを得ない事情により、定期試験を受けることができない、または受けることのできなかつた者は、「定期試験欠席届」に証明資料を添付して所属学部事務室に提出し、確認と検印を受けたうえで、当該試験終了3日後までに科目担当者に提出してください。対応については科目担当者の指示に従ってください。再試験は、4年次開講科目で定期試験を実施した科目を受験し、その結果が「不可」だった学生が対象となります。試験を「欠席」した場合は対象となりません。ただし、一度不合格になった科目なので、再試験を受けて合格しても、評価は「可」に留まります。なお、1～3年次開講科目は再試験の対象とはなりません。再試験は4年次開講科目の合否発表後、本人からの申込みが必要になります。定期試験欠席者対応・再試験については、17頁で確認して下さい。

Q 各科目の成績が知りたいのですが？

A 試験終了後、第1学期の成績については9月中旬、第2学期の成績については3月中旬に郵送（学費支給者宛）およびG-PLUS!成績照会画面にてお知らせする予定です。

Q 成績通知書に「特試（特欠）」ってあるのですが？

A 評価としては不合格です。「不（欠）」との違いは授業の出席が義務付けられていないことです。他の科目と時間割上、同一の曜日・時間に授業が重なった時に、いずれかの科目が「特試（特欠）」だと履修登録の制限がなくなり、どちらの科目も履修登録することができます。その際「特試（特欠）」科目の出席が義務付けられません。しかし、出席が義務付けられていないからといって、授業に出席しなくてもよいというわけではありません。授業内で実施されているテストもあるでしょう。前年度と担当教員が変わっていれば、授業内容も変わってきます。特試（特欠）はあくまで「不（欠）」なので、授業が重なっていない限りは授業に出席して下さい。（2021年度以前入学者が対象の制度です）

Q 卒業見込証明書って？

A 3年次終了時に、卒業見込証明書の発行条件を満たしている学生は、この証明書の発行を受けることができます。発行条件をこの学修ガイドで確認して下さい。
卒業見込証明書は主に就職活動で使用し、企業に提出する書類の一つで、この証明書がないと就職活動に支障をきたす場合があります。
3年次終了時に条件をクリアできなかった場合でも、4年次の第1学期終了時点で条件を満たしていれば、10月に発行が可能になります。しかしながら、発行時期は当然遅くなりますので、卒業見込証明書の発行条件は、3年次終了時までには満たすようにしましょう。
また、この証明書は卒業を保証する物ではありませんので、注意して下さい。

Q 卒業研究着手条件って？ 満たしていないと、どうなりますか？

A 社会環境工学科では、卒業研究に着手する条件を設定しています。条件については、この学修ガイドで確認して下さい。
卒業研究に着手できないということは、4年生になったものの、その年度内での卒業はできないということです。

Q 進級・卒業について知りたい。

A 工学部では、「1年次⇒2年次」「4年次⇒卒業」の際に単位数を審査し、進級・卒業を認めます。ただし、電子情報工学科および生命工学科は「3年次⇒4年次」の際も進級審査があります。進級・卒業要件は学科や入学年度によって違います。要件については、この学修ガイドで確認して下さい。
単位修得については、4年間で修得すべき単位数を自ら計画する必要があります。仮に1科目でも10科目でも、単位が修得できなければ、同じく進級・卒業することができません。

Q 休学・退学について知りたい。

A 休学・退学ともに手続きが必要となります。学費とも密接に関係してきますので、少しでも迷っていたら工学部事務室（1年生は教務センター事務室）まで相談に来て下さい。

Q 遠隔授業って？

A 遠隔授業は、2022年度より導入される科目で、学則第22条第4項に定められている、1～4年生の間で修得した遠隔授業科目は、60単位まで卒業要件単位に含まれます。
60単位を超えて修得した単位は、卒業要件単位に含まれず、非卒業要件単位に位置づけられますのでご注意ください。

例えば、現在4年生で、あとB群で専門教育科目2単位分が足りないが、他の科目の履修と時間割を照らし合わせたところ、その2単位分は遠隔授業科目しか履修できない状況となっている。しかし、すでに遠隔授業科目で卒業要件に含まれる限度である60単位を修得しているため、履修登録が出来て単位を修得しても卒業要件単位には含まれない。

⇒このようなことを防ぐために、遠隔授業科目については卒業要件に含まれる単位数に余裕をもっておくことが必要です。

ただし、新型コロナウイルス感染拡大等による法令上の特例措置により2021年度以前に遠隔授業として実施した授業科目は、上記の修得単位数に含みません。

I 教育課程

【社会環境工学科】

- カリキュラム・マップ
- カリキュラム・ツリー
- 初年次教育プログラム

社会環境工学科カリキュラム・マップ

■社会環境工学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

本学科では育成する技術者に以下の3つの能力を身につけることを求めており、このⅠ～Ⅲを有する人を技術者像として定めている。

- Ⅰ. 技術者の人間形成に資する幅広い教養，倫理観，コミュニケーション能力
- Ⅱ. 専門技術者として要求される基礎能力
- Ⅲ. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力

Ⅰ～Ⅲの3つの能力を有する技術者像は、それぞれ本学科の学習・教育到達目標の内容を包含して、学習・教育到達目標と一体化した構成となっている。

本学科の技術者像は社会基盤に関連する分野全般に関係するものであり、関係する官庁やコンサルタント、建設会社に従事する技術者は、Ⅱの専門技術はもとよりⅠの幅広い教養やコミュニケーション能力が求められる。

Ⅲは本学科の特徴であり、地域特性を考えて環境との調和や社会のニーズに応じていく能力が今後一層重要になると考えられる。

このように本学科の技術者像は修了生の進路を反映した内容で定められている。

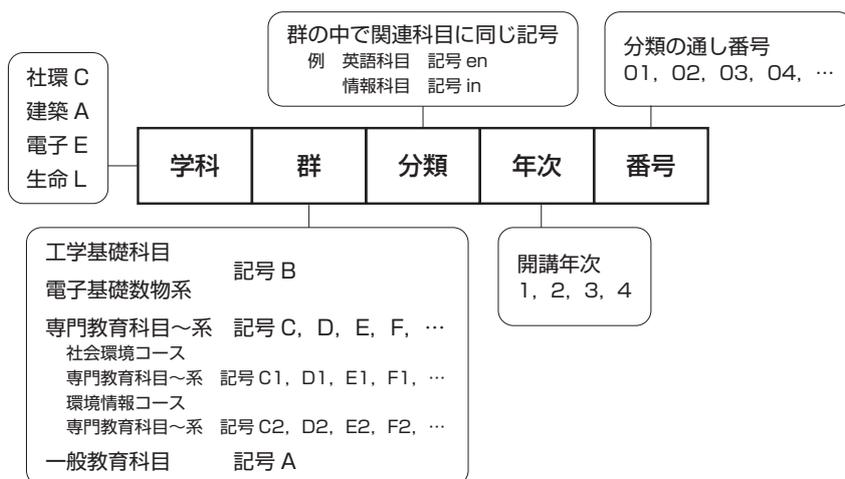
■社会環境工学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

本学科では学習・教育到達目標を設定している。また、それぞれの学習・教育到達目標に対応したカリキュラムを構成し、4年間の一貫教育を実施して社会に貢献できる人材の育成を目指している。さらにいくつかの学習・教育到達目標は、項目別学習・教育到達目標に細分化され、項目別の目標に対し関連科目が配置されてカリキュラムが構成されている。

なお社会の動向を考え、社会環境コース、環境情報コースの2コース制をとっている。社会環境コースは従来の土木工学を中心とした技術であり、環境情報コースは環境、情報、都市学の比重を大きくしている。カリキュラムに若干の違いがあるが、必要とされる技術者像、技術者の能力は共通しているため、両コースの学習・教育到達目標は同じとしている。

	〈到達目標〉	対応する学位授与方針
A	人文・社会学の知的基盤を築き、社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身につける。	Ⅰ
B	自ら考えて問題にとり組む自己学習の習慣・能力を身につけ、互いの創意工夫により問題解決を図り、成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	Ⅰ
C	論理的な記述、口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身につける。	Ⅰ
D	数学、統計学および物理、化学、生物、地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身につける。	Ⅱ
E	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数理学などに関する専門分野の基礎を習得し、演習、実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	Ⅱ
F	専門分野における調査、計画、設計、施工に関する基本的な技術を習得し、実務に対する適応力および探求心を養う。	Ⅱ
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して、創造的な計画能力と分析能力を身につける。	Ⅲ
H	自然と人間性の調和・共存をめざし、循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	Ⅲ
I	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	Ⅲ

■工学部ナンバリング



学科共通科目

一般教育科目	基盤科目	言語	授業科目名	単位	開講年次	学科科目 No.	到達目標																	
							A	B	C	D	E	F	G	H	I									
		言語	英語	英語リーディングⅠ	1	1	CAen101			○														
				英語リーディングⅡ	1	1	CAen102			○														
				英語リーディングⅢ	1	2	CAen203			○														
				英語リーディングⅣ	1	2	CAen204			○														
				英語コミュニケーションⅠ	1	1	CAen105			○	○													
				英語コミュニケーションⅡ	1	1	CAen106			○	○													
				英語コミュニケーションⅢ	1	2	CAen207			○	○													
				英語コミュニケーションⅣ	1	2	CAen208			○	○													
				英語特講Ⅰ	1	1	CAen109				○													
				英語特講Ⅱ	1	1	CAen110				○													
				英語ライティングⅠ	1	1	CAen111				○													
				英語ライティングⅡ	1	1	CAen112				○													
				英語文化演習Ⅰ	2	2	CAen213				○													
				英語文化演習Ⅱ	2	2	CAen214				○													
				共通	世界の言語と文化	2	1	CAwl101			○													
			ドイツ語	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	CAge101			○														
				ドイツ語基礎Ⅱ	1	1	CAge102			○														
				ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	CAge203			○														
				ドイツ語基礎Ⅳ	1	2	CAge204			○														
				ドイツ語会話Ⅰ	1	1	CAge105			○														
				ドイツ語会話Ⅱ	1	1	CAge106			○														
				ドイツ語文化Ⅰ	2	1	CAge107			○														
				ドイツ語文化Ⅱ	2	2	CAge208			○														
				ドイツ語文化Ⅲ	2	2	CAge209			○														
				ドイツ語文化演習Ⅰ	2	3	CAge310			○														
				ドイツ語文化演習Ⅱ	2	3	CAge311			○														
				ドイツ語言語演習Ⅰ	2	3	CAge312			○														
				ドイツ語言語演習Ⅱ	2	3	CAge313			○														
				ドイツ語言語文化演習Ⅰ	2	4	CAge414			○														
				ドイツ語言語文化演習Ⅱ	2	4	CAge415			○														
			フランス語	フランス語基礎Ⅰ	1	1	CAfr101			○														
				フランス語基礎Ⅱ	1	1	CAfr102			○														
				フランス語基礎Ⅲ	1	2	CAfr203			○														
				フランス語基礎Ⅳ	1	2	CAfr204			○														
				フランス語会話Ⅰ	1	1	CAfr105			○														
				フランス語会話Ⅱ	1	1	CAfr106			○														
				フランス語文化Ⅰ	2	1	CAfr107			○														
				フランス語文化Ⅱ	2	2	CAfr208			○														
				フランス語文化Ⅲ	2	2	CAfr209			○														
				フランス語文化演習Ⅰ	2	3	CAfr310			○														
				フランス語文化演習Ⅱ	2	3	CAfr311			○														
				フランス語言語演習Ⅰ	2	3	CAfr312			○														
				フランス語言語演習Ⅱ	2	3	CAfr313			○														
				フランス語言語文化演習Ⅰ	2	4	CAfr414			○														
				フランス語言語文化演習Ⅱ	2	4	CAfr415			○														

社会環境コース

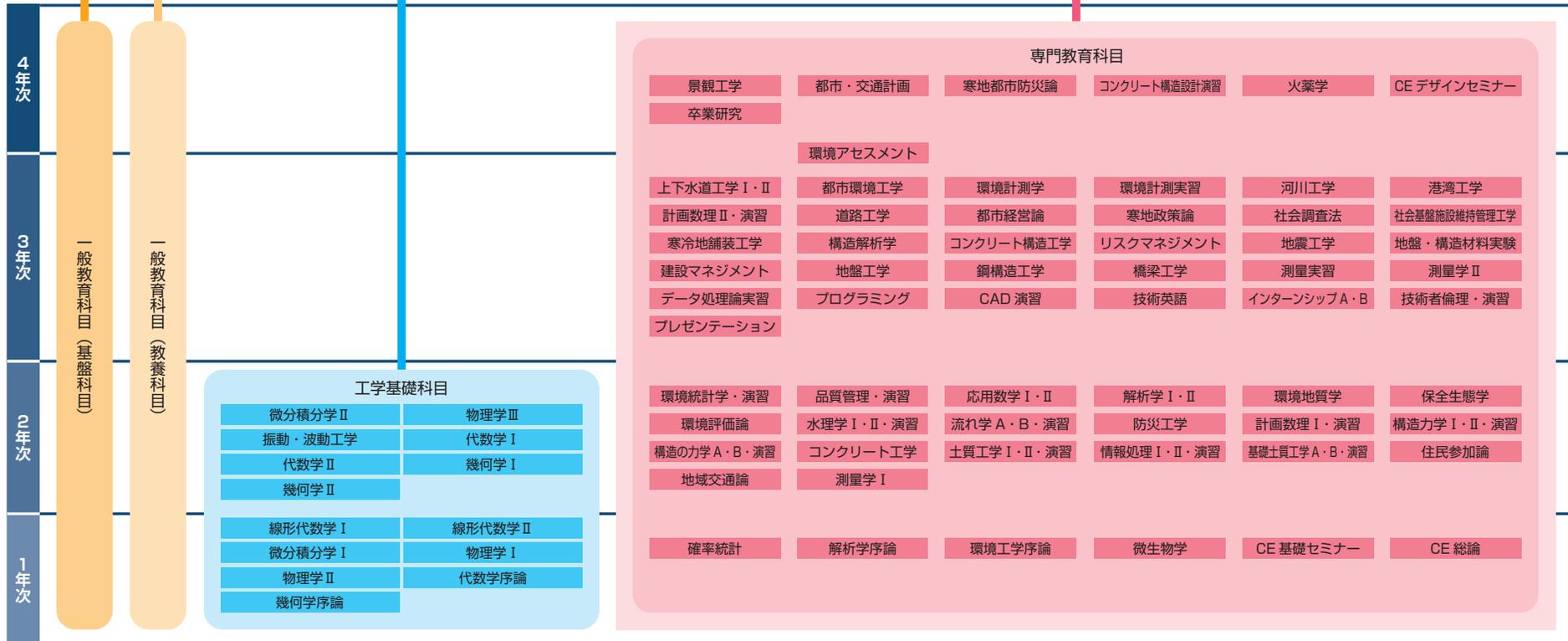
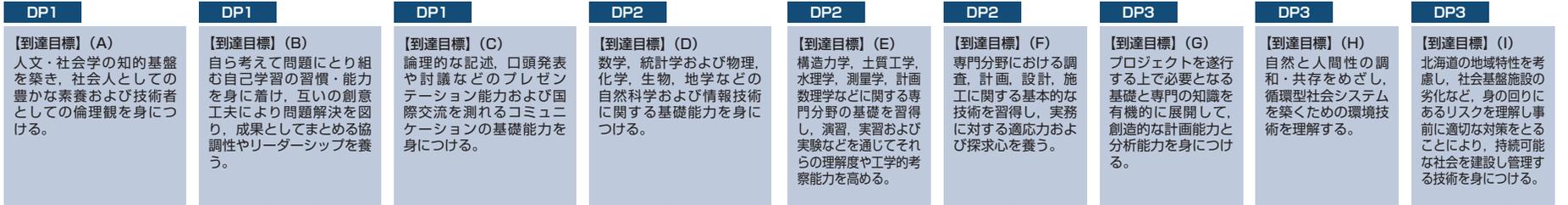
授業科目名			単位	開講年次	学科科目No.	到達目標																
						A	B	C	D	E	F	G	H	I								
専門教育科目	基盤数理系	1群	確率統計	2	1	CCpt110				○												
			環境統計学・演習	1.5	2	CCtx230				○												
			品質管理・演習	1.5	2	CCqc231				○												
		2群	解析学Ⅱ	2	2	CCan212				○												
			応用数学Ⅰ	2	2	CCam210				○												
			応用数学Ⅱ	2	2	CCam211				○												
		3群	解析学序論	2	1	CCaa110				○												
			解析学Ⅰ	2	2	CCan211				○												
		環境工学系	環境工学序論	2	1	CDev120						○			○							
	環境地質学		2	2	CDeg230						○			○								
	保全生態学		2	2	CDec221						○			○								
	上下水道工学Ⅰ		2	3	CDws322						○			○								
	上下水道工学Ⅱ		2	3	CDws341						○			○								
	都市環境工学		2	3	CDue323						○			○								
	環境計測学		2	3	CDme324						○			○								
	環境計測実習		1	3	CDmp342		○				○			○								
	景観工学		2	4	CDls425						○			○								
	環境アセスメント	2	3・4	CDas326						○			○									
	水工系	水理学Ⅰ・演習	3	2	CEhy210		○			○												
		水理学Ⅱ・演習	3	2	CEhy211		○			○												
		河川工学	2	3	CErv340						○											
		防災工学	2	2	CEdp222						○											
		港湾工学	2	3	CEpo312						○											
	計画・設計・維持管理系	計画数理Ⅰ・演習	3	2	CFpl220		○															
		計画数理Ⅱ・演習	1.5	3	CFpl340		○															
		都市・交通計画	2	4	CFup421							○								○		
		道路工学	2	3	CFrd322							○									○	
		都市経営論	2	3	CFum331							○									○	
		建設マネジメント	2	3	CFcm310							○									○	
		社会基盤施設維持管理工学	2	3	CFim311							○									○	
寒冷地舗装工学		2	3	CFcr312							○									○		
コンクリート構造設計演習		2	4	CFcx430							○									○		
構造・材料系	構造力学Ⅰ・演習	3	2	CGst210		○			○													
	構造力学Ⅱ・演習	3	2	CGst211		○			○													
	構造解析学	2	3	CGsa330							○											
	コンクリート工学	2	2	CGce222						○												
	コンクリート構造工学	2	3	CGcs323							○											
	地震工学	2	3	CGeq324							○											
土質・施工系	地盤・構造材料実験	1	3	CGgs331		○			○													
	土質工学Ⅰ・演習	3	2	CHsm210		○			○													
	土質工学Ⅱ・演習	3	2	CHsm211		○			○													
	地盤工学	2	3	CHgt322							○											
	鋼構造工学	2	3	CHse323						○												
	橋梁工学	2	3	CHbr324							○											
専門総合系	火薬学	2	4	CHex412						○												
	CE基礎セミナー	2	1	CKcb120										○								
	CE総論	2	1	CKcil21										○								
	情報処理Ⅰ・演習	1.5	2	CKip222					○													
	情報処理Ⅱ・演習	1.5	2	CKip230					○													
	測量学Ⅰ	2	2	CKsv223						○												
	測量実習	1	3	CKsx324		○				○												
	測量学Ⅱ	2	3	CKsv331							○											
	プログラミング	2	3	CKpg325						○			○									
	CAD演習	1	3	CKca326						○			○									
	技術英語	2	3	CKte327							○											
	インターンシップA	1	3	CKsp342									○									
	インターンシップB	2	3	CKsp343									○									
	技術者倫理・演習	1.5	3	CKet328	○																	
	プレゼンテーション	2	3	CKpr329					○													
CEデザインセミナー	2	4	CKcd444									○		○								
卒業研究	6	4	CKgr450							○			○	○								

社会環境工学科 カリキュラム・ツリー

[DP1]
技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力

[DP2]
専門技術者として要求される基礎能力

[DP3]
自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力



社会環境工学科 初年次教育プログラム

社会環境工学科では、以下の要領により初年次教育プログラムを実施する。プログラムの対象者は、工学部社会環境工学科の1年次学生である。

プログラムのねらい

(プログラムの目標)

大学生の「学び」は、「学び」に対する姿勢とそのアウトプットの2点において高校生と大きく異なる。高校までの「学び」では、明確な解答が準備された問いを与えられ、その解法を修得することが中心であった。「学び」の到達度の評価は、試験の答案用紙への正解の記載が重視された。学習内容は選定された教科書から大きく逸脱することは少なく、学習時間の管理では主に教員や保護者が設定したスケジュールに従うことが求められていたに違いない。

これに対し大学での「学び」では、自ら学ぼうとする主体的な姿勢が求められ、修得科目を各自の興味や将来の目標に基づいて設計する必要がある。進級や卒業要件を満たすための制約の下、自らの意思で「学び」の方向性を決定できることが、高校までとは明確に異なる点であろう。また自身が決めた「学び」に対して、学習スケジュールを設計し、日々の時間管理にまで落とし込むスキルも求められる。大学で講義を受ける時間の他に、自習の時間、部活動やアルバイトの時間などをやりくりして日々を過ごさなければならない。高校よりも多様な活動の選択肢がある中で、大学の講義や自習に十分な時間を確保するためには、自らの学ぶ姿勢と正面から向き合う必要があるだろう。

大学での「学び」のアウトプットの場合は、試験の答案用紙への正解の記載にとどまらず、論文やレポートの作成、ディスカッションやプレゼンテーションなど多岐にわたる。公共性が高い社会基盤の設計や整備には、予め用意された解答がなく、かつ、合意形成が難しい問いが存在することを理解し、それらに対する実践的な対処法や科学的な解決法を模索することの重要性を認識することも大切である。

以上のような大学での「学び」の特性を理解し、大学の講義体系に学生の意識をスムーズに接続することを目的として、社会環境工学科では、以下の初年次教育プログラムを実施する。

(学生の学習目標)

本プログラム受講により、以下の事項を目標とする。

1. 大学生活、大学における学習に対する理解を深め、大学での学びに主体的な姿勢を示すことができる。
2. 社会環境工学科で学ぶ内容の意義を理解し、「社会環境工学」について説明することができる。
3. 技術者として求められる能力を理解し、これからの技術者としての心構えを持つことができる。
4. 情報の取り扱いと科学的表現の重要性を理解し、実践できる。

プログラムのテーマ (内容)

社会環境工学科の初年次教育プログラムは、以下の5テーマから構成される。

- 1) 大学生活、大学における学習に対する理解
- 2) 学科での学びの動機づけ、キャリアデザイン
- 3) 技術者としての気構え、技術者倫理の重要性の理解
- 4) 情報リテラシー、科学技術表現法、研究者倫理の重要性の理解
- 5) 社会環境工学に関する理解

プログラムの実施計画

上記5テーマに関連した授業を、1年次専門科目「シビルエンジニアリング基礎セミナー」において実施する。

- 1) 大学生活、大学における学習に対する理解
…『大学における学び』、『大学と大学生活』
- 2) 学科での学びの動機づけ、キャリアデザイン
…『社会環境工学科の学び、JABEEについて、卒業後の姿』、『外部講師による講演』
- 3) 技術者としての気構え、技術者倫理の重要性の理解
…『社会環境工学科の学び、JABEEについて、卒業後の姿』、『外部講師による講演』

- 4) 情報リテラシー, 科学技術表現法, 研究者倫理の重要性の理解
…『情報リテラシー入門』, 『技術表現法, 科学レポートの書き方, 研究者倫理』
- 5) 社会環境工学に関する理解
…『ものがたりが生まれる場所としてのインフラ』, 『地震・豪雨等で生じる地盤災害』, 『環境インフラ整備における土木分野の役割』, 『コンクリートは生きている』, 『河川管理技術の昔と今』, 『生活と水～これからの飲料水安全と水質環境保全』, 『橋の話～橋の計画から維持管理』, 『都市・交通に関する話題』, 『土壌に関する話題』, 『外部講師による講演』

I 教 育 課 程

【社会環境工学科】

2017年度(平成29年度)以降入学者

社会環境工学科の目指す技術者像と学習・教育到達目標

社会環境工学科の目指す技術者像

社会環境工学は人間の生活と生産の舞台となる社会基盤を整備し、持続可能な社会システムを構築するための学問です。近年生活の豊かさが問い直され、地球規模での環境問題が議論されるなかで、誰もが安全で快適に活動でき、美しく恵みのある自然が共存した都市・地域づくりと、そのための社会基盤整備が求められています。これに応えるため、これからの技術者には専門的な技術力はもとより、新たな視点から、自然環境ならびに地域特性を考慮した環境保全技術やライフサイクルを考慮した維持管理技術、および倫理観やグローバルな社会性を身に付けることが必要となっています。これらの背景から社会環境工学科では維持管理、防災、設計・デザイン等を主とした「社会環境コース」および環境、情報、都市等を主とした「環境情報コース」に共通の教育理念として、以下に示す能力を備えた自立した技術者像を掲げています。

- I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力
- II. 専門技術者として要求される基礎能力
- III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力

社会環境工学科の学習・教育到達目標

上記の技術者像の実現に向けて、社会環境工学科では以下の(A)から(I)の学習・教育到達目標を設定しています。また、それぞれの学習・教育到達目標に対応したカリキュラムを構成し、4年間の一貫教育を実施して社会に貢献できる人材の育成を目指しています。

I. 【技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力】

- (A) 人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。
- (B) 自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け、互いの創意工夫により問題解決を図り、成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。
- (C) 論理的な記述、口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。

II. 【専門技術者として要求される基礎能力】

- (D) 数学、統計学および物理、化学、生物、地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。
- (E) 構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し、演習、実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。
- (F) 専門分野における調査、計画、設計、施工に関する基本的な技術を修得し、実務に対する適応力および探求心を養う。

III. 【自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力】

- (G) プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して、創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。
- (H) 自然と人間生活の調和・共存をめざし、循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。
- (I) 北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。

社会環境工学科の学習・教育到達目標と評価方法

社会環境工学科はJABEE（日本技術者教育認定機構）の認定を2005年に受けました。JABEEの基準として学習・教育到達目標を修了生全員が達成していることが求められます。社会環境工学科における、JABEEの学習・教育到達目標の評価方法を以下に説明します。

1. 本学科の学習・教育到達目標

本学科の学習・教育到達目標A～Iは、社会環境コースと環境情報コースで共通で、P45、P49に添付した表-1および表-3に記載されています。また表に示すとおり各学習・教育到達目標はA1、A2などのように、より具体的に「項目別学習・教育到達目標（以下、項目と略する）」に分けられ、それらの項目の評価に関する科目名が表の「関連科目」の欄にそれぞれ説明されています。

2. 学習・教育到達目標の達成度の評価方法

学生は、項目A1～Iの15項目について、それぞれに定められている学習・教育到達目標を卒業までに全て達成する必要があります。目標の達成は以下のように評価されます。

2-1 講義科目の評価と点数

P18に示したように各講義科目は、「秀」、「優」、「良」、「可」、「不可」、「欠」などで評価され、それぞれは、「秀」：4、「優」：3、「良」：2、「可」：1、「不可」および「欠」：0、と点数化されます。これをGP（Grade Point）といいます。

2-2 JABEEの達成度評価（SAP）

JABEEにおける学習・教育到達目標の達成度評価は、社会環境工学科で独自に定めたSAP（Student Achievement Point）という基準で行っています。学習・教育到達目標ごとの達成度はP42の表-1、P46の表-3に示すそれぞれの項目の関連科目のGPを用いて計算します。表の達成度評価に書かれている単位修得条件を最低限として項目毎の評価点が0～4で表され、1以上で達成になります。評価に用いられるGPはそれぞれの科目を最終的に修得した時のもので、修得済みの単位の評価となります。SAPを段階（SAG：Student Achievement Grade）で区分し、解説を加えたループリック表がP44表-2、P48表-4にありますので達成内容の参考にしてください。

なおSAPとは別に、全学的に用いられる学習達成度の評価基準として、P16に示したGPA（Grade Point Average）があります。これはそれまでに履修した全科目の、単位の重みを付けたその時点におけるGPの平均で、JABEEおよび学習・教育到達目標に関係なく、成績優秀者の選定などに用いられています。

2-3 SAPの計算方法

学習・教育到達目標の各項目のSAPの計算方法は、達成されている場合とされていない場合とで異なります。

1) 達成されている場合

表-1および表-3の項目別の「関連科目」の総修得単位が、項目別の「達成度評価」の修得条件を満たしている場合で、SAPは項目ごとに次のように計算されます。

$$SAP = \{(\text{修得した科目の単位数}) \times (\text{その科目の点数})\} \text{の総和} / (\text{総修得単位数})$$

2) 達成されていない場合

表-1および表-3の項目別の「関連科目」の総修得単位が、項目別の「達成度評価」の修得条件を満たしていない場合で、SAPは項目ごとに次のように計算されます。

$$SAP = (\text{修得した科目の単位数}) \text{の総和} / (\text{必要単位数})$$

つまり達成されている場合は、項目ごとに修得した科目の単位数当たりの平均点数がその項目のSAPになりますが、達成されていない場合は修得科目の点数にかかわらず、項目別必要単位数に対して修得した単位数の割合がSAPとなります。必要単位数は表-1、表-3の中に示されています。

注意しなければならないのは、項目ごとの「関連科目」の中で、必要単位数として考慮される科目とされない科目があることです。これはP53の卒業要件などにある必修科目や選択必修、科目群別の必要単位数に対応するもので、表-1および表-3の達成度評価の欄に書かれている内容を、よく理解してください。なお必要単位数として考慮されない科目も、達成された場合のSAPおよび卒業要件には関係します。

2-4 項目別評価点の計算例

《計算例1》

例えば学習・教育到達目標Gなど、項目に対応する関連科目が必修科目であり、その修得がすべて必要単位数にカウントされる場合です。社会環境コースのGを例にとります。

○項目Gが達成される場合（Gの必要単位数は関連3科目の6単位）

成績 CE基礎セミナー 優（単位2，点数3）
 CEデザインセミナー 良（単位2，点数2）
 卒業研究 可（単位2，点数1）

$$SAP = \{(2 \times 3) + (2 \times 2) + (2 \times 1)\} / 6 = 12 / 6 = 2 \quad (1 \text{ 以上})$$

○項目Gが達成されない場合

成績 CE基礎セミナー 優（単位2，点数3）
 CEデザインセミナー 優（単位2，点数3）
 卒業研究 不可（単位2，点数0）

$$SAP = \{(2) + (2)\} / 6 = 4 / 6 = 0.67 \quad (1 \text{ 未満})$$

要求されている必修3科目のうち卒業研究の単位を未修得のため、上記の計算になります。

《計算例2》

例えば、関連科目が選択科目や選択必修科目である場合、指定された科目群ごとに一定数しか必要単位数になりません。このような項目では、項目全体の修得単位数が必要単位数を上回っていても、必ずしも達成したことにならないので注意が必要です。学習・教育到達目標D1、Hなどが該当します。社会環境コースのD2を例にとります。

○項目D2が達成される場合（D2の必要単位数6：物理学I2，一般教育・教養・自然科学（環境）4）

成績 物理学I 優（単位2，点数3）
 環境生物科学I 良（単位2，点数2）（一般教育・教養・自然科学（環境））
 地球科学I 良（単位2，点数2）（一般教育・教養・自然科学（環境））
 物理学II 可（単位2，点数1）

$$SAP = \{(2 \times 3) + (2 \times 2) + (2 \times 2) + (2 \times 1)\} / 8 = 16 / 8 = 2 \quad (1 \text{ 以上})$$

○項目D2が達成されない場合

成績 物理学I 優（単位2，点数3）
 環境生物科学I 優（単位2，点数3）
 （一般教育・教養・自然科学（環境））
 物理学II 優（単位2，点数3）
 （達成度に考慮されない）
 振動・波動論 優（単位2，点数3）
 （達成度に考慮されない）

$$SAP = \{(2) + (2)\} / 6 = 4 / 6 = 0.67 \quad (1 \text{ 未満})$$

要求されている修得条件のうち、一般教育科目・教養・自然科学（環境）からの修得単位数が不足しているため、上記の計算になります。

結果は、右図に示すようにレーダーチャートを用いると視覚的に示すことができます。

項目	SAP
A1	3
A2	2
B1	2.5
B2	0.8
C1	1
C2	2.8
D1	0.5
D2	0.4
D3	1.2
E	3.5
F1	4
F2	1.5
G	2.5
H	0.9
I	4

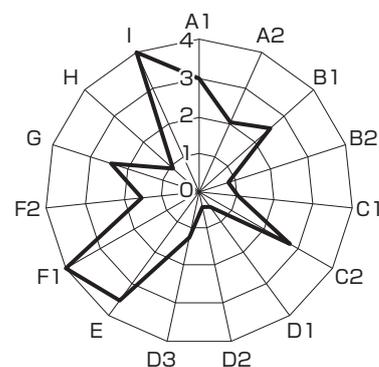


図 SAPの例とレーダーチャート表示

表-1 (左) 社会環境コースの学習・教育到達目標と達成度評価

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目	
				開講学年	科目名等
I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力					
A	人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A1	人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人として豊かな教養を身につける。	1年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学
		A2	技術の業務遂行において、問題の技術倫理的側面を見出すことができ、それを解決出来る能力を身につける。	2年	上記科目の内、一部工学部で開講される科目
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け、互いの創意工夫により問題解決を図り、成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B1	技術的問題にチームで取り組む時、集団の和を図り、互いの創意工夫により問題を解決し、成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	3年	専門教育科目「技術者倫理・演習(1.5)」
		B2	技術的問題に取り組む時、身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	2年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習(3)」、「構造力学Ⅱ・演習(3)」、「土質工学Ⅰ・演習(3)」、「土質工学Ⅱ・演習(3)」、「水理学Ⅰ・演習(3)」、「水理学Ⅱ・演習(3)」、「計画数理Ⅰ・演習(3)」
C	論理的な記述、口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C1	技術的、学問的成果を論文としてまとめ、誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	3年	専門教育科目「プレゼンテーション(2)」
				4年	専門教育科目「卒業研究(2単位相当)」
		C2	社会人として、あるいは技術者として、必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	1年	一般教育科目・基盤科目の英語、および英語以外の外国語
				2年	上記科目の内、一部工学部で開講される科目
3年	専門教育科目「技術英語(2)」				
II. 専門技術者として要求される基礎能力					
D	数学、統計学および物理、化学、生物、地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D1	数学、および統計学の理論を理解し、技術的問題の解決のために利用することができる。	1, 2年	工学基礎科目1群「線形代数学Ⅰ(2)」、「線形代数学Ⅱ(2)」、2群「微積分学Ⅰ(2)」、「微積分学Ⅱ(2)」、4群「代数学序論(2)」、「代数学Ⅰ(2)」、「代数学Ⅱ(2)」、「幾何学序論(2)」、「幾何学Ⅰ(2)」、「幾何学Ⅱ(2)」、専門教育科目・基盤数理系1群「確率統計(2)」、「環境統計学・演習(1.5)」、「品質管理・演習(1.5)」、2群「応用数学Ⅰ(2)」、「応用数学Ⅱ(2)」、3群「解析学序論(2)」、「解析学Ⅰ(2)」、「解析学Ⅱ(2)」
		D2	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ、自然現象の理解と分析に利用することができる。	1, 2年	一般教育科目・教養・自然科学(環境)、工学基礎科目3群「物理学Ⅰ(2)」、「物理学Ⅱ(2)」、「物理学Ⅲ(2)」、「振動・波動工学(2)」
		D3	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術を身につける。	2年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習(1.5)」、「情報処理Ⅱ・演習(1.5)」
3年	専門教育科目「プログラミング(2)」、「CAD演習(1)」				
E	構造力学、土質工学、水理学、測量学などに関する専門分野の基礎を修得し、演習、実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		2年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習(3)」、「構造力学Ⅱ・演習(3)」、「土質工学Ⅰ・演習(3)」、「土質工学Ⅱ・演習(3)」、「水理学Ⅰ・演習(3)」、「水理学Ⅱ・演習(3)」、「コンクリート工学(2)」、「鋼構造工学(2)」、「測量学Ⅰ(2)」
3年	専門教育科目「測量実習(1)」、「地盤・構造材料実験(1)」				
F	専門分野における調査、計画、設計、施工に関する基本的な技術を修得し、実務に対する適応力および探究心を養う。	F1	専門分野における実務に対する応用力および探究心を養う。	4年	専門教育科目「卒業研究(2単位相当)」、「CEデザインセミナー(2)」
		F2	それぞれの専門分野の調査、計画、設計に関する技術を習得し、実務における適応力を身につける。	1~4年	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目(1年次2科目、2年次3科目、3年次23科目、4年次5科目の合計32科目)
III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力					
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して、創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		1年	専門教育科目「CE基礎セミナー(2)」
4年	専門教育科目「CEデザインセミナー(2)」、「卒業研究(2単位相当)」				
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし、循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		1, 2年	一般教育科目・教養・自然科学(環境)
				1年	専門教育科目「環境工学序論(2)」
				2年	専門教育科目「環境地質学(2)」、「保全生態学(2)」
				3年	専門教育科目「上下水道工学Ⅰ(2)」、「上下水道工学Ⅱ(2)」、「環境アセスメント(2)」、「都市環境工学(2)」、「環境計測学(2)」、「環境計測実習(1)」
4年	専門教育科目「環境アセスメント(2)」、「景観工学(2)」				
I	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		3年	専門教育科目「建設マネジメント(2)」、「社会基盤施設維持管理工学(2)」、「寒冷地舗装工学(2)」、「道路工学(2)」、「都市経営論(2)」
				4年	専門教育科目「コンクリート構造設計演習(2)」、「都市・交通計画(2)」

表-1 (右) 社会環境コースの学習・教育到達目標と達成度評価

項目	達成度評価		
	評価内容	必要単位数	必要単位数の説明
I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力			
A1	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学から10単位の単位修得を条件とし、同科目から単位を修得した科目について評価する。	10	
A2	専門教育科目「技術者倫理・演習」の単位修得を条件とし評価する。	1.5	
B1	専門教育科目の「地盤・構造材料実験」および「測量実習」の単位修得を条件とし、さらに「環境計測実習」の成績を合わせて評価する。	2	
B2	専門教育科目の演習を含む必修8科目「構造力学Ⅰ・演習」、「構造力学Ⅱ・演習」、「土質工学Ⅰ・演習」、「土質工学Ⅱ・演習」、「水理学Ⅰ・演習」、「水理学Ⅱ・演習」、「計画数理解Ⅰ・演習」、「計画数理解Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし、これらの科目で評価する。	22.5	
C1	専門教育科目「プレゼンテーション」の単位修得を条件とし、さらに「卒業研究」において論文の記述方法を学び、発表においてプレゼンテーション能力を複数の教員により総合的に評価する。	4	「卒業研究」については、プレゼンテーション能力:30点および論文記述能力:10点(卒業研究担当教員が評価)の合計40点満点で評価し、36以上を「秀」、32以上36未満を「優」、28以上32未満を「良」、24以上28未満を「可」、24未満を「不可」とする。単位数は2単位相当とする。
C2	一般教育科目・基盤科目の英語科目2科目2単位以上の修得を条件とし、さらに選択された基盤科目の言語および専門教育科目の「技術英語」により評価する。	2	
II. 専門技術者として要求される基礎能力			
D1	工学基礎科目1群「線形代数学Ⅰ」と「線形代数学Ⅱ」から1科目、2群「微分積分学Ⅰ」と「微分積分学Ⅱ」から1科目、専門教育科目・基盤数理系1群「確率統計」と「環境統計学・演習」と「品質管理・演習」から1科目の合計5.5単位の修得を条件とし、さらに工学基礎科目4群「代数学序論」、「代数学Ⅰ」、「代数学Ⅱ」、「幾何学序論」、「幾何学Ⅰ」、「幾何学Ⅱ」、専門教育科目・基盤数理系2群「応用数学Ⅰ」、「応用数学Ⅱ」、3群「解析学序論」、「解析学Ⅰ」、「解析学Ⅱ」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5.5	3つの選択必修各科目群それぞれから、最低1科目以上の単位を含む。必要単位数に対しては各選択必修科目群において、2科目以上修得していても1科目とカウントする。
D2	工学基礎科目3群「物理学Ⅰ」、および一般教育科目・教養・自然科学(環境)から2科目4単位以上の修得を条件とし、さらに工学基礎科目3群の「物理学Ⅱ」、「物理学Ⅲ」、「振動・波動工学」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	6	一般教育科目・教養・自然科学(環境)からの単位は、4単位以上修得していても必要単位数に対しては4単位とカウントする。
D3	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習」、「情報処理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし、さらに「プログラミング」、「CAD演習」の成績を合わせて評価する。	3	
E	専門教育科目の「構造力学Ⅰ・演習」、「構造力学Ⅱ・演習」、「土質工学Ⅰ・演習」、「土質工学Ⅱ・演習」、「水理学Ⅰ・演習」、「水理学Ⅱ・演習」、「コンクリート工学」、「鋼構造学」、「測量学Ⅰ」、「測量実習」、「地盤・構造材料実験」の単位修得を条件としこれらの科目で評価する。	26	
F1	専門教育科目「卒業研究」と「CEデザインセミナー」の成績を合わせて、基本的な修得度を評価する。	4	「卒業研究」については、基本的な技術の習得度を30点満点で評価し、27以上を「秀」、24以上27未満を「優」、21以上24未満を「良」、18以上21未満を「可」、18未満を「不可」とする。単位数は2単位相当とする。
F2	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目から、35単位以上の修得を条件とし、これらの科目により評価する。	35	
III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力			
G	専門教育科目「CE基礎セミナー」、「CEデザインセミナー」、「卒業研究」の単位の修得を条件とし、これらの科目で評価する。	6	「卒業研究」については、デザイン能力等を30点満点で評価し、27以上を「秀」、24以上27未満を「優」、21以上24未満を「良」、18以上21未満を「可」、18未満を「不可」とする。単位数は2単位相当とする。
H	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から2科目4単位以上、専門教育科目の環境工学系から4単位の単位修得を条件とし、さらにそれぞれから単位を修得した科目を合わせて評価する。	8	必要単位数に対しては、一般教育科目・教養・自然科学(環境)から4単位以上、専門教育科目の環境工学系から4単位以上修得していても、それぞれ4単位とカウントする。
I	専門教育科目の計画・設計・維持管理系から2科目4単位の修得を条件とし、さらに同系から単位を修得した科目を合わせて評価する。	4	

表-2 (左) 社会環境コースの学習・教育到達目標とルーブリック評価基準

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目	
				開講学年	科目名等
I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力					
A	人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A1	人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人として豊かな教養を身につける。	1年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学
		A2	技術の業務遂行において、問題の技術倫理的側面を見出すことができ、それを解決出来る能力を身につける。	2年	上記科目の内、一部工学部で開講される科目
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け、互いの創意工夫により問題解決を図り、成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B1	技術的問題にチームで取り組む時、集団の和を図り、互いの創意工夫により問題を解決し、成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	3年	専門教育科目「地盤・構造材料実験(1)」,「測量実習(1)」,「環境計測実習(1)」
		B2	技術的問題に取り組む時、身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	2年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習(3)」,「構造力学Ⅱ・演習(3)」,「土質工学Ⅰ・演習(3)」,「土質工学Ⅱ・演習(3)」,「水理学Ⅰ・演習(3)」,「水理学Ⅱ・演習(3)」,「計画数理Ⅰ・演習(3)」
C	論理的な記述、口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C1	技術的、学問的成果を論文としてまとめ、誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	3年	専門教育科目「プレゼンテーション(2)」
			社会人として、あるいは技術者として、必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	4年	専門教育科目「卒業研究(2単位相当)」
D	数学、統計学および物理、化学、生物、地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D1	数学、および統計学の理論を理解し、技術的問題の解決のために利用することができる。	1, 2年	工学基礎科目1群「線形代数学Ⅰ(2)」,「線形代数学Ⅱ(2)」, 2群「微積分学Ⅰ(2)」,「微積分学Ⅱ(2)」, 4群「代数学序論(2)」,「代数学Ⅰ(2)」,「代数学Ⅱ(2)」,「幾何学序論(2)」,「幾何学Ⅰ(2)」,「幾何学Ⅱ(2)」, 専門教育科目・基盤数理系1群「確率統計(2)」,「環境統計学・演習(1.5)」,「品質管理・演習(1.5)」, 2群「応用数学Ⅰ(2)」,「応用数学Ⅱ(2)」, 3群「解析学序論(2)」,「解析学Ⅰ(2)」,「解析学Ⅱ(2)」
		D2	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ、自然現象の理解と分析に利用することができる。	1, 2年	一般教育科目・教養・自然科学(環境), 工学基礎科目3群「物理学Ⅰ(2)」,「物理学Ⅱ(2)」,「物理学Ⅲ(2)」,「振動・波動工学(2)」。
E	構造力学、土質工学、水理学、測量学などに関する専門分野の基礎を修得し、演習、実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		2年	専門教育科目「構造力学Ⅰ・演習(3)」,「構造力学Ⅱ・演習(3)」,「土質工学Ⅰ・演習(3)」,「土質工学Ⅱ・演習(3)」,「水理学Ⅰ・演習(3)」,「水理学Ⅱ・演習(3)」,「コンクリート工学(2)」,「鋼構造工学(2)」,「測量学Ⅰ(2)」
				3年	専門教育科目「測量実習(1)」,「地盤・構造材料実験(1)」
F	専門分野における調査、計画、設計、施工に関する基本的な技術を修得し、実務に対する適応力および探究心を養う。	F1	専門分野におけるデザイン能力、応用力および探究心を養う。	4年	専門教育科目「卒業研究(2単位相当)」,「CEデザインセミナー(2)」
		F2	それぞれの専門分野の調査、計画、設計に関する技術を修得し、実務における適応力を身につける。	1~4年	専門教育科目の基盤数理系及び技術英語以外の選択科目(1年次2科目, 2年次3科目, 3年次23科目, 4年次5科目の合計32科目)
III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力					
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して、創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		1年	専門教育科目「CE基礎セミナー(2)」
				4年	専門教育科目「CEデザインセミナー(2)」,「卒業研究(2単位相当)」
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし、循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		1, 2年	一般教育科目・教養・自然科学(環境)
				1年	専門教育科目「環境工学序論(2)」
				2年	専門教育科目「環境地質学(2)」,「保全生態学(2)」
				3年	専門教育科目「上下水道工学Ⅰ(2)」,「上下水道工学Ⅱ(2)」,「環境アセスメント(2)」,「都市環境工学(2)」,「環境計測学(2)」,「環境計測実習(1)」
I	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		4年	専門教育科目「環境アセスメント(2)」,「景観工学(2)」
				3年	専門教育科目「建設マネジメント(2)」,「社会基盤施設維持管理工学(2)」,「寒冷地舗装工学(2)」,「道路工学(2)」,「都市経営論(2)」
				4年	専門教育科目「コンクリート構造設計演習(2)」,「都市・交通計画(2)」

表－2 (右) 社会環境コースの学習・教育到達目標とルーブリック評価基準

項目	ルーブリック評価基準			
	秀 (4.00～3.50)	優 (3.49～2.50)	良 (2.49～1.50)	可 (1.49～1.00)
I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力				
A1	人文・社会科学の知的基盤について、高度な教養を身に付け、自ら考察し、さらなる素養を身に付け、議論することができる。	人文・社会科学の知的基盤について、十分な教養を身に付け、社会人として豊かな素養を、さらに発展させることができる。	人文・社会科学の知的基盤について、その概念を理解し、今後の応用や発展が期待できる。	人文・社会科学の知的基盤について、最低限必要となる基礎的な能力を身に付け、今後の知識獲得の方法を理解している。
A2	技術者としての高度な倫理観を身に付け、それに基づいた行動を取ることができ、自らの経験からさらに高度な倫理観を得ることができ。	技術者としての十分な倫理観を身に付け、それを自らの行動規範とすることができ、経験に基づいて応用することができる。	技術者としての倫理観を理解し、その概念の説明、応用、発展させる能力が認められる。	技術者としての最低限必要となる倫理観を身に付け、それらを自らの行動規範とすることができる。
B1	技術的問題にチームで取り組む時、自らリーダーシップを取り、チームの和を図り、互いの創意工夫により困難な問題を解決し、実行することができる。	技術的問題にチームで取り組む時、リーダーとして活動することができる。互いの意見を尊重し、問題を解決することができる。	技術的問題にチームで取り組む時、リーダー役を引き受けることができ、チームのまとめ役となっており、互いの意見から、問題解決への適応可能性を有している。	技術的問題にチームで取り組む時、個別の問題に対して最低限必要となるリーダー役を引き受けることができ、チーム全体の課題解決に貢献することができる。
B2	技術的問題に取り組む時、身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して、高度な問題を融合的に解決することができる。	技術的問題に取り組む時、身につけた知識と自己学習の成果を生かして、解決すべき問題に自らの知識を活用することができる。	技術的問題に取り組む時、身につけた知識と自己学習の成果から、解決すべき問題への対応策を自ら立案することができる。	技術的問題に取り組む時、最低限必要な知識を身につけることによって、自らの努力によって問題解決の方法や解析手法への適応可能性を有している。
C1	技術的、学問的成果を論理的な記述で論文としてまとめ、口頭発表や討議などの高度なプレゼンテーション能力を身に付け、誰にでもわかり易く説明できる能力を発揮できる。	技術的、学問的成果を論文としてまとめ、口頭発表や討議などに対応できるプレゼンテーション能力を身に付け、論点がずれることなく説明できる能力を有している。	技術的、学問的成果をまとめ、論文として記述することができ、口頭発表や討議などができるプレゼンテーション能力を有している。	技術的、学問的成果を最低限必要となる文言でまとめることができ、論点に応じた口頭発表ができるプレゼンテーション能力を有している。
C2	社会人ならびに技術者として、高度なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身に付け、技術的・社会的に十分なコミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として、十分なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し、技術的・社会的に必要なコミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として、必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し、技術的・社会的に通用するコミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として、最低限必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し、意思伝達が可能なコミュニケーションができる。
II. 専門技術者として要求される基礎能力				
D1	数学、および統計学の理論を完全に理解し、革新性や創造性を駆使して技術的問題の解決、あるいは高度な考察・分析のために利用することができる。	数学、および統計学の理論を十分に理解し、創造性を発揮して技術的問題の解決、あるいは考察・分析のために利用することができる。	数学、および統計学の理論を理解し、自ら考察して技術的問題の解決、あるいは分析や解析のために利用することができる。	数学、および統計学の理論について最低限必要とされる理解度を有し、自らの努力によって技術的問題の解決、あるいは分析や解析に利用するための適応可能性を有している。
D2	物理学およびその他の自然科学の素養を高度に身に付け、自然現象の理解、環境への影響の分析などに対して、適切に利用することができ、社会の持続的発展に寄与できる能力を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を十分に身に付け、自然現象の理解、環境への影響の分析などに対して、適切に利用することができ、社会の持続的発展に関する理解を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を身に付け、自然現象の理解、環境への影響の分析などに対して、利用することができ、社会の持続的発展とは何かを理解できる。	物理学およびその他の自然科学の素養に関して、最低限必要とされる水準の理解を身に付け、自然現象や、環境への影響の分析などに対して、利用することができる。
D3	与えられたデータの処理のみならず、データの測定技術にも理解を広げ、適切な解析によって十分な情報を獲得するための情報技術、プログラミング能力を有する。	与えられたデータの処理のみならず、データの測定技術の知識があり、適切な解析によって必要な情報を獲得するための情報技術、プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して、適切な解析によって必要な情報を獲得するための情報技術、プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して、最低限必要の解析によって情報を獲得するための情報技術、および若干のプログラミング能力を有する。
E	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数学などに関する専門分野の基礎を十分に修得し、それらを高度に適用または応用して、実務に対応できる。	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数学などに関する専門分野の基礎を修得し、それらを適切に適用して、実務に対応できる。	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数学などに関する専門分野の基礎を修得し、実務に対応できる基礎能力を有している。	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数学などに関する専門分野の基礎を最低限必要とする水準で修得し、自らの努力によって実務への適応可能性を有している。
F1	演習、実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を十分に理解し、高い工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習、実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し、十分な工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習、実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し、工学的考察能力および基礎的技術力を発揮できる。	演習、実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を最低限必要な水準で理解し、基礎的な工学的考察能力を発揮できる。
F1	専門分野における高度なデザイン能力、自ら進んで応用できる力、および旺盛な探究心を十分に有し、これを適切に発揮できる。	専門分野における十分なデザイン能力、自ら応用できる力、および探究心を十分に有し、これを適切に発揮できる。	専門分野におけるデザイン能力、応用力、および探究心を有し、これを適切に発揮できる。	専門分野における必要最低限必要なデザイン能力、探究心を有し、これを将来的に応用できる力を身に付け、発揮できる能力を有する。
F2	それぞれの専門分野の調査、計画、設計、施工に関する応用的理論を高度に理解し、十分に実務で通用する適応力を有し、必要に応じて適切に発揮できる。	それぞれの専門分野の調査、計画、設計、施工に関する応用的理論を十分に理解し、実務で通用する適応力を有し、適切に発揮できる。	それぞれの専門分野の調査、計画、設計、施工に関する応用的理論を理解し、実務に関わる基礎的適応力を有し、これを発揮できる。	それぞれの専門分野の調査、計画、設計、施工に関する応用的理論を最低限必要の水準で理解して、実務に関する基礎適応力を将来的に発展させる力を有し、これを発揮できる。
III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力				
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。高い水準で有機的に展開して、優れた創造的計画能力と分析能力、改革をすることができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を。有機的に展開して、十分な創造的計画能力と分析能力を発揮することができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を展開して、十分な創造的計画能力と分析能力を発揮することができる。	プロジェクトを遂行する上で最低限必要となる基礎と専門の知識を展開して、将来において創造的な計画能力と分析能力に発展させることができる。
H	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを高度な水準で理解し、未来への持続的発展を考慮した、循環型社会システムの築くための環境技術の提案を行い、これを実施できる。	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを十分に理解し、社会の持続的発展に配慮した循環型システムを築くための環境技術を習得し、実務において適用することができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し、循環型社会システムを築くための環境技術を習得し、実務において生かすことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し、循環型社会システムを築くための最低限必要の環境技術を習得し、自らの努力によって実務への適応可能性を有している。
I	北海道の地域特性を十分に考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを高度な水準で理解して事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付け、実務において実施することができる。	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを十分に理解して事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付け、実務に生かすことができる。	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解して事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付ける。	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解して事前に適切な対策をとる必要性を最低限理解し、持続可能な社会を建設するための基本的な技術を身に付ける。

表-3 (左) 環境情報コースの学習・教育到達目標と達成度評価

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目	
				開講学年	科目名等
I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力					
A	人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A1	人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人として豊かな教養を身につける。	1年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学
		A2	技術の業務遂行において、問題の技術倫理的側面を見出すことができ、それを解決出来る能力を身につける。	2年	上記科目の内、一部工学部で開講される科目
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け、互いの創意工夫により問題解決を図り、成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを養う。	B1	技術的問題にチームで取り組む時、集団の和を図り、互いの創意工夫により問題を解決し、成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	3年	専門教育科目「技術者倫理・演習(1.5)」
		B2	技術的問題に取り組む時、身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	3年	専門教育科目「環境計測実習(1)」、「測量実習(1)」、「地盤・構造材料実験(1)」
C	論理的な記述、口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C1	技術的、学問的成果を論文としてまとめ、誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	2年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習(3)」、「構造の力学A・演習(1.5)」、「構造の力学B・演習(1.5)」、「流れ学A・演習(1.5)」、「流れ学B・演習(1.5)」、「基礎土質工学A・演習(1.5)」、「基礎土質工学B・演習(1.5)」
		C2	社会人として、あるいは技術者として、必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	3年	専門教育科目「プレゼンテーション(2)」
II. 専門技術者として要求される基礎能力					
D	数学、統計学および物理、化学、生物、地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D1	数学、および統計学の理論を理解し、技術的問題の解決のために利用することができる。	1, 2年	工学基礎科目1群「線形代数学Ⅰ(2)」、「線形代数学Ⅱ(2)」, 2群「微分積分学Ⅰ(2)」、「微分積分学Ⅱ(2)」, 4群「代数学序論(2)」、「代数学Ⅰ(2)」、「代数学Ⅱ(2)」、「幾何学序論(2)」、「幾何学Ⅰ(2)」、「幾何学Ⅱ(2)」, 専門教育科目・基盤数理系1群「確率統計(2)」、「環境統計学・演習(1.5)」、「品質管理・演習(1.5)」, 2群「応用数学Ⅰ(2)」、「応用数学Ⅱ(2)」, 3群「解析学序論(2)」、「解析学Ⅰ(2)」、「解析学Ⅱ(2)」
		D2	化学、生物等の自然科学の素養を身につけ、自然現象の理解と分析に利用することができる。	1年	一般教育科目・教養・自然科学(環境), 工学基礎科目3群の「物理学Ⅰ(2)」、「物理学Ⅱ(2)」、「物理学Ⅲ(2)」、「振動・波動工学(2)」
		D3	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術、およびコンピュータによる設計支援技術を身につける。	2年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習(1.5)」、「情報処理Ⅱ・演習(1.5)」
E	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し、演習、実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		2年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習(3)」、「測量学Ⅰ(2)」、「構造の力学A・演習(1.5)」、「構造の力学B・演習(1.5)」、「流れ学A・演習(1.5)」、「流れ学B・演習(1.5)」、「基礎土質工学A・演習(1.5)」、「基礎土質工学B・演習(1.5)」
F	専門分野における調査、計画、設計、施工に関する基本的な技術を修得し、実務に対する適応力および探究心を養う。	F1	専門分野における実務に対する応用力および探究心を養う。	3年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習(1.5)」、「測量実習(1)」、「測量学Ⅱ(2)」、「地盤・構造材料実験(1)」
		F2	それぞれの専門分野の調査、計画、設計に関する技術を習得し、実務における適応力を身につける。	4年	専門教育科目「卒業研究(2単位相当)」、「CEデザインセミナー(2)」
III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力					
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して、創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		1年	専門教育科目「CE基礎セミナー(2)」
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし、循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		3年	専門教育科目「環境計測実習(1)」
				4年	専門教育科目「CEデザインセミナー(2)」、「卒業研究(2単位相当)」
I	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		1, 2年	一般教育科目・教養・自然科学(環境)
				1年	専門教育科目「環境工学序論(2)」、「微生物学(2)」
I	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		2年	専門教育科目「環境地質学(2)」、「保全生態学(2)」、「環境評価論(2)」
				3年	専門教育科目「環境計測学(2)」、「環境計測実習(1)」、「上下水道工学Ⅰ(2)」、「上下水道工学Ⅱ(2)」、「都市環境工学(2)」、「環境アセスメント(2)」
I	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		4年	専門教育科目「環境アセスメント(2)」、「景観工学(2)」
				2~4年	専門教育科目の都市経営系選択科目
I	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		2~4年	専門教育科目「リスクマネジメント(2)」、および都市防災系選択科目。

表-3(右) 環境情報コースの学習・教育到達目標と達成度評価

項目	達成度評価		
	評価内容	必要単位数	必要単位数の説明
I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力			
A1	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学から10単位の単位修得を条件とし、同科目から単位を修得した科目について評価する。	10	
A2	専門教育科目「技術者倫理・演習」の単位修得を条件とし評価する。	1.5	
B1	専門教育科目の「環境計測実習」、「測量実習」の単位修得を条件とし、さらに「地盤・構造材料実験」の成績を合わせて評価する。	2	
B2	専門教育科目の「計画数理Ⅰ・演習」と「計画数理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし、さらに「構造の力学A・演習」または「構造の力学B・演習」、「流れ学A・演習」または「流れ学B・演習」、「基礎土質工学A・演習」または「基礎土質工学B・演習」の単位修得も条件として、これらの科目で評価する。	9	必要単位数は必修4.5単位、および3つの選択必修各科目群それぞれから1.5単位であり、1つの選択必修科目群において2科目修得していても1.5単位とカウントとする。
C1	専門教育科目「プレゼンテーション」の単位修得を条件とし、さらに「卒業研究」において論文の記述方法を学び、発表においてプレゼンテーション能力を複数の教員により総合的に評価する。	4	「卒業研究」については、プレゼンテーション能力:30点および論文記述能力:10点(卒業研究担当教員が評価)の合計40点満点で評価し、36以上を「秀」、32以上36未満を「優」、28以上32未満を「良」、24以上28未満を「可」、24未満を「不可」とする。単位数は2単位相当とする。
C2	一般教育科目・基盤科目の英語科目2科目2単位以上を含む基盤科目の言語4単位以上(専門教育科目の「技術英語」も含むことができる)の修得を条件とし、さらに選択された基盤科目の言語および専門教育科目の「技術英語」により評価する。	4	必要単位数に対しては、英語以外の外国語から2単位以上修得していても2単位とカウントする。
II. 専門技術者として要求される基礎能力			
D1	工学基礎科目1群「線形代数学Ⅰ」と「線形代数学Ⅱ」から1科目、2群「微分積分学Ⅰ」と「微分積分学Ⅱ」から1科目、専門教育科目・基盤数理系1群「確率統計」と「環境統計学・演習」と「品質管理・演習」から1科目の合計5.5単位の修得を条件とし、さらに工学基礎科目4群「代数学Ⅰ」、「代数学Ⅱ」、「幾何学序論」、「幾何学Ⅰ」、「幾何学Ⅱ」、専門教育科目・基盤数理系2群「応用数学Ⅰ」、「応用数学Ⅱ」、3群「解析学序論」、「解析学Ⅰ」、「解析学Ⅱ」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5.5	3つの選択必修各科目群それぞれから、最低1科目以上の単位を含む。必要単位数に対しては各選択必修科目群において、2科目以上修得していても1科目とカウントする。
D2	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から3科目6単位以上の修得を条件とし、さらに工学基礎科目3群の「物理学Ⅰ」、「物理学Ⅱ」、「物理学Ⅲ」、「振動・波動工学」の中から単位を修得した科目を合わせて評価する。	6	必要単位としては一般教育科目・教養・自然科学(環境)からの単位のみを含む。
D3	専門教育科目の「情報処理Ⅰ・演習」、「情報処理Ⅱ・演習」、「データ処理実習」、「CAD演習」の単位修得を条件とし、さらに専門選択科目の都市情報系から単位を修得した科目を合わせて評価する。	5	
E	専門教育科目の総合系から「構造の力学A・演習」または「構造の力学B・演習」、「流れ学A・演習」または「流れ学B・演習」、「基礎土質工学A・演習」または「基礎土質工学B・演習」の3選択必修科目群、および「測量学Ⅰ」、「測量実習」、都市経営系から「計画数理Ⅰ・演習」、「計画数理Ⅱ・演習」の単位修得を条件とし、さらに専門教育科目総合系の「測量学Ⅱ」、都市防災系の「地盤・構造材料実験」を評価項目とし、これらの科目により評価する。	12	必要単位数に対しては3選択必修科目群より各1科目、および必修科目の単位のみであり、各選択必修科目群において、修得単位がなければ0単位、2科目修得していても1.5単位のみカウントする。
F1	専門教育科目「卒業研究」と「CEデザインセミナー」の成績を合わせて、基本的な修得度を評価する。	4	「卒業研究」については、基本的な技術の習得度を30点満点で評価し、27以上を「秀」、24以上27未満を「優」、21以上24未満を「良」、18以上21未満を「可」、18未満を「不可」とする。単位数は2単位相当とする。
F2	専門教育科目の基盤数理系および技術英語以外の選択科目(総合系の選択必修科目を含む)から、49単位以上の修得を条件とし、これらの科目により評価する。	49	
III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力			
G	専門教育科目「CE基礎セミナー」、「環境計測実習」、「CEデザインセミナー」、「卒業研究」の単位の修得を条件とし、これらの科目で評価する。	7	「卒業研究」については、デザイン能力等を30点満点で評価し、27以上を「秀」、24以上27未満を「優」、21以上24未満を「良」、18以上21未満を「可」、18未満を「不可」とする。単位数は2単位相当とする。
H	一般教育科目・教養・自然科学(環境)から3科目6単位以上、専門教育科目の都市環境系の必修科目「環境計測学」、「環境計測実習」、「上下水道工学Ⅰ」、都市環境系の選択科目から4単位以上の単位修得を条件とし、さらに専門教育科目の都市環境系の選択科目から単位を修得した科目を合わせて評価する。	15	必要単位数に対しては、一般教育科目・教養・自然科学(環境)から6単位以上、都市環境系の選択科目から4単位以上修得していても、それぞれ6単位、4単位とカウントする。
I	専門教育科目の都市防災系必修科目の「リスクマネジメント」、都市防災系選択科目から2単位以上、専門教育科目の都市経営系選択科目から2単位以上の単位修得を条件とし、さらに専門教育科目の都市防災系選択科目、都市経営系の選択科目から単位を修得した科目を合わせて評価する。	6	必要単位数に対しては、専門教育科目の都市防災系選択科目から2単位以上、都市経営系選択科目から2単位以上修得していても、それぞれ2単位とカウントする。

表-4 (左) 環境情報コースの学習・教育到達目標とルーブリック評価基準

項目	学習・教育到達目標	項目	項目別学習・教育到達目標	関連科目	
				開講学年	科目名等
I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養、倫理観、コミュニケーション能力					
A	人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人としての豊かな素養および技術者としての倫理観を身に付ける。	A1	人文・社会科学の知的基盤を築き、社会人として豊かな教養を身につける。	1年	一般教育科目・教養科目の人文科学および社会科学
		A2	技術の業務遂行において、問題の技術倫理的側面を見出すことができ、それを解決出来る能力を身につける。	2年	上記科目の内、一部工学部で開講される科目
B	自ら考えて問題に取り組む自己学習の習慣・能力を身に付け、互いの創意工夫により問題解決を図り、成果としてまとめる協調性やリーダーシップを養う。	B1	技術的問題にチームで取り組む時、集団の和を図り、互いの創意工夫により問題を解決し、成果としてまとめるための協調性やリーダーシップを身につける。	3年	専門教育科目「技術者倫理・演習(1.5)」
		B2	技術的問題に取り組む時、身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して問題を解決する能力を身につける。	2年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習(3)」および「構造の力学A・演習(1.5)」または「構造の力学B・演習(1.5)」、「流れ学A・演習(1.5)」または「流れ学B・演習(1.5)」、「基礎土質工学A・演習(1.5)」または「基礎土質工学B・演習(1.5)」の各選択必修科目群から1科目以上の単位修得
C	論理的な記述、口頭発表や討議などのプレゼンテーション能力および国際交流を図れるコミュニケーションの基礎能力を身に付ける。	C1	技術的、学問的成果を論文としてまとめ、誰にでもわかり易く説明できる能力を身につける。	3年	専門教育科目「プレゼンテーション(2)」
			4年	専門教育科目「卒業研究(2単位相当)」	
		C2	社会人として、あるいは技術者として、必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身につける。	1年	一般教育科目・基盤科目の英語、および英語以外の外国語
			2年	上記科目の内、一部工学部で開講される科目	
3年	専門教育科目「技術英語(2)」				
II. 専門技術者として要求される基礎能力					
D	数学、統計学および物理、化学、生物、地学などの自然科学および情報技術に関する基礎能力を身に付ける。	D1	数学、および統計学の理論を理解し、技術的問題の解決のために利用することができる。	1, 2年	工学基礎科目1群「線形代数学Ⅰ(2)」, 「線形代数学Ⅱ(2)」, 2群「微分積分学Ⅰ(2)」, 「微分積分学Ⅱ(2)」, 4群「代数学序論(2)」, 「代数学Ⅰ(2)」, 「代数学Ⅱ(2)」, 「幾何学序論(2)」, 「幾何学Ⅰ(2)」, 「幾何学Ⅱ(2)」, 専門教育科目・基盤数理系1群「確率統計(2)」, 「環境統計学・演習(1.5)」, 「品質管理・演習(1.5)」, 2群「応用数学Ⅰ(2)」, 「応用数学Ⅱ(2)」, 3群「解析学序論(2)」, 「解析学Ⅰ(2)」, 「解析学Ⅱ(2)」
		D2	化学、生物等の自然科学の素養を身につけ、自然現象の理解と分析に利用することができる。	1, 2年	一般教育科目・教養・自然科学(環境), 工学基礎科目3群の「物理学Ⅰ(2)」, 「物理学Ⅱ(2)」, 「物理学Ⅲ(2)」, 「振動・波動工学(2)」。
		D3	与えられたデータを処理して必要な情報を獲得するための情報技術、およびコンピュータによる設計支援技術を身につける。	2年	専門教育科目「情報処理Ⅰ・演習(1.5)」, 「情報処理Ⅱ・演習(1.5)」
3年	専門教育科目「データ処理実習(1)」, 「CAD演習(1)」				
3, 4年	専門選択科目の都市情報系科目				
E	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し、演習、実習および実験などを通じてそれらの理解度や工学的考察能力を高める。	E		2年	専門教育科目「計画数理Ⅰ・演習(3)」, 「測量学Ⅰ(2)」, および「構造の力学A・演習(1.5)」または「構造の力学B・演習(1.5)」, 「流れ学A・演習(1.5)」または「流れ学B・演習(1.5)」, 「基礎土質工学A・演習(1.5)」または「基礎土質工学B・演習(1.5)」の各選択必修科目群から1科目以上の単位修得
3年	専門教育科目「計画数理Ⅱ・演習(1.5)」, 「測量実習(1)」, 「測量学Ⅱ(2)」, 「地盤・構造材料実験(1)」				
F	専門分野における調査、計画、設計、施工に関する基本的な技術を修得し、実務に対する適応力および探究心を養う。	F1	専門分野におけるデザイン能力、応用力および探究心を養う。	4年	専門教育科目「卒業研究(2単位相当)」, 「CEデザインセミナー(2)」
F2	それぞれの専門分野の調査、計画、設計に関する技術を習得し、実務における適応力をつける。	1~4年		専門教育科目の基盤数理系及び技術英語以外の選択科目(総合系の選択必修科目を含む)(1年次3科目, 2年次13科目, 3年次18科目, 4年次5科目の合計39科目)。	
III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力					
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して、創造的な計画能力と分析能力を身に付ける。	G		1年	専門教育科目「CE基礎セミナー(2)」
3年	専門教育科目「環境計測実習(1)」				
4年	専門教育科目「CEデザインセミナー(2)」, 「卒業研究(2単位相当)」				
H	自然と人間生活の調和・共存をめざし、循環型社会システムを築くための環境技術を理解する。	H		1, 2年	一般教育科目・教養・自然科学(環境)
1年	専門教育科目「環境工学序論(2)」, 「微生物学(2)」				
2年	専門教育科目「環境地質学(2)」, 「保全生態学(2)」, 「環境評価論(2)」				
3年	専門教育科目「環境計測学(2)」, 「環境計測実習(1)」, 「上下水道工学Ⅰ(2)」, 「上下水道工学Ⅱ(2)」, 「都市環境工学(2)」, 「環境アセスメント(2)」				
4年	専門教育科目「環境アセスメント(2)」, 「景観工学(2)」				
I	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにあるリスクを理解し事前に適切な対策をとることにより、持続可能な社会を建設し管理する技術を身につける。	I		2~4年	専門教育科目の都市経営系科目
2~4年	専門教育科目「リスクマネジメント(2)」, および都市防災系選択科目。				

表－4(右) 環境情報コースの学習・教育到達目標とルーブリック評価基準

項目	ルーブリック評価基準			
	秀 (4.00～3.50)	優 (3.49～2.50)	良 (2.49～1.50)	可 (1.49～1.00)
I. 技術者の人間形成に資する幅広い教養, 倫理観, コミュニケーション能力				
A1	人文・社会科学の知的基盤について、高度な教養を身に付け、自ら考察し、さらなる素養を身に付け、議論することができる。	人文・社会科学の知的基盤について、十分な教養を身に付け、社会人として豊かな素養を、さらに発展させることができる。	人文・社会科学の知的基盤について、その概念を理解し、今後の応用や発展が期待できる。	人文・社会科学の知的基盤について、最低限必要となる基礎的な能力を身に付け、今後の知識獲得の方法を理解している。
A2	技術者としての高度な倫理観を身に付け、それに基づいた行動を取ることができ、自らの経験からさらに高度な倫理観を得ることができる。	技術者としての十分な倫理観を身に付け、それを自らの行動規範とすることができ、経験に基づいて応用することができる。	技術者としての倫理観を理解し、その概念の説明、応用、発展させる能力が認められる。	技術者としての最低限必要となる倫理観を身に付け、それらを自らの行動規範とすることができる。
B1	技術的問題にチームで取り組む時、自らリーダーシップを取り、チームの和を図り、互いの創意工夫により困難な問題を解決し、実行することができる。	技術的問題にチームで取り組む時、リーダーとして活動することができ、チームのけん引役となっており、互いの意見を尊重し、問題を解決することができる。	技術的問題にチームで取り組む時、リーダー役を引き受けることができ、チームのまとめ役となっており、互いの意見から、問題解決への適応可能性を有している。	技術的問題にチームで取り組む時、個別の問題に対して最低限必要となるリーダー役を引き受けることができ、チーム全体の課題解決に貢献することができる。
B2	技術的問題に取り組む時、身につけた知識および自己学習の成果を複合的に応用して、高度な問題を融合的に解決することができる。	技術的問題に取り組む時、身につけた知識と自己学習の成果を生かして、解決すべき問題に自らの知識を活用することができる。	技術的問題に取り組む時、身につけた知識と自己学習の成果から、解決すべき問題への対応策を自ら立案することができる。	技術的問題に取り組む時、最低限必要な知識を身につけることよって、自らの努力によって問題解決の方法や解析手法への適応可能性を有している。
C1	技術的、学問的成果を論理的な記述で論文としてまとめ、口頭発表や討議などの高度なプレゼンテーション能力を身に付け、誰にでもわかり易く説明できる能力を発揮できる。	技術的、学問的成果を論文としてまとめ、口頭発表や討議などに対応できるプレゼンテーション能力を身に付け、論点がずれることなく説明できる能力を有している。	技術的、学問的成果をまとめ、論文として記述することができ、口頭発表や討議などができるプレゼンテーション能力を有している。	技術的、学問的成果を最低限必要となる文言でまとめることができ、論点に応じた口頭発表ができるプレゼンテーション能力を有している。
C2	社会人ならびに技術者として、高度なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を身に付け、技術的・社会的に十分なコミュニケーションができる。	社会人ならびに技術者として、十分なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し、技術的・社会的に必要なコミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として、必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し、技術的・社会的に通用するコミュニケーションを取ることができる。	社会人ならびに技術者として、最低限必要なコミュニケーションをとることができる英語力を基盤とした外国語能力を有し、意思伝達が可能なコミュニケーションができる。
II. 専門技術者として要求される基礎能力				
D1	数学、および統計学の理論を完全に理解し、革新性や創造性を駆使して技術的問題の解決、あるいは高度な考察・分析のために利用することができる。	数学、および統計学の理論を十分に理解し、創造性を発揮して技術的問題の解決、あるいは考察・分析のために利用することができる。	数学、および統計学の理論を理解し、自ら考察して技術的問題の解決、あるいは分析や解析のために利用することができる。	数学、および統計学の理論について最低限必要とされる理解度を有し、自らの努力によって技術的問題の解決、あるいは分析や解析に利用するための適応可能性を有している。
D2	物理学およびその他の自然科学の素養を高度に身につけ、自然現象の理解、環境への影響の分析などに対して、適切に利用することができ、社会の持続的発展に寄与できる能力を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を十分に身につけ、自然現象の理解、環境への影響の分析などに対して、適切に利用することができ、社会の持続的発展に関する理解を有する。	物理学およびその他の自然科学の素養を身につけ、自然現象の理解、環境への影響の分析などに対して、利用することができ、社会の持続的発展とは何かを理解できる。	物理学およびその他の自然科学の素養に関して、最低限必要とされる水準の理解を身につけ、自然現象や、環境への影響の分析などに対して、利用することができる。
D3	与えられたデータの処理のみならず、データの測定技術にも理解を深げ、適切な解析によって十分な情報を獲得するための情報技術、プログラミング能力を有する。	与えられたデータの処理のみならず、データの測定技術の知識がおり、適切な解析によって必要な情報を獲得するための情報技術、プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して、適切な解析によって必要な情報を獲得するための情報技術、プログラミング能力を有する。	与えられたデータに対して、最低限必要の解析によって情報を獲得するための情報技術、および若干のプログラミング能力を有する。
E	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数理学などに関する専門分野の基礎を十分に修得し、それらを高度に適用または応用して、実務に対応できる。	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し、それらを適切に適用して、実務に対応できる。	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数理学などに関する専門分野の基礎を修得し、実務に対応できる基礎能力を有している。	構造力学、土質工学、水理学、測量学、計画数理学などに関する専門分野の基礎を最低限必要とする水準で修得し、自らの努力によって実務への適応可能性を有している。
F1	演習、実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を十分に理解し、高い工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習、実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し、十分な工学的考察能力および技術力を発揮できる。	演習、実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を理解し、工学的考察能力および基礎的技術力を発揮できる。	演習、実習および実験などを通じて専門分野の基礎科目を最低限必要な水準で理解し、基礎的な工学的考察能力を発揮できる。
F2	専門分野における高度なデザイン能力、自ら進んで応用できる力、および旺盛な探究心を十分に有し、これを適切に発揮できる。	専門分野における十分なデザイン能力、自ら応用できる力、および探究心を十分に有し、これを適切に発揮できる。	専門分野におけるデザイン能力、応用力、および探究心を有し、これを適切に発揮できる。	専門分野における必要最低限必要なデザイン能力、探究心を有し、これを将来的に応用できる力を身に付け、発揮できる能力を有する。
F2	それぞれの専門分野の調査、計画、設計、施工に関する応用的理論を高度に理解し、十分に実務で通用する適応力を有し、必要に応じて適切に発揮できる。	それぞれの専門分野の調査、計画、設計、施工に関する応用的理論を十分に理解し、実務で通用する適応力を有し、適切に発揮できる。	それぞれの専門分野の調査、計画、設計、施工に関する応用的理論を理解し、実務に関わる基礎的適応力を有し、これを発揮できる。	それぞれの専門分野の調査、計画、設計、施工に関する応用的理論を最低限必要の水準で理解して、実務に関する基礎適応力を将来的に発展させる力を有し、これを発揮できる。
III. 自然環境ならびに地域特性を考慮した社会の要求に応える能力				
G	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を高い水準で有機的に展開して、優れた創造的計画能力と分析能力、改革をすることができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を有機的に展開して、十分な創造的計画能力と分析能力を発揮することができる。	プロジェクトを遂行する上で必要となる基礎と専門の知識を展開して、十分な創造的計画能力と分析能力を発揮することができる。	プロジェクトを遂行する上で最低限必要となる基礎と専門の知識を展開して、将来において創造的な計画能力と分析能力に発展させることができる。
H	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを高度な水準で理解し、未来への持続的発展を考慮した、循環型社会システムを築くための環境技術の提案を行い、これを実施できる。	自然と人間生活の調和・共存の融合について配慮することを十分に理解し、社会の持続的発展に配慮した循環型システムを築くための環境技術を習得し、実務において適用することができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し、循環型社会システムを築くための環境技術を習得し、実務において生かすことができる。	自然と人間生活の共存の融合について配慮することを理解し、循環型社会システムを築くための最低限必要な環境技術を習得し、自らの努力によって実務への適応可能性を有している。
I	北海道の地域特性を十分に考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを高度な水準で理解して事前に適切な対策をとることに、持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付け、実務において実施することができる。	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを十分に理解して事前に適切な対策をとることに、持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付け、実務に生かすことができる。	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解して事前に適切な対策をとることに、持続可能な社会を建設し管理する技術を身に付ける。	北海道の地域特性を考慮し、社会基盤施設の劣化など、身の回りにおけるリスクを理解して事前に適切な対策をとる必要性を最低限理解し、持続可能な社会を建設するための基本的な技術を身に付ける。

社会環境工学科の履修要件〔2017年度（平成29年度）以降入学者〕

1. 目標修得単位

卒業に必要な単位数は合計124単位以上です。つまり、1年間に修得すべき平均単位数は、単純計算すると、124単位／4年間＝31単位／年となります。しかし、4年次になると卒業研究や就職活動などに非常に多くの時間や労力を必要とすることに留意しなければなりません。したがって、1～3年次の期間で十分な単位を修得しておく必要があります。

社会環境工学科では、各学年においての目標修得単位数を以下のように設定しています。

この単位数を念頭に置き、計画的に学習するよう努めてください。

(社会環境コース)

1年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目		総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	総合系	
	人文科学, 社会科学	言語	自然科学(環境)	1～3群	1～2群		
単位数	20単位以上	4単位以上 (ただし, 英語3 科目3単位以上 を含む)	4単位以上	10単位以上 (必修・選択必修科目 から6単位を含む)		4単位 (必修2単位 を含む)	42単位 以上

* 留学生科目を含む

2年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目		総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系 以外	
	人文科学, 社会科学	言語	自然科学(環境)	1～3群	1～2群		
単位数	20単位以上		6単位以上	11単位以上 (必修・選択必修科目から 7.5単位以上を含む)		36単位以上 (必修30単位 を含む)	75単位 以上

* 留学生科目を含む

3年次目標修得単位

卒業見込証明書の発行条件と同じ

* 52ページ参照

4年次目標修得単位

卒業要件と同じ

* 53ページ参照

(環境情報コース)

1年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目		総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	総合系	
	人文科学, 社会科学	言語	自然科学(環境)	1～3群	1～2群		
単位数	20単位以上	4単位以上 (ただし, 英語3 科目3単位以上 を含む)	4単位以上	10単位以上 (選択必修科目から 4単位を含む)		4単位 (必修2単位 を含む)	42単位 以上

* 留学生科目を含む

2 年次目標修得単位

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目		総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系 以外	
	人文科学, 社会科学	言語	自然科学(環境)	1～3群			
単位数	20単位以上			8 単位以上	11単位以上 (選択必修科目から 5.5単位以上を含む)	35単位以上 (必修10単位, 選択必修9 単位 を含む)	75単位 以上

* 留学生科目を含む

3 年次目標修得単位

卒業見込証明書の発行条件と同じ

*52ページ参照

4 年次目標修得単位

卒業要件と同じ

*53ページ参照

2. 進級要件（1 年次から 2 年次へ）

1 年次に配当されている授業科目のうちから，以下の要件を全て満たした1 年次学生は，2 年次に進級することができます（工学部規則第13条）。この進級要件を満たさない学生は，1 年次に留置きとなります。

（社会環境コース）

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
	教養科目*	総合系	
	人文科学, 社会科学		
単位数	6 単位以上	必修 2 単位	一般教育科目の基盤科目のうち言語, 教養科目* のうち人文科学・社会科学・自然科学(環境), 工学基礎科目の1～3群及び専門教育科目の合計14単位以上

* 留学生科目を含む

（環境情報コース）

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
	教養科目*	総合系	
	人文科学, 社会科学		
単位数	6 単位以上	必修 2 単位	一般教育科目の基盤科目のうち言語, 教養科目* のうち人文科学・社会科学・自然科学(環境), 工学基礎科目の1～3群及び専門教育科目の合計14単位以上

* 留学生科目を含む

3. 「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」着手条件

3年次終了時に以下の単位修得条件を全て満たしている学生は、4年次に必修科目である「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」に着手することができます。この着手条件を満たさない場合、その年度には卒業できませんので十分注意してください。

(社会環境コース)

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目	総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	
	人文科学, 社会科学	言語**	自然科学(環境)	1～3群	1～2群	
単位数	18単位以上		4単位以上	12単位以上 (必修・選択必修科目から 7.5単位以上を含む)		90単位 以上

* 留学生科目を含む

** 「技術英語」を含む

(環境情報コース)

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目	総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	
	人文科学, 社会科学	言語**	自然科学(環境)	1～3群	1～2群	
単位数	18単位以上		6単位以上	10単位以上 (選択必修科目から 5.5単位以上を含む)		90単位 以上

* 留学生科目を含む

** 「技術英語」を含む

4. 卒業見込証明書の発行条件

3年次終了時に以下の単位修得条件を全て満たしている学生は、卒業見込証明書の発行を受けることができます。

(社会環境コース)

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目		総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系 以外	
	人文科学, 社会科学	言語**	自然科学(環境)	1～3群	1～2群		
単位数	20単位以上		4単位以上	12単位以上 (必修・選択必修科目から 7.5単位以上を含む)		必修33単位 以上	100単位 以上

* 留学生科目を含む

** 「技術英語」を含む

(環境情報コース)

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目		総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系及び 技術英語以外	
	人文科学, 社会科学	言語**	自然科学(環境)	1～3群	1～2群		
単位数	20単位以上		6単位以上	10単位以上 (選択必修科目から 5.5単位以上を含む)		必修15単位 を含む 33単位以上	100単位 以上

* 留学生科目を含む

** 「技術英語」を含む

5. 卒業要件

社会環境工学科を卒業し、学士（工学）の学位を得るためには、学則別表9(1)及び(2)に掲げる授業科目中、次に定める単位を修得しなければなりません（工学部規則第14条）。

卒業要件を体系的にまとめると次のようになります。

（社会環境コース）

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目		総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系及び 技術英語以外	
	人文科学, 社会科学	言語**	自然科学(環境)		1～3群	1～2群	
単位数	10単位以上	英語1科目 1単位科目 から2単位 以上	4単位以上	必修2単 位, 1・2 群から各2 単位以上	1群から 1.5単位 以上	必修47単位, かつ選択35単 位以上(ただ し, 環境工学 系, 計画・設 計・維持管理 系からそれぞ れ4単位以上 とその他の系 からそれぞれ 2単位以上を 含む)	124単位 以上
	上記を含む20単位以上		上記を含む22単位以上				

* 留学生科目を含む

** 「技術英語」を含む

（環境情報コース）

分野	一般教育科目			工学 基礎科目	専門教育科目		総修得 単位数
	教養科目*	基盤科目	教養科目		基盤数理系	基盤数理系及び 技術英語以外	
	人文科学, 社会科学	言語**	自然科学(環境)		1～3群	1～2群	
単位数	10単位以上	4単位以上 (英語1科目 1単位科目 から2単位 以上を含む)	6単位以上	1・2群か ら各2単位 以上	1群から 1.5単位 以上	必修33単位, かつ選択49単 位以上(ただ し, 総合系選 択必修4.5単 位以上***, 都市 環境系から4 単位以上, 都 市経営系と都 市防災系から それぞれ2単 位以上を含む)	124単位 以上
	上記を含む20単位以上		上記を含む22単位以上				

* 留学生科目を含む

** 「技術英語」を含む

*** 構造の力学A・演習および構造の力学B・演習より1.5単位以上, 流れ学A・演習および流れ学B・演習より1.5単位以上, 基礎土質工学A・演習および基礎土質工学B・演習より1.5単位以上の計4.5単位以上

60単位を超えた遠隔授業の単位は卒業要件に含みません。

2017年度（平成29年度）以降入学者 社会環境工学科 社会環境コース 科目系統図

区分	1年		2年		3年		4年	
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期
科目	分野							
一般教育科目	基盤科目	○言語（英語、英語以外の外国語＜ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）		言語科目	技術英語 ⁺ （専門教育科目）			
		○身体						
	教養科目	○情報（コンピュータ科学）						
		○人文科学（自己、文化、歴史） ○社会科学（社会構造、地域）		人文・社会系科目				
		○自然科学（環境：環境生物科学Ⅰ、Ⅱ、物質科学、物質環境科学 普遍性） ○北海道学		○自然科学（環境：地球科学Ⅰ、Ⅱ、宇宙科学Ⅰ、Ⅱ）				
	キャリア形成	（キャリア・アントレプレナーシップ）						
体験型	（海外文化Ⅰ～Ⅳ）							
留学生	（日本語演習Ⅰ、日本語読解・構文Ⅰ等）							
工学基礎科目	1群	線形代数学Ⅰ [*]	線形代数学Ⅱ [*]					
	2群		微分積分学Ⅰ ^{**}	微分積分学Ⅱ ^{**}				
	3群	[物理学Ⅰ]	物理学Ⅱ	物理学Ⅲ	振動・波動工学			
	4群		代数学序論 幾何学序論	代数学Ⅰ 幾何学Ⅰ	代数学Ⅱ 幾何学Ⅱ			
専門教育科目	基盤数理系	1群	確率統計 [◆]	環境統計学・演習(1.5) [◆]	品質管理・演習(1.5) [◆]			
		2群			応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ		
		3群		解析学序論	解析学Ⅰ	解析学Ⅱ		
	環境工学系		環境工学序論 ⁺	環境地質学 ⁺	保全生態学 ⁺	上下水道工学Ⅰ ⁺	上下水道工学Ⅱ ⁺	景観工学 ⁺
						都市環境工学 ⁺	環境計測学 ⁺	
	水工系			[水理学Ⅰ・演習](3)	[水理学Ⅱ・演習](3)	河川工学 ⁺	港湾工学	
					防災工学 ⁺			
	計画・設計・維持管理系				[計画数理Ⅰ・演習](3) ⁺	[計画数理Ⅱ・演習](1.5) ⁺	社会基盤施設維持管理工学	都市・交通計画 ⁺
						道路工学 ⁺	寒冷地舗装工学	コンクリート構造設計演習
	構造・材料系			[構造力学Ⅰ・演習](3)	[構造力学Ⅱ・演習](3)	都市経営論 ⁺	建設マネジメント	
				[コンクリート工学] ⁺	構造解析学	地震工学 ⁺		
土質・施工系			[土質工学Ⅰ・演習](3)	[土質工学Ⅱ・演習](3)	[地盤・構造材料実験](1) ⁺			
						地盤工学 ⁺	火薬学	
総合系		[CE基礎セミナー] ⁺	CE総論 ⁺	[情報処理Ⅰ・演習](1.5) ⁺	[情報処理Ⅱ・演習](1.5) ⁺	プログラミング ⁺	CAD演習(1) ⁺	[CEデザインセミナー] ⁺
					[測量学Ⅰ] ⁺	測量学Ⅱ ⁺	[プレゼンテーション] ⁺	[卒業研究](6) ⁺
						[測量実習](1) ⁺		
						[技術者倫理・演習](1.5) ⁺		
						インターンシップA(1) ⁺		
						インターンシップB ⁺		

太字：選択必修科目
 [太字]：必修科目
 □□・演習(3)：講義90分+演習90分
 □□・演習(1.5)：講義45分+演習45分
 +：両コース合同科目

備考：インターンシップA、インターンシップBは2026年度の開講はありません。

2017年度（平成29年度）以降入学者 社会環境工学科 環境情報コース 科目系統図

区分	1年		2年		3年		4年		
	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	1学期	2学期	
科目	分野								
一般教育科目	基盤科目	○言語（英語、英語以外の外国語＜ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）		言語科目	技術英語 ⁺ （専門教育科目）				
		○身体							
		○情報（コンピュータ科学）							
	教養科目	○人文科学（自己、文化、歴史） ○社会科学（社会構造、地域）		人文・社会系科目					
		○自然科学（環境：環境生物科学Ⅰ、Ⅱ、物質科学、物質環境科学 普遍性） ○北海道学			○自然科学（環境：地球科学Ⅰ、Ⅱ、宇宙科学Ⅰ、Ⅱ）				
キャリア形成	（キャリア・アントレプレナーシップ）								
体験型	（海外文化Ⅰ～Ⅳ）								
留学生	（日本語演習Ⅰ、日本語読解・構文Ⅰ等）								
工学基礎科目	1群	線形代数学Ⅰ [*]	線形代数学Ⅱ [*]						
	2群	微分積分学Ⅰ ^{**}		微分積分学Ⅱ ^{**}					
	3群	物理学Ⅰ	物理学Ⅱ	物理学Ⅲ	振動・波動工学				
	4群	代数学序論		代数学Ⅰ	代数学Ⅱ				
		幾何学序論		幾何学Ⅰ	幾何学Ⅱ				
基盤数理系	1群	確率統計 [◆]	環境統計学・演習(1.5) [◆] ；品質管理・演習(1.5) [◆]		◆：選択必修				
	2群			応用数学Ⅰ	応用数学Ⅱ				
	3群	解析学序論		解析学Ⅰ	解析学Ⅱ				
都市環境系	環境工学序論 ⁺		微生物学（生命開講）	環境地質学 ⁺	保全生態学 ⁺	[上下水道工学Ⅰ] ⁺	上下水道工学Ⅱ ⁺	景観工学 ⁺	
			環境評価論				都市環境工学 ⁺	[環境計測学] ⁺	
都市情報系					[情報処理Ⅰ・演習](1.5) ⁺	[情報処理Ⅱ・演習](1.5) ⁺	[データ処理論実習](1)	[CAD演習](1) ⁺	環境アセスメント ⁺
							プログラミング ⁺		防災情報システム
都市経営系			地域交通論		[計画数理Ⅰ・演習](3) ⁺	[計画数理Ⅱ・演習](1.5) ⁺	社会調査法	都市・交通計画 ⁺	
					住民参加論	都市経営論 ⁺	寒地政策論		
都市防災系					防災工学 ⁺	河川工学 ⁺		寒地・都市防災論	
							[リスクマネジメント]	地震工学 ⁺	
							地盤・構造材料実験(1) ⁺	地盤工学 ⁺	
							鋼構造工学 ⁺	橋梁工学 ⁺	
総合系	[CE基礎セミナー] ⁺		CE総論 ⁺			コンクリート工学 ⁺	コンクリート構造工学 ⁺		
					[測量学Ⅰ] ⁺	測量学Ⅱ ⁺	[プレゼンテーション] ⁺	[CEデザインセミナー] ⁺	
			○●○：選択必修		構造の力学A・演習(1.5) [○]	構造の力学B・演習(1.5) [○]	[測量実習](1) ⁺		
					流れ学A・演習(1.5) [●]	流れ学B・演習(1.5) [●]	[技術者倫理・演習](1.5) ⁺		
				基礎土質工学A・演習(1.5) [○]	基礎土質工学B・演習(1.5) [○]	インターンシップA(1) ⁺			
						インターンシップB ⁺			

太字：選択必修科目
 [太字]：必修科目
 □□・演習(3)：講義90分+演習90分
 □□・演習(1.5)：講義45分+演習45分
 +：両コース合同科目

備考：インターンシップA、インターンシップBは、2026年度の開講はありません。

2017年度（平成29年度）以降入学者 一般教育科目一覧表

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	基盤科目 (言語)					
	・英語					
	英語リーディングⅠ	1				1
	英語リーディングⅡ	1				1
	英語リーディングⅢ		1			1
	英語リーディングⅣ		1			1
	英語コミュニケーションⅠ	1				1
	英語コミュニケーションⅡ	1				1
	英語コミュニケーションⅢ		1			1
	英語コミュニケーションⅣ		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ	1				1
	英語ライティングⅡ	1				1
	英語文化演習Ⅰ		2			2
	英語文化演習Ⅱ		2			2
	・共通					
	世界の言語と文化	2				2
	・ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	(身体)					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	(情報)					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	教養科目 (人文科学)					
	・自己					
	哲 学	2				2
	倫 理 学 I	2				2
	倫 理 学 II	2				2
	論 理 学 I	2				2
	論 理 学 II	2				2
	社 会 思 想 史	2				2
	行 動 科 学	2				2
	基 礎 心 理 学	2				2
	人 間 関 係 論	2				2
	・文化					
	日 本 文 学	2				2
	外 国 文 学 I	2				2
	外 国 文 学 II	2				2
	言 語 学 I	2				2
	言 語 学 II	2				2
	芸 術 論 I	2				2
	芸 術 論 II	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現 代 文 化 論	2				2
	音 声 学 セミナー	2				2
	一 般 言 語 学 セミナー	2				2
	デザインセミナー I	2				2
	デザインセミナー II	2				2
	・歴史					
	歴 史 学 I	2				2
	歴 史 学 II	2				2
	歴 史 学 III	2				2
	歴 史 学 IV	2				2
	考 古 学	2				2
	人 文 科 学 特 別 講 義	2				2
	(社会科学)					
	・社会構造					
	法 学	2				2
	日 本 国 憲 法 学	2				2
	経 済 治 学	2				2
	政 治 学	2				2
	社 会 学	2				2
	マ ス コ ミ 論	2				2
	生 涯 学 習 論	2				2
	・地域					
	地 理 学	2				2
	人 類 学	2				2
	地 誌 学	2				2
	国 際 事 情	2				2
	カナダの自然と社会 I	2				2
	カナダの自然と社会 II	2				2
	社 会 科 学 特 別 講 義	2				2
	(自然科学)					
	・環境					
	地 球 科 学 I		2			2
	地 球 科 学 II		2			2
	環 境 生 物 科 学 I	2				2
	環 境 生 物 科 学 II	2				2
	物 質 科 学	2				2
	物 質 環 境 科 学	2				2
	宇 宙 科 学 I		2			2
	宇 宙 科 学 II		2			2
	地 球 環 境 セミナー I	2				2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	地 球 環 境 セミナー II	2				2
	環 境 生 物 科 学 セミナー I	2				2
	環 境 生 物 科 学 セミナー II	2				2
	化 学 セミナー I	2				2
	化 学 セミナー II	2				2
	宇 宙 科 学 セミナー I	2				2
	宇 宙 科 学 セミナー II	2				2
	・普遍性					
	数 学 概 論 I	2				2
	数 学 概 論 II	2				2
	物 理 学 概 論 I	2				2
	物 理 学 概 論 II	2				2
	数 学 セミナー I	2				2
	数 学 セミナー II	2				2
	自 然 科 学 特 別 講 義	2				2
	(北海道学)					
	北 海 道 史	2				2
	北 方 圏 文 化 論	2				2
	北 海 道 文 学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大 学 史	2				2
	北 海 道 学 特 別 講 義	2				2
	(教養科目)					
	教 養 科 目 特 別 講 義	2				2
	計	136	8			144

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	キャリア形成科目					
	キャリア・アントレプレナーシップ	2				2
	計	2				2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海 外 文 化 I	1				1
	海 外 文 化 II	1				1
	海 外 文 化 III	1				1
	海 外 文 化 IV	1				1
	計	4				4

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	留学生科目 (外国人留学生・海外 帰国生徒科目)					
	〈代替科目〉					
	日 本 語 演 習 I	2				2
	日 本 語 読 解 ・ 構 文 I	2				2
	日 本 語 文 章 表 現 I	2				2
	日 本 語 演 習 II	2				2
	日 本 語 読 解 ・ 構 文 II	2				2
	日 本 語 文 章 表 現 II	2				2
	日 本 語 演 習 III		2			2
	日 本 事 情 I		2			2
	日 本 語 演 習 IV		2			2
	日 本 事 情 II		2			2
	計	12	8			20

工学基礎科目【社会環境工学科 社会環境コース・環境情報コース 2017年度以降入学者】

分野	必修○ 選択△		履修 コード	開 講 学 期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開 講 年 次	対 象 ク ラ ス 等	備 考
	社会	環境								
1 群	△	△	21001	1	線 形 代 数 学 I	2	相原 祐太	1		
			21200					2	有馬研一郎	
	△	△	21003	2	線 形 代 数 学 II	2	相原 祐太	1		
			21201					2	陶山 大輔	
2 群	△	△	21005	2	微 分 積 分 学 I	2	武田 裕康	1		
			21202					2	陶山 大輔	
	△	△	21204	1	微 分 積 分 学 II	2	佐野 貴志	2		
3 群	○		21008	1	物 理 学 I	2	堀田 健司	1		
			21110					2	羽部 千景	
			21010	2	物 理 学 II	2	堀田 健司	1		
			21111					2	羽部 千景	
			21112	1	物 理 学 III	2	羽部 千景	2		
			21113	2	振 動 ・ 波 動 工 学	2	小幡 卓司	2		
4 群			21012	2	代 数 学 序 論	2	陶山 大輔	1		
			21206	1	代 数 学 I	2	陶山 大輔	2		
			21207	2	代 数 学 II	2	陶山 大輔	2		
			21013	2	幾 何 学 序 論	2	佐野 貴志	1		
			21115	1	幾 何 学 I	2	佐野 貴志	2		
			21116	2	幾 何 学 II	2	佐野 貴志	2		

専門教育科目【社会環境工学科 社会環境コース 2017年度以降入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 学年	対 象 クラス等	備 考	
専門教育科目	基盤数理系	△	21007	1	確 率 統 計	2	船川 大樹	1		
		△	21051	1	確 率 統 計	2	青木 雅允	2		2年生再履修
		△	21105	1	環 境 統 計 学 ・ 演 習	1.5	小幡 卓司	2		
		△	21106	2	品 質 管 理 ・ 演 習	1.5	山田 俊郎	2		
			21108	1	応 用 数 学 I	2	嘉陽 海渡	2		
			21109	2	応 用 数 学 II	2	嘉陽 海渡	2		
			21014	2	解 析 学 序 論	2	山本 隆範	1		
			21208	1	解 析 学 I	2	山本 隆範	2		
			21205	2	解 析 学 II	2	山本 隆範	2		
	環境工学系		21068	1	環 境 工 学 序 論	2	山田 俊郎	1		
			21154	1	環 境 地 質 学	2	伊東 佳彦	2		
			21153	2	保 全 生 態 学	2	櫻井 善文	2		
			21344	1	上 下 水 道 工 学 I	2	山田 俊郎	3		
			21345	2	上 下 水 道 工 学 II	2	山田 俊郎	3		
			21158	1	都 市 環 境 工 学	2	安藤 直哉	3		
			21129	2	環 境 計 測 学	2	安藤 直哉	3		
			21346	2	環 境 計 測 実 習	1	安藤 直哉 山田 俊郎	3		
			21259	1	景 観 工 学	2	安達 重好 松田 泰明 笠間 聡	4		
	水工系		21352	1	環 境 ア セ ス メ ン ト	2	矢内 賢治 櫻井 善文	3		
		○	21140	1	水 理 学 I ・ 演 習	3	鈴木 洋之	2		
		○	21142	2	水 理 学 II ・ 演 習	3	鈴木 洋之	2		
			21161	1	河 川 工 学	2	鈴木 洋之	3		
			21199	2	防 災 工 学	2	清水 康行	2		
			21162	2	港 湾 工 学	2	平野 誠治	3		
	計画・設計・維持管理系	○	21144	2	計 画 数 理 I ・ 演 習	3	日野 智	2		
		○	21145	1	計 画 数 理 II ・ 演 習	1.5	日野 智	3		
			21340	1	都 市 ・ 交 通 計 画	2	日野 智	4		
		21164	1	道 路 工 学	2	平澤 匡介	3			
		21218	1	都 市 経 営 論	2	高松 康廣 伴野 純一	3			
		21165	2	建 設 マ ネ ジ メ ン ト	2	小田嶋 正之	3			
		21335	2	社 会 基 盤 施 設 維 持 管 理 工 学	2	小幡 卓司 高橋 良輔	3			
		21168	2	寒 冷 地 舗 装 工 学	2	上野 千草	3			
		21334	1	コ ン ク リ ー ト 構 造 設 計 演 習	2	高橋 良輔	4			
構造・材料系	○	21134	1	構 造 力 学 I ・ 演 習	3	金澤 健	2			
	○	21136	2	構 造 力 学 II ・ 演 習	3	金澤 健	2			
		21169	1	構 造 解 析 学	2	金澤 健	3			
	○	21146	2	コ ン ク リ ー ト 工 学	2	高橋 良輔	2			
		21170	1	コ ン ク リ ー ト 構 造 工 学	2	高橋 良輔	3			
		21173	2	地 震 工 学	2	金澤 健	3			
	○	21347	1	地 盤 ・ 構 造 材 料 実 験	1	高橋 良輔 所 哲也	3			

専門教育科目【社会環境工学科 社会環境コース 2017年度以降入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 学年	対 象 クラス等	備 考
土質・施工系	○	21138	1	土質工学Ⅰ・演習	3	佐藤 直人	2		
	○	21139	2	土質工学Ⅱ・演習	3	所 哲也	2		
		21174	2	地盤工学	2	所 哲也	3		
	○	21171	1	鋼構造工学	2	小幡 卓司	3		
		21172	2	橋梁工学	2	小幡 卓司	3		
		21190	1	火薬学	2	杉下 隆彦	4		
	○	21056	1	シビルエンジニアリング基礎セミナー	2	各担当教員	1		
		21057	2	シビルエンジニアリング総論	2	各担当教員	1		
	○	21130 21131	1	情報処理Ⅰ・演習	1.5	鈴木亜也子	2	2年生 3・4年生	
	○	21132 21133	2	情報処理Ⅱ・演習	1.5	鈴木亜也子	2	2年生 3・4年生	
	○	21147	2	測量学Ⅰ	2	佐藤 直人	2		
	○	21148	1	測量実習	1	佐藤 直人 鈴木 元	3		
		21176	1	測量学Ⅱ	2	所 哲也	3		
		21177	1	プログラミング	2	本田 明成	3		
		21336	2	CAD演習	1	佐々木智彦	3		
		21178	1	技術英語	2	高橋 良輔 所 哲也 安藤 直哉 金澤 健 日野 智	3		
		21348	1	インターンシップA	1	各担当教員	3	実施期間1週間	2026年度開講せず
		21349	1	インターンシップB	2	各担当教員	3	実施期間2週間	2026年度開講せず
	○	21151	1	技術者倫理・演習	1.5	佐々木裕之	3		
	専門総合系	○	21331	2	プレゼンテーション	2	安藤 直哉 佐藤 直人 日野 智 高橋 良輔 鈴木 洋之 所 哲也 山田 俊郎 金澤 健	3	
○		21701 21702 21703 21704 21705 21706 21707 21708 21709	1	シビルエンジニアリングデザインセミナー	2	日野 智 鈴木 洋之 佐藤 直人 小幡 卓司 山田 俊郎 安藤 直哉 所 哲也 金澤 健 高橋 良輔	4		
○		21901 21902 21903 21904 21905 21906 21907 21908 21909	2	卒業研究	6	日野 智 鈴木 洋之 佐藤 直人 小幡 卓司 山田 俊郎 安藤 直哉 所 哲也 金澤 健 高橋 良輔	4		

専門教育科目【社会環境工学科 環境情報コース 2017年度以降入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 学年	対 象 クラス等	備 考	
基盤数理系	△	21007	1	確 率 統 計	2	船川 大樹	1			
	△	21051	1	確 率 統 計	2	青木 雅允	2		2年生再履修	
	△	21105	1	環 境 統 計 学 ・ 演 習	1.5	小幡 卓司	2			
	△	21106	2	品 質 管 理 ・ 演 習	1.5	山田 俊郎	2			
		21108	1	応 用 数 学 I	2	嘉陽 海渡	2			
		21109	2	応 用 数 学 II	2	嘉陽 海渡	2			
		21014	2	解 析 学 序 論	2	山本 隆範	1			
		21208	1	解 析 学 I	2	山本 隆範	2			
		21205	2	解 析 学 II	2	山本 隆範	2			
		21068	1	環 境 工 学 序 論	2	山田 俊郎	1			
		24005	2	微 生 物 学	2	岩崎 晋弥	1			
		21154	1	環 境 地 質 学	2	伊東 佳彦	2			
都市環境系		21153	2	保 全 生 態 学	2	櫻井 善文	2			
	○	21129	2	環 境 計 測 学	2	安藤 直哉	3			
	○	21346	2	環 境 計 測 実 習	1	安藤 直哉	3			
	○	21344	1	上 下 水 道 工 学 I	2	山田 俊郎	3			
		21345	2	上 下 水 道 工 学 II	2	山田 俊郎	3			
		21337	1	環 境 評 価 論	2	安藤 直哉	2			
		21158	1	都 市 環 境 工 学	2	安藤 直哉	3			
		21259	1	景 観 工 学	2	安達 重好 松田 泰明 笠間 聡	4			
		21352	1	環 境 ア セ ス メ ン ト	2	櫻井 善文	3			
		○	21131	1	情 報 処 理 I ・ 演 習	1.5	鈴木亜也子	2		
		○	21133	2	情 報 処 理 II ・ 演 習	1.5	鈴木亜也子	2		
	都市情報系		○	21338	1	デ ー タ 処 理 論 実 習	1	鈴木亜也子	3	
			21177	1	プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	本田 明成	3		
		○	21336	2	C A D 演 習	1	佐々木智彦	3		
			21220	1	防 災 情 報 シ ス テ ム	2	佐藤 隆光	4		
		○	21144	2	計 画 数 理 I ・ 演 習	3	鈴木 雄	2		
		○	21145	1	計 画 数 理 II ・ 演 習	1.5	鈴木 雄	3		
都市経営系			21227	2	住 民 参 加 論	2	田中 寿明	2		
			21343	1	地 域 交 通 論	2	田村 亨	2		
			21218	1	都 市 経 営 論	2	高松 康廣 伴野 純一	3		
			21213	2	寒 地 政 策 論	2	高松 康廣 伴野 純一	3		
			21215	2	社 会 調 査 法	2	日野 智	3		
			21340	1	都 市 ・ 交 通 計 画	2	日野 智	4		
			21164	1	道 路 工 学	2	平澤 匡介	3		
		○	21339	1	リ ス ク マ ネ ジ メ ン ト	2	安藤 直哉 小幡 卓司 高橋 良輔 山田 俊郎 鈴木 洋之	3		
都市防災系			21173	2	地 震 工 学	2	金澤 健	3		
			21222	1	寒 地 ・ 都 市 防 災 論	2	原田 裕介 浅野 基樹	4		
			21161	1	河 川 工 学	2	鈴木 洋之	3		

専門教育科目【社会環境工学科 環境情報コース 2017年度以降入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 学年	対 象 ク ラ ス 等	備 考
都市防災系		21199	2	防 災 工 学	2	清水 康行	2		
		21146	2	コ ン ク リ ー ト 工 学	2	高橋 良輔	2		
		21170	1	コ ン ク リ ー ト 構 造 工 学	2	高橋 良輔	3		
		21171	1	鋼 構 造 工 学	2	小幡 卓司	3		
		21172	2	橋 梁 工 学	2	小幡 卓司	3		
		21174	2	地 盤 工 学	2	所 哲也	3		
		21347	1	地 盤 ・ 構 造 材 料 実 験	1	高橋 良輔 所 哲也	3		
総合系	△	21228	1	構 造 の 力 学 A ・ 演 習	1.5	小幡 卓司	2		
	△	21229	2	構 造 の 力 学 B ・ 演 習	1.5	小幡 卓司	2		
	△	21230	1	流 れ 学 A ・ 演 習	1.5	山田 俊郎	2		
	△	21231	2	流 れ 学 B ・ 演 習	1.5	鈴木 洋之	2		
	△	21232	1	基 礎 土 質 工 学 A ・ 演 習	1.5	佐藤 直人	2		
	△	21233	2	基 礎 土 質 工 学 B ・ 演 習	1.5	所 哲也	2		
	○	21056	1	シビルエンジニアリング基礎セミナー	2	各担当教員	1		
		21057	2	シビルエンジニアリング総論	2	各担当教員	1		
	○	21147	2	測 量 学 I	2	佐藤 直人	2		
	○	21148	1	測 量 実 習	1	佐藤 直人 鈴木 元	3		
		21176	1	測 量 学 II	2	所 哲也	3		
		21178	1	技 術 英 語	2	高橋 良輔 所 哲也 安藤 直哉 金澤 健 日野 智	3		
		21348	1	イ ン タ ー ン シ ッ プ A	1	各担当教員	3	実施期間 1 週間	2026年度開講せず
		21349	1	イ ン タ ー ン シ ッ プ B	2	各担当教員	3	実施期間 2 週間	2026年度開講せず
	○	21151	1	技 術 者 倫 理 ・ 演 習	1.5	佐々木裕之	3		
	○	21331	2	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	2	安藤 直哉 日野 智 佐藤 直人 高橋 良輔 鈴木 洋之 所 哲也 山田 俊郎 金澤 健	3		
	○	21701	1	シビルエンジニアリングデザインセミナー	2	日野 智	4		
		21702				鈴木 洋之			
	21703	佐藤 直人							
	21704	小幡 卓司							
	21705	山田 俊郎							
	21706	安藤 直哉							
	21707	所 哲也							
	21708	金澤 健							
	21709	高橋 良輔							

専門教育科目【社会環境工学科 環境情報コース 2017年度以降入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 学年	対象 クラス等	備 考
専門教育科目 総合系	○	21901	2	卒 業 研 究	6	日野 智	4		
		21902				鈴木 洋之			
		21903				佐藤 直人			
		21904				小幡 卓司			
		21905				山田 俊郎			
		21906				安藤 直哉			
		21907				所 哲也			
		21908				金澤 健			
		21909				高橋 良輔			

授業科目履修上の注意

1. 授業科目と単位数

各授業科目の単位数に関する詳細は、「授業科目と担当者一覧表」を参照してください。
授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

第20条 各授業科目の単位数の計算は、次の各号に掲げる基準による。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (4) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (5) 体育実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

授業時間は90分（1時限、45分を1時間として2時間）を単位とし、原則として各曜日とも5時限で授業時間割が組まれています。毎週1回（1時限）の授業を受けた場合、一つの学期で原則として15週の授業がありますので、通算の授業時間は2時間×15週=30時間となります。その授業が「講義」の場合には2単位、「外国語、演習、体育実技」の場合には1単位として計算されます。

外国語科目については、さらに以下のことが定められています（工学部規則第4条）。

第4条 外国語科目のうち学則第20条第2号ただし書きの規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは、別に定める。

15時間の授業をもって1単位とする科目は、以下のとおりです。

英語文化演習Ⅰ及びⅡ

世界の言語と文化

- (ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語) 文化Ⅰ、Ⅱ及びⅢ
- (ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語) 文化演習Ⅰ及びⅡ
- (ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語) 言語演習Ⅰ及びⅡ
- (ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語) 言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの授業科目は一つの学期で毎週1回（1時限）の授業が行われるので、通算の授業時間は30時間となり、2単位として計算されます。上記以外の外国語科目については、通算の授業時間は同様に30時間ですが、すべて1単位として計算されます。

社会環境工学科では、2年次に「講義」と「演習」を組み合わせた2時限続きの授業が行われます。この場合の通算の授業時間及び単位数は、一つの学期で講義が1時限×2時間×15週=30時間なので2単位、演習が1時限×2時間×15週=30時間なので1単位、合計3単位となります。また、3・4年次に2時限連続して行われる「実験」及び「実習」の場合は、一つの学期で通算の授業時間が2時限×2時間×15週=60時間となります。「実験及び実習」については45時間で1単位なので、小数点以下は切り捨てられて1単位と計算されます。

卒業研究については、15時間の授業をもって1単位となります（工学部規則第4条）。

2. 授業科目の区分とその概要

各年次に開講されている授業科目は、原則としてその年次において履修してください。上級年次の者が、下級年次に開講されている授業科目を履修することは許されていますが、下級年次の者は、上級年次に開講されている授業科目を履修することはできません。

「必修科目」は、必ず履修して単位を修得しなければ卒業できません。必修科目が不合格になった場合は、翌年度に再び履修しなければなりません。「選択必修科目」は、きめられた群の中から必要な単位数を修得しなければなりません。「選択科目」については、自由に選択して履修することができますが、卒業要件として授業科目の区分ごとに必要な単位数が定められていますので留意してください。「自由科目」については、自由に選択して履修することができますが、卒業要件等には加算されません。

授業科目は次の4つの区分に分類されますので、各区分科目の概略と履修上の注意点を以下に示します。

一般教育科目(言語以外)	すべて選択科目(101科目, 189単位)
--------------	-----------------------

- 1年次にすべて豊平校舎で開講されます。
- これらの授業科目の中には、1学期と2学期にそれぞれ同じ科目が開講され、どちらを履修しても良い場合があります。ただし、両方を履修することはできません。
- 2年次に進級した後、一般教育科目を履修することは、キャンパスが離れていること及び時間割の制約上から、原則としてできません(体育実技を除く)。ただし、主に再履修者(新規履修者も含む)を対象として、山鼻校舎においても限られた一部の授業科目を開講しています。

一般教育科目(言語)	すべて選択科目(英語14科目, 16単位, 英語以外の外国語科目78科目, 124単位)
------------	--

- 英語科目については、1・2年次に開講されます。また3年次開講の専門教育科目の技術英語は必要修得単位数としては言語に含まれます。
- 社会環境工学科では、1年次から2年次への進級に際して英語科目2科目2単位以上を修得することが望ましいです。
- 英語以外の外国語科目として、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語が開講されています。
- 1年次に開講されている一部の外国語科目については、主に再履修者(新規履修者も含む)を対象として、山鼻校舎でも開講しています。
- 英語以外の外国語科目については、1～4年次の各年次にわたって開講されています。ただし、3・4年次に開講されている外国語科目は、豊平校舎での受講となりますので注意してください。

工学基礎科目	社会環境コース：必修科目(1科目, 2単位), 選択必修科目(4科目, 8単位), 選択科目(9科目, 18単位) 環境情報コース：選択必修科目(4科目, 8単位), 選択科目(10科目, 20単位)
--------	---

- 1・2年次に開講されており、1群～4群の授業科目に分かれています。
- 卒業要件として社会環境コースでは、必修科目及び選択必修科目より6単位以上を修得する必要があります。また、環境情報コースでは選択必修科目より4単位以上修得する必要があります。
- 1年次に開講されている授業科目については、主に再履修者(新規履修者も含む)を対象として、山鼻校舎においても開講しています。

専門教育科目	社会環境コース：必修科目(20科目, 47単位), 選択必修科目(3科目, 5単位), 選択科目(38科目, 73単位) 環境情報コース：必修科目(17科目, 33単位), 選択必修科目(9科目, 14単位), 選択科目(38科目, 74単位)
--------	---

- 1～4年次の各年次にわたって開講されます。
- 1年次に配当されている専門教育科目は、豊平校舎のみで開講されます。2年次に進級した後、これらの授業科目を履修することは、キャンパスが離れていること及び時間割の制約上から、原則としてできないので注意してください。
- 卒業研究は、4年次の2学期に6単位として実施されます。

※社会環境コースの専門教育科目は、専門分野ごとに基盤数理系、環境工学系、水工系、計画・設計・維持管理系、構造・材料系、土質・施工系、総合系という7系列に分類されています。そして環境情報コースの専門教育科目は専門分野ごとに基盤数理系、都市環境系、都市情報系、都市経営系、都市防災系、総合系という6系列に分類されています。(各授業科目の講義概要は、この系列ごとに1年次～4年次開講科目の順に掲載されています。)

3. 「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」の着手および卒業見込証明書

社会環境工学科では、3年次終了時に合計90単位以上修得しかつ各分野の単位修得条件を全て満たしている場合に「シビルエンジニアリングデザインセミナー」および「卒業研究」に着手することができます。この単位数は、過去の履修事例により「卒業の可能性が何とか残されている」との判断から設定されたものです。しかし、90単位程度で卒業研究に着手した場合、卒業研究の指導を受けながら下級年次の授業科目を多数履修しなければならず、卒業要件を満足するのは容易なことではありません。

3年次終了時に合計100単位以上修得し、かつ各分野の単位修得条件を全て満たしている場合に、卒業見込証明書の発行を受けることができます。この単位数は、やはり過去の履修事例により「卒業の見込みがかなりある」との判断から設定されています。当然のことながら、卒業を保証するものではありません。例えば、見込証明書が発行されても、最終的に卒業要件を満足しないために卒業ができない場合や、逆に3年次終了時で見込証明書が発行できない場合でも、4年次1学期終了時に発行条件を満たすことで見込証明書が発行される場合もあります。

卒業見込証明書が発行されない場合には、就職活動に大きな支障をきたしますので十分注意してください。

4. 学修ガイドの各授業科目とシラバスにおける記載事項

シラバスには授業科目名、開講年次、開講学期、単位数、担当者名に続いて、「授業のねらい」、「授業計画」、「準備学習の内容」、「評価方法・基準」、「履修上の留意点」、「教科書」、「参考書」が記載されています。履修する授業科目を決める際には、これらの内容を良く読んで参考にしてください。特に「授業計画」は毎週の予習・復習のためにも参照してください。ただし、実際の授業の進行状況によっては、授業計画に変更もあり得ます。

授業科目における一部の選択科目では、授業を行う教室等の施設・設備の制約から履修者を一定人数に制限している場合や、ある特定の関連する授業科目を前もって履修あるいは単位を修得しておかなければ、その授業科目を履修できない場合があります。シラバスには、このような授業科目の履修に関する制約事項等が記載されている場合がありますので注意してください。

外国語科目や専門教育科目においては、分野ごとに上級年次に開講される授業科目との関連に注意しなくてはならない授業科目が含まれています。従って、履修する当該年度のシラバスだけでなく、次年度に履修することになる上級年次の授業科目のシラバスについても、良く読んでおくことを薦めます。

授業開始から履修願の提出期限までは一定の期間が設けられています。履修登録については、20ページ～23ページを参照して下さい。授業科目によっては、最初の授業時間に担当者による履修のためのガイダンスが行われる場合があります。従って、履修しようとする授業科目については、最初の授業に必ず出席して下さい。

一般教育科目のセミナーについては、セミナーを受講する場合の申込み方法や注意点が、この冊子の最後に記載されています。

外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており、これらの授業科目に関するシラバスは一般教育科目のシラバスに掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒は、これらの授業科目を履修し修得した単位を一般教育科目に算入することができます。

5. 測量に関する証明書について

北海学園大学工学部社会環境工学科 社会環境コース・環境情報コースは、測量法施行令第14条に規定する「相当する学科」に認定されています。

以下の条件を卒業までに修得することで卒業後に測量に関する証明書を発行できます。

〈測量に関する証明書発行条件〉

- ・必修科目「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」
- ・測量法第50条及び第51条に規定する「測量に関する科目」の学科認定科目30単位以上（上記必修科目を含む）

〈各コース証明書発行条件〉

社会環境コース：

「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」の単位を修得し、かつ社会環境コースの卒業要件を満たすことで、測量に関する証明書が発行できます。

環境情報コース：

「測量学Ⅰ」「測量学Ⅱ」「測量実習」の単位を修得し、かつ下表の選択科目一覧から15単位以上修得することで測量に関する証明書を発行できます。

表 測量法第50条及び第51条に規定する「測量に関する科目」認定選択科目一覧（環境情報コース）

科 目	単 位	摘 要
環境地質学	2	
景観工学	2	
プログラミング	2	
防災情報システム	2	
地震工学	2	
河川工学	2	
防災工学	2	
確率統計	2	選択必修
環境統計学・演習	1.5	選択必修
品質管理・演習	1.5	選択必修
解析学Ⅱ	2	
応用数学Ⅰ	2	
応用数学Ⅱ	2	
解析学序論	2	
解析学Ⅰ	2	
都市・交通計画	2	
道路工学	2	
橋梁工学	2	
地盤工学	2	
構造の力学A・演習	1.5	選択必修
構造の力学B・演習	1.5	選択必修
流れ学A・演習	1.5	選択必修
流れ学B・演習	1.5	選択必修
基礎土質工学A・演習	1.5	選択必修
基礎土質工学B・演習	1.5	選択必修
合 計	46	
2017年度以降入学者は、 上記認定科目一覧から15単位以上の修得が必要		

6. 免許・資格取得・その他

本学には、通常の課程において取得できる免許・資格のほかに、通常の課程とは別に設けられた課程において取得できる免許・資格があります。これらについては、それぞれのガイダンスへ出席して、説明を受けること。

- 1) 教職課程
- 2) 図書館学課程
- 3) 社会教育主事課程
- 4) 学芸員課程
- 5) その他

工学部の学生に関する免許・資格

卒業と同時に取得できるもの、卒業後に受験資格が得られるものなどがあります。詳細については、各自確認すること（参考までにウェブサイトのURLを記載しています）。

社会環境工学科

- 技術士・技術士補 (www.engineer.or.jp)
- 測量士・測量士補 (www.jsurvey.jp)
- 土木学会認定土木技術者 (<https://committees.jsce.or.jp/opcet/shikaku>)
- 1級・2級土木施工管理技術士 (www.jctc.jp)
- 1級・2級管工事施工管理技術士 (www.jctc.jp)
- 1級・2級造園施工管理技士 (www.jctc.jp)
- 1級・2級舗装施工管理技術者 (<https://www.dohkenkyo.or.jp/>)
- 火薬類製造保安責任者 (www.zenkakyo-ex.or.jp)
- 火薬類取扱保安責任者 (www.zenkakyo-ex.or.jp)
- コンクリート技士・主任技士 (www.jci-net.or.jp)
- コンクリート診断士 (www.jci-net.or.jp)
- プレストレストコンクリート技士 (www.jpcci.or.jp)
- コンクリート構造診断士 (www.jpcci.or.jp)
- RCCM (Registered Civil-engineering Consulting Manager) (www.jcca.or.jp)
- 土木鋼構造診断士・診断士補 (<http://www.jssc.or.jp/index.html>)
- 土地家屋調査士 (www.chosashi.or.jp)
- 地質調査技士 (www.zenchiren.or.jp)
- ダム水路主任技術者 (www.meti.go.jp)
- 廃棄物処理施設技術管理者 (www.jesc.or.jp)

I 教育課程

【建築学科】

- カリキュラム・マップ
- カリキュラム・ツリー
- 初年次教育プログラム

建築学科カリキュラム・マップ

■建築学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める所定の修業年限及び修得単位を満たし、次の能力・資質を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。

- (1) 学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけている。
- (2) 建築技術者としての高い倫理観を身につけている。
- (3) 地域社会と連携していける能力を身につけている。
- (4) 空間デザイン，環境デザイン，システムデザインの各系において高度な専門知識を身につけている。
- (5) 空間デザイン，環境デザイン，システムデザインの全ての系を対象として総合的な視野をもって融合し、活用できる高度な専門知識を身につけている。

■建築学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

1年次には大学生にふさわしい見識と豊かな人間性を養うための学習を主体としながら専門分野の入門的な科目も配置し、2年次以降には高度な専門的知識と新しい技術を習得するための科目を配置しています。

多くの選択科目を用意し、各自の興味や目標に応じて、特定の系を集中して学ぶことができます。これらは空間デザイン系，環境デザイン系，システムデザイン系の3つの系から構成されており、アドミッション・ポリシーに掲げた3者と対応しています。もちろん、幅広い分野を総合的に学ぶこともできるようになっています。

専門科目のなかには微積や力学の基礎知識が必要な部分もありますが、入学前にそれらの科目を履修していなくても、入学後に基礎から学ぶことができるようになっています。専門科目も入門的な内容から基礎、応用、発展と段階的に進むカリキュラムになっていますので無理なく理解できます。

また、種々の演習や実験を中心にコミュニケーション能力やプレゼンテーション能力、自主性や協調性を養うための工夫を施しています。

【教育理念】

建築学が対象とする学問領域は、工学のみならず社会科学まで多岐にわたるうえ、個々の人間の感性と倫理観も重要視され、専門性と総合性の両者がともに求められます。

循環型社会への移行に伴い、人間の暮らしが息づく生活空間（環境を含む）のあり方が問い直されており、建築設計に留まらず街並みの形成（都市計画）に関する幅広い建築技術の応用に関する知識・能力を身につけることが必要となっています。また、防災・減災や環境負荷低減あるいはユニバーサルデザインなど多様な観点を踏まえた建築物の安全性・快適性はもとより、古い建築物の再生・活用を図る柔軟な発想力も求められています。

これらの背景から、建築学科では以下のような教育・学習目標のもと、多様な知識・能力を持ち様々な分野で活躍できる人材の育成を目指しています。

I. 教育目標

建築学の広い学問領域を背景として、文系・理系を問わず門戸を開いています。そのため、工学系の知識を基礎から学ぶ科目を配し、専門科目は工学系の知識に創造性も踏まえ、入門的な内容から基礎、応用、発展へと段階的に進む構成を通じて、多様な知識・能力を身につけた人材を育成します。また、多岐にわたる専門科目をバランスよく用意し、特定の系に重点を置いて学ぶことも、幅広い分野を総合的に学ぶこともできる教育体系を通じて、各自の興味や目標に応じながら様々な分野で高い倫理観も携えて活躍できる人材を育成します。

II. 学習目標

1. 空間デザイン能力の習得

機能的で美しい建築や住みよい都市を構想・計画しデザインすることが出来る。

2. 環境デザイン能力の習得

環境・設備面から建築や都市の快適性・利便性・安全性と環境負荷削減を追求することが出来る。

3. システムデザイン能力の習得

構造・材料・生産面で安全かつ要求される使用性・耐久性のある建築を考え造ることが出来る。

4. 上記能力を活かし想像を実現する優れた人間性の醸成

適切かつ正確なコミュニケーション・質の高いプレゼンテーションを実践することが出来る。

豊かな協調性・魅力的なリーダーシップを発揮することが出来る。

〈到達目標〉		対応する学位授与方針 (左から主な順)
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。	(1)
B	一般的・普遍的な教養を身につける。	(1)
C	建築に携わる人間としての高い社会性を習得し、直面する倫理的問題に対応できる。	(2)
D	異なる価値観や文化を理解・尊重し、自らを取り巻く地域社会あるいはグローバル社会と主体的に連携・協働を図り、社会の発展に貢献できる。	(3)
E	建築・都市を形成・維持するための基礎的な論理的思考・技術を理解し、習得する。	(4) - (5)
F	自己の考え・提案をわかりやすく主体的に説明・表現し、議論を通してそれらを向上させる方法を習得する。	(4) - (5)
G	身につけた基礎知識・技術を応用しながら、常に多角的な視点・分析に基づいて新たな課題を発見し、課題解決のための情報を論理的に分析し、課題解決の提案を試みることができる。	(4) - (5)
H	多様化・複合化する建築・都市への要求性能に対応できるよう、新たな視点から既存の技術を発展させる能力を習得する。	(4) - (5)
I	空間デザイン、環境デザイン、システムデザイン各系の視点を総合し、社会ニーズに対応した建築・都市を創造することができる。	(5)

■工学部ナンバリング



一般教育科目	基盤科目	言語	英語	授業科目名	単位	開講年次	学科科目 No.	到達目標												
								A	B	C	D	E	F	G	H	I				
				英語リーディングⅠ	1	1	AAen101	○				○								
				英語リーディングⅡ	1	1	AAen102	○				○								
				英語リーディングⅢ	1	2	AAen203	○				○								
				英語リーディングⅣ	1	2	AAen204	○				○								
				英語コミュニケーションⅠ	1	1	AAen105	○				○								
				英語コミュニケーションⅡ	1	1	AAen106	○				○								
				英語コミュニケーションⅢ	1	2	AAen207	○				○								
				英語コミュニケーションⅣ	1	2	AAen208	○				○								
				英語特講Ⅰ	1	1	AAen109	○				○								
				英語特講Ⅱ	1	1	AAen110	○				○								
				英語ライティングⅠ	1	1	AAen111	○				○								
				英語ライティングⅡ	1	1	AAen112	○				○								
				英語文化演習ⅠA	2	2	AAen213	○				○								
				英語文化演習ⅡA	2	2	AAen214	○				○								
			共通	世界の言語と文化	2	1	AAco101	○				○								

授業科目名	単位	開講年次	学科科目No.	到達目標													
				A	B	C	D	E	F	G	H	I					
ドイツ語	ドイツ語基礎Ⅰ	1	1	AAge101	○			○		○							
	ドイツ語基礎Ⅱ	1	1	AAge102	○			○		○							
	ドイツ語基礎Ⅲ	1	2	AAge203	○			○		○							
	ドイツ語基礎Ⅳ	1	2	AAge204	○			○		○							
	ドイツ語会話Ⅰ	1	1	AAge105	○			○		○							
	ドイツ語会話Ⅱ	1	1	AAge106	○			○		○							
	ドイツ語文化Ⅰ	2	1	AAge107	○			○		○							
	ドイツ語文化Ⅱ	2	2	AAge208	○			○		○							
	ドイツ語文化Ⅲ	2	2	AAge209	○			○		○							
	ドイツ語文化演習Ⅰ	2	3	AAge310	○			○		○							
	ドイツ語文化演習Ⅱ	2	3	AAge311	○			○		○							
	ドイツ語言語演習Ⅰ	2	3	AAge312	○			○		○							
	ドイツ語言語演習Ⅱ	2	3	AAge313	○			○		○							
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAge414	○			○		○							
ドイツ語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAge415	○			○		○								
フランス語	フランス語基礎Ⅰ	1	1	AAfr101	○			○		○							
	フランス語基礎Ⅱ	1	1	AAfr102	○			○		○							
	フランス語基礎Ⅲ	1	2	AAfr203	○			○		○							
	フランス語基礎Ⅳ	1	2	AAfr204	○			○		○							
	フランス語会話Ⅰ	1	1	AAfr105	○			○		○							
	フランス語会話Ⅱ	1	1	AAfr106	○			○		○							
	フランス語文化Ⅰ	2	1	AAfr107	○			○		○							
	フランス語文化Ⅱ	2	2	AAfr208	○			○		○							
	フランス語文化Ⅲ	2	2	AAfr209	○			○		○							
	フランス語文化演習Ⅰ	2	3	AAfr310	○			○		○							
	フランス語文化演習Ⅱ	2	3	AAfr311	○			○		○							
	フランス語言語演習Ⅰ	2	3	AAfr312	○			○		○							
	フランス語言語演習Ⅱ	2	3	AAfr313	○			○		○							
	フランス語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAfr414	○			○		○							
フランス語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAfr415	○			○		○								
中国語	中国語基礎Ⅰ	1	1	AAch101	○			○		○							
	中国語基礎Ⅱ	1	1	AAch102	○			○		○							
	中国語基礎Ⅲ	1	2	AAch203	○			○		○							
	中国語基礎Ⅳ	1	2	AAch204	○			○		○							
	中国語会話Ⅰ	1	1	AAch105	○			○		○							
	中国語会話Ⅱ	1	1	AAch106	○			○		○							
	中国語文化Ⅰ	2	1	AAch107	○			○		○							
	中国語文化Ⅱ	2	2	AAch208	○			○		○							
	中国語文化Ⅲ	2	2	AAch209	○			○		○							
	中国語文化演習Ⅰ	2	3	AAch310	○			○		○							
	中国語文化演習Ⅱ	2	3	AAch311	○			○		○							
	中国語言語演習Ⅰ	2	3	AAch312	○			○		○							
	中国語言語演習Ⅱ	2	3	AAch313	○			○		○							
	中国語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAch414	○			○		○							
中国語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAch415	○			○		○								
ロシア語	ロシア語基礎Ⅰ	1	1	AAru101	○			○		○							
	ロシア語基礎Ⅱ	1	1	AAru102	○			○		○							
	ロシア語基礎Ⅲ	1	2	AAru203	○			○		○							
	ロシア語基礎Ⅳ	1	2	AAru204	○			○		○							
	ロシア語会話Ⅰ	1	1	AAru105	○			○		○							
	ロシア語会話Ⅱ	1	1	AAru106	○			○		○							
	ロシア語文化Ⅰ	2	1	AAru107	○			○		○							
	ロシア語文化Ⅱ	2	2	AAru208	○			○		○							
	ロシア語文化Ⅲ	2	2	AAru209	○			○		○							
	ロシア語文化演習Ⅰ	2	3	AAru310	○			○		○							
	ロシア語文化演習Ⅱ	2	3	AAru311	○			○		○							
	ロシア語言語演習Ⅰ	2	3	AAru312	○			○		○							
	ロシア語言語演習Ⅱ	2	3	AAru313	○			○		○							
	ロシア語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAru414	○			○		○							
ロシア語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAru415	○			○		○								

一般教育科目

基盤科目

言語

授業科目名		単位	開講年次	学科科目No.	到達目標																				
					A	B	C	D	E	F	G	H	I												
一般教育科目	基盤科目	言語	韓国・朝鮮語	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1	1	AAko101	○			○		○												
				韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1	1	AAko102	○			○		○												
				韓国・朝鮮語基礎Ⅲ	1	2	AAko203	○			○		○												
				韓国・朝鮮語基礎Ⅳ	1	2	AAko204	○			○		○												
				韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1	1	AAko105	○			○		○												
				韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1	1	AAko106	○			○		○												
				韓国・朝鮮語会話Ⅲ	1	2	AAko207	○			○		○												
				韓国・朝鮮語会話Ⅳ	1	2	AAko208	○			○		○												
				韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2	1	AAko109	○			○		○												
				韓国・朝鮮語文化Ⅱ	2	2	AAko210	○			○		○												
				韓国・朝鮮語文化Ⅲ	2	2	AAko211	○			○		○												
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ	2	3	AAko312	○			○		○												
				韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ	2	3	AAko313	○			○		○												
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ	2	3	AAko314	○			○		○												
				韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ	2	3	AAko315	○			○		○												
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ	2	4	AAko416	○			○		○															
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ	2	4	AAko417	○			○		○															
	身体	-	-	健康とスポーツの科学Ⅰ	2	1	AApe101	○																	
				健康とスポーツの科学Ⅱ	2	1	AApe102	○																	
				体育実技ⅠA	1	1	AApe103	○																	
				体育実技ⅠB	1	1	AApe104	○																	
				体育実技ⅡA	1	1	AApe105	○																	
				体育実技ⅡB	1	1	AApe106	○																	
				体育実技ⅢA	1	1	AApe107	○																	
				体育実技ⅢB	1	1	AApe108	○																	
				体育実技ⅣA	1	1	AApe109	○																	
				体育実技ⅣB	1	1	AApe110	○																	
				情報	-	-	コンピュータ科学	2	1	AAin101	○														
							情報技術論	2	1	AAin102	○														
							情報と社会	2	1	AAin103	○			○		○									
				教養科目	人文科学	自己	哲学	2	1	AAse101		○		○											
							倫理学Ⅰ	2	1	AAse102		○	○	○											
	倫理学Ⅱ	2	1				AAse103		○	○	○														
	論理学Ⅰ	2	1				AAse104		○		○		○												
	論理学Ⅱ	2	1				AAse105		○		○		○												
	社会思想史	2	1				AAse106		○		○														
	行動科学	2	1				AAse107		○		○														
	基礎心理学	2	1				AAse108		○		○														
	人間関係論	2	1				AAse109		○		○														
	文化	日本文学	2			1	AAcu101		○		○														
		外国文学Ⅰ	2			1	AAcu102		○		○														
		外国文学Ⅱ	2			1	AAcu103		○		○														
言語学Ⅰ		2	1			AAcu104		○		○															
言語学Ⅱ		2	1			AAcu105		○		○															
芸術論Ⅰ		2	1			AAcu106		○		○															
芸術論Ⅱ		2	1		AAcu107		○		○																
異文化コミュニケーション		2	1		AAcu108		○		○																
現代文化論		2	1		AAcu109		○		○																
音声学セミナー		2	1		AAcu110		○		○																
一般言語学セミナー		2	1		AAcu111		○		○																
歴史	デザインセミナーⅠ	2	1		AAcu112		○				○														
	デザインセミナーⅡ	2	1		AAcu113		○				○														
社会科学	社会構造	歴史学Ⅰ	2		1	AAhi101		○		○															
		歴史学Ⅱ	2		1	AAhi102		○		○															
		歴史学Ⅲ	2		1	AAhi103		○		○															
		歴史学Ⅳ	2		1	AAhi104		○		○															
		考古学	2		1	AAhi104		○																	
		法学	2		1	AAso101		○																	
		日本国憲法	2		1	AAso102		○																	
		経済学	2		1	AAso103		○																	
		政治学	2	1	AAso104		○																		
		社会学	2	1	AAso105		○																		
		マスコミ論	2	1	AAso106		○																		
		生涯学習論	2	1	AAso107		○																		

授業科目名		単位	開講年次	学科科目No.	到達目標																		
					A	B	C	D	E	F	G	H	I										
一般教育科目	教養科目	社会科学	地域	地理学	2	1	AAlo101		○		○												
				人類学	2	1	AAlo102		○		○												
				地誌学	2	1	AAlo103		○		○												
				国際事情	2	1	AAlo104		○		○												
				カナダの自然と社会Ⅰ	2	1	AAlo105		○		○												
				カナダの自然と社会Ⅱ	2	1	AAlo106		○		○												
		自然科学	環境	地球科学Ⅰ	2	2	AAsu101		○			○											
				地球科学Ⅱ	2	2	AAsu102		○			○											
				環境生物科学Ⅰ	2	1	AAsu103		○			○											
				環境生物科学Ⅱ	2	1	AAsu104		○			○											
				物質科学	2	1	AAsu105		○			○											
				物質環境科学	2	1	AAsu106		○			○											
				宇宙科学Ⅰ	2	2	AAsu107		○			○											
				宇宙科学Ⅱ	2	2	AAsu108		○			○											
				地球環境セミナーⅠ	2	1	AAsu109		○			○											
	地球環境セミナーⅡ			2	1	AAsu110		○			○												
	環境生物科学セミナーⅠ			2	1	AAsu111		○			○												
	環境生物科学セミナーⅡ			2	1	AAsu112		○			○												
	化学セミナーⅠ			2	1	AAsu113		○			○												
	化学セミナーⅡ			2	1	AAsu114		○			○												
	宇宙科学セミナーⅠ			2	1	AAsu115		○			○												
	宇宙科学セミナーⅡ	2	1	AAsu116		○			○														
	普遍性	数学概論Ⅰ	2	1	AAun101		○			○													
		数学概論Ⅱ	2	1	AAun102		○			○													
		物理学概論Ⅰ	2	1	AAun103		○			○													
		物理学概論Ⅱ	2	1	AAun104		○			○													
		数学セミナーⅠ	2	1	AAun105		○			○													
		数学セミナーⅡ	2	1	AAun106		○			○													
	北海道学	-	北海道史	2	1	AAho101		○		○													
			北方圏文化論	2	1	AAho102		○		○													
			北海道文学	2	1	AAho103		○		○													
			アイヌの言語と文化	2	1	AAho104		○		○													
			大学史	2	1	AAho105		○															
	キャリア形成科目	キャリア・アントレプレナーシップ	2	1	AAca101		○																
	体験型科目	海外文化Ⅰ	1	1	AAov101		○																
		海外文化Ⅱ	1	1	AAov102		○																
		海外文化Ⅲ	1	1	AAov103		○																
		海外文化Ⅳ	1	1	AAov104		○																
	工学基礎科目	数物系	線形代数学Ⅰ	2	1	ABla101					○												
			線形代数学Ⅱ	2	1	ABla102					○												
			微分積分学Ⅰ	2	1	ABcc101					○												
			微分積分学Ⅱ	2	2	ABcc202					○												
			幾何学序論	2	1	ABgm101					○												
			幾何学Ⅰ	2	2	ABgm202					○												
			幾何学Ⅱ	2	2	ABgm203					○												
物理学Ⅰ			2	1	ABph101					○													
物理学Ⅱ			2	1	ABph102					○													
代数学序論			2	1	ABal101					○													
代数学Ⅰ			2	2	ABal202					○													
代数学Ⅱ			2	2	ABal203					○													
専門教育科目	空間デザイン系	空間・環境デザイン入門	2	1	ACin101					○													
		空間デザイン	2	1	ACsd101					○													
		空間デザイン演習基礎	2	2	ACsd202					○	○												
		空間デザイン演習Ⅰ	4	2	ACsd203					○	○									○			
		空間デザイン演習Ⅱ	4	3	ACsd304						○	○								○			
		空間デザイン演習Ⅲ	4	3	ACsd305						○	○								○			
		空間デザイン演習Ⅳ	4	4	ACsd406						○				○				○				
		建築計画Ⅰ	2	2	ACap201					○													
		建築計画Ⅱ	2	3	ACap302										○								
		建築計画Ⅲ	2	3	ACap303										○								
		工芸デザイン	2	2	ACcd201					○													
		建築デザイン論	2	3	ACad301											○							
		都市計画	2	3	ACcp301												○						
		インテリアデザイン	2	3	ACid301												○						
		空間リノベーション	2	4	ACsr401														○				

専門教育科目	授業科目名	単位	開講年次	学科科目No.	到達目標											
					A	B	C	D	E	F	G	H	I			
環境デザイン系	北方建築	2	1	ADna101					○							
	建築環境基礎	2	2	ADeb201					○							
	建築環境計画Ⅰ	2	2	ADep201					○		○					
	建築環境計画Ⅱ	2	3	ADep302					○		○					
	建築環境計画Ⅲ	2	3	ADep303					○		○					
	建築環境計画演習Ⅰ	1	2	ADep204							○					
	建築環境計画演習Ⅱ	1	3	ADep305							○					
	環境計測演習	2	4	ADem401							○	○				
	設備概論	2	2	ADeo201					○							
	建築設備システム	2	3	ADes301							○					
	庭園文化論	2	3	ADgc301								○				
	都市環境デザイン	2	4	ADue401								○				
	雪氷学	2	4	ADgl401					○							
	システムデザイン系	構造・材料デザイン入門	2	1	AEin101					○						
		構造デザイン	2	1	AEsd101					○						
		構造力学基礎Ⅰ・演習	3	2	AEsm201					○						
		構造力学基礎Ⅱ・演習	3	2	AEsm202					○						
		構造力学応用Ⅰ・演習	3	3	AEsm303							○				
		構造力学応用Ⅱ・演習	3	3	AEsm304							○				
		鉄筋コンクリート構造	2	3	Aerc301							○				
		鉄筋コンクリート構造演習	1	3	Aerc302							○				
		鋼構造	2	3	Aess301							○				
		鋼構造演習	1	3	Aess302							○				
		構造設計法	2	3	Aedm301							○				
		建築振動論	2	4	Aedt401								○			
		構造解析	2	4	Aesa401								○			
		建築材料	2	2	Aebm201					○						
		建築仕上材料	2	2	Aefm201					○						
		建築材料実験	1	3	Aeme301							○				
		建築生産	2	3	Aebp301							○				
		建築施工	2	4	Aebc401								○			
	コンクリート工学	2	4	Aece401								○				
	専門共通	造形演習Ⅰ	2	1	AFme101					○						
		造形演習Ⅱ	2	1	AFme102					○						
		建築図学	2	1	AFdg101					○						
		建築製図演習	2	2	AFde201					○						
		建築プレゼンテーション	2	2	AFap201					○	○					
		建築CAD演習	2	3	AFac301					○						
		建築一般構造	2	2	AFgb201					○						
		西洋建築史	2	2	AFhi201					○						
		日本建築史	2	2	AFhi202					○						
		情報処理	2	2	AFip201					○						
プログラミング		2	2	AFpr201					○							
測量学		3	3	AFsu301					○							
インターンシップ		2	3	AFin301					○							
建築法規		2	3	AFbr301					○							
建築経済		2	3	AFbe301					○							
品質管理		2	3	AFqm301					○							
木造建築		2	1	AFws101					○							
技術者倫理		2	3	AFte301			○		○							
防災計画		2	4	AFdp401					○							
解析学序論		2	1	AFia101					○							
解析学Ⅰ		2	2	AFan201					○							
解析学Ⅱ		2	2	AFan202					○							
確率統計		2	1	AFps101					○							
数理統計学	2	2	AFms201					○								
卒業研究	6	4	AFgr401	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		

建築学科 カリキュラム・ツリー

[DP1]

学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけている。

[DP2]

建築技術者としての高い倫理観を身につけている。

[DP3]

地域社会と連携していける能力を身につけている。

[DP4]

空間デザイン、環境デザイン、システムデザインの各系において高度な専門知識を身につけている。

[DP5]

空間デザイン、環境デザイン、システムデザインの全ての系を対象として総合的な視野をもって融合し、活用できる高度な専門知識を身につけている。

DP1

【到達目標】(A) さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。

DP1

【到達目標】(B) 一般的・普遍的な教養を身につける。

DP2

【到達目標】(C) 建築に携わる人間としての高い社会性を習得し、直面する倫理的問題に対応できる。

DP3

【到達目標】(D) 異なる価値観や文化を理解・尊重し、自らを取り巻く地域社会あるいはグローバル社会と主体的に連携・協働を図り、社会の発展に貢献できる。

DP4

【到達目標】(E) 建築・都市を形成・維持するための基礎的な論理的思考・技術を理解し、習得する。

DP5

DP4

【到達目標】(F) 自己の考え・提案をわかりやすく主体的に説明・表現し、議論を通してそれらを向上させる方法を習得する。

DP5

DP4

【到達目標】(G) 身につけた基礎知識・技術を応用しながら、常に多角的な視点・分析に基づいて新たな課題を発見し、課題解決のための情報を論理的に分析し、課題解決の提案を試みることができる。

DP5

DP4

【到達目標】(H) 多様化・複合化する建築・都市への要求性能に対応できるように、新たな視点から既存の技術を発展させる能力を習得する。

DP5

DP5

【到達目標】(I) 空間デザイン、環境デザイン、システムデザイン各系の視点を総合し、社会ニーズに対応した建築・都市を創造することができる。



建築学科 初年次教育プログラム

建築学科では、以下の要領により初年次教育プログラムを実施する。プログラムの対象者は、工学部建築学科の1年次学生である。

プログラムのねらい

(プログラムの目標)

大学生の「学び」が高校生と大きく異なる点は、「学び」に対する姿勢とそのアウトプットにあると言えよう。高校までの「学び」では、明確な答えが準備された問いを与えられ、その解法を習得することが中心であった。「学び」の到達度の評価方法は、試験の答案用紙への正解の記載が重視された。学習内容は選定された教科書から大きく逸脱することは少なく、学習時間の管理では、主に教員や保護者が設定したスケジュールに従うことが求められていたに違いない。

一方、大学での「学び」には、自ら学ぶ主体性が求められる。習得する科目を、各自の興味や将来ビジョンに基づいて選択・設計する必要がある。進級や卒業要件を含み置く前提で、自らの意思により「学び」の方向性を決定できる環境が、高校までとは明確に異なる点であろう。自らが決めた「学び」に対して、学修スケジュールを設計し、日常を組み立てる能力も求められる。大学での講義の他、自習の時間、各種活動やアルバイトの時間などの適切な管理は必須である。高校よりも多様な活動の選択肢があるなか、大学の講義や自習に十分な時間を確保するには、自らの学ぶ姿勢に正面から向き合う必要がある。

大学での「学び」のアウトプットは、試験の答案用紙への正解の記載はもとより、論文やレポートの作成、ブレインストーミングやワークショップ、プレゼンテーションなど多岐に渡る。その過程では、自分の考えをわかりやすく表明し、他者に誤解なく認識してもらうことが欠かせない。同時に、自らの考えに客観性や独自性を持たせるため、他者の意見を誤解せず認識する能力も必要になる。アウトプットのみならずアウトカムが期待される実社会では、答えのない問いや対立する考え方が多くある。合意形成の難しい問いが存在すると理解し、それらに対する実践的な適応策や合理的な緩和策を模索する重要性を認識することも大切である。

以上のような大学での「学び」の特性を理解し、大学の講義体系に学生の意識をスムーズに接続するために、建築学科では以下の4テーマからなる初年次教育プログラムを実施する。このプログラムの習得により、在学期間中の「学び」を充実した有意義なものなり、卒業後に社会の発展やQOLの向上に貢献する知的基盤としても活用されることを期待している。

(学生の学習目標)

本プログラムを受講する学生には、以下の事項を習得してもらう。

- ・少人数のグループにおいて、多様な意見を引き出せるような場を作る能力
- ・答えのない問いに対して、他者と議論しながら一定の見解を見出す能力
- ・数十人が集まる場において、自らもしくは少人数グループで出た考えを口頭で説明する能力
- ・口頭で自らの考えを述べる際に用いるプレゼンテーション資料を効率的に作成するためのパソコン操作
- ・レポート課題や論文などの科学技術文章を作成する際に必要となる考え方
- ・科学技術文章を効率的に作成するためのパソコン操作
- ・本学科で学びを継続していくための動機
- ・大学での学びと課外活動とを両立させるための時間管理能力

プログラムのテーマ 建築学科の初年次教育は、以下の4テーマから成る。

1. 協働、プレゼンテーション、ディスカッションなどの口頭発表技法についての学び
2. レポートや論文の書き方などの文章作法ならびにワープロ&表計算ソフトによる効率的な科学技術表現についての学び
3. 学科での学びに対する動機付け
4. 学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

プログラムの計画 上記の4テーマの学修を、以下に示す1年次科目・講義回において行う。

1. 協働、プレゼンテーション、ディスカッションなどの口頭発表技法についての学び

【構造・材料デザイン入門】 担当：とりまとめ担当教員

第1回 構造・材料学を学んでいく上での心構え

【空間・環境デザイン入門】 担当：とりまとめ担当教員

第1回 空間・環境デザインを学んでいく上での心構え

2. レポートや論文の書き方などの文章作法ならびにワープロ&表計算ソフトによる効率的な科学技術表現についての学び

【構造・材料デザイン入門】 担当：とりまとめ担当教員

第1回 『建築の「構造」をキーワードとした自由レポート』の書き方

『建築の「材料」をキーワードとした自由レポート』の書き方

【空間・環境デザイン入門】 担当：とりまとめ担当教員

第1回 『建築の「環境工学」をキーワードとした自由レポート』の書き方

『建築の「計画/設計学」をキーワードとした自由レポート』の書き方

3. 学科での学びに対する動機付け

【構造・材料デザイン入門】 担当：関連分野が専門の教員

第1回 建築構造学の位置づけ

第9回 建築材料学の位置づけ

【空間・環境デザイン入門】 担当：関連分野が専門の教員

第2回 建築計画学の位置づけ

第4回 建築/都市の環境学の位置づけ

第6回 都市計画学の位置づけ

第9回 建築/都市の環境学の位置づけ

第11回 建築デザイン学の位置づけ

第14回 建築史学の位置づけ

4. 学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

【構造・材料デザイン入門】 担当：とりまとめ担当教員

第1回 構造・材料学を学んでいく上での心構え

【空間・環境デザイン入門】 担当：とりまとめ担当教員

第1回 空間・環境デザインを学んでいく上での心構え

I 教 育 課 程

【建築学科】

2017年度(平成29年度)以降入学者

建築学科の教育・学習目標

I 教育理念

建築学が対象とする学問領域は、工学のみならず社会科学まで多岐にわたるうえ、個々の人間の感性と倫理観も重要視され、専門性と総合性の両者がともに求められます。

循環型社会への移行に伴い、人間の暮らしが息づく生活空間（環境を含む）のあり方が問い直されており、建築設計に留まらず街並みの形成（都市計画）に関する幅広い建築技術の応用に関する知識・能力を身につけることが必要となっています。また、防災・減災や環境負荷低減あるいはユニバーサルデザインなど多様な観点を踏まえた建築物の安全性・快適性はもとより、古い建築物の再生・活用を図る柔軟な発想力も求められています。

これらの背景から、建築学科では以下のような教育・学習目標のもと、多様な知識・能力を持ち様々な分野で活躍できる人材の育成を目指しています。

II 教育目標

建築学の広い学問領域を背景として、文系・理系を問わず門戸を開いています。そのため、工学系の知識を基礎から学ぶ科目を配し、専門科目は工学系の知識に創造性も踏まえ入門的な内容から基礎、応用、発展と段階的に進む構成を通じて、多様な知識・能力を身につけた人材を育成します。

また、多岐にわたる選択科目をバランスよく用意し、特定の系に重点を置いて学ぶことも幅広い分野を総合的に学ぶこともできる教育体系を通じて、各自の興味や目標に応じながら様々な分野で高い倫理観も携えて活躍できる人材を育成します。

III 学習目標

1. 空間デザイン能力の習得

機能的で美しい建築や住みよい都市を構想・計画しデザインすることができる。

2. 環境デザイン能力の習得

環境・設備面から建築や都市の快適性を追及することができる。

3. システムデザイン能力の習得

構造・材料・生産面で安全かつ耐久性のある建築を考え造ることができる。

4. 上記能力を活かし創造を実現する優れた人間性の醸成

適切かつ正確なコミュニケーション・質の高いプレゼンテーションを実践することができる。

豊かな協調性・魅力的なリーダーシップを発揮することができる。

教育・学習目標		開講学年	科目名等
工学系の知識を基礎から学ぶ		1, 2年	各種工学基礎科目
創造を実現する優れた人間性の醸成	多様な知識・教養	1, 2年	一般教育科目のうち「教養科目」
	コミュニケーション	1, 2年	一般教育科目のうち「基盤科目」
		2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」「空間デザイン演習Ⅰ」
		3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「空間デザイン演習Ⅳ」
	プレゼンテーション	2~4年	一般教育科目のうち「基盤科目」における各種演習科目
		2年	専門教育科目「建築プレゼンテーション」「空間デザイン演習基礎」
		3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「空間デザイン演習Ⅳ」
	協調性	2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」
		3年	専門教育科目「建築材料実験」「測量学」
		4年	専門教育科目「卒業研究」
	リーダーシップ	4年	専門教育科目「卒業研究」
	倫理観	3年	専門教育科目「技術者倫理」
建築専門科目の修得		1年	専門教育科目「造形演習Ⅰ」「造形演習Ⅱ」「建築図学」「木造建築」「確率統計」「解析学序論」
		2年	専門教育科目「建築製図演習」「建築一般構造」「情報処理」「プログラミング」「西洋建築史」「日本建築史」「解析学Ⅰ」「解析学Ⅱ」「数理統計学」「建築プレゼンテーション」
		3年	専門教育科目「建築CAD演習」「測量学」「インターンシップ」「建築法規」「建築経済」「品質管理」「技術者倫理」
		4年	専門教育科目「卒業研究」「防災計画」

教育・学習目標		開講学年	科目名等
空間デザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「空間・環境デザイン入門」「空間デザイン」
	基礎	2年	専門教育科目「空間デザイン演習基礎」「空間デザイン演習Ⅰ」「建築計画Ⅰ」「工芸デザイン」
	応用	3年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅱ」「空間デザイン演習Ⅲ」「建築計画Ⅱ」「建築計画Ⅲ」「建築デザイン論」「都市計画」「インテリアデザイン」
	発展	4年	専門教育科目「空間デザイン演習Ⅳ」「空間リノベーション」「卒業研究」
環境デザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「空間・環境デザイン入門」「北方建築」
	基礎	2年	専門教育科目「建築環境基礎」「建築環境計画Ⅰ」「建築環境計画演習Ⅰ」「設備概論」
	応用	3年	専門教育科目「建築環境計画Ⅱ」「建築環境計画Ⅲ」「建築環境計画演習Ⅱ」「建築設備システム」「庭園文化論」
	発展	4年	専門教育科目「環境計測演習」「都市環境デザイン」「雪氷学」「卒業研究」
システムデザイン能力の習得	入門	1年	専門教育科目「構造・材料デザイン入門」「構造デザイン」
	基礎	2年	専門教育科目「構造力学基礎Ⅰ・演習」「構造力学基礎Ⅱ・演習」「建築材料」「建築仕上材料」
	応用	3年	専門教育科目「構造力学応用Ⅰ・演習」「構造力学応用Ⅱ・演習」「鉄筋コンクリート構造」「鉄筋コンクリート構造演習」「鋼構造」「鋼構造演習」「構造設計法」「建築材料実験」「建築生産」
	発展	4年	専門教育科目「建築振動論」「構造解析」「建築施工」「コンクリート工学」「卒業研究」
地域社会との連携		4年	専門教育科目「卒業研究」

1. はじめに

カリキュラム（教育課程）は入学年度によって異なります。自分の入学年度のカリキュラムに従って下さい。

大学全体に共通する各種手続き（休学，退学，転学部・転学科，欠席届，証明書，その他），試験，学生相談，学則などと，工学部全体に共通する行事日程，各種届出，学費，試験，卒業，9月卒業，成績，GPA，履修登録，G-PLUS!，掲示版などについては，この『学修ガイド』の前半に記載されています。不明な点は必ず事務窓口で確認して下さい。

2. 単位とは

単位とは学修量をはかる基準です。科目ごとに授業の種類や授業時間，必要とされる自習時間などを考慮して設定されています。多くの科目は1週1コマ（90分）の授業を15回受けて試験に合格すると2単位となります。ただし幾つかの外国語科目や体育実技，演習，実験，卒業研究のように，1単位，3単位，4単位，6単位などの科目もあります。単位計算の際は注意してください。単位に関する詳しい説明は後の（注）「授業時間と単位数について」に記載しています。

3. 授業科目の区分

授業科目には「一般教育科目」「工学基礎科目」「専門教育科目」があります。また必修科目と選択科目の区分もあります。必修科目は必ず履修して単位を修得しなければ卒業できません。

各年次に開講されている科目は原則としてその年次において履修してください。上級年次の者が下級年次に開講されている科目を履修することはできませんが，下級年次の者が上級年次に開講されている科目を履修することはできません。次に授業科目の分野毎にその概略と履修上の注意点を記します。

一般教育科目	すべて選択科目（「表-1 一般教育科目」参照）
--------	-------------------------

- 1年次に開講されている一般教育科目の中には同じ科目が複数開講されている場合があります。その場合はいずれかの科目を履修して下さい。
- 2年次進級後に豊平校舎の一般教育科目を履修することは，キャンパスが離れていること，および時間割上の制約から原則としてできません。ただし，主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても一部の一般教育科目は開講しています。しかし山鼻校舎で開講されている一般教育科目は数が少なく，年度によっては開講科目も異なりますので，新年度の時間割で確認して下さい。
- 英語科目については1・2年次に開講されています。一部の科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています（時間割参照）。
- 英語以外の外国語科目については1～4年の各年次にわたって開講されています。ただし3・4年次に開講されている外国語科目は豊平校舎での受講となります。一部の科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています（時間割参照）。
- 体育実技は2年次以降でも豊平校舎で受講できます。
- 数学関係の科目や各種セミナーの受講を考えている人は注意事項がありますのでこの冊子のⅢ・Ⅳを必ず読んで下さい。
- 1学期に履修登録すると2学期に履修訂正（追加・削除）できない科目がありますので注意して下さい（『学修ガイド』の「履修登録」の項参照）。
- 外国人留学生・帰国生徒には日本語関係の「留学生科目」が用意されています。これらの科目の修得単位は一般教育科目に算入することができます。

工学基礎科目	すべて選択科目（「表-2 工学基礎科目」参照）
--------	-------------------------

- 1・2年次に開講されています。やや高度な数物系科目です。1年次に開講されている科目については主に再履修者を対象として（新規履修者も含む）山鼻校舎においても開講しています。詳細はこの冊子の「Ⅱ. 授業科目と担当者一覧表」で確認して下さい。

工学基礎科目【建築学科 2013年度以降入学者】

分野	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単位	担 当 者	開講 年次	対象 クラス等	備 考
数 物 系	21019	1	線 形 代 数 学 I	2	有馬研一郎	1		
	21200					2		
	21021	2	線 形 代 数 学 II	2	有馬研一郎 陶山 大輔	1		
	21201					2		
	21022	2	微 分 積 分 学 I	2	武田 裕康 陶山 大輔	1		
	21202					2		
	21209	1	微 分 積 分 学 II	2	有馬研一郎	2		
	21115	1	幾 何 学 I	2	佐野 貴志	2		
	21116	2	幾 何 学 II	2	佐野 貴志	2		
	21024	1	物 理 学 I	2	森越 文明 羽部 千景	1		
	21110					2		
	21025	2	物 理 学 II	2	森越 文明 羽部 千景	1		
	21111					2		
	21012	2	代 数 学 序 論	2	陶山 大輔	1		
	21206	1	代 数 学 I	2	陶山 大輔	2		
	21207	2	代 数 学 II	2	陶山 大輔	2		
21013	2	幾 何 学 序 論	2	佐野 貴志	1			

専門教育科目【建築学科 2017年度以降入学者】

分野	必修 ○	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考
空間デザイン系		22001	1	空間・環境デザイン入門	2	各担当教員	1		
		22002	2	空間デザイン	2	植田 暁	1		
		22171	1	空間デザイン演習基礎	2	岡本 浩一 伊藤 千織 高木 貴間	2		
	○	22172	2	空間デザイン演習Ⅰ	4	石橋 達勇 石塚 和彦 佐々木夕介 小倉 寛征 大坂美保子 佐野 天彦 三木万裕子	2		
	○	22188	1	空間デザイン演習Ⅱ	4	石橋 達勇 赤坂真一郎 大島 亘 吉本 考臣 村國 健 田村 知史 加持 亮輔	3		
		22189	2	空間デザイン演習Ⅲ	4	米田 浩志 赤坂真一郎 高木 貴間	3		
		22210	1	空間デザイン演習Ⅳ	4	米田 浩志 佐々木夕介 石塚 和彦	4		
	○	22130	2	建築計画Ⅰ	2	米田 浩志	2		
	○	22131	1	建築計画Ⅱ	2	石橋 達勇	3		
		22132	2	建築計画Ⅲ	2	石橋 達勇	3		
		22173	2	工芸デザイン	2	伊藤 千織	2		
		22141	1	建築デザイン論	2	米田 浩志	3		
		22207	2	都市計画	2	岡本 浩一	3		
		22143	2	インテリアデザイン	2	長谷川 演	3		
		22211	1	空間リノベーション	2	植田 暁	4		
環境デザイン系		22003	2	北方建築	2	植松 武是 廣田 誠一 村田さやか 佐々木優二 糸毛 治	1		
	○	22174	1	建築環境基礎	2	小柳 秀光	2		
		22175	2	建築環境計画Ⅰ	2	小柳 秀光	2		
		22193	1	建築環境計画Ⅱ	2	三澤 温	3		
		22194	2	建築環境計画Ⅲ	2	三澤 温	3		
		22176	2	建築環境計画演習Ⅰ	1	小柳 秀光	2		
		22195	2	建築環境計画演習Ⅱ	1	三澤 温	3		
		22212	1	環境計測演習	2	小柳 秀光 三澤 温	4		
	○	22178	2	設備概論	2	梅澤 洋	2		
		22197	1	建築設備システム	2	山本 進	3		
		22205	1	庭園文化論	2	椎野亜紀夫	3		
		22213	1	都市環境デザイン	2	辻井 順	4		
		22169	1	雪氷学	2	白岩 孝行	4		

専門教育科目【建築学科 2017年度以降入学者】

分野	必修 ○	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考	
システムデザイン系		22004	1	構造・材料デザイン入門	2	各担当教員	1			
		22005	2	構造デザイン	2	カストロホワノヒ	1			
	○	22179	1	構造力学基礎Ⅰ・演習	3	植松 武是	2			
	○	22180	2	構造力学基礎Ⅱ・演習	3	植松 武是	2			
		22201	1	構造力学応用Ⅰ・演習	3	カストロホワノヒ	3			
		22203	2	構造力学応用Ⅱ・演習	3	カストロホワノヒ	3			
		22114	1	鉄筋コンクリート構造	2	本間 裕二 千葉 隆史 森松 信雄	3			
		22181	1	鉄筋コンクリート構造演習	1	本間 裕二 千葉 隆史 森松 信雄	3			
		22117	2	鋼 構 造	2	植松 武是	3			
		22199	2	鋼 構 造 演 習	1	植松 武是	3			
		22200	2	構 造 設 計 法	2	谷川 栄治	3			
		22214	1	建 築 振 動 論	2	植松 武是	4			
		22215	1	構 造 解 析	2	植松 武是	4			
		22182	1	建 築 材 料	2	足立 裕介	2			
		22183	2	建 築 仕 上 材 料	2	足立 裕介	2			
		○	22122	1	建 築 材 料 実 験	1	杉山 雅 伊藤 雅人 本間 豊	3	Q1	
		22123	足立 裕介 那須 豊治 伊藤 雅人				Q2			
		○	22196	2	建 築 生 産	2	足立 裕介	3		
		22216	1	建 築 施 工	2	古川 和洋	4			
		22217	1	コ ン ク リ ー ト 工 学	2	足立 裕介	4			
専門共通		22006	1	造 形 演 習 Ⅰ	2	原井 憲二 中鉢みなみ	1			
		22007	2	造 形 演 習 Ⅱ	2	原井 憲二 中鉢みなみ	1			
		22008	2	建 築 図 学	2	植松 武是 神谷 幸治 藤田 純也 宮城 正弘 山本 進 川尻 雅裕 押野 和也 金尾 和幸	1			
		○	22139	1	建 築 製 図 演 習	2	清水 信宏 山崎 貴生 中野 剛育 松本 智治 神谷 幸治	2		
			22140	2	建 築 プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	2	岡本 浩一	2		
			22190	1	建 築 C A D 演 習	2	岡本 浩一 大坂美保子 菊地 翔貴 大塚 達也	3		
		○	22156	1	建 築 一 般 構 造	2	清水 信宏	2		
			22155	1	西 洋 建 築 史	2	清水 信宏	2		

専門教育科目【建築学科 2017年度以降入学者】

分野	必修 ○	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考	
専門共通		22154	2	日 本 建 築 史	2	清水 信宏	2			
		22184	1	情 報 処 理	2	植松 武是 足立 裕介	2			
		22191	1	プ ロ グ ラ ミ ン グ	2	植松 武是	2			
		22127	1	測 量 学	3	齊藤 力	3			
		22170	1	イ ン タ ー ン シ ッ プ	2	各担当教員	3		2026年度開講せず	
	○	22198	2	建 築 法 規	2	日比 学	3			
		22165	2	建 築 経 済	2	福井 章司	3			
		22208	2	品 質 管 理	2	佐々木克彦	3			
		22014	2	木 造 建 築	2	遠藤謙一良	1			
		22187	2	技 術 者 倫 理	2	岡田 貴裕	3			
		22218	1	防 災 計 画	2	高井 伸雄	4			
		21014	2	解 析 学 序 論	2	山本 隆範	1			
		21208	1	解 析 学 I	2	山本 隆範	2			
		21205	2	解 析 学 II	2	山本 隆範	2			
		21007	1	確 率 統 計	2	船川 大樹	1			
		21051	1	確 率 統 計	2	青木 雅允	2			
		21127	1	数 理 統 計 学	2	船川 大樹	2			
	○	22901	通年	卒 業 研 究		6	カトリック	4		
		22902					米田 浩志			
		22903					植松 武是			
	22904	石橋 達勇								
	22905	小柳 秀光								
	22906	三澤 温								
	22907	岡本 浩一								
	22908	足立 裕介								
	22909	清水 信宏								

表-3 専門教育科目 (2017年度以降入学者用)

必修科目 (科目名) で表示) は卒業研究を含め14科目 (37単位)。

○字内数字は単位数, 表記のないものは総て2単位

		1 年		2 年		3 年		4 年	
		1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期
教 育 科 目	空間デザイン系		空間デザイン	空間デザイン演習基礎	空間デザイン演習Ⅰ④ 建築計画Ⅰ 工芸デザイン	空間デザイン演習Ⅱ④ 建築計画Ⅱ 建築デザイン論	空間デザイン演習Ⅲ④ 建築計画Ⅲ 都市計画 インテリアデザイン	空間デザイン演習Ⅳ④ 空間リノベーション	
	環境デザイン系	空間・環境デザイン入門	北方建築	建築環境基礎	建築環境計画Ⅰ 建築環境計画演習Ⅰ① 設備概論	建築環境計画Ⅱ 建築設備システム 庭園文化論	建築環境計画Ⅲ 建築環境計画演習Ⅱ①	環境計測演習 都市環境デザイン 雪氷学	
	システムデザイン系	構造・材料デザイン入門	構造デザイン	構造力学基礎Ⅰ・演習③ 建築材料	構造力学基礎Ⅱ・演習③ 建築仕上材料	構造力学応用Ⅰ・演習③ 鉄筋コンクリート構造 鉄筋コンクリート構造演習① 建築材料実験①	構造力学応用Ⅱ・演習③ 鋼構造 鋼構造演習① 構造設計法 建築生産	建築振動論 構造解析 建築施工 コンクリート工学	卒業研究⑥ 通年科目
	専門共通	造形演習Ⅰ 確率統計	造形演習Ⅱ 木造建築 建築図学 解析学序論	建築製図演習 建築一般構造 情報処理 西洋建築史 解析学Ⅰ 数理統計学	建築プレゼンテーション 日本建築史 プログラミング 解析学Ⅱ	建築CAD演習 測量学③ インターンシップ*	建築法規 建築経済 品質管理 技術者倫理	防災計画	

* インターンシップは、2026年度の開講はありません。

専門教育科目 (「表-3 専門教育科目」参照) 必修科目に注意

- 専門教育科目は空間デザイン系, 環境デザイン系, システムデザイン系, 専門共通から構成されています。
- 履修の仕方は進級・卒業要件を満たせば自由ですが, 建築士の資格取得をめざしている人は後に記載する「建築士試験の受験資格について」をよく読んで履修して下さい。履修の仕方によっては一級建築士試験の受験資格が得られない場合があります。

5. 1年次から2年次への進級要件について (2017年度以降入学者の場合)

1年次から2年次への進級要件は次のようになっています。

1年次から2年次に進級するためには, 1年次に配当されている一般教育科目・工学基礎科目・専門教育科目から合計30単位以上を修得しなければならない(工学部規則第13条)。

1年次に配当されている科目については『学修ガイド』の「表-1」「表-2」「表-3」を参照して下さい。なお30単位の内容には特に制限を設けていません。要件を満たさない場合は1年次に留め置きとなります。毎年, 1割程度の人が留め置きとなっています。

6. 卒業要件について (2017年度以降入学者の場合)

建築学科の卒業要件は以下のようになっています(工学部規則第14条)。

建築学科にあっては, 学部長が教授会の議を経て次の各号に定める単位の修得を認定した者に, 学長が卒業を許可します。

- (1) 専門教育科目82単位以上
- (2) 一般教育科目, 工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

なお上記の「(1)専門教育科目82単位以上」については, さらに次のように定められています(ただし2017年度以降入学者の場合)。

- (1) 必修科目37単位
- (2) 選択科目45単位以上

以上の要件をまとめると次のようになります。

建築学科の卒業要件 (2017年度以降入学者の場合)

一般教育科目	} すべて選択科目	}	合計124単位以上
工学基礎科目			
専門教育科目	{ 必修科目……37単位	} 82単位以上	
	{ 選択科目……45単位以上		

60単位を超えた遠隔授業の単位は卒業要件に含みません。

7. 卒業見込証明書の発行条件について

建築学科では「卒業見込証明書」(就職活動で求められることが多い)の発行条件を次のように定めています。

3年次終了時に合計100単位以上を修得していること。

この100単位の内容には特に制限を設けていません。3年次終了時に100単位未満の場合はキャリア支援センター窓口で相談して下さい。

8. 各授業科目とシラバスに関する注意

一部の選択科目では授業を行う教室等の施設・設備の制約から履修者を制限している場合があります。また外国語科目や専門教育科目のなかには、ある特定の科目を前もって履修しておかなければ履修出来ない場合があります。事前に『シラバス』や講義初回のガイダンスで確認して下さい。

9. 履修計画の目安

卒業に必要な単位数は124単位以上ですから、単純に1年間の必要単位数を計算すると $124 \div 4 = 31$ 単位となります。しかし4年次になると就職活動や卒業研究で多くの時間がとられ、また時間割の関係で下級年次の科目を再履修することができない場合もあります。そのため単位は1～3年次で多めに修得しておいた方がよいでしょう。各年次にどの程度の単位数を修得しておけばよいのか目安を整理します。

卒業するためには総単位数124単位以上、そのうち専門教育科目82単位以上が必要です。したがって残り42単位以上を一般教育科目・工学基礎科目・専門教育科目から取ることになります。しかし、2年次以降に山鼻校舎で開講される一般教育科目は非常に数が少なくなっています。そのため一般教育科目は1年次のうちに多めに取っておいた方がよいでしょう。目安として1年次終了時点では、一般教育科目と工学基礎科目とを合わせて30単位以上、さらに専門教育科目を15単位以上の修得となります。すなわち1年次終了時点で総単位数45単位以上を修得しておくことよいでしょう。そして2年次終了時点では85単位以上、3年次終了時点では125単位以上、4年次卒業時点では135単位以上を目安にするとよいでしょう。

ただし履修科目をあまり多くすると予習・復習の時間が十分にとれず、結果として不合格になる科目が多くなることも考えられます。また「不可」や「欠」の数が多くなるとGPAも下がります。ただしGPAは進級・卒業要件とは無関係です。しかし、履修届を出した科目は着実に単位を取るようにして下さい。なお1学期・2学期ともに履修届の訂正（追加・削除）期間がありますので、その際に履修科目の調整ができます。ただし2学期に履修訂正できない科目もありますので『学修ガイド』の「履修登録」の項を参照して下さい。

〈履修科目の目安〉

「建築」は単なる技術ではなく人間生活全般とかかわり、人の命を預かるものです。したがって「一般教育科目」は幅広い分野にわたって履修しておくことが望まれます。

将来の進路や就職について考えるためには「キャリア・アントレプレナーシップ」という科目が参考になります。数学が苦手な人は「数学概論Ⅰ」を履修しておいて下さい。一方、数学・物理が得意な人には「工学基礎科目」が用意されています。1年次に開講されている専門教育科目（8科目）については、いずれも基礎的・入門的内容なので、将来どのような分野に進むにせよ履修しておく方がよいでしょう。なお「専門教育科目」に分類されている「確率統計」「解析学序論」「解析学Ⅰ」「解析学Ⅱ」「数理統計学」の各科目は教職（「数学」）用の科目です。注意して下さい。教員免許取得をめざしている人は、この冊子の「数学受講者に向けてのガイド」や教職のためのガイダンスに従って履修して下さい。

次に、上級年次において構造力学や建築振動論などのシステムデザイン系の科目を重点的に勉強しようと考えている人は「一般教育科目」の「数学概論Ⅰ」「物理学概論Ⅰ」、「工学基礎科目」の「線形代数学Ⅰ」「微分積分学Ⅰ」を履修しておくことが望ましいでしょう。さらに余力があれば「一般教育科目」の「物理学概論Ⅱ」、「工学基礎科目」の「微分積分学Ⅱ」「物理学Ⅰ」「物理学Ⅱ」、「専門教育科目」の「確率統計」などを履修しておくことよいでしょう。また上級年次において環境デザイン系の科目を重点的に履修しようとする人は「一般教育科目」の中の環境系の科目を履修しておくことが望ましいでしょう。デザインに興味がある人は「デザインセミナーⅠ」「デザインセミナーⅡ」を履修するとよいでしょう（セミナー申込については、この『学修ガイド』のⅣ「工学部1年次一般教育のセミナーについて」を読んで下さい）。

なお2012年度以降の入学者から試験の合格最低点が60点となっています。講義へは必ず出席するとともに、試験の準備は早めにするのが大切です。また卒業後、一級建築士や二級建築士の資格を取得するためには、必ず履修しておかなければならない専門科目が各分野にまんべんなくあります。これについては10.「建築士試験の受験資格について」を参考にして下さい。

10. 建築士試験の受験資格について（2017年度以降入学者用）

本学科は選択科目が多く、自由度の高いカリキュラムが特徴ですが、一級建築士や二級建築士をめざす人は、2009年度（平成21年度）入学生から建築士試験制度が変更され、建築学の各分野の指定科目（国土交通省が指定した科目。次の「指定科目一覧表」参照）を一定単位数以上修得しなければ受験資格が得られないので注意して下さい。

建築士試験を受ける人は「指定科目一覧表」の「二級・木造」、「一級」欄の（ ）内に示す単位数以上を指定科目の中から修得して下さい。そして一級建築士試験を最短の実務経験0年で受験するためには、表の①～⑨の各分野の必要単位数を満たし（一分野でも欠けると受験資格がありません）、かつ①～⑩の合計が60単位以上になるように履修して下さい（50単位～60単位未満の場合は実務経験年数が3年必要になります）。一方、二級・木造建築士試験を最短の実務経験0年で受験するためには、表の①、②～④、⑤～⑦、⑧、⑨の各分野の単位数を満たし（一分野でも欠けると受験資格がありません）、かつ①～⑩の合計が40単位以上になるように履修して下さい。ただし、高等専門学校や工業高校において指定科目を修めて卒業した入学者は在学中に二級建築士試験を受験することができます。なお、2013年度以降の入学者の場合は、本学科の卒業要件さえ満たせば自動的に二級・木造建築士試験の受験資格が得られるカリキュラムになっています。

なお専門教育科目の中には、建築士受験資格取得の指定科目に該当しない科目がありますので注意が必要です。例えば空間・環境デザイン入門、構造・材料デザイン入門、造形演習、卒業研究その他は指定科目に該当しません。また「数学」の教職用の6科目（確率統計、解析学序論、解析学Ⅰ、解析学Ⅱ、数理統計学、品質管理）も、専門教育科目に分類されていますが指定科目ではありません。指定科目は「指定科目一覧表」に記載されている58科目です。なお二級建築士試験に合格後、一級建築士試験を学歴（指定科目の履修）によらず「二級建築士としての実務経験」のみで受験する場合には4年の実務経験が必要です。したがって初めから一級建築士の受験資格を満たすように履修した方がよいでしょう（実務経験0年で受験できます）。また一級建築士の受験資格は3年次終了時までには満たしておく方がよいでしょう。

繰り返しますが、最も重要な点は各分野（①～⑨）毎に必要な単位数を満たすことと①～⑩の合計を60単位以上にする事です。選択科目でも油断せず、取りこぼしが無いよう着実に単位を修得して下さい。下級年次に落とした科目を上級年次になって再履修しようとしても、時間割が重なって履修できない場合があります。単位はできるだけ開講年次に修得しておくことが重要です。そして指定科目の修得単位数は必ず学期毎にチェックし、不足のないようにして下さい。単位数が不足している場合には、履修登録後でも、決められた訂正期間内であれば追加登録できます。

なお建築士試験の受験を申込み際には、所定の単位を修得したことを証明する「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」（本学発行）を添えて申し込みます。また建築士試験の受験資格は、上記指定科目制による他、実務経験年数による場合、あるいは国土交通大臣や知事によって認められる場合があります。これらの詳細や実務経験の内容・受験申込方法・時期などについては「建築技術教育普及センター」のホームページを見るか、センターに直接問い合わせて下さい。受験申込時期については、令和7年度の場合は、一級建築士試験、二級・木造建築士試験はすべて4月からでした。

- 2009年度以降の入学者は「一級建築士試験」「二級建築士・木造建築士試験」の受験申し込みをする際「指定科目修得単位証明書・卒業証明書」が必要です。この証明書を入手するには、本学の証明書自動発行機、またはホームページの「学生生活」→「証明書の発行（在学生）」「各種証明書の発行【在学生以外（卒業・修了生等）】」から「申請書」または「証明書申込用紙」を入手し、必要事項を記入のうえ工学部事務に提出して下さい（1部200円）。発行は卒業式以降になりますが、所定の期間に予約すれば卒業式の日に受け取ることができます。また郵送により申し込むことも可能です。証明書の予約方法・発行日等については掲示でお知らせします。
- 各建築士試験の受験のために必要な「実務経験」の内容については建築技術教育普及センターのホームページに具体例が示されています。本学の場合、実務経験なしで受験できます。
- 受験資格は卒業しなければ得られません。ただし、高等専門学校や工業高校において指定科目を修めて卒業した入学者は、在学中に二級建築士試験の受験が可能です。

2017年度以降入学者用「指定科目一覧表」(受験資格要件)

指定科目の分類 (必要な単位数)		指定科目に該当する本学の開講科目				
2級・木造	1級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数	
①建築設計製図 (5単位以上)	①建築設計製図 (7単位以上)	建築製図演習	2	必修	2	
		空間デザイン演習Ⅰ	2	必修	4	
		空間デザイン演習Ⅱ	3	必修	4	
		空間デザイン演習Ⅲ	3	選択	4	
		空間デザイン演習Ⅳ	4	選択	4	
		建築CAD演習	3	選択	2	
②～④ 建築計画, 建築 環境工学又は建 築設備 (7単位以上)	②建築計画 (7単位以上)	建築計画Ⅰ	2	必修	2	
		建築計画Ⅱ	3	必修	2	
		建築計画Ⅲ	3	選択	2	
		都市計画	3	選択	2	
		日本建築史	2	選択	2	
		西洋建築史	2	選択	2	
		空間デザイン	1	選択	2	
		インテリアデザイン	3	選択	2	
		空間リノベーション	4	選択	2	
	③建築環境工学 (2単位以上)	建築環境基礎	2	必修	2	
		建築環境計画Ⅰ	2	選択	2	
		建築環境計画Ⅱ	3	選択	2	
		建築環境計画演習Ⅰ	2	選択	1	
		建築環境計画演習Ⅱ	3	選択	1	
		環境計測演習	4	選択	2	
		北方建築	1	選択	2	
	④建築設備 (2単位以上)	設備概論	2	必修	2	
		建築設備システム	3	選択	2	
	⑤～⑦ 構造力学, 建築 一般構造又は建 築材料 (6単位以上)	⑤構造力学 (4単位以上)	構造デザイン	1	選択	2
			構造力学基礎Ⅰ・演習	2	必修	3
			構造力学基礎Ⅱ・演習	2	必修	3
構造力学応用Ⅰ・演習			3	選択	3	
構造力学応用Ⅱ・演習			3	選択	3	
建築振動論			4	選択	2	
構造解析			4	選択	2	
⑥建築一般構造 (3単位以上)		建築一般構造	2	必修	2	
		鉄筋コンクリート構造	3	選択	2	
		鉄筋コンクリート構造演習	3	選択	1	
		鋼構造	3	選択	2	
		鋼構造演習	3	選択	1	
		木造建築	1	選択	2	
		構造設計法	3	選択	2	
⑦建築材料 (2単位以上)		建築材料	2	選択	2	
		建築仕上材料	2	選択	2	
		建築材料実験	3	必修	1	
		コンクリート工学	4	選択	2	

指定科目の分類 (必要な単位数)		指定科目に該当する本学の開講科目			
2級・木造	1級	科目名	履修学年	必修・選択	単位数
⑧建築生産 (1単位以上)	⑧建築生産 (2単位以上)	建築生産	3	必修	2
		建築施工	4	選択	2
		建築経済	3	選択	2
⑨建築法規 (1単位以上)	⑨建築法規 (1単位以上)	建築法規	3	必修	2
⑩その他 (適宜)	⑩その他 (適宜)	建築図学	1	選択	2
		空間デザイン演習基礎	2	選択	2
		防災計画	4	選択	2
		建築デザイン論	3	選択	2
		庭園文化論	3	選択	2
		建築環境計画Ⅲ	3	選択	2
		雪氷学	4	選択	2
		測量学	3	選択	3
		建築プレゼンテーション	2	選択	2
		技術者倫理	3	選択	2
		工芸デザイン	2	選択	2
		都市環境デザイン	4	選択	2
試験合格後の免許登録を実務経験0年で受験するためには以上の各分野の単位数を満たす他、合計40単位以上が必要。	実務経験2年で試験合格後の免許登録を目指して受験するためには以上の各分野の単位数を満たす他、合計60単位以上が必要。合計50～59単位の場合は試験合格後の免許登録には3年の実務経験が必要。				

注…建築士の試験は学科試験と設計製図試験によって行われます。学科試験は主に以下のような分野から出題されます。ただし出題分野や試験の合格基準は毎年少しずつ変わります。詳細は建築技術教育普及センターのホームページで確認して下さい。過去問も掲載されています。

●一級建築士の学科試験の主な出題分野

学科Ⅰ…建築計画，建築積算等

学科Ⅱ…環境工学，建築設備等

学科Ⅲ…建築法規等

学科Ⅳ…構造力学，鉄筋コンクリート，鋼構造，建築一般構造，建築材料等

学科Ⅴ…建築生産，施工，各部工事等

●二級建築士の学科試験の主な出題分野

学科Ⅰ…建築計画，環境，設備等

学科Ⅱ…建築法規等

学科Ⅲ…構造力学，一般構造，建築材料等

学科Ⅳ…建築生産，施工，各部工事等

(注) 授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

各授業科目の単位数の計算は、次の各号に掲げる基準による。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (4) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (5) 体育実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

授業時間は90分を単位（1時限）として、原則、各曜日とも5時限で授業時間割が組まれています（学修ガイド参照のこと）。毎週1回（1時限）の授業（45分を1時間として計算）を2時間とし、一つの学期で原則として15週（曜日によっては、これよりも多くなる場合や、行事により曜日を振替える場合もあります。）の授業を受けた場合には、通算の授業時間は2時間×15週＝30時間となります。さらに、その授業が「講義」の場合には2単位、「外国語、演習、体育実技」の場合には1単位として計算されます。また、例えば2時限連続して授業が行われる場合には、一つの学期の通算の授業時間は2×2時間×15週＝60時間となります。さらに、その授業が「実験」の場合には60時間／45時間＝1.33単位となりますが、端数は切り捨てられ1単位として計算されます。

●工学部規則第4条により、

①外国語科目については、以下のことが定められています。

外国語科目のうち学則第20条第2号ただし書きの規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは、別に定める。

15時間の授業をもって1単位とする科目は、以下のとおりです。

英語文化演習Ⅰ及びⅡ、世界の言語と文化

（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）文化Ⅰ、Ⅱ及びⅢ

（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ

（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ

（ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

ただし、これらの授業科目は、一つの学期で毎週1回（1時限）の授業が行われるので通算の授業時間は30時間となり、2単位として計算されます。上記以外の外国語科目については、通算の授業時間はやはり30時間ですが、すべて1単位として計算されます。

なお、より詳細な各科目毎の単位数については「建築学科開講科目一覧表」を参照してください。

②専門科目の演習科目については、以下のことが定められています。

演習科目のうち学則第20条第2号ただし書きの規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは、別に定める。

15時間の授業をもって1単位とする科目は、以下のとおりです。

空間デザイン演習Ⅰ～Ⅳ

上記の科目は、一つの学期で毎週2回（2時限）の授業が行われるので通算の授業時間は60時間となり、4単位として計算されます。

11. 免許・資格取得・その他

本学には、通常の課程において取得できる免許・資格のほかに、通常の課程とは別に設けられた課程において取得できる免許・資格があります。これらについては、それぞれのガイダンスへ出席して、説明を受けること。

- 1) 教職課程
- 2) 図書館学課程
- 3) 社会教育主事課程
- 4) 学芸員課程
- 5) その他

工学部の学生に関する免許・資格

卒業と同時に取得できるもの、卒業後に受験資格が得られるものなどがあります。詳細については、各自確認すること（参考までにウェブサイトのURLを記載しています）。

1) 在学中に受験可能な資格の例

二級建築士（www.jaic.or.jp/shiken/2k/index.html）
木造建築士（www.jaic.or.jp/shiken/mk/index.html） } (但し、高等専門学校
宅地建物取引士（www.retio.or.jp/exam/） } において指定科目を
インテリアコーディネーター（www.interior.or.jp） } 修めて卒業した者）
インテリアプランナー（www.jaic.or.jp/shiken/ip/index.html）
カラーコーディネーター（kentei.tokyo-cci.or.jp/color/）
再開発プランナー（www.urca.or.jp/planner/index.html）
土地家屋調査士（www.moj.go.jp/shikaku_saiyo_index5.html）
福祉住環境コーディネーター（kentei.tokyo-cci.or.jp/fukushi/）

2) 卒業と同時に受験可能な資格の例

一級建築士（www.jaic.or.jp/shiken/1k/index.html） }
二級建築士（www.jaic.or.jp/shiken/2k/index.html） } (指定科目の条件あり)
木造建築士（www.jaic.or.jp/shiken/mk/index.html） }
2級インテリア設計士（www.jp-interior.or.jp/examination.html）
消防設備士（www.shoubo-shiken.or.jp/shoubou/）
測量士・測量士補（www.gsi.go.jp/LAW/SHIKEN/SHIKEN-top.htm）
技術士補（www.engineer.or.jp/sub02/）

3) 卒業後一定の実務経験を経て受験可能な資格の例

建築設備士（www.jaic.or.jp/shiken/bmee/index.html）
構造設計一級建築士（www.jaic.or.jp/koshuannai/koshu/sl1k/index.html）
設備設計一級建築士（www.jaic.or.jp/koshuannai/koshu/bl1k/index.html）
1級・2級建築施工管理技士（www.fcip-shiken.jp/index.html）
1級・2級土木施工管理技士（www.jctc.jp/exam/）
1級・2級建設機械施工管理技士（jcmanet-shiken.jp）
コンクリート技士・コンクリート主任技士（www.jci-net.or.jp/j/exam/gishi/index.html）
コンクリート診断士（www.jci-net.or.jp/j/exam/shindan/index.html）
1級インテリア設計士（www.jp-interior.or.jp/examination.html）
商業施設士（www.jtocs.or.jp）
技術士（www.engineer.or.jp/sub02/）
1級・2級造園施工管理技士（www.jctc.jp/exam/）
1級・2級電気工事施工管理技士（www.jctc.jp/exam/）
1級・2級管工事施工管理技士（www.jctc.jp/exam/）
労働安全／衛生コンサルタント（www.exam.or.jp）
第一種・第二種衛生管理者（www.exam.or.jp）

I 教育課程

【電子情報工学科】

2018年度(平成30年度)以降入学者

- カリキュラム・マップ
- カリキュラム・ツリー
- 初年次教育プログラム

電子情報工学科カリキュラム・マップ

■電子情報工学科の教育理念

電子情報工学科は、電子工学と情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い教育と研究を通して、自然環境にも配慮した科学技術の発展に熱意を持って取り組む、高度な専門能力を備えた創造性豊かな人材の育成を目指す。

■電子情報工学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める所定の修業年限及び修得単位を満たし、次の能力・資質を身につけた学生に学士（工学）の学位を授与します。

- (1) 学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけていること。
- (2) 電子工学と情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につけていること。
- (3) 社会の要求を踏まえて専門的課題を設定し、解決できること。
- (4) 自らの創造力や他者との論理的なコミュニケーションを通して、新しい技術を生み出せること。
- (5) 科学技術の発展に熱意を持ち、かつ電子情報技術者として社会に対する責任を自覚していること。

■電子情報工学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

電子情報工学科は、ハードウェアとソフトウェアの両方に精通した技術者を育成するため、豊かな素養と基礎的な学力を身につける「基盤」「教養」「体験型」の科目群からなる一般教育科目、ならびに基礎数物系、応用数物系、電子系、情報系、応用系の5系列の専門科目をバランスよく配置した教育体系を展開します。また、卒業認定・学位授与の方針と各科目の関係性及び到達目標を示すカリキュラムマップ、カリキュラムの体系性・系統性を示すカリキュラムツリーを提示し、カリキュラムの構造をわかりやすく明示します。

教育内容、教育方法、学修成果の評価については以下のように定めます。

1) 教育内容

- (1) 初年次には大学生としての見識と豊かな人間性を養う学習を主体とし、同時に電子系および情報系分野の入門的な科目も配置します。
- (2) 数理法則の基礎概念と自然科学に関する基礎的知識を身につけ、自然界を支配する一般的法則や現象を理解し、電子情報工学を広い視点で理解する基礎的能力を養う科目を配置します。
- (3) 電気・電子現象を具体的に理解するための基礎技能を身につけるとともに、電子系科目の基礎知識に基づき、エレクトロニクスに関する専門的な知識を習得し、エレクトロニクスに関連した問題を解決するための応用能力を養う科目を配置します。
- (4) コンピュータリテラシーを含む基本的な情報処理能力を身につけるとともに、情報系科目の基礎知識に基づき、情報処理技術に関する専門的な知識を習得し、情報処理技術に関連した問題を解決するための応用能力を養う科目を配置します。
- (5) 電子系および情報系科目の基礎理論と知識に基づき、計測、制御、通信などの分野における専門的な知識を習得し、それらに関連した問題を解決するための応用能力を養う科目を配置します。
- (6) コンピュータプログラムの作成・実行や実験の計画・遂行を自律しておこない、結果を工学的に考察し、まとめる能力を養い、社会の要求を踏まえて課題を設定し解決できるデザイン能力を養う科目を配置します。

2) 教育方法

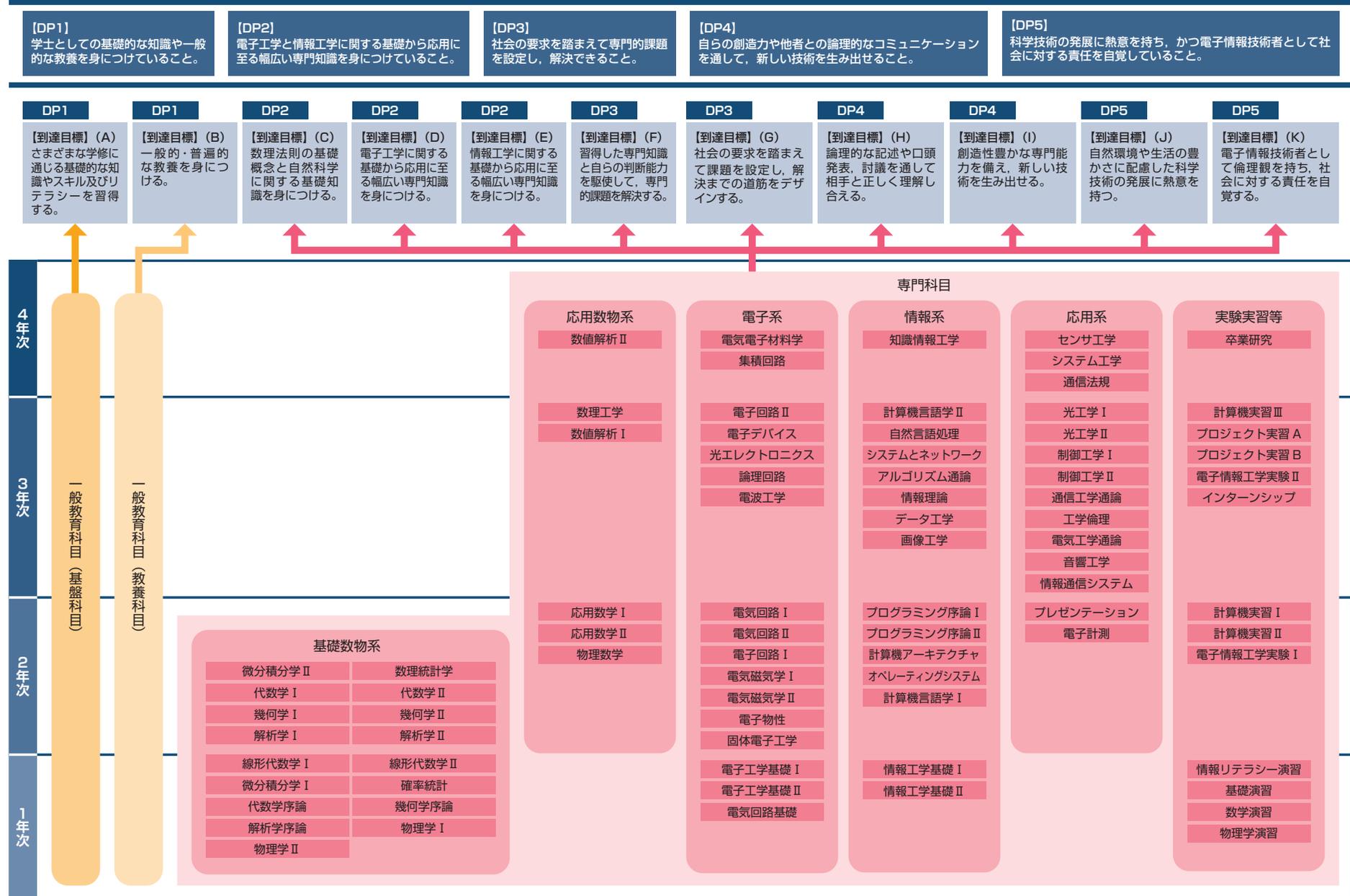
- (1) 初年次教育においては学習効果を上げるために少人数授業を実施し、さらに演習によるきめ細やかな指導を行うことで高校までの数物系の知識を固めます。また、専門分野となる電子系および情報系分野に早い段階で慣れ親しむため、専門科目担当教員も初年次の授業を担当することとしています。
- (2) 各学生に対して教員一人がアカデミック・アドバイザーとなり、学生からの相談を受ける機会として年2回、学期ごとに面談を行い、その中で学業成績や履修状況に応じて、修学や進路に関する指導を行います。

- (3) 学生と教員の双方向のコミュニケーションを円滑にし、学習効率を向上させるため、講義資料の配布や採点后レポートの返却など学生に情報を提供する際や、WEBテストや授業評価アンケートの実施など学生から情報を集める際に、積極的にLMSを活用します。
- (4) 電子系および情報系分野のテクノロジーを講義・演習を通して体系的に学び、さらに具体的な内容を通してより深い理解を得るため、最新の設備・機器を使った多くの実験、実習を実施します。
- (5) 実践力の育成を重視する授業においては、学生・教員間のコミュニケーションや学生同士の議論を通して学生の主体的発想力と協調的問題解決力を養うため、クリッカー・グループワーク・反転授業などを活用したアクティブ・ラーニングを実施します。
- (6) 学習の集大成として4年次に取り組む卒業研究においては、問題に対する思考・分析・解決の能力を身につけ、また自らの考えや研究の結果を他人に伝える表現力を身につけることを目的とし、少人数によるインタラクティブな教育を実施します。

3) 学修成果の評価

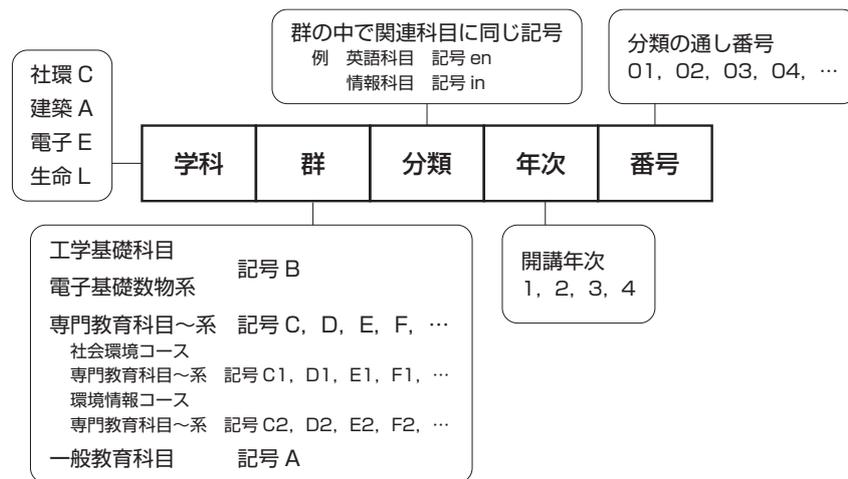
学修成果の評価方法は各科目のシラバスで提示しています。各科目の方法に従った評価をします。

電子情報工学科 カリキュラム・ツリー



〈到達目標〉		対応する学位授与方針
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。	(1)
B	一般的・普遍的な教養を身につける。	(1)
C	数理法則の基礎概念と自然科学に関する基礎知識を身につける。	(2)
D	電子工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につける。	(2)
E	情報工学に関する基礎から応用に至る幅広い専門知識を身につける。	(2)
F	習得した専門知識と自らの判断能力を駆使して、専門的課題を解決する。	(3)
G	社会の要求を踏まえて課題を設定し、解決までの道筋をデザインする。	(3)
H	論理的な記述や口頭発表、討議を通して相手と正しく理解し合える。	(4)
I	創造性豊かな専門能力を備え、新しい技術を生み出せる。	(4)
J	自然環境や生活の豊かさに配慮した科学技術の発展に熱意を持つ。	(5)
K	電子情報技術者として倫理観を持ち、社会に対する責任を自覚する。	(5)

■工学部ナンバリング



授業科目名	単位	開講年次	学科科目 No.	到達目標															
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K					
一般教育科目 基盤科目 言語	英語	英語リーディングⅠ	1	1	EAen101	○													
		英語リーディングⅡ	1	1	EAen102	○													
		英語リーディングⅢ	1	2	EAen203	○													
		英語リーディングⅣ	1	2	EAen204	○													
		英語コミュニケーションⅠ	1	1	EAen105	○													
		英語コミュニケーションⅡ	1	1	EAen106	○													
		英語コミュニケーションⅢ	1	2	EAen207	○													
		英語コミュニケーションⅣ	1	2	EAen208	○													
		英語特講Ⅰ	1	1	EAen109	○													
		英語特講Ⅱ	1	1	EAen110	○													
		英語ライティングⅠ	1	1	EAen111	○													
		英語ライティングⅡ	1	1	EAen112	○													
		英語文化演習ⅠA	2	2	EAen213	○													
英語文化演習ⅡA	2	2	EAen214	○															
共通	世界の言語と文化	2	1	EAco101	○														

授業科目名	単位	開講年次	学科科目 No.	到達目標													
				A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K			
電子系	電子工学基礎Ⅰ	2	1	EDeb101			○	○									
	電子工学基礎Ⅱ	2	1	EDeb102			○	○									
	電気回路基礎	2	1	EDec101			○	○									
	電気回路Ⅰ	2	2	EDec202				○									
	電気回路Ⅱ	2	2	EDec203				○									
	電子回路Ⅰ	2	2	EDec204				○									
	電子回路Ⅱ	2	3	EDec305				○		○							
	電気磁気学Ⅰ	2	2	EDel201			○	○									
	電気磁気学Ⅱ	2	2	EDel202				○									
	電子物性	2	2	EDel203			○	○									
	固体電子工学	2	2	EDel204			○	○									
	電子デバイス	2	3	EDel305			○	○		○							
	光エレクトロニクス	2	3	EDoe301				○									
	論理回路	2	3	EDec306				○									
	電波工学	2	3	EDel306				○		○							
電気電子材料学	2	4	EDel407				○		○								
集積回路	2	4	EDec407				○										
情報系	情報工学基礎Ⅰ	2	1	EEib101					○						○	○	
	情報工学基礎Ⅱ	2	1	EEib102			○		○								
	プログラミング序論Ⅰ	2	2	EEpr201					○								
	プログラミング序論Ⅱ	2	2	EEpr202					○								
	計算機アーキテクチャ	2	2	EEat201					○								
	オペレーティングシステム	2	2	EEat202					○								
	計算機言語学Ⅰ	2	2	EEpr203					○								
	計算機言語学Ⅱ	2	3	EEpr304					○								
	自然言語処理	2	3	EEap301					○	○							
	システムとネットワーク	2	3	EEat303					○	○						○	
	アルゴリズム通論	2	3	EEth301					○								
	情報理論	2	3	EEth302					○								
	データ工学	2	3	EEap302					○	○							
	画像工学	2	3	EEap303					○								
知識情報工学	2	4	EEap404					○					○				
応用系	プレゼンテーション	2	2	EFpt201								○					
	電子計測	2	2	EFas201				○	○								
	光工学Ⅰ	2	3	EFoe302				○	○	○		○					
	光工学Ⅱ	2	3	EFoe303				○	○								
	制御工学Ⅰ	2	3	EFas302				○	○								
	制御工学Ⅱ	2	3	EFas303				○	○								
	通信工学通論	2	3	EFas304				○	○					○	○		
	工学倫理	2	3	EFee301											○	○	
	電気工学通論	2	3	EFas305				○							○	○	
	音響工学	2	3	EFas306				○		○				○	○		
	情報通信システム	2	3	EFas307				○	○	○							
	センサ工学	2	4	EFas408				○	○								
	システム工学	2	4	EFas409				○	○	○							
	通信法規	2	4	EFcl401						○						○	
実験実習等	情報リテラシー演習	1	1	EGie101					○			○				○	
	基礎演習	1	1	EGre101			○					○					
	数学演習	1	1	EGre102			○					○					
	物理学演習	1	1	EGre103			○					○					
	計算機実習Ⅰ	1	2	EGie202					○	○		○					
	計算機実習Ⅱ	1	2	EGie203					○	○		○					
	計算機実習Ⅲ	1	3	EGie304					○		○	○					
	プロジェクト実習A	1	3	EGie305					○			○	○				
	プロジェクト実習B	1	3	EGro301				○	○		○	○					
	電子情報工学実験Ⅰ	1	2	EGex201			○	○				○					
	電子情報工学実験Ⅱ	1	3	EGex302			○	○	○	○		○					
	インターンシップ	2	3	EGis301							○	○				○	
	卒業研究	6	4	EGgr401						○	○	○	○	○	○	○	

電子情報工学科 初年次教育プログラム

電子情報工学科では、以下の要領により初年次教育プログラムを実施する。プログラムの対象者は、工学部電子情報工学科の1年次学生である。

プログラムのねらい

(プログラムの目標)

大学生の「学び」が高校生と大きく異なる点は、「学び」に対する姿勢とそのアウトプットにあると言えよう。高校までの「学び」では、明確な答えが準備された問いを与えられ、その解法を習得することが中心であった。「学び」の到達度の評価方法は、試験の答案用紙への正解の記載が重視された。学習内容は選定された教科書から大きく逸脱することは少なく、学習時間の管理では、主に教員や保護者が設定したスケジュールに従うことが求められていたに違いない。

これに対し大学での「学び」では、自ら学ぼうとする主体的な姿勢が求められる。どのような科目を習得するかを、各自の興味や将来ビジョンに基づいて設計する必要がある。進級や卒業要件を満たすための制約はあるが、自らの意思で「学び」の方向性を決定できることが、高校までとは明確に異なる点であろう。学生一人一人が何を目指すのか、そのために大学在学中にどのような目標をもつべきなのかを考えることで、大学での学びの道筋が決まるはずである。入学後の早い段階で、キャリアと本学科の専門性との関連を理解する必要があるだろう。

また、自身が決めた「学び」に対して、学習スケジュールを設計し、日々の時間管理にまで落とし込むスキルも求められる。大学で講義を受ける時間の他に、自習の時間、部活動やアルバイトの時間などをやりくりして日々を過ごさなければならない。高校よりも多様な活動の選択肢がある中で、大学の講義や自習に十分な時間を確保するためには、自らの学ぶ姿勢と正面から向き合う必要があるだろう。

大学での「学び」のアウトプットの場合は、論文やレポートの作成、ディスカッションやプレゼンテーションなど多岐に渡る。レポートや論文を書く際には、科学技術に関する文書の執筆法（テクニカル・ライティング）に基づき、情報を正確に、わかりやすく書くことが求められる。また、ディスカッションやプレゼンテーションにおいては、自分の考えをより客観的で深みのあるものにするために、他者の意見に耳を傾ける能力も必要になる。実社会には答えのない問いや対立する考え方が多くあり、合意形成が難しい場面が存在することを理解し、それらに対する実践的な対処法や合理的な解決法を模索することの重要性を認識することも大切である。

以上のような大学での「学び」の特性を理解し、大学の講義体系に学生の意識をスムーズに接続することを目的として、電子情報工学科では以下の5テーマからなる初年次教育プログラムを実施する。初年次にこのプログラムを習得することで、大学での「学び」を充実した有意義なものとし、卒業後の社会活動・人生設計の知的基盤として活用できるようになることを期待している。

(学生の学習目標)

本プログラムを受講する学生には、以下の事項を習得してもらう。

- ・レポートや論文などの科学技術文書を作成する際に必要となる考え方
- ・数十人が集まる場において、自らもしくは少人数グループで出た考えを口頭で説明するプレゼンテーション能力
- ・少人数のグループにおいて、多様な意見を引き出せるような場を作る能力
- ・答えのない問いに対して、他者と議論しながら一定の見解を見出す能力
- ・電子情報工学科で学びを継続していくための動機
- ・科学技術文書やプレゼンテーション資料を効率的に作成するためのコンピュータ操作
- ・大学での学びと課外活動とを両立させるための時間管理能力

プログラムのテーマ 電子情報工学科の初年次教育は、以下の5テーマから成る。

1. レポートや論文の書き方などの文章作法の習得
2. 協働、プレゼンテーション、ディスカッションなどの口頭発表技法の習得
3. 学科での学びに対する動機付け
4. コンピュータやネットワークに関する知識と大学での学びに必要なコンピュータの操作方法の習得

5. 学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

プログラムの計画 上記のテーマ1～4については、1年次に開講される電子情報工学科専門科目『基礎演習』、『情報リテラシー演習』、『電子工学基礎Ⅰ』、『情報工学基礎Ⅰ』、一般教育科目『コンピュータ科学』で体系的に実施する。さらに、テーマ5については『クラス顧問ガイダンス』、『アカデミックアドバイザー制度』において実施する。

1. レポートや論文の書き方などの文章作法の習得

【基礎演習】 担当：内田 ゆず

第2回 電子メールの作法

第3回 科学技術文書における日本語表現

第4回 レポートの作法

第5～6回 正しい文章を書くためのトレーニング

第7回 グラフの作法と使い分け

第12回 プレゼンテーションの作法

2. 協働、プレゼンテーション、ディスカッションなどの口頭発表技法の習得

【基礎演習】 担当：菊地 慶仁，高氏 秀則，菅原 滋晴，内田 ゆず

第8～10回 電子工作とプログラミングの基礎

電子ブロックMESHを利用して電子工作とプログラミングを行う。操作方法を学んだ後、4名程度のグループで『役に立つもの』を作成する。完成品の特徴をまとめた文書を作成したうえで、プレゼンテーションを行う。

第12～15回 討論

4名程度のグループでの討論を通して、基礎演習第4～7回での学びを実践する。

1つのテーマについて調査・実験を行い、グループ内で意見を交換し、自分とは異なるものの見方、考え方があることを知る。そのうえで、討論の経過をレポートにまとめ、グループとしての見解をプレゼンテーションする。

3. 学科での学びに対する動機付け

【電子工学基礎Ⅰ】 担当：元木 邦俊

第1回 電子工学で学ぶこと

現代の情報社会を支えるエレクトロニクス技術の概要を説明する。高度な技術を理解しさらに発展させるために身に着けなければならない数理的な基礎知識について説明する。高校までに学習した数学や物理の知識がどのように役に立つのか考える。

【情報工学基礎Ⅰ】 担当：佐々木 裕司

第1回 情報工学で学ぶこと

現代の情報技術（IT）について学ぶ情報工学の概要を説明する。情報工学を構成する学びの系統と、電子情報工学科における情報系科目の構成について概観し、情報工学と電子工学の関係、さらにその周辺分野との関係についても説明する。

【基礎演習】 担当：菊地 慶仁，高氏 秀則，菅原 滋晴，内田 ゆず

第11回 技術者講習

現役のエンジニアをお招きして、電気・機械・IT業界研究、商品開発の現場、就職へ向けて大学生が取り組むべきこと等について講演していただく。卒業後の進路と就職について知る機会を設けることで、本学科での学びの意義を考える機会とする。

4. コンピュータやネットワークに関する知識と大学での学びに必要なコンピュータの操作方法の習得

【情報リテラシー演習】 担当：大西 真一

第2回 情報セキュリティ

第3回 コンピュータとデバイスの利用法

- 第4回 コンピュータネットワーク
- 第5回 Eメールの仕組み
- 第9回 情報倫理
- 第10～11回 画像ファイルの仕組み
- 第12～13回 情報検索の仕組み

【コンピュータ科学】 担当：船川 大樹

- 第2回 Windowsコンピュータの基本的な使い方・メール
- 第3～5回 文書作成ソフトウェアWordの操作
- 第6～11回 表計算ソフトウェアExcelの操作
- 第12～14回 プレゼンテーションソフトウェアPowerPointの操作

5. 学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

【クラス顧問ガイダンス】 担当：クラス顧問

大学での学習方法や、学生生活を送るうえでの注意事項を説明する。

【アカデミックアドバイザー】 担当：電子情報工学科の各教員

各学生に対して1名の教員がアカデミックアドバイザーとなり、1年に2回個別面談を行い、成績や単位の修得状況をもとに、学生生活や進路についてアドバイスを行う。

電子情報工学科開講科目系統図

区分	1 年		2 年		3 年		4 年	
	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期
一般教育科目	基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） 身体，情報 教養科目 人文科学，社会科学，自然科学，北海道学 キャリア形成科目 体験型科目，留学生科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （山鼻校舎にて開講）		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （豊平校舎にて開講）		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） （豊平校舎にて開講）	
専門教育科目	基礎数物系	線形代数学Ⅰ 物理学Ⅰ 確率統計	線形代数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 物理学Ⅱ 代数学序論 幾何学序論 解析学序論	微分積分学Ⅱ 幾何学Ⅰ 数理統計学 代数学Ⅰ 解析学Ⅰ	幾何学Ⅱ 代数学Ⅱ 解析学Ⅱ			
	数応物系用			[応用数学Ⅰ] [物理数学]	応用数学Ⅱ	[数理工学]	[数値解析Ⅰ]	数値解析Ⅱ
	電子系	電子工学基礎Ⅰ	電子工学基礎Ⅱ 電気回路基礎	[電気回路Ⅰ] [電気磁気学Ⅰ] [電子物性]	電気回路Ⅱ 電気磁気学Ⅱ 固体電子工学 [電子回路Ⅰ]	[電子デバイス] 電子回路Ⅱ 電波工学	光エレクトロニクス 論理回路	電気電子材料学 集積回路
	情報系	情報工学基礎Ⅰ	情報工学基礎Ⅱ	[計算機アーキテクチャ] [プログラミング序論Ⅰ]	オペレーティングシステム [計算機言語学Ⅰ] [プログラミング序論Ⅱ]	計算機言語学Ⅱ システムとネットワーク データ工学	アルゴリズム通論 自然言語処理 情報理論 画像工学	知識情報工学
	応用系				[電子計測] プレゼンテーション	[光工学Ⅰ] [制御工学Ⅰ] [工学倫理] 通信工学通論 情報通信システム	光工学Ⅱ 制御工学Ⅱ 電気工学通論 音響工学	センサ工学 システム工学 通信法規
実習等験	情報リテラシー演習 基礎演習 数学演習	物理学演習	計算機実習Ⅰ	計算機実習Ⅱ 電子情報工学実験Ⅰ	計算機実習Ⅲ 電子情報工学実験Ⅱ インターンシップ*	プロジェクト実習A プロジェクト実習B	卒業研究	

太字：必修科目 [] で囲まれた太字科目：選択必修科目 * インターンシップは2026年度の開講はありません。

2018年度（平成30年度）以降入学者 一般教育科目一覧表

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	基盤科目 (言語)					
	・英語					
	英語リーディングⅠ	1				1
	英語リーディングⅡ	1				1
	英語リーディングⅢ		1			1
	英語リーディングⅣ		1			1
	英語コミュニケーションⅠ	1				1
	英語コミュニケーションⅡ	1				1
	英語コミュニケーションⅢ		1			1
	英語コミュニケーションⅣ		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ	1				1
	英語ライティングⅡ	1				1
	英語文化演習ⅠA		2			2
	英語文化演習ⅡA		2			2
	・共通					
	世界の言語と文化	2				2
	・ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	(身体)					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	(情報)					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	教養科目 (人文科学)					
	・自己					
	哲 学	2				2
	倫 理 学 I	2				2
	倫 理 学 II	2				2
	論 理 学 I	2				2
	論 理 学 II	2				2
	社 会 思 想 史	2				2
	行 動 科 学	2				2
	基 礎 心 理 学	2				2
	人 間 関 係 論	2				2
	・文化					
	日 本 文 学	2				2
	外 国 文 学 I	2				2
	外 国 文 学 II	2				2
	言 語 学 I	2				2
	言 語 学 II	2				2
	芸 術 論 I	2				2
	芸 術 論 II	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現 代 文 化 論	2				2
	音 声 学 セ ミ ナ ー	2				2
	一 般 言 語 学 セ ミ ナ ー	2				2
	デ ザ イン セ ミ ナ ー I	2				2
	デ ザ イン セ ミ ナ ー II	2				2
	・歴史					
	歴 史 学 I	2				2
	歴 史 学 II	2				2
	歴 史 学 III	2				2
	歴 史 学 IV	2				2
	考 古 学	2				2
	人 文 科 学 特 別 講 義	2				2
	(社会科学)					
	・社会構造					
	法 学	2				2
	日 本 国 憲 法 学	2				2
	経 済 治 学	2				2
	政 治 学	2				2
	社 会 学	2				2
	マ ス コ ミ 論	2				2
	生 涯 学 習 論	2				2
	・地域					
	地 理 学	2				2
	人 類 学	2				2
	地 誌 学	2				2
	国 際 事 情	2				2
	カナダの自然と社会 I	2				2
	カナダの自然と社会 II	2				2
	社 会 科 学 特 別 講 義	2				2
	(自然科学)					
	・環境					
	地 球 科 学 I	2				2
	地 球 科 学 II	2				2
	環 境 生 物 科 学 I	2				2
	環 境 生 物 科 学 II	2				2
	物 質 科 学	2				2
	物 質 環 境 科 学	2				2
	宇 宙 科 学 I	2				2
	宇 宙 科 学 II	2				2
	地 球 環 境 セ ミ ナ ー I	2				2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	地 球 環 境 セ ミ ナ ー II	2				2
	環 境 生 物 科 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	環 境 生 物 科 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	化 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	化 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	宇 宙 科 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	宇 宙 科 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	・普遍性					
	数 学 概 論 I	2				2
	数 学 概 論 II	2				2
	物 理 学 概 論 I	2				2
	物 理 学 概 論 II	2				2
	数 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	数 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	自 然 科 学 特 別 講 義	2				2
	(北海道学)					
	北 海 道 史	2				2
	北 方 圏 文 化 論	2				2
	北 海 道 文 学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大 学 史	2				2
	北 海 道 学 特 別 講 義	2				2
	(教養科目)					
	教 養 科 目 特 別 講 義	2				2
	計	144				144

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	キャリア形成科目					
	キャリア・アントレプレナーシップ	2				2
	計	2				2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海 外 文 化 I	1				1
	海 外 文 化 II	1				1
	海 外 文 化 III	1				1
	海 外 文 化 IV	1				1
	計	4				4

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	留学生科目 (外国人留学生・海外 帰国生徒科目)					
	〈代替科目〉					
	日 本 語 演 習 I	2				2
	日 本 語 読 解 ・ 構 文 I	2				2
	日 本 語 文 章 表 現 I	2				2
	日 本 語 演 習 II	2				2
	日 本 語 読 解 ・ 構 文 II	2				2
	日 本 語 文 章 表 現 II	2				2
	日 本 語 演 習 III		2			2
	日 本 事 情 I		2			2
	日 本 語 演 習 IV		2			2
	日 本 事 情 II		2			2
	計	12	8			20

専門教育科目【電子情報工学科 2018年度以降入学者】

分野	必修 ○	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 ク ラ ス 等	備 考
基礎数物系	○	21026	1	線 形 代 数 学 I	2	藤田 晃平	1	R1	
		21027						R2	
		21200				有馬研一郎	2		
	○	21028	2	線 形 代 数 学 II	2	藤田 晃平	1	R1	
		21029						R2	
		21201				陶山 大輔	2		
	○	21031	2	微 分 積 分 学 I	2	船川 大樹	1	R1	
		21030						R2	
		21202				陶山 大輔	2		
	○	21223	1	微 分 積 分 学 II	2	佐野 貴志	2	R1	
		21210						陶山 大輔	R2
		21007	1	確 率 統 計	2	船川 大樹	1		
		21051	1		2	青木 雅允	2		
		21127	1	数 理 統 計 学	2	船川 大樹	2		
		21012	2	代 数 学 序 論	2	陶山 大輔	1		
		21206	1	代 数 学 I	2	陶山 大輔	2		
		21207	2	代 数 学 II	2	陶山 大輔	2		
		21013	2	幾 何 学 序 論	2	佐野 貴志	1		
		21115	1	幾 何 学 I	2	佐野 貴志	2		
		21116	2	幾 何 学 II	2	佐野 貴志	2		
	21014	2	解 析 学 序 論	2	山本 隆範	1			
	21208	1	解 析 学 I	2	山本 隆範	2			
	21205	2	解 析 学 II	2	山本 隆範	2			
○	21009	1	物 理 学 I	2	前田 秀基	1			
	21110						羽部 千景	2	
○	21011	2	物 理 学 II	2	前田 秀基	1			
	21111						羽部 千景	2	
応用数物系	△	23101	1	応 用 数 学 I	2	大西 真一	2		
		23102	2	応 用 数 学 II	2	大西 真一	2		
	△	23207	1	物 理 数 学	2	菅原 滋晴	2		
	△	23204	1	数 理 工 学	2	大西 真一	3		
	△	23138	2	数 値 解 析 I	2	栗原 正仁	3		
		23173	1	数 値 解 析 II	2	菊地 慶仁	4		
電子系		23023	1	電 子 工 学 基 礎 I	2	元木 邦俊	1		
		23024	2	電 子 工 学 基 礎 II	2	藤原 英樹	1		
		23003	2	電 気 回 路 基 礎	2	笹森 崇行	1		
	△	23109	1	電 気 回 路 I	2	笹森 崇行	2		
		23110	2	電 気 回 路 II	2	笹森 崇行	2		
	△	23111	2	電 子 回 路 I	2	元木 邦俊	2		
		23128	1	電 子 回 路 II	2	菅原 滋晴	3		
	△	23105	1	電 気 磁 気 学 I	2	藤原 英樹	2		
		23106	2	電 気 磁 気 学 II	2	藤原 英樹	2		
	△	23107	1	電 子 物 性	2	菅原 滋晴	2		
		23108	2	固 体 電 子 工 学	2	菅原 滋晴	2		
	△	23134	1	電 子 デ バ イ ス	2	藤原 英樹	3		
		23171	2	光 エ レ ク ト ロ ニ ク ス	2	岡本 淳	3		

専門教育科目【電子情報工学科 2018年度以降入学者】

分野	必修 ○	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 ク ラ ス 等	備 考
電子系		23137	2	論 理 回 路	2	青木 直史	3		
		23135	1	電 波 工 学	2	日景 隆	3		
		23163	1	電 気 電 子 材 料 学	2	菅原 滋晴	4		
		23165	1	集 積 回 路	2	田中 之博	4		
情報系		23025	1	情 報 工 学 基 礎 I	2	佐々木裕司	1		
		23026	2	情 報 工 学 基 礎 II	2	佐藤 晴彦	1		
	△	23208	1	プ ロ グ ラ ミ ン グ 序 論 I	2	内田 ゆず	2		
	△	23209	2	プ ロ グ ラ ミ ン グ 序 論 II	2	内田 ゆず	2		
	△	23210	1	計 算 機 ア ー キ テ ク チ ャ	2	佐々木裕司	2		
		23115	2	オ ペ レ ー テ ィ ン グ シ ス テ ム	2	佐藤 晴彦	2		
	△	23116	2	計 算 機 言 語 学 I	2	佐藤 晴彦	2		
		23139	1	計 算 機 言 語 学 II	2	佐藤 晴彦	3		
		23174	2	自 然 言 語 処 理	2	内田 ゆず	3		
		23153	2	シ ス テ ム と ネ ッ ト ワ ー ク	2	青木 直史	3		
		23140	2	ア ル ゴ リ ズ ム 通 論	2	佐藤 晴彦	3		
		23143	2	情 報 理 論	2	喜田 拓也	3		
		23144	1	デ ー タ 工 学	2	菊地 慶仁	3		
		23175	2	画 像 工 学	2	高氏 秀則	3		
		23166	1	知 識 情 報 工 学	2	ジェブカ ラフアウ	4		
応用系		23118	2	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	2	鈴木亜也子	2		
	△	23117	2	電 子 計 測	2	佐々木裕司	2		
	△	23145	1	光 工 学 I	2	佐々木裕司	3		
		23146	2	光 工 学 II	2	笹木 敬司	3		
	△	23147	1	制 御 工 学 I	2	高氏 秀則	3		
		23148	2	制 御 工 学 II	2	高氏 秀則	3		
		23151	1	通 信 工 学 通 論	2	宮下 元利	3		
	△	23154	1	工 学 倫 理	2	峨家 大尚	3		
		23149	2	電 気 工 学 通 論	2	原 亮一	3		
		23150	2	音 響 工 学	2	元木 邦俊	3		
		23152	2	情 報 通 信 シ ス テ ム	2	広奥 暢	3		
		23167	1	セ ン サ 工 学	2	高氏 秀則	4		
		23169	1	シ ス テ ム 工 学	2	青木 直史	4		
	23170	1	通 信 法 規	2	元木 邦俊	4			
実験実習等		23021	1	情 報 リ テ ラ シ ー 演 習	1	大西 真一 任 捷 森 啓	1	R 1	
		23006						R 2	
		23027	1	基 礎 演 習	1	菊地 慶仁 高氏 秀則 菅原 滋晴 内田 ゆず	1	R 1 奇数	
		23031						R 1 偶数	
		23032						R 2 奇数	
		23033						R 2 偶数	
		23028	1	数 学 演 習	1	船川 大樹 矢不 俊文	1	R 1	
		23034						R 2	
		23029	2	物 理 学 演 習	1	羽部 千景 羽部 朝男	1		
	23030								

専門教育科目【電子情報工学科 2018年度以降入学者】

分野	必修 ○	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考
実験実習等	○	23125	1	計 算 機 実 習 I	1	佐藤 晴彦 任 捷 宮下 元利	2	R 1	
		23124				藤原 英樹 熊澤 拓哉 大西 悠生		R 2	
	○	23126	2	計 算 機 実 習 II	1	大西 真一 宮下 元利 中前 俊祐	2	R 1	
		23127				内田 ゆず 高田 友弥 任 捷		R 2	
		23157	1	計 算 機 実 習 III	1	任 捷 久保田 健太 渡部 航史	3		
		23212	2	プ ロ ジ ェ ク ト 実 習 A	1	佐々木 裕司 五箇 亮太 ジェパ ラファウ	3		
		23213	2	プ ロ ジ ェ ク ト 実 習 B	1	高氏 秀則 森 啓	3		
	○	23123	2	電 子 情 報 工 学 実 験 I	1	菅原 滋晴 菊地 慶仁 向平 敏史	2	R 1	
		23190						R 2	
	○	23172	1	電 子 情 報 工 学 実 験 II	1	元木 邦俊 笹森 崇行	3	R 1	
		23155						R 2	
		23162	1	イ ン タ ー ン シ ッ プ	2	各担当教員	3		2026年度開講せず
	○	23901	通年	卒 業 研 究	6	佐々木 裕司	4		
		23902				元木 邦俊			
23903		菊地 慶仁							
23904		笹森 崇行							
23905		大西 真一							
23906		藤原 英樹							
23907		高氏 秀則							
23908		菅原 滋晴							
23909		佐藤 晴彦							
23910		内田 ゆず							

進級および卒業要件・目標修得単位

1. 進級要件（1年次から2年次へ）

以下の要件を満たした1年次学生は、2年次に進級することができます。この要件を満たさない場合は、1年次に留め置きとなります。

⎧	一般教育科目	14単位以上修得
	専門教育科目 基礎数物系必修	6単位以上修得
	選択	7単位以上修得（基礎数物系を除く）

この単位数は、「1年次に修得しておく必要のある最低限の単位数」を元に設定しており、進級や卒業に向けて安心できる単位数ではありません。したがって、後述の目標修得単位を元に慎重に履修計画を立てる必要があります。

2. 進級要件（3年次から4年次へ）

以下の要件を満たした3年次学生は、4年次に進級することができます。この要件を満たさない場合は、3年次に留め置きとなります。

総単位数……90単位以上修得

この単位数は、過去の例から「卒業の可能性が最低限残されている」との判断から設定されています。しかし、90単位程度で進級した場合には、下級年次の科目を多数履修しながら卒業研究を行うことになるので卒業要件を満たすことは容易ではありません。

3. 卒業見込証明書の発行条件

3年次終了時に以下の条件を満たしている学生は、卒業見込証明書の発行を受けることができます。卒業見込証明書がない場合には、就職活動に大きな支障となるので注意してください。

総単位数……100単位以上修得

この単位数は、過去の例から「卒業の見込みがかなりある」との判断から設定されていますが、卒業を保証するものではありません。卒業見込証明書が発行されても、卒業要件を満足しないために卒業できない場合があります。4年次の開始時に100単位未満であっても、4年次1学期終了時に100単位以上を修得した場合は、卒業見込証明書の発行を受けることができます。

4. 卒業要件

電子情報工学科では、学部長が教授会の議を経て以下の単位の修得を認定した者に、学長が卒業を許可します。

一般教育科目	22単位以上	⎧	総計128単位以上
	(英語4科目4単位以上を含む)		
専門教育科目	{ 必修……22単位 選択……76単位以上		
	(選択必修30単位以上を含む、基礎数物系を除く)		
ほか全体から	8単位以上		

60単位を超えた遠隔授業の単位は卒業要件に含みません。

5. 目標修得単位

卒業に必要な単位数は128単位以上なので、単純に1年間の平均修得単位数を計算すると $128/4 = 32$ 単位となります。しかし、4年次開講の専門教育科目は、20単位（1学期14単位、2学期は通年の卒業研究のみ）しかありません。4年次では、卒業研究や就職活動、大学院受験などに多くの時間を割く必要があります。さらに128単位は、あくまで最低限の総単位数ですので、総単位数のみを見て機械的に履修することなく、余裕を見ながら卒業に必要な各要件を満たしていく必要があります。一方、あまりに多くの科目を履修した場合には、予習、復習の時間が十分に取れず、結果として不合格になる科目が多くなることも考えられるので、無理の無い履修を勧めます。

一般に、1年次では専門科目基礎数物系の必須科目を履修するとともに、一般教育科目を多く履修することを勧めます。2・3年次では、専門教育科目や実験および実習の比重が高くなるため、多くの科目を履修することは難しくなります。

電子情報工学科では、各学年での目標修得単位数を以下のように設定しています。この単位数を念頭に置いて履修計画を立ててください。

1年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	15単位以上(英語2科目2単位を含む)	基礎数物系必修5科目10単位および基礎数物系を除く選択7科目12単位以上	44単位以上

2年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	22単位以上(英語4科目4単位を含む)	60単位以上	82単位以上

3年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	22単位以上(英語4科目4単位を含む)	90単位以上	112単位以上

履修上の注意

1. 授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

各授業科目の単位数の計算は、次の各号に掲げる基準による。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (4) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (5) 体育実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

授業時間は90分を単位（1時限）として、時間割が組まれています。毎週1回（1時限）の授業（45分を1時間として計算）を2時間とし、一つの学期で15回の授業があります。毎週1回の授業を一つの学期に受けた場合には、通算の授業時間は2時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には2単位、「外国語、演習、体育実技」の場合には1単位として計算されます。外国語科目については、さらに以下のことが定められています（工学部規則第4条）。

外国語科目のうち学則第20条第2号ただし書きの規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは、別に定める。

15時間の授業をもって1単位とする科目は、以下のとおりです。

英語文化演習ⅠA及びⅡA

世界の言語と文化

- （ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）文化Ⅰ、Ⅱ及びⅢ
- （ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
- （ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
- （ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの科目は一つの学期で毎週1回（1時限）の授業が行われるので、通算の授業時間は30時間となり、2単位として計算されます。上記以外の外国語科目については、通算の授業時間は同様に30時間ですが、すべて1単位として計算されます。

2・3年次で電子情報工学実験Ⅰ・Ⅱ、計算機実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ、プロジェクト実習A・Bが2時限連続して行われます。この場合の授業時間数は、一つの学期で2時間×2×15週＝60時間となりますが、各1単位です。また、卒業研究は15時間の授業をもって1単位となります（工学部規則第4条）。

各科目毎の単位数については、「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

2. 授業科目について

各年次に開講されている科目は、原則としてその年次に履修してください。上級年次の者は、下級年次に開講されている科目を履修できますが、下級年次の者は、上級年次に開講されている科目を履修することはできません。

必修科目は必ず履修し単位を修得しなければなりません。必修科目が不合格となった場合には、翌年度に再び履修しなければなりません。選択必修科目は全科目を履修し卒業要件に定めた単位を修得する必要があります。選択科目は、自由に選択し履修することができますが、各区分ごとに卒業に必要な単位数が定められていますので注意してください。

各科目区分毎に、その概略と履修上の注意点を記すと以下のようになります。詳細は「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

一般教育科目	すべて選択科目（189科目，321単位）
---------------	----------------------

- 外国語科目を除き1年次にすべて豊平校舎で開講されます。これらの科目の中には2つの学期にそれぞれ同じ科目が開講され、どちらを履修しても良い場合があります。ただし、両方をともに履修することはできません。
- 2年次に進級後、これらの科目を履修することは校舎が離れていることや授業時間割及び試験時間割の制約上から、原則としてできません（体育実技を除く）。ただし、主に再履修（新規履修も含む）者を対象として、山鼻校舎でも限られた一部の科目を開講しています。
- 英語科目については、1・2年次に開講されます。
- 英語以外の外国語科目として、ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語が開講されます。
- 電子情報工学科では、2年次終了までに4科目4単位以上の英語科目の単位修得を目標にしています。また、卒業単位数（128単位以上）の中に英語4科目4単位以上を含んでいなければなりません。
- 英語以外の外国語科目は、韓国・朝鮮語を除いて1～4年次に開講されています。ただし、3・4年次に開講されている外国語科目は、豊平校舎での受講となりますので注意してください。

専門教育科目	必修科目（11科目，22単位），選択必修科目（17科目，34単位），選択科目（54科目，101単位）
---------------	--

- 1～4年次に開講されます。
- 専門教育科目は、“基礎数物系”、“応用数物系”、“電子系”、“情報系”、“応用系”、“実験実習等”の科目群からなっています。
- 1年次に配当されている専門教育科目の選択科目は、豊平校舎でのみ開講されます。2年次に進級後、これらの科目を履修することは、校舎が離れていること、および時間割の制約上からできませんので注意してください。
- 選択必修科目は、全科目を履修し卒業要件に定めた単位を修得する必要があります。
- 卒業研究は、通年で6単位です。

3. その他の注意

シラバスには科目名、担当者、単位数、開講期、開講年次、「授業のねらい」、「授業計画」、「準備学習の内容」、「評価方法・基準」、「履修上の留意点」、「教科書」、「参考書」が記載されています。これらの内容をよく読んで、履修する際の参考にしてください。また、「授業計画」は当初の計画であり、実際の授業の進行状況によっては、変更もあり得ますが、予習・復習の際の参考にしてください。なお、これらの授業科目のうち、一部の選択科目ではその科目の内容によって、履修者を一定人数に制限している場合や、関連する科目を前もって履修しておかなければ、その科目を履修できない場合があります。シラバスには、これらの点についても記載されているので注意してください。

特に外国語科目や専門教育科目等の中には、下級年次に開講される科目との関連に注意しなくてはならない科目が含まれています。したがって、履修する年次だけでなく、次年度以降に履修予定の上級年次の科目のシラバスについても、よく読んでおいてください。

授業開始から履修届の提出期限までの間には、一定の期間が設けられています。授業科目によっては、最初の授業で履修のためのガイダンスが行われる場合があるので、履修する可能性がある場合には、必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては、このガイドの最後に受講する場合の注意点や手続きの方法が記載されています。

なお、外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており、これらの科目に関する講義概要は一般教育科目のシラバスに掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒はこれらの科目

の単位を一般教育科目の単位に算入することができます。

4. 免許・資格取得・その他

本学には、通常の課程において取得できる免許・資格のほかに、通常の課程とは別に設けられた課程において取得できる免許・資格があります。これらについては、それぞれのガイダンスへ出席して、説明を受けること。

- 1) 教職課程
- 2) 図書館学課程
- 3) 社会教育主事課程
- 4) 学芸員課程
- 5) その他

工学部の学生に関する免許・資格

卒業と同時に取得できるもの、卒業後に受験資格が得られるものなどがあります。詳細については、各自確認すること（参考までにウェブサイトのURLを記載しています）。

電子情報工学科

1) 電子情報工学科の学生が目指す主な資格

ITパスポート試験

基本情報技術者試験

応用情報技術者試験

ネットワークスペシャリスト試験

データベーススペシャリスト試験

エンベデッドシステムスペシャリスト試験

第一級・二級陸上無線技術士 (<https://www.nichimu.or.jp/denpa/shikaku/index.html>)

電気通信主任技術者

(伝送交換主任技術者、線路主任技術者)

工事担任者

(第一級アナログ通信、第一級デジタル通信、総合通信)

電気主任技術者(第三種)、電気工事士(第二種) (<https://www.shiken.or.jp/>)

} <https://www.ipa.go.jp/shiken/index.html>

} (<https://www.dekyo.or.jp/shiken/>)

2) 所定の科目を修得し、卒業後取得できる資格

第一級陸上特殊無線技士

第二級海上特殊無線技士

} (<https://www.nichimu.or.jp/denpa/shikaku/index.html>)

I 教 育 課 程

【生命工学科】

- カリキュラム・マップ
- カリキュラム・ツリー
- 初年次教育プログラム

生命工学科カリキュラム・マップ

■生命工学科の学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）

学則に定める所定の修業年限及び修得単位を満たし、次の能力・資質を身に付けた学生に学士（工学）の学位を授与します。

- (1) 学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけている。
- (2) 生命科学と情報工学の両分野にまたがる高度な専門知識と工学基礎技術を習得している。
- (3) 生命と情報に対する幅広い洞察力と生命・環境への高い倫理観を併せ持っている。
- (4) 既成概念にとらわれずに新しい技術分野に積極的に挑戦することができる。
- (5) 他者との協働においてコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、自主性や協調性に基づいて適切に行動することができる。

■生命工学科の教育課程編成方針（カリキュラム・ポリシー）

生命工学科は「人間」と「生命環境」にやさしい先端テクノロジーを中心に、環境調和型のコミュニケーション社会に必要とされる知識とスキルを幅広く学ぶことを目標とします。そのために本学科の専門科目は、理学系科目を中心とした「生命科学系」と、工学系科目を中心とした「人間情報工学系」の2つの柱で構成されます。「生命科学系」では、分子生物学を中心に、ゲノムテクノロジーや分子医学、あるいは近年注目を集めているグリーンテクノロジーなど、急速に発展を続ける「ライフサイエンス」に関する先端知識と基本スキルを習得します。「人間情報工学系」では、人間工学や感性工学、応用情報学など、「人にやさしいテクノロジー」を目指すために必要不可欠な「ヒューマンウェア」に関する先端知識と基本スキルを習得します。

【教育理念】

生命工学科では、生命科学と情報工学のそれぞれの分野で活躍する専門技術者の養成に加え、両分野の専門知識とスキルを併せ持ち、生命と情報が融合した新分野の技術開発に積極的に資することのできる人材を社会に輩出してゆくことを目指しています。そのため、両分野にまたがる高度な専門知識と工学基礎技術を習得し、生命と情報に対する幅広い洞察力と生命・環境への高い倫理観を併せ持つ人材、既成概念にとらわれずに新しい技術分野に積極的に挑戦する人材、そして、他者との協働の際に高いコミュニケーション能力に基づき適切に行動に移せる人材を育成します。

I 教育目標

1年次から2年次にかけて広く総合的な判断力や批判力を身につけるために学ぶ「一般教育科目」と、4年間を通じ生命科学と人間情報工学の両分野を深く理解するために開講される「専門教育科目」を、バランスよく習得することが重要であると考えています。

一般教育科目では、言語科目や人文科学・社会科学・自然科学分野の科目について、学生自身の知的好奇心に即した多様な講義の選択ができるようにしています。専門教育は、生命科学系と人間情報工学系の講義ならびに実験・実習科目で構成されており、両分野の専門家として欠くことのできない専門的基礎理論からより高度な専門課程へと、知識とスキルの両面で無理なく着実に学習が展開できるよう配慮されています。

生命系では急速に発展する分子生物学を中心に学び、人間情報系ではこれからの情報コミュニケーション社会に必要なヒューマンウェアに関する情報技術を学びます。また、生命科学と情報工学の両分野の実験・実習科目を必修科目として課し、バイオ技術と情報処理という2つの先端テクノロジーの基本を具体的に体得させ、人間と生命環境にやさしい次世代工学技術の創生に貢献できる意欲的な人材を養成するカリキュラムとなっています。

II 学習目標

1. 様々な学修に通じる基礎的な知識やスキル、リテラシーを習得する。
2. 一般的・普遍的な教養を身につける。
3. 分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち、最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得する。

4. 専門的情報技術に強い関心を持ち、高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得する。
5. 工学基礎理論に関する知識を身につけることで、目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得する。
6. 生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき、未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を醸成する。
7. 生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得する。
8. 未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得する。
9. グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し、批判する能力を習得する。
10. 他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得する。
11. 他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得する。
12. 他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動する。

〈到達目標〉		対応する学位授与方針 (左から主な順)
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得している。	(1)
B	一般的・普遍的な教養を身につけている。	(1)
C	分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち、最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得している。	(2) - (4)
D	専門的情報技術に強い関心を持ち、高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得している。	(2) - (4)
E	工学基礎理論に関する知識を身につけることで、目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得している。	(2) - (4)
F	生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき、未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を有している。	(3) - (5)
G	生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得している。	(3) - (5)
H	未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得している。	(4)
I	グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し、批判する能力を習得している。	(4)
J	他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得している。	(5)
K	他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得している。	(5)
L	他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動できる。	(5)

■工学部ナンバリング



授業科目名		単位	開講年次	学科科目 No.	到達目標													
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L		
一般教育科目	キャリア形成科目	キャリア・アントレプレナーシップ	2	1	LAca101		○											
	体験型科目	海外文化Ⅰ	1	1	LAov101		○											
		海外文化Ⅱ	1	1	LAov102		○											
		海外文化Ⅲ	1	1	LAov103		○											
		海外文化Ⅳ	1	1	LAov104		○											
専門教育科目	専門基礎	線形代数学Ⅰ	2	1	LBMa101					○								
		線形代数学Ⅱ	2	1	LBMa102					○								
		微分積分学Ⅰ	2	1	LBMa103					○								
		微分積分学Ⅱ	2	2	LBMa204					○								
		確率統計	2	1	LBMa105					○								
		現代物理学入門	2	1	LBPh106					○								
		物理学Ⅰ	2	1	LBPh107					○								
		物理学Ⅱ	2	2	LBPh208					○								
		物理化学	2	2	LBPh209					○								
		Academic English	2	2	LBEn210										○	○	○	
		シミュレーション科学	2	3	LBSi311					○					○			
		ITビジネス論	2	3	LBBu316					○					○	○	○	
		科学技術英語	2	3	LBEn313					○					○	○	○	
		バイオビジネス論	2	3	LBBu314					○					○	○	○	
		プレゼンテーション	2	3	LBAn315										○	○	○	
	生命工学総論	2	1	LBGe116					○			○	○					
	生命科学系	生命工学倫理	2	1	LCLi101						○	○	○	○	○	○		
		化学概論	2	1	LCCh102			○										
		生物学基礎	2	1	LCLi103			○										
		環境工学序論	2	1	LCNe104			○										
		生物学概論	2	1	LCLi105			○										
		有機化学	2	1	LCCh106			○										
		微生物学	2	1	LCLi107			○										
		先端生命科学	2	1	LCLi108			○		○		○	○		○	○	○	
		環境・エネルギーシステム論	2	2	LCNe209			○										
		生物多様性論	2	2	LCLi110			○										
		地球環境論	2	2	LCNe211			○										
		生化学Ⅰ	2	2	LCCh212			○		○		○	○					
		生化学Ⅱ	2	2	LCCh213			○										
		分子生物学Ⅰ	2	2	LCLi214			○										
		分子生物学Ⅱ	2	2	LCLi215			○										
		バイオテクノロジーセミナー	2	3	LCLi316			○					○	○	○	○	○	
		細胞生物学Ⅰ	2	3	LCLi317			○			○	○		○	○	○	○	
細胞生物学Ⅱ		2	3	LCLi318			○			○	○		○	○	○	○		
遺伝子工学Ⅰ		2	3	LCGe319			○											
遺伝子工学Ⅱ		2	3	LCGe320			○											
バイオインフォマティクス		2	3	LCLi321			○											
生命科学の未来		2	4	LCLi422			○			○	○	○	○	○	○	○		
人間情報工学系		情報処理論	2	1	LDIn101					○								
		アルゴリズムとデータ構造	2	2	LDCo208				○	○		○						
	データベースとネットワーク	2	2	LDCo204				○	○									
	プログラミング入門	2	2	LDCo209					○									
	システム概論	2	2	LDCo205				○	○		○							
	テキストマイニング	2	2	LDCo210				○	○			○						
	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	2	LDCo211				○	○		○							
	人工知能概論	2	3	LDIn319				○	○			○						
	データマイニング	2	3	LDIn320				○	○			○						
	人間工学概論	2	2	LDTe210				○	○									
	計測工学	2	2	LDTe211				○										
	社会心理学	2	2	LDSo212				○										
	感覚情報処理	2	3	LDIn313				○	○									
	情報数理学	2	3	LDIn321				○										
	情報理論	2	3	LDIn316				○										
	音声工学概論	2	3	LDTe317				○										
	生活支援工学	2	3	LDTe318				○										
	運動機能計測	2	4	LDMe419				○										
	ユニバーサルデザイン論	2	4	LDDe420				○										

授業科目名		単位	開講年次	学科科目No.	到達目標													
					A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L		
専門教育科目	実験・実習・演習	地学実験	1	1	LEEx101								○	○	○	○	○	
		生物学実験	1	2	LEEx202									○	○	○	○	○
		物理学実験	1	3	LEEx303									○	○	○	○	○
		化学実験	1	2	LEEx204									○	○	○	○	○
		バイオテクノロジー実習Ⅰ	1	3	LEPr305			○						○	○	○	○	○
		バイオテクノロジー実習Ⅱ	1	3	LEPr306			○						○	○	○	○	○
		情報リテラシー演習	2	1	LEPr108					○						○		
		データ解析演習	2	2	LEPr210									○	○	○	○	
		アルゴリズムとデータ構造演習	1	2	LEPr211				○	○		○		○	○	○		
		プログラミング演習Ⅰ	2	2	LEPr212				○					○	○	○	○	
		プログラミング演習Ⅱ	2	3	LEPr316				○					○	○	○	○	○
		Webエンジニアリング演習	1	3	LEPr317				○	○				○	○	○	○	○
		Webアプリケーション演習	1	3	LEPr318				○	○				○	○	○	○	○
		インターシップA	1	3	LEWo314									○	○	○	○	○
		インターシップB	2	3	LEWo315									○	○	○	○	○
卒業研究	6	4	LERe416							○	○	○	○	○	○	○		

生命工学科 カリキュラム・ツリー

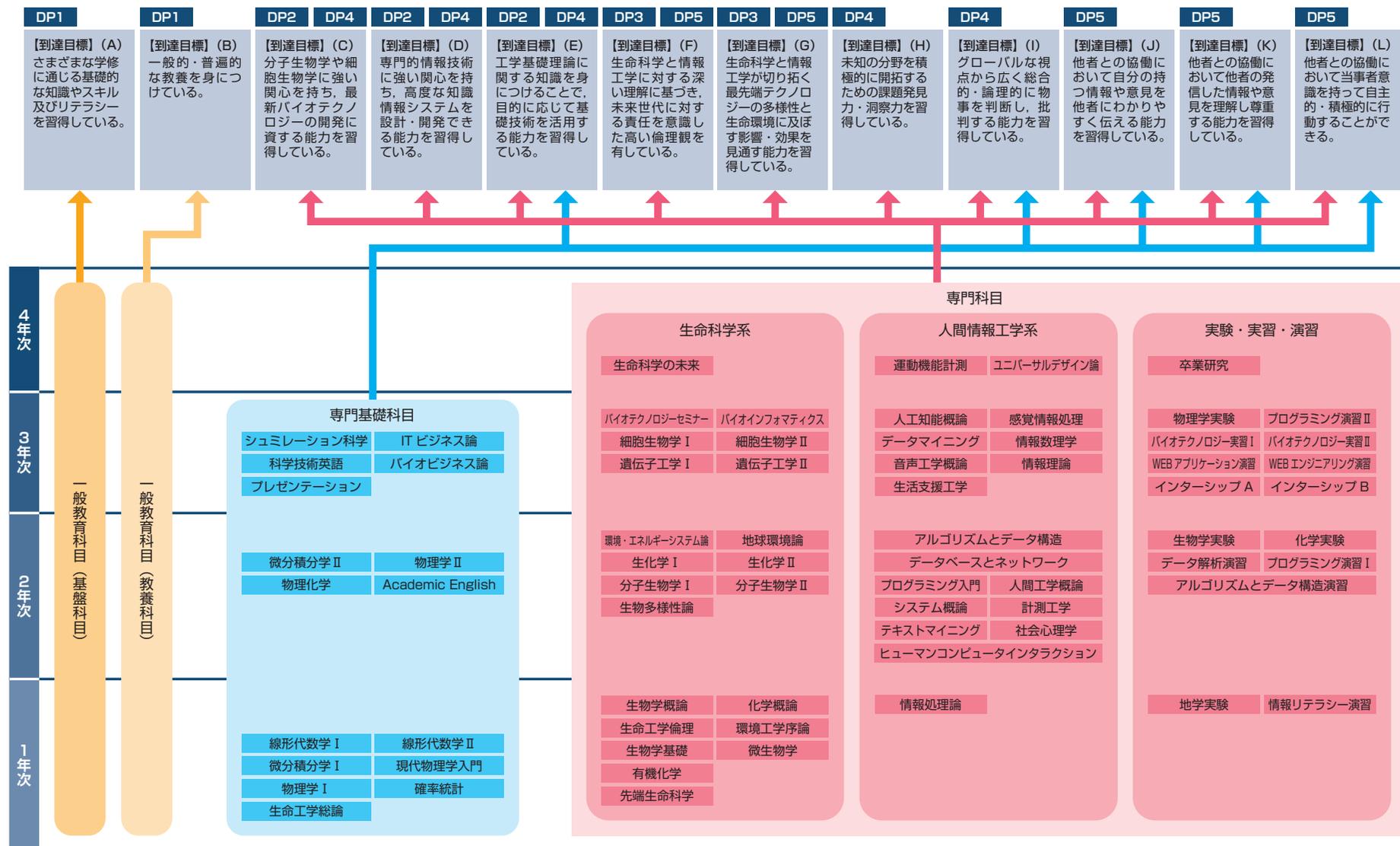
[DP1]
学士としての基礎的な知識や一般的な教養を身につけている。

[DP2]
生命科学と情報工学の両分野にまたがる高度な専門知識と工学基礎技術を習得している。

[DP3]
生命と情報に対する幅広い洞察力と生命・環境への高い倫理観を併せ持っている。

[DP4]
既成概念にとらわれずに新しい技術分野に積極的に挑戦することができる。

[DP5]
他者との協働においてコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、自主性や協調性に基づいて適切に行動することができる。



生命工学科 初年次教育プログラム

生命工学科では、以下の要領により初年次教育プログラムを実施する。プログラムの対象者は、工学部生命工学科の1年次学生である。

プログラムのねらい

(プログラムの目標)

大学生の「学び」が高校生と大きく異なる点は、「学び」に対する姿勢とそのアウトプットにあると言えよう。高校までの「学び」では、明確な答えが準備された問いを与えられ、その解法を習得することが中心であった。「学び」の到達度の評価方法は、試験の答案用紙への正解の記載が重視された。学習内容は選定された教科書から大きく逸脱することは少なく、学習時間の管理では、主に教員や保護者が設定したスケジュールに従うことが求められていたに違いない。

これに対し大学での「学び」では、自ら学ぼうとする主体的な姿勢が求められる。どのような科目を習得するかを、各自の興味や将来ビジョンに基づいて設計する必要がある。進級や卒業要件を満たすための制約はあるが、自らの意思で「学び」の方向性を決定できることが、高校までとは明確に異なる点であろう。また自身が決めた「学び」に対して、学習スケジュールを設計し、日々の時間管理にまで落とし込むスキルも求められる。大学で講義を受ける時間の他に、自習の時間、部活動やアルバイトの時間などをやりくりして日々を過ごさなければならない。高校よりも多様な活動の選択肢がある中で、大学の講義や自習に十分な時間を確保するためには、自らの学ぶ姿勢と正面から向き合う必要があるだろう。

大学での「学び」のアウトプットの場合は、試験の答案用紙への正解の記載にとどまらず、論文やレポートの作成、ディスカッションやプレゼンテーションなど多岐に渡る。その過程では、自分の考えをわかりやすく表明し他者に理解してもらうことが求められる。また自分の考えをより客観的で深みのあるものにするために、他者の意見に耳を傾ける能力も必要になる。実社会には答えのない問いや対立する考え方が多くあり、合意形成することが難しい問いが存在することを理解し、それらに対する実践的な対処法や合理的な解決法を模索することの重要性を認識することも大切である。

以上のような大学での「学び」の特性を理解し、大学の講義体系に学生の意識をスムーズに接続することを目的として、生命工学科では以下の4テーマからなる初年次教育プログラムを実施する。初年次にこのプログラムを習得することで、大学での「学び」を充実した有意義なものとし、卒業後の社会活動・人生設計の知的基盤として活用できるようになることを期待している。

(学生の学習目標)

本プログラムを受講する学生には、以下の事項を習得してもらう。

- ・少人数のグループにおいて、多様な意見を引き出せるような場を作る能力
- ・答えのない問いに対して、他者と議論しながら一定の見解を見出す能力
- ・数十人が集まる場において、自らもしくは少人数グループで出た考えを口頭で説明する能力
- ・口頭で自らの考えを述べる際に用いるプレゼンテーション資料を効率的に作成するためのパソコン操作
- ・レポート課題や論文などの科学技術文章を作成する際に必要となる考え方
- ・科学技術文章を効率的に作成するためのパソコン操作
- ・本学科で学びを継続していくための動機
- ・大学での学びと課外活動を両立させるための時間管理能力

プログラムのテーマ 生命工学科の初年次教育は、以下の4テーマから成る。

1. 協働、プレゼンテーション、ディスカッションなどの口頭発表技法についての学び
2. レポートや論文の書き方などの文章作法ならびにワープロ&表計算ソフトによる効率的な科学技術表現についての学び
3. 学科での学びに対する動機付け
4. 学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

プログラムの計画 上記の4テーマの学修を、以下に示す1年次専門科目・講義回において行う。

1. 協働, プレゼンテーション, ディスカッションなどの口頭発表技法についての学び

【生命工学倫理】 担当：高橋 考太

第9回 ディスカッションと合意形成(I)：テーマ：いつ人になりいつ人でなくなるのか？

第14回 ディスカッションと合意形成(II)：テーマ：生命の商品化とエンハンスメント

【情報リテラシー演習】 担当：喜田 拓也, 越前谷 博

第6回 PowerPointを用いた資料作成 (作図とプレゼンテーション)

【先端生命科学】 担当：水谷 武臣

第8回 グループワーク1：先端の生命科学技術を用いた研究テーマの創出について、グループでディスカッションし、発表する

第15回 グループワーク2：生命科学と情報科学技術を融合させた研究テーマの創出について、グループでディスカッションし、発表する

2. レポートや論文の書き方などの文章作法ならびにワープロ&表計算ソフトによる効率的な科学技術表現についての学び

【現代物理学入門】 担当：森越 文明

第7回 レポートにおけるわかりやすい文章の書き方について

【情報リテラシー演習】 担当：喜田 拓也, 越前谷 博

第3回 Excelを用いた表計算1 (基本操作とグラフの作成)

第4回 Excelを用いた表計算2 (データ処理)

第5回 Wordを用いた文書作成 (文書の構造とレイアウト)

3. 学科での学びに対する動機付け

【生命工学総論】 担当：生命工学科の全教員

第2～15回 各回の担当教員が生命工学科での基礎的な学びの先にある研究の話をし、受講生の学習意欲を向上させる

4. 学生生活における時間管理や学習習慣についての学び

【生命工学総論】 担当：生命工学科の教務委員

第1回 生命工学科で学んでいく上での心構え

I 教育課程

【生命工学科】

2022年度(令和4年度)以降入学者

区分	学習・教育到達目標	関連する科目
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。	「一般教育科目, 基盤科目」全体
B	一般的・普遍的な教養を身につける。	「一般教育科目, 教養科目」全体
C	分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち, 最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得する。	「専門教育科目, B群:生命科学系」全体
D	専門的情報技術に強い関心を持ち, 高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得する。	「専門教育科目, C群:人間情報工学系」全体
E	工学基礎理論に関する知識を身につけることで, 目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得する。	「専門教育科目, A群:専門基礎」全体, 情報処理論
F	生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき, 未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を有する。	生命工学倫理
G	生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得する。	先端生命科学, ヒューマンコンピュータインタラクション
H	未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得する。	「専門教育科目, D群:実験・実習・演習」全体, 生化学 I, 人工知能概論
I	グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し, 批判する能力を習得する。	「専門教育科目, D群:実験・実習・演習」全体, バイオテクノロジーセミナー
J	他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得する。	「専門教育科目, D群:実験・実習・演習」全体
K	他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得する。	「専門教育科目, D群:実験・実習・演習」全体, 細胞生物学 I
L	他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動する。	「専門教育科目, D群:実験・実習・演習」全体, 生命科学の未来

専門教育科目【生命工学科 2022年度以降入学者】

分群	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考	
専門基礎 A群		21045	1	線 形 代 数 学 I	2	小林 保幸	1			
		21200				有馬研一郎	2			
		21046	2	線 形 代 数 学 II	2	矢不 俊文	1			
		21201				陶山 大輔	2			
		21047	2	微 分 積 分 学 I	2	武田 裕康	1			
		21202				陶山 大輔	2			
		21211	1	微 分 積 分 学 II	2	有馬研一郎	2			
		21050	1	確 率 統 計	2	寺西 功哲	1			
		21051	1		2	青木 雅允	2			
		24013	1	現 代 物 理 学 入 門	2	森越 文明	1			
		21065	2	物 理 学 I	2	前田 秀基	1			
		21110	1		2	羽部 千景	2			
		21100	1	物 理 学 II	2	前田 秀基	2			
		24102	1	物 理 化 学	2	大參 達也	2			
		24159	2	Academic English	2	平田 洋子	2	W 1		
		24168						W 2		
		24129	1	シミュレーション科学	2	但木 謙一	3			
		24137	1	I T ビジネス論	2	沼田 真吾 青木 治斗	3			
		24139	1	科 学 技 術 英 語	2	八尾 泉	3			
		24141	2	バ イ オ ビジネス論	2	三浦 健人	3			
	24128	2	プ レゼンテーション	2	鈴木亜也子 鈴木 聡士	3				
	△	24001	1	生 命 工 学 総 論	2	複数の教員	1			
生命科学系 B群	△	24002	1	生 命 工 学 倫 理	2	高橋 考太	1			
		24003	1	化 学 概 論	2	久保 勘二	1			
		24014	1	生 物 学 基 礎	2	小笠原裕介	1			
		21068	1	環 境 工 学 序 論	2	山田 俊郎	1			
		24006	2	生 物 学 概 論	2	新沼 協	1			
		24004	2	有 機 化 学	2	友池 史明	1			
		24005	2	微 生 物 学	2	岩崎 晋弥	1			
		24015	2	先 端 生 命 科 学	2	水谷 武臣	1			
		24160	1	環境・エネルギーシステム論	2	鈴木 聡士	2			
		24017	1	生 物 多 様 性 論	2	早矢仕有子	2			
		24130	2	地 球 環 境 論	2	青木かおり	2			
		△	24104	1	生 化 学 I	2	友池 史明	2		
		△	24105	2	生 化 学 II	2	友池 史明	2		
		△	24106	1	分 子 生 物 学 I	2	高橋 考太	2		
		△	24107	2	分 子 生 物 学 II	2	高橋 考太	2		
		△	24169	1	バイオテクノロジーセミナー	2	水谷 武臣 高橋 考太 新沼 協 友池 史明	3		
		△	24132	1	細 胞 生 物 学 I	2	水谷 武臣	3		
		△	24133	2	細 胞 生 物 学 II	2	水谷 武臣	3		
		△	24174	1	遺 伝 子 工 学 I	2	新沼 協	3		
		△	24175	2	遺 伝 子 工 学 II	2	新沼 協	3		
		24135	2	バ イ オインフォマティクス	2	齋藤 静司	3			
		24148	1	生 命 科 学 の 未 来	2	八尾 泉	4			

専門教育科目【生命工学科 2022年度以降入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考
人間情報工学系 C群	△	24016	2	情 報 処 理 論	2	越前谷 博	1		
	△	24101	1	アルゴリズムとデータ構造	2	喜田 拓也	2		
		24162	2	データベースとネットワーク	2	平田 恵啓	2		
	△	24109	2	プログラミング入門	2	平田 恵啓	2		
	△	24163	2	システム概論	2	長谷川 大	2		
	△	24112	2	テキストマイニング	2	越前谷 博	2		
	△	24113	1	ヒューマンコンピュータインタラクション	2	長谷川 大	2		
	△	24143	1	人工知能概論	2	越前谷 博	3		
	△	24158	1	データマイニング	2	鈴木 聡士	3		
		24122	1	人間工学概論	2	平田 恵啓	2		
		24123	2	計測工学	2	横澤 宏一	2		
		24115	2	社会心理学	2	鈴木 聡士	2		
		24124	1	感覚情報処理	2	平田 恵啓	3		
		24178	1	情報数理学	2	喜田 拓也	3		
	△	23143	2	情報処理論	2	喜田 拓也	3		
		24121	2	音声工学概論	2	広奥 暢	3		
		24138	2	生活支援工学	2	橋場 参生	3		
		24149	1	運動機能計測	2	青木 直史	4		
	24147	1	ユニバーサルデザイン論	2	小宮加容子	4			
実験・実習・演習 D群		24009	1	地 学 実 験	1	青木かおり 但木 謙一	1		
		24116	1	生 物 学 実 験	1	高橋考太 新沼 協 水谷 武臣 友池 史明 早矢仕有子 八尾 泉	2		
		24142	2	物 理 学 実 験	1	森越 文明	3		
	○	24166	2	化 学 実 験	1	高橋考太 新沼 協 水谷 武臣 友池 史明 八尾 泉	2		
	○	24170	1	バイオテクノロジー実習Ⅰ	1	高橋考太 新沼 協 水谷 武臣 友池 史明 八尾 泉	3		
	○	24171	2	バイオテクノロジー実習Ⅱ	1	高橋考太 新沼 協 水谷 武臣 友池 史明 八尾 泉	3		
	○	24018	1	情報リテラシー演習	2	喜田 拓也	1	W1	
		越前谷 博				W2			
		24020				越前谷 博 喜田 拓也	2	再履修	
	○	24167	1	データ解析演習	2	鈴木 聡士 源野 雄輔	2		
○	24119	2	プログラミング演習Ⅰ	2	越前谷 博 平田 恵啓	2			
	24181				喜田 拓也 吉川 毅				

専門教育科目【生命工学科 2022年度以降入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考
実験・実習・演習 D群	○	24182	1	プログラミング演習Ⅱ	2	越前谷 博 喜田 拓也 行木 渉真	3		
	△	24126	1	アルゴリズムとデータ構造演習	1	喜田 拓也	2		
	△	24179	2	WEBエンジニアリング演習	1	長谷川 大	3		
	△	24180	1	WEBアプリケーション演習	1	長谷川 大 平田 恵啓	3		
		24172	通年	インターンシップ A	1	各担当教員	3		
		24173	通年	インターンシップ B	2	各担当教員	3		
	○	24901	通年	卒 業 研 究	6	友池 史明	4		
		24902				高橋 考太			
		24903				越前谷 博			
		24904				喜田 拓也			
		24905				鈴木 聡士			
		24906				平田 恵啓			
		24907				新沼 協			
		24908				水谷 武臣			
	24910	但木 謙一							
	24911	青木かおり							
	24912	早矢仕有子							

生命工学科開講科目系統図

区 分			1 年		2 年		3 年		4 年												
			1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期											
一般教育科目			基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） 身体情報 教養科目 人文科学 社会科学 自然科学 北海道学 キャリア形成科目 体験型科目 留学生科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）												
											専門教育科目			A 群	B 群	C 群	D 群				
														線形代数学Ⅰ 確率統計 現代物理学入門 [生命工学総論]	線形代数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 物理学Ⅰ	物理学Ⅱ 微分積分学Ⅱ 物理化学	Academic English	シミュレーション科学 ITビジネス論 バイオビジネス論	プレゼンテーション 科学技術英語		
														[生命工学倫理] 生物学基礎 化学概論 環境工学序論	生物学概論 有機化学 微生物学 先端生命科学	[生化学Ⅰ] [分子生物学Ⅰ] 環境・エネルギーシステム論 生物多様性論	[生化学Ⅱ] [分子生物学Ⅱ] 地球環境論	[細胞生物学Ⅰ] [遺伝子工学Ⅰ] [バイオテクノロジーセミナー]	[細胞生物学Ⅱ] [遺伝子工学Ⅱ] バイオインフォマティクス	生命科学の未来	
	[情報処理論]	[アルゴリズムとデータ構造] [プログラミング入門] [ヒューマンコンピュータインタラクション] 人間工学概論	[システム概論] [テキストマイニング] 社会心理学 計測工学 データベースとネットワーク	[人工知能概論] [データマイニング] 情報数理学 感覚情報処理	[情報理論] 音声工学概論 生活支援工学	ユニバーサルデザイン論 運動機能計測															
	情報リテラシー演習 地学実験		データ解析演習 生物学実験	化学実験 プログラミング演習Ⅰ [アルゴリズムとデータ構造演習]	バイオテクノロジー実習Ⅰ プログラミング演習Ⅱ [Webアプリケーション演習]	バイオテクノロジー実習Ⅱ [Webエンジニアリング演習] 物理学実験															
							インターンシップA・B*		卒業研究												

太字：必修科目 [太字]：選択必修科目 * インターンシップA・Bは、2026年度の開講はありません。

2022年度（令和4年度）以降入学者 一般教育科目一覧表

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	基盤科目 (言語)					
	・英語					
	英語リーディングⅠ	1				1
	英語リーディングⅡ	1				1
	英語リーディングⅢ		1			1
	英語リーディングⅣ		1			1
	英語コミュニケーションⅠ	1				1
	英語コミュニケーションⅡ	1				1
	英語コミュニケーションⅢ		1			1
	英語コミュニケーションⅣ		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ	1				1
	英語ライティングⅡ	1				1
	英語文化演習ⅠA		2			2
	英語文化演習ⅡA		2			2
	・共通					
	世界の言語と文化	2				2
	・ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	(身体)					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	(情報)					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	教養科目 (人文科学)					
	・自己					
	哲 学	2				2
	倫 理 学 I	2				2
	倫 理 学 II	2				2
	論 理 学 I	2				2
	論 理 学 II	2				2
	社 会 思 想 史	2				2
	行 動 科 学	2				2
	基 礎 心 理 学	2				2
	人 間 関 係 論	2				2
	・文化					
	日 本 文 学	2				2
	外 国 文 学 I	2				2
	外 国 文 学 II	2				2
	言 語 学 I	2				2
	言 語 学 II	2				2
	芸 術 論 I	2				2
	芸 術 論 II	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現 代 文 化 論	2				2
	音 声 学 セ ミ ナ ー	2				2
	一 般 言 語 学 セ ミ ナ ー	2				2
	デ ザ イン セ ミ ナ ー I	2				2
	デ ザ イン セ ミ ナ ー II	2				2
	・歴史					
	歴 史 学 I	2				2
	歴 史 学 II	2				2
	歴 史 学 III	2				2
	歴 史 学 IV	2				2
	考 古 学	2				2
	人 文 科 学 特 別 講 義	2				2
	(社会科学)					
	・社会構造					
	法 学	2				2
	日 本 国 憲 法 学	2				2
	経 済 治 学	2				2
	政 治 学	2				2
	社 会 学	2				2
	マ ス コ ミ 論	2				2
	生 涯 学 習 論	2				2
	・地域					
	地 理 学	2				2
	人 類 学	2				2
	地 誌 学	2				2
	国 際 事 情	2				2
	カナダの自然と社会 I	2				2
	カナダの自然と社会 II	2				2
	社 会 科 学 特 別 講 義	2				2
	(自然科学)					
	・環境					
	地 球 科 学 I	2				2
	地 球 科 学 II	2				2
	環 境 生 物 科 学 I	2				2
	環 境 生 物 科 学 II	2				2
	物 質 科 学	2				2
	物 質 環 境 科 学	2				2
	宇 宙 科 学 I	2				2
	宇 宙 科 学 II	2				2
	地 球 環 境 セ ミ ナ ー I	2				2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	地 球 環 境 セ ミ ナ ー II	2				2
	環 境 生 物 科 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	環 境 生 物 科 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	化 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	化 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	宇 宙 科 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	宇 宙 科 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	・普遍性					
	数 学 概 論 I	2				2
	数 学 概 論 II	2				2
	物 理 学 概 論 I	2				2
	物 理 学 概 論 II	2				2
	数 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	数 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	自 然 科 学 特 別 講 義	2				2
	(北海道学)					
	北 海 道 史	2				2
	北 方 圏 文 化 論	2				2
	北 海 道 文 学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大 学 史	2				2
	北 海 道 学 特 別 講 義	2				2
	(教養科目)					
	教 養 科 目 特 別 講 義	2				2
	計	144				144

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	キャリア形成科目 キャリア・アントレプレナーシップ	2				2
	計	2				2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海 外 文 化 I	1				1
	海 外 文 化 II	1				1
	海 外 文 化 III	1				1
	海 外 文 化 IV	1				1
	計	4				4

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	留学生科目 (外国人留学生・海外 帰国生徒科目) <代替科目>					
	日 本 語 演 習 I	2				2
	日 本 語 読 解 ・ 構 文 I	2				2
	日 本 語 文 章 表 現 I	2				2
	日 本 語 演 習 II	2				2
	日 本 語 読 解 ・ 構 文 II	2				2
	日 本 語 文 章 表 現 II	2				2
	日 本 語 演 習 III		2			2
	日 本 事 情 I		2			2
	日 本 語 演 習 IV		2			2
	日 本 事 情 II		2			2
	計	12	8			20

生命工学科の進級・卒業要件と目標修得単位数

1. 進級要件（1年次から2年次へ）

1年次に配当された科目を履修し、以下の要件を満たした1年次学生は2年次に進級することができます。この条件を満たさない場合は1年次に留め置きとなります。

合計修得単位数……28単位以上

[注] この単位数は、「1年次に豊平キャンパスで修得しておく必要のある最低限の単位数」です。余裕を持って4年次への進級や卒業ができるように、後述の目標修得単位数を目指して履修計画を立ててください。

2. 進級要件（3年次から4年次へ）

3年次までに配当された科目を履修し、以下の要件を満たした3年次学生は4年次に進級することができます。この条件を満たさない場合は3年次に留め置きとなります。

合計修得単位数……90単位以上

[注] この単位数の下限は、「卒業の可能性がぎりぎり残されている」と判断される単位数です。しかしながら、90単位程度で進級した場合には、下級年次の授業科目を多数履修しながら卒業研究に取り組むことになりますので、卒業要件を満たすことは容易ではありません。

3. 卒業見込証明書の発行条件

3年次終了時に以下の条件を満たしている学生は、卒業見込証明書の発行を受けることができます。

合計修得単位数……100単位以上

4年次開始時にこの条件を満たさずに卒業見込証明書の発行が受けられなかった場合でも、4年次1学期終了時にこの条件を満たした場合には、その時点で卒業見込証明書の発行を受けることができます。

[注] 卒業見込証明書がない場合には、就職活動に大きな支障となるので注意してください。その発行条件は、過去の事例に基づき「卒業の見込みがかなりある単位数」として設定されています。当然のことながら、卒業見込証明書は卒業を保証するものではありません。証明書が発行されても、最終的に卒業要件を満足しないと卒業できません。

4. 卒業要件

生命工学科の卒業要件は以下の通りです。この要件を満たした学生について、工学部長が工学部教授会の議を経て単位の修得を認定し、学長が卒業を許可します。

修得単位数

- (1) 一般教育科目の言語2科目2単位以上
- (2) 専門教育科目のうち必修17単位と選択必修29単位以上を含み、かつB群とC群それぞれから24単位以上を含む80単位以上
- (3) 一般教育科目および専門教育科目の合計が124単位以上

60単位を超えた遠隔授業の単位は卒業要件に含みません。

5. 目標修得単位数

卒業に必要な単位数は124単位であり、単純に1年間の平均修得単位数を計算すると $124/4=31$ 単位となります。しかしながら、4年次開講で修得可能な専門教育科目は12単位（1学期開講の6単位と通年開講の卒業研究6単位）しかありません。しかも、4年次では、卒業研究や就職活動、大学院受験などに多くの時間を割く必要があります。さらに、124単位はあくまで卒業に必要な最低限の単位数であるため、総単位数のみを見て機械的に履修することなく、余裕を持って卒業に必要な各要件を満たしていきましょう。一方、1年間に履修できる単位数の上限は52単位（1年次）もしくは48単位（2年次以降）ですが、あまりに多くの科目を履修した場合には、予習、復習の時間が十分に取れず、結果として不合格になることも考えられるため、無理の無い履修を薦めます。

工学部では、1年次の教育は豊平キャンパスで、2年次以降の教育は山鼻キャンパスで行われます。そのため、1年次でしか履修できない科目があることに注意してください。例えば、専門教育科目では、1年次に選択必修科目として生命工学総論、生命工学倫理、情報処理論の計6単位が開講されています。これらは2年次以降には履修することができませんので、1年次のうちにすべて修得することを薦めます。また、1年次では一般教育科目の選択肢が2年次以降に比べて格段に豊富です。その環境を活かして、人文科学、社会科学、自然科学等の一般教育科目をバランス良く履修することを心がけてみてください。

生命工学科では、各学年での目標修得単位数を以下のように設定しています。この単位数を念頭に置いて履修計画をたててください。

1年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	24単位以上(言語2科目2単位を含む)	必修1科目2単位と選択必修3科目6単位と選択9科目18単位	50単位

2年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	32単位(言語2科目2単位を含む)	50単位	82単位

3年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	32単位(言語2科目2単位を含む)	84単位	116単位

4年次終了時

卒業要件に同じ

授業科目履修上の注意

1. 授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

各授業科目の単位数の計算は、次の各号に掲げる基準による。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (4) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (5) 体育実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

授業時間は90分を単位（1時限）として、原則として各曜日とも5時限で授業時間割が組まれています。毎週1回（1時限）の授業（45分を1時間として計算）を2時間とし、一つの学期で原則として15回の授業があります。毎週1回の授業を一つの学期に受けた場合には、通算の授業時間は2時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には2単位、「外国語、演習、体育実技」の場合には1単位として計算されます。外国語科目については、さらに以下のことが定められています（工学部規則第4条）。

外国語科目のうち学則第20条第2号ただし書きの規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは、別に定める。

15時間の授業をもって1単位とする科目は、以下のとおりです。

英語文化演習Ⅰ及びⅡ

世界の言語と文化

- （ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）文化Ⅰ、Ⅱ及びⅢ
- （ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）文化演習Ⅰ及びⅡ
- （ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）言語演習Ⅰ及びⅡ
- （ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語）言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの授業科目は一つの学期で毎週1回（1時限）の授業が行われるので、通算の授業時間は30時間となり、2単位として計算されます。上記以外の外国語科目については、通算の授業時間は同様に30時間ですが、すべて1単位として計算されます。

2・3年次では、化学実験、バイオテクノロジー実習Ⅰ・Ⅱとプログラミング演習Ⅰ・Ⅱが2時限連続して行われます。この場合の授業時間数は、一つの学期で2時間×2×15週＝60時間となります。化学実験とバイオテクノロジー実習Ⅰ・Ⅱについては、45時間の授業で1単位となりますから、これらの実験と実習の単位は小数点以下が切り捨てられて各1単位となります。プログラミング演習Ⅰ・Ⅱについては、30時間の授業で1単位となりますから、各2単位となります。また、卒業研究は15時間の授業をもって1単位となります（工学部規則第4条）。

詳細な科目毎の単位数については、「授業科目と担当者一覧」を参照してください。

2. 授業科目について

授業科目には、一般教育科目と専門教育科目という分類とは別に、重要度に応じて必修科目、選択必修科目、選択科目の区別があります。詳しくは「生命工学科開講科目系統図」(p.138)をご覧ください。必修科目は必ず履修し単位を修得しなければなりません。必修科目が不合格となった場合には、翌年度に再び履修しなければなりません。選択必修科目は必修科目と同様に重要な科目です。卒業要件にある単位数(29単位以上)を履修し修得しなければなりません。選択科目は自由に選択し履修することができる科目です。卒業に必要な単位数(一般教育科目の言語2科目2単位以上、B群とC群それぞれから24単位以上を含む専門科目80単位以上、総修得単位数124単位以上)を満たすように履修してください。

それぞれの授業科目には開講年次が設定されています。各年次に開講されている授業科目は、原則としてその年次において履修することが推奨されます。上級年次生が、下級年次に開講されている授業科目を履修することは時間割上問題が無ければ可能ですが、下級年次生は、上級年次に開講されている授業科目を履修することはできません。履修計画を立てる際には必要な科目・単位数だけでなく開講年次にも注意してください。

以下に一般教育科目と専門教育科目の概略と履修上の注意点を記します。詳細は「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

一般教育科目	すべて選択科目
--------	---------

- 豊平校舎で開講される一般教育科目の中には2つの学期にそれぞれ同じ科目が開講され、どちらを履修しても良い場合があります。ただし、両方をともに履修することはできません。
- 1年次に開講されている一部の授業科目については、山鼻校舎でも開講しています。
- 2年次に進級後に、豊平校舎で開講されている授業科目を履修することはキャンパスが離れていることや授業時間割及び試験時間割の制約上から、原則としてできません(体育実技を除く)。
- 英語科目と英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語)科目は1・2年次に開講されています。
- 生命工学科では、2科目2単位以上の英語または英語以外の外国語科目の履修が必要となります。
- 英語以外の外国語科目については、韓国・朝鮮語を除いて1～4年次の各年次にわたって開講されています。ただし、3・4年次に開講されている外国語科目は、豊平校舎での受講となりますので注意してください。

専門教育科目	必修科目および選択必修科目(31科目, 60単位), 選択科目(42科目, 80単位)
--------	---

- 1～4年次の各年次にわたって開講されます。
- 1年次に配当されている専門教育科目は、基本的に豊平校舎で開講されます。2年次に進級後に、これらの授業科目を履修することは、キャンパスが離れていること、および時間割の制約上から、基本的にできません。ただし、1年次に配当されている専門教育科目のうち、必修科目については、2年次以降の学生のための特例措置として山鼻校舎でも開講します。1年次に必修科目の単位を習得した上で、2年次に進級することが前提ですから、あくまでも特例措置と理解しておいてください。
- 卒業研究は、通年で6単位として実施されます。

3. 学修ガイドの各授業科目とシラバスの記載事項に関する注意

シラバスには科目名、担当者、単位数、開講期、開講年次、「授業のねらい」、「授業計画」、「準備学習の内容」、「事後指導・フィードバック」、「評価方法・基準」、「履修上の留意点」、「教科書」、「参考書」が記載されています。これらの内容をよく読んで、履修する際の参考にしてください。また、「授業計画」は当初の計画であり、実際の授業の進行状況によっては、変更もあり得ますが、予習・復習の際の参考にしてください。なお、これらの授業科目のうち、一部の選択科目ではその科目の内容によって、授業を行う教室等の施設、設備等の制約から履修者を一定人数に制限している場合や、ある特定の別の関連する授業科目を前もって履修しておかなければ、その授業科目を履修できない場合があります。講義概要には、これらの点についても記載されている場合があるので注意してください。

特に外国語科目や専門教育科目等の中には、分野毎に上級年次に開講される授業科目との関連に注意しなくてはならない授業科目が含まれています。したがって、履修する年次だけではなく、次年度に履修することに

なる上級年次の授業科目のシラバスについても、よく読んでおくことを薦めます。

授業開始から履修届の提出期限までの間には、一定の期間が設けられています。授業科目によっては、最初の授業の時に担当者による履修のためのガイダンスが行われる場合があるので、履修する可能性がある場合には、必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては、この冊子の最後にセミナーを受講する場合の注意点や手続きの方法が記載されています。

なお、外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており、これらの科目に関する講義概要は一般教育科目のシラバスに掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒はこれらの科目を履修し、修得した単位を一般教育科目に算入することができます。

4. 免許・資格取得・その他

本学には、通常の課程において取得できる免許・資格のほかに、通常の課程とは別に設けられた課程において取得できる免許・資格があります。これらについては、それぞれのガイダンスへ出席して、説明を受けること。

- 1) 教職課程
- 2) 図書館学課程
- 3) 社会教育主事課程
- 4) 学芸員課程
- 5) その他

工学部の学生に関する免許・資格

卒業と同時に取得できるもの、卒業後に受験資格が得られるものなどがあります。詳細については、各自確認すること（参考までにウェブサイトのURLを記載しています）。

バイオ技術者認定試験（中級および上級）（<https://bio-edu.or.jp/information-archive/>）

バイオインフォマティクス技術者認定試験（<https://www.jsbi.org/activity/nintei/>）

ITパスポート試験

情報セキュリティマネジメント試験

基本情報技術者試験

応用情報技術者試験

}（<https://www.ipa.go.jp/shiken/index.html>）

I 教 育 課 程

【生命工学科】

2017年度(平成29年度)～2021年度(令和3年度)入学者

区分	学習・教育到達目標	関連する科目
A	さまざまな学修に通じる基礎的な知識やスキル及びリテラシーを習得する。	「一般教育科目，基盤科目」全体
B	一般的・普遍的な教養を身につける。	「一般教育科目，教養科目」全体
C	分子生物学や細胞生物学に強い関心を持ち，最新バイオテクノロジーの開発に資する能力を習得する。	「専門教育科目，B群：生命科学系」全体
D	専門的情報技術に強い関心を持ち，高度な知識情報システムを設計・開発できる能力を習得する。	「専門教育科目，C群：人間情報工学系」全体
E	工学基礎理論に関する知識を身につけることで，目的に応じて基礎技術を活用する能力を習得する。	「専門教育科目，A群：専門基礎」全体，情報処理論
F	生命科学と情報工学に対する深い理解に基づき，未来世代に対する責任を意識した高い倫理観を有する。	生命工学倫理，情報セキュリティ
G	生命科学と情報工学が切り拓く最先端テクノロジーの多様性と生命環境に及ぼす影響・効果を見通す能力を習得する。	先端生命科学，ソフトウェア通論
H	未知の分野を積極的に開拓するための課題発見力・洞察力を習得する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体，生化学 I，言語処理概論
I	グローバルな視点から広く総合的・論理的に物事を判断し，批判する能力を習得する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体，バイオテクノロジーセミナー
J	他者との協働において自分の持つ情報や意見を他者にわかりやすく伝える能力を習得する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体
K	他者との協働において他者の発信した情報や意見を理解し尊重する能力を習得する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体，細胞生物学 I
L	他者との協働において当事者意識を持って自主的・積極的に行動する。	「専門教育科目，D群：実験・実習・演習」全体，生命科学の未来

専門教育科目【生命工学科 2017年度～2021年度入学者】

分野	必修○ 選択△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考	
専門基礎 A群		21045	1	線 形 代 数 学 I	2	小林 保幸	1			
		21200				有馬研一郎	2			
		21046	2	線 形 代 数 学 II	2	矢不 俊文	1			
		21201				陶山 大輔	2			
		21047	2	微 分 積 分 学 I	2	武田 裕康	1			
		21202				陶山 大輔	2			
		21211	1	微 分 積 分 学 II	2	有馬研一郎	2			
		21050	1	確 率 統 計	2	寺西 功哲	1			
		21051	1		2	青木 雅允	2		2年生再履修	
		24013	1	現 代 物 理 学 入 門	2	森越 文明	1			
		21065	2	物 理 学 I	2	前田 秀基	1			
		21110	1		2	羽部 千景	2			
		21100	1	物 理 学 II	2	前田 秀基	2			
		24102	1	物 理 化 学	2	大参 達也	2			
		24159	2	Academic English	2	平田 洋子	2	W 1		
		24168						W 2		
		24129	1	シミュレーション科学	2	但木 謙一	3			
		24140	1	W E B ビジネス論	2	沼田 真吾 青木 治斗	3		「ITビジネス論」 に読替	
		24139	1	科 学 技 術 英 語	2	八尾 泉	3			
		24141	2	バ イ オ ビジネス論	2	三浦 健人	3			
		24128	2	プ レ ゼ ン テ ー シ ョ ン	2	鈴木亜也子 鈴木 聡士	3			
		△	24001	1	生 命 工 学 総 論	2	複数の教員	1		
	生命科学系 B群	△	24002	1	生 命 工 学 倫 理	2	高橋 考太	1		
			24003	1	化 学 概 論	2	久保 勘二	1		
		24014	1	生 物 学 基 礎	2	小笠原裕介	1			
		21068	1	環 境 工 学 序 論	2	山田 俊郎	1			
		24006	2	生 物 学 概 論	2	新沼 協	1			
		24004	2	有 機 化 学	2	友池 史明	1			
		24005	2	微 生 物 学	2	岩崎 晋弥	1			
		24015	2	先 端 生 命 科 学	2	水谷 武臣	1			
		24160	1	環 境 ・ エ ネ ル ギ ー シ ス テ ム 論	2	鈴木 聡士	2			
		24017	2	生 物 多 様 性 論	2	早矢仕有子	1			
		24130	2	地 球 環 境 論	2	青木かおり	2			
		△	24104	1	生 化 学 I	2	友池 史明	2		
		△	24105	2	生 化 学 II	2	友池 史明	2		
		△	24106	1	分 子 生 物 学 I	2	高橋 考太	2		
		△	24107	2	分 子 生 物 学 II	2	高橋 考太	2		
		△	24169	1	バ イ オ テ ク ノ ロ ジ ー セ ミ ナ ー	2	高橋 考太 新沼 協 水谷 武臣 友池 史明	3		
		△	24132	1	細 胞 生 物 学 I	2	水谷 武臣	3		
		△	24133	2	細 胞 生 物 学 II	2	水谷 武臣	3		
		△	24174	1	遺 伝 子 工 学 I	2	新沼 協	3		
		△	24175	2	遺 伝 子 工 学 II	2	新沼 協	3		

専門教育科目【生命工学科 2017年度～2021年度入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考
生命科学系 B群		24135	2	バイオインフォマティクス	2	齋藤 静司	3		
		24148	1	生命科学の未来	2	八尾 泉	4		
人間情報工学系 C群	△	24016	2	情報処理論	2	越前谷 博	1		
	△	24161	1	アルゴリズム概論	2	喜田 拓也	2		「アルゴリズムとデータ構造」に読替
	△	24108	2	コンピュータアーキテクチャ	2	青木 直史	2		
	△	24162	2	データベースとネットワーク	2	平田 恵啓	2		
	△	24163	2	システム概論	2	長谷川 大	2		
	△	24164	2	言語処理概論	2	越前谷 博	2		「テキストマイニング」に読替
	△	24165	1	ソフトウェア通論	2	長谷川 大	2		「ヒューマンコンピュータインタラクション」に読替
	△	24176	1	情報セキュリティ	2	越前谷 博	3		
	△	24177	1	情報マネジメント	2	鈴木 聡士	3		「データマイニング」に読替
		24122	1	人間工学概論	2	平田 恵啓	2		
		24123	2	計測工学	2	横澤 宏一	2		
		24115	2	社会心理学	2	鈴木 聡士	2		
		24124	1	感覚情報処理	2	平田 恵啓	3		
		24111	1	情報数理学Ⅰ	2	喜田 拓也	3		「情報数理学」に読替
		24136	2	情報数理学Ⅱ	2	喜田 拓也	3		
		23143	2	情報理論	2	喜田 拓也	3		
		24121	2	音声工学概論	2	広奥 暢	3		
		24138	2	生活支援工学	2	橋場 参生	3		
		24149	1	運動機能計測	2	青木 直史	4		
		24147	1	ユニバーサルデザイン論	2	小宮加容子	4		
実験・実習・演習 D群		24009	1	地学実験	1	青木かおり 但木謙一	1		
		24116	1	生物学実験	1	高橋新沼 水谷友池 早矢仕 八尾泉	2		
		24142	2	物理学実験	1	森越 文明	3		
	○	24166	2	化学実験	1	高橋新沼 水谷友池 八尾泉	2		
	○	24170	1	バイオテクノロジー実習Ⅰ	1	高橋新沼 水谷友池 八尾泉	3		
	○	24171	2	バイオテクノロジー実習Ⅱ	1	高橋新沼 水谷友池 八尾泉	3		

専門教育科目【生命工学科 2017年度～2021年度入学者】

分野	必修○ 選択△ 必修△	履修 コード	開講 学期	授 業 科 目	単 位	担 当 者	開講 年次	対 象 クラス等	備 考
実験・実習・演習 D群	△	24018	1	情報リテラシー演習	1	喜田 拓也	1	W1	
		24019				越前谷 博		W2	
		24020				越前谷 博 喜田 拓也	2		
	○	24167	1	データ解析演習	1	鈴木 聡士 源野 雄輔	2		
	○	24119	2	プログラミング実習Ⅰ	1	越前谷 博 平田 恵啓 喜田 拓也 吉川 毅	2		「プログラミング演習Ⅰ」に読替
	○	24145	1	プログラミング実習Ⅱ	1	越前谷 博 喜田 拓也 行木 渉真	3		「プログラミング演習Ⅱ」に読替
		24118	1	情報数理学演習	1	喜田 拓也	3		「アルゴリズムとデータ構造演習」に読替
		24146	2	WEBデザイン演習	1	長谷川 大 平田 恵啓	3		「Webアプリケーション演習」に読替
		24150	1	人間計測工学実験	1	平田 恵啓 長谷川 大	4		
		24172	通年	インターンシップA	1	各担当教員	3		
		24173	通年	インターンシップB	2	各担当教員	3		
	○	24901	通年	卒業研究	6	友池 史明	4		
		24902				高橋 考太			
		24903				越前谷 博			
		24904				喜田 拓也			
	24905	鈴木 聡士							
	24906	平田 恵啓							
	24907	新沼 協							
	24908	水谷 武臣							
	24910	但木 謙一							
	24911	青木かおり							
	24912	早矢仕有子							

生命工学科開講科目系統図

区 分	1 年		2 年		3 年		4 年			
	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期	1 学期	2 学期		
一 般 教 育 科 目	基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語） 身体 情報 教養科目 人文科学 社会科学 自然科学 北海道学 キャリア形成科目 体験型科目 留学生科目		基盤科目 言語（英語，ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）		基盤科目 言語（ドイツ語，フランス語，ロシア語，中国語，韓国・朝鮮語）			
専 門 教 育 科 目	専 門 基 礎	A 群	[生命工学総論] 線形代数学Ⅰ 確率統計 現代物理学入門	線形代数学Ⅱ 微分積分学Ⅰ 物理学Ⅰ	物理学Ⅱ 微分積分学Ⅱ 物理化学	Academic English	シミュレーション科学 WEBビジネス論 バイオビジネス論	プレゼンテーション 科学技術英語		
	生 命 科 学 系	B 群	[生命工学倫理] 生物学基礎 化学概論 環境工学序論	生物学概論 有機化学 微生物学 先端生命科学 生物多様性論	[生化学Ⅰ] [分子生物学Ⅰ] 環境・エネルギーシステム論	[生化学Ⅱ] [分子生物学Ⅱ] 地球環境論	[細胞生物学Ⅰ] [遺伝子工学Ⅰ] [バイオテクノロジーセミナー]	[細胞生物学Ⅱ] [遺伝子工学Ⅱ] バイオインフォマティクス	生命科学の未来	
	人 間 情 報 工 学 系	C 群		[情報処理論]	[アルゴリズム概論] [ソフトウェア通論] 人間工学概論	[データベースとネットワーク] [コンピュータアーキテクチャ] [システム概論] [言語処理概論] 社会心理学 計測工学	[情報セキュリティ] [情報マネジメント] 情報数理学Ⅰ 感覚情報処理	情報理論 情報数理学Ⅱ 音声工学概論 生活支援工学	ユニバーサルデザイン論 運動機能計測	
	実 験 ・ 実 習 ・ 演 習	D 群	[情報リテラシー演習] 地学実験		データ解析演習 生物学実験	化学実験 プログラミング実習Ⅰ	バイオテクノロジー実習Ⅰ プログラミング実習Ⅱ インターンシップA・B* WEBデザイン演習	バイオテクノロジー実習Ⅱ 物理学実験	人間計測工学実験	
							情報数理学演習		卒 業 研 究	

太字：必修科目 [太字]：選択必修科目 * インターンシップA・Bは、2026年度の開講はありません。

2017年度(平成29年度)~2021年度(令和3年度)入学者 一般教育科目一覧表

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	基盤科目 (言語)					
	・英語					
	英語リーディングⅠ	1				1
	英語リーディングⅡ	1				1
	英語リーディングⅢ		1			1
	英語リーディングⅣ		1			1
	英語コミュニケーションⅠ	1				1
	英語コミュニケーションⅡ	1				1
	英語コミュニケーションⅢ		1			1
	英語コミュニケーションⅣ		1			1
	英語特講Ⅰ	1				1
	英語特講Ⅱ	1				1
	英語ライティングⅠ	1				1
	英語ライティングⅡ	1				1
	英語文化演習ⅠA		2			2
	英語文化演習ⅡA		2			2
	・共通					
	世界の言語と文化	2				2
	・ドイツ語					
	ドイツ語基礎Ⅰ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅱ	1				1
	ドイツ語基礎Ⅲ		1			1
	ドイツ語基礎Ⅳ		1			1
	ドイツ語会話Ⅰ	1				1
	ドイツ語会話Ⅱ	1				1
	ドイツ語文化Ⅰ	2				2
	ドイツ語文化Ⅱ		2			2
	ドイツ語文化Ⅲ		2			2
	ドイツ語文化演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語文化演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅰ			2		2
	ドイツ語言語演習Ⅱ			2		2
	ドイツ語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ドイツ語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・フランス語					
	フランス語基礎Ⅰ	1				1
	フランス語基礎Ⅱ	1				1
	フランス語基礎Ⅲ		1			1
	フランス語基礎Ⅳ		1			1
	フランス語会話Ⅰ	1				1
	フランス語会話Ⅱ	1				1
	フランス語文化Ⅰ	2				2
	フランス語文化Ⅱ		2			2
	フランス語文化Ⅲ		2			2
	フランス語文化演習Ⅰ			2		2
	フランス語文化演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語演習Ⅰ			2		2
	フランス語言語演習Ⅱ			2		2
	フランス語言語文化演習Ⅰ				2	2
	フランス語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・中国語					
	中国語基礎Ⅰ	1				1
	中国語基礎Ⅱ	1				1
	中国語基礎Ⅲ		1			1
	中国語基礎Ⅳ		1			1
	中国語会話Ⅰ	1				1
	中国語会話Ⅱ	1				1
	中国語文化Ⅰ	2				2
	中国語文化Ⅱ		2			2
	中国語文化Ⅲ		2			2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	中国語文化演習Ⅰ			2		2
	中国語文化演習Ⅱ			2		2
	中国語言語演習Ⅰ			2		2
	中国語言語演習Ⅱ			2		2
	中国語言語文化演習Ⅰ				2	2
	中国語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・ロシア語					
	ロシア語基礎Ⅰ	1				1
	ロシア語基礎Ⅱ	1				1
	ロシア語基礎Ⅲ		1			1
	ロシア語基礎Ⅳ		1			1
	ロシア語会話Ⅰ	1				1
	ロシア語会話Ⅱ	1				1
	ロシア語文化Ⅰ	2				2
	ロシア語文化Ⅱ		2			2
	ロシア語文化Ⅲ		2			2
	ロシア語文化演習Ⅰ			2		2
	ロシア語文化演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅰ			2		2
	ロシア語言語演習Ⅱ			2		2
	ロシア語言語文化演習Ⅰ				2	2
	ロシア語言語文化演習Ⅱ				2	2
	・韓国・朝鮮語					
	韓国・朝鮮語基礎Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語基礎Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅰ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅱ	1				1
	韓国・朝鮮語会話Ⅲ		1			1
	韓国・朝鮮語会話Ⅳ		1			1
	韓国・朝鮮語文化Ⅰ	2				2
	韓国・朝鮮語文化Ⅱ		2			2
	韓国・朝鮮語文化Ⅲ		2			2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語文化演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅰ			2		2
	韓国・朝鮮語言語演習Ⅱ			2		2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅰ				2	2
	韓国・朝鮮語言語文化演習Ⅱ				2	2
	(身体)					
	健康とスポーツの科学Ⅰ	2				2
	健康とスポーツの科学Ⅱ	2				2
	体育実技ⅠA	1				1
	体育実技ⅠB	1				1
	体育実技ⅡA	1				1
	体育実技ⅡB	1				1
	体育実技ⅢA	1				1
	体育実技ⅢB	1				1
	体育実技ⅣA	1				1
	体育実技ⅣB	1				1
	(情報)					
	コンピュータ科学	2				2
	情報技術論	2				2
	情報と社会	2				2
	計	58	40	40	20	158

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	教養科目 (人文科学)					
	・自己					
	哲 学	2				2
	倫 理 学 I	2				2
	倫 理 学 II	2				2
	論 理 学 I	2				2
	論 理 学 II	2				2
	社 会 思 想 史	2				2
	行 動 科 学	2				2
	基 礎 心 理 学	2				2
	人 間 関 係 論	2				2
	・文化					
	日 本 文 学	2				2
	外 国 文 学 I	2				2
	外 国 文 学 II	2				2
	言 語 学 I	2				2
	言 語 学 II	2				2
	芸 術 論 I	2				2
	芸 術 論 II	2				2
	異文化コミュニケーション	2				2
	現 代 文 化 論	2				2
	音 声 学 セ ミ ナ ー	2				2
	一 般 言 語 学 セ ミ ナ ー	2				2
	デ ザ イン セ ミ ナ ー I	2				2
	デ ザ イン セ ミ ナ ー II	2				2
	・歴史					
	歴 史 学 I	2				2
	歴 史 学 II	2				2
	歴 史 学 III	2				2
	歴 史 学 IV	2				2
	考 古 学	2				2
	人 文 科 学 特 別 講 義	2				2
	(社会科学)					
	・社会構造					
	法 学	2				2
	日 本 国 憲 法 学	2				2
	経 済 治 学	2				2
	政 治 学	2				2
	社 会 学	2				2
	マ ス コ ミ 論	2				2
	生 涯 学 習 論	2				2
	・地域					
	地 理 学	2				2
	人 類 学	2				2
	地 誌 学	2				2
	国 際 事 情	2				2
	カナダの自然と社会 I	2				2
	カナダの自然と社会 II	2				2
	社 会 科 学 特 別 講 義	2				2
	(自然科学)					
	・環境					
	地 球 科 学 I	2				2
	地 球 科 学 II	2				2
	環 境 生 物 科 学 I	2				2
	環 境 生 物 科 学 II	2				2
	物 質 科 学	2				2
	物 質 環 境 科 学	2				2
	宇 宙 科 学 I	2				2
	宇 宙 科 学 II	2				2
	地 球 環 境 セ ミ ナ ー I	2				2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	地 球 環 境 セ ミ ナ ー II	2				2
	環 境 生 物 科 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	環 境 生 物 科 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	化 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	化 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	宇 宙 科 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	宇 宙 科 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	・普遍性					
	数 学 概 論 I	2				2
	数 学 概 論 II	2				2
	物 理 学 概 論 I	2				2
	物 理 学 概 論 II	2				2
	数 学 セ ミ ナ ー I	2				2
	数 学 セ ミ ナ ー II	2				2
	自 然 科 学 特 別 講 義	2				2
	(北海道学)					
	北 海 道 史	2				2
	北 方 圏 文 化 論	2				2
	北 海 道 文 学	2				2
	アイヌの言語と文化	2				2
	大 学 史	2				2
	北 海 道 学 特 別 講 義	2				2
	(教養科目)					
	教 養 科 目 特 別 講 義	2				2
	計	144				144

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	キャリア形成科目					
	キャリア・アントレプレナーシップ	2				2
	計	2				2

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	体験型科目					
	海 外 文 化 I	1				1
	海 外 文 化 II	1				1
	海 外 文 化 III	1				1
	海 外 文 化 IV	1				1
	計	4				4

○印 必修	授 業 科 目	年次及び単位数				
		1	2	3	4	計
	留学生科目 (外国人留学生・海外 帰国生徒科目)					
	〈代替科目〉					
	日 本 語 演 習 I	2				2
	日 本 語 読 解 ・ 構 文 I	2				2
	日 本 語 文 章 表 現 I	2				2
	日 本 語 演 習 II	2				2
	日 本 語 読 解 ・ 構 文 II	2				2
	日 本 語 文 章 表 現 II	2				2
	日 本 語 演 習 III		2			2
	日 本 事 情 I		2			2
	日 本 語 演 習 IV		2			2
	日 本 事 情 II		2			2
	計	12	8			20

生命工学科の進級・卒業要件と目標修得単位数

1. 進級要件（1年次から2年次へ）

1年次に配当された科目を履修し、以下の要件を満たした1年次学生は2年次に進級することができます。この条件を満たさない場合は1年次に留め置きとなります。

合計修得単位数……28単位以上

[注] この単位数は、「1年次に豊平キャンパスで修得しておく必要のある最低限の単位数」です。余裕を持って4年次への進級や卒業ができるように、後述の目標修得単位数を目指して履修計画を立ててください。

2. 進級要件（3年次から4年次へ）

3年次までに配当された科目を履修し、以下の要件を満たした3年次学生は4年次に進級することができます。この条件を満たさない場合は3年次に留め置きとなります。

合計修得単位数……90単位以上

[注] この単位数の下限は、「卒業の可能性がぎりぎり残されている」と判断される単位数です。しかしながら、90単位程度で進級した場合には、下級年次の授業科目を多数履修しながら卒業研究に取り組むことになりますので、卒業要件を満たすことは容易ではありません。

3. 卒業見込証明書の発行条件

3年次終了時に以下の条件を満たしている学生は、卒業見込証明書の発行を受けることができます。

合計修得単位数……100単位以上

4年次開始時にこの条件を満たさずに卒業見込証明書の発行が受けられなかった場合でも、4年次1学期終了時にこの条件を満たした場合には、その時点で卒業見込証明書の発行を受けることができます。

[注] 卒業見込証明書がない場合には、就職活動に大きな支障となるので注意してください。その発行条件は、過去の事例に基づき「卒業の見込みがかなりある単位数」として設定されています。当然のことながら、卒業見込証明書は卒業を保証するものではありません。証明書が発行されても、最終的に卒業要件を満足しないと卒業できません。

4. 卒業要件

生命工学科の卒業要件は以下の通りです。この要件を満たした学生について、工学部長が工学部教授会の議を経て単位の修得を認定し、学長が卒業を許可します。

修得単位数

- (1) 一般教育科目の言語2科目2単位以上
- (2) 専門教育科目80単位以上（必修12単位と選択必修29単位以上を含む）
- (3) 一般教育科目および専門教育科目の合計が124単位以上

60単位を超えた遠隔授業の単位は卒業要件に含みません。

5. 目標修得単位数

卒業に必要な単位数は124単位であり、単純に1年間の平均修得単位数を計算すると $124/4=31$ 単位となります。しかしながら、4年次開講で修得可能な専門教育科目は13単位（1学期開講の7単位と通年開講の卒業研究6単位）しかありません。しかも、4年次では、卒業研究や就職活動、大学院受験などに多くの時間を割く必要があります。さらに、124単位はあくまで卒業に必要な最低限の単位数であるため、総単位数のみを見て機械的に履修することなく、余裕を持って卒業に必要な各要件を満たしていきましょう。一方、1年間に履修できる単位数の上限は60単位ですが、あまりに多くの科目を履修した場合には、予習、復習の時間が十分に取れず、結果として不合格になることも考えられるため、無理の無い履修を薦めます。

工学部では、1年次の教育は豊平キャンパスで、2年次以降の教育は山鼻キャンパスで行われます。そのため、1年次でしか履修できない科目があることに注意してください。例えば、専門教育科目では、1年次に選択必修科目として生命工学総論、生命工学倫理、情報処理論、情報リテラシー演習の計7単位が開講されています。これらは2年次以降には履修することができませんので、1年次のうちにすべて修得することを薦めます。また、1年次では一般教育科目の選択肢が2年次以降に比べて格段に豊富です。その環境を活かして、人文科学、社会科学、自然科学等の一般教育科目をバランス良く履修することを心がけてみてください。

生命工学科では、各学年での目標修得単位数を以下のように設定しています。この単位数を念頭に置いて履修計画をたててください。

1年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	24単位以上(言語2科目2単位を含む)	選択必修4科目7単位と選択9科目18単位	50単位

2年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	32単位(言語2科目2単位を含む)	50単位	82単位

3年次終了時

分野	一般教育科目	専門教育科目	総修得単位数
単位数	32単位(言語2科目2単位を含む)	84単位	116単位

4年次終了時

卒業要件に同じ

授業科目履修上の注意

1. 授業時間と単位数について

授業時間と単位数は以下のようになっています（学則第20条）。

各授業科目の単位数の計算は、次の各号に掲げる基準による。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (4) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。
ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (5) 体育実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

授業時間は90分を単位（1時限）として、原則として各曜日とも5時限で授業時間割が組まれています。毎週1回（1時限）の授業（45分を1時間として計算）を2時間とし、一つの学期で原則として15回の授業があります。毎週1回の授業を一つの学期に受けた場合には、通算の授業時間は2時間×15週＝30時間となります。その授業が「講義」の場合には2単位、「外国語、演習、体育実技」の場合には1単位として計算されます。外国語科目については、さらに以下のことが定められています（工学部規則第4条）。

外国語科目のうち学則第20条第2号ただし書きの規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは、別に定める。

15時間の授業をもって1単位とする科目は、以下のとおりです。

英語文化演習Ⅰ及びⅡ

世界の言語と文化

- (ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, 韓国・朝鮮語) 文化Ⅰ, Ⅱ及びⅢ
- (ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, 韓国・朝鮮語) 文化演習Ⅰ及びⅡ
- (ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, 韓国・朝鮮語) 言語演習Ⅰ及びⅡ
- (ドイツ語, フランス語, 中国語, ロシア語, 韓国・朝鮮語) 言語文化演習Ⅰ及びⅡ

これらの授業科目は一つの学期で毎週1回（1時限）の授業が行われるので、通算の授業時間は30時間となり、2単位として計算されます。上記以外の外国語科目については、通算の授業時間は同様に30時間ですが、すべて1単位として計算されます。

2・3年次でバイオテクノロジー実習とプログラミング実習が2時限連続して行われます。この場合の授業時間数は、一つの学期で2時間×2×15週＝60時間となります。「実験」と「実習」については、45時間の授業で1単位となりますから、これらの実験と実習の単位は小数点以下が切り捨てられて各1単位となります。また、卒業研究は15時間の授業をもって1単位となります（工学部規則第4条）。

詳細な科目毎の単位数については、「授業科目と担当者一覧」を参照してください。

2. 授業科目について

授業科目には、一般教育科目と専門教育科目という分類とは別に、重要度に応じて必修科目、選択必修科目、選択科目の区別があります。詳しくは「生命工学科開講科目系統図」(p.151)をご覧ください。必修科目は必ず履修し単位を修得しなければなりません。必修科目が不合格となった場合には、翌年度に再び履修しなければなりません。選択必修科目は必修科目と同様に重要な科目です。卒業要件にある単位数(29単位以上)を履修し修得しなければなりません。選択科目は自由に選択し履修することができる科目です。卒業に必要な単位数(一般教育科目の言語2科目2単位以上、専門科目80単位以上、総修得単位数124単位以上)を満たすように履修してください。

それぞれの授業科目には開講年次が設定されています。各年次に開講されている授業科目は、原則としてその年次において履修することが推奨されます。上級年次生が、下級年次に開講されている授業科目を履修することは時間割上問題が無ければ可能ですが、下級年次生は、上級年次に開講されている授業科目を履修することはできません。履修計画を立てる際には必要な科目・単位数だけでなく開講年次にも注意してください。

以下に一般教育科目と専門教育科目の概略と履修上の注意点を記します。詳細は「授業科目と担当者一覧」で確認してください。

一般教育科目	すべて選択科目
--------	---------

- 豊平校舎で開講される一般教育科目の中には2つの学期にそれぞれ同じ科目が開講され、どちらを履修しても良い場合があります。ただし、両方をともに履修することはできません。
- 1年次に開講されている一部の授業科目については、山鼻校舎でも開講しています。
- 2年次に進級後に、豊平校舎で開講されている授業科目を履修することはキャンパスが離れていることや授業時間割及び試験時間割の制約上から、原則としてできません(体育実技を除く)。
- 英語科目と英語以外の外国語(ドイツ語、フランス語、中国語、ロシア語、韓国・朝鮮語)科目は1・2年次に開講されています。
- 生命工学科では、2科目2単位以上の英語または英語以外の外国語科目の履修が必要となります。
- 英語以外の外国語科目については、韓国・朝鮮語を除いて1～4年次の各年次にわたって開講されています。ただし、3・4年次に開講されている外国語科目は、豊平校舎での受講となりますので注意してください。

専門教育科目	必修科目および選択必修科目(28科目, 53単位), 選択科目(46科目, 82単位)
--------	---

- 1～4年次の各年次にわたって開講されます。
- 1年次に配当されている専門教育科目は、豊平校舎でのみ開講されます。2年次に進級後に、これらの授業科目を履修することは、キャンパスが離れていること、および時間割の制約上から、できませんので注意してください。
- 卒業研究は、通年で6単位として実施されます。

3. 学修ガイドの各授業科目とシラバスの記載事項に関する注意

シラバスには科目名、担当者、単位数、開講期、開講年次、「授業のねらい」、「授業計画」、「準備学習の内容」、「事後指導・フィードバック」、「評価方法・基準」、「履修上の留意点」、「教科書」、「参考書」が記載されています。これらの内容をよく読んで、履修する際の参考にしてください。また、「授業計画」は当初の計画であり、実際の授業の進行状況によっては、変更もあり得ますが、予習・復習の際の参考にしてください。なお、これらの授業科目のうち、一部の選択科目ではその科目の内容によって、授業を行う教室等の施設、設備等の制約から履修者を一定人数に制限している場合や、ある特定の別の関連する授業科目を前もって履修しておかなければ、その授業科目を履修できない場合があります。シラバスには、これらの点についても記載されている場合があるので注意してください。

特に外国語科目や専門教育科目等の中には、分野毎に上級年次に開講される授業科目との関連に注意しなくてはならない授業科目が含まれています。したがって、履修する年次だけではなく、次年度に履修することになる上級年次の授業科目のシラバスについても、よく読んでおくことを薦めます。

授業開始から履修届の提出期限までの間には、一定の期間が設けられています。授業科目によっては、最初

の授業の時に担当者による履修のためのガイダンスが行われる場合があるので、履修する可能性がある場合には、必ず出席してください。

一般教育科目のセミナーについては、この冊子の最後にセミナーを受講する場合の注意点や手続きの方法が記載されています。

なお、外国人留学生・海外帰国生徒のための日本語・日本事情科目が別に設けられており、これらの科目に関する講義概要は一般教育科目の講義概要に掲載されています。外国人留学生・海外帰国生徒はこれらの科目を履修し、修得した単位を一般教育科目に算入することができます。

4. 免許・資格取得・その他

本学には、通常の課程において取得できる免許・資格のほかに、通常の課程とは別に設けられた課程において取得できる免許・資格があります。これらについては、それぞれのガイダンスへ出席して、説明を受けること。

- 1) 教職課程
- 2) 図書館学課程
- 3) 社会教育主事課程
- 4) 学芸員課程
- 5) その他

工学部の学生に関する免許・資格

卒業と同時に取得できるもの、卒業後に受験資格が得られるものなどがあります。詳細については、各自確認すること（参考までにウェブサイトのURLを記載しています）。

バイオ技術者認定試験（中級および上級）（<https://bio-edu.or.jp/information-archive/>）

バイオインフォマティクス技術者認定試験（<https://www.jsbi.org/activity/nintei/>）

ITパスポート試験

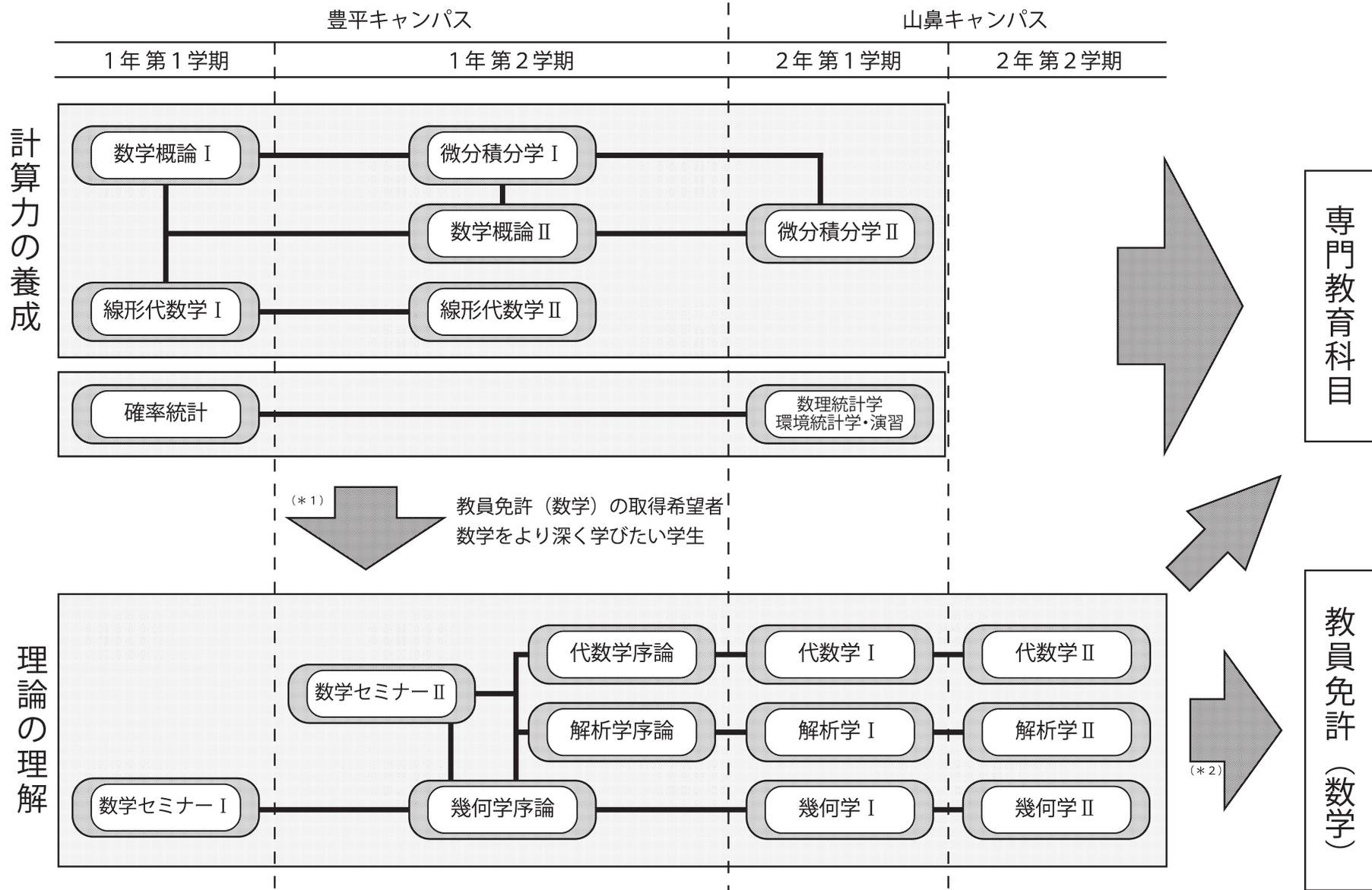
情報セキュリティマネジメント試験

基本情報技術者試験

応用情報技術者試験

} (<https://www.ipa.go.jp/shiken/index.html>)

数学受講に向けての Ⅲ ガイド



(*1) 入学年度や学科によっては開講されていない科目もあるため、「学修ガイド」などで確認してください。また、必修・選択の指定も各学科・各コースごとに異なります。

(*2) 教職に関する科目などの履修が必要になります。詳しくは教職課程の「学修ガイド」などを見てください。

本学では数学関係科目がたくさん開講されていて、どの科目を履修したらよいのか迷うかもしれません。ここで各科目の内容と特徴を解説しますので、履修上の参考にしてください。なお、学科やコースによって必修科目と選択科目の指定があります。

数学概論，線形代数学，微分積分学は計算力を充実させることを目標にしています。いわば腕力をつけるということです。また，代数学，幾何学，解析学，確率統計は理論面を重視した内容になります。授業内容の詳細は講義概要を参考してください。

以下，それぞれのケースに分けて解説します。（前頁，図参照）

- **「数学が苦手な人」** はまず**数学概論Ⅰ**でしっかり勉強してください。少人数のクラス編成なので，授業の進め方については受講者の学力程度に見合った無理のない形式となります。ノートに自分の解いた問題や配布資料をバラバラにならないように日付を付けてしっかり整理してください。分からないところはそのままにしないで質問してください。あなたの分からないところは他の人が分からないことが多いのです。その積み重ねを毎回することで数学はあなたのものになって行きます。面倒がらずに詰め込みをしないでコツコツと問題を解いてください。予習と復習，図書館の利用をお勧めします。線形代数学Ⅰは行列を主な学習対象として，計算力の充実を本線に線形性の概念を修得することを目標にしていますから，多少数学が苦手な人でも十分ついていけるはずです。後は，図の流れに沿って学習して行けるでしょう。困ったときは一人で悩まずに担当教員に相談してください。
- **「数学が苦手というほどではない人」** は，やはり**数学概論Ⅰ**，**数学概論Ⅱ**で確認と補強をしてください。微分積分学Ⅰや微分積分学Ⅱはそれらをもとに広範囲な内容を学習します。ノートをしっかり整理することや予習と復習，図書館の利用は苦手の人の場合と同じです。線形代数学は将来いろいろな所に顔を出してきますので，**線形代数学Ⅰ**の受講を勧めます。幾何学序論や確率統計の理論主体の科目もチャレンジしてみてもどうでしょうか。数学の核心をなすものは，単なる計算だけではなく厳密な論理展開や証明といったものであることが理解できるはずです。後は，図の流れに沿って学習して行けるでしょう。分からないときはいつでも良いですから質問を，また困ったときは一人で悩まずに担当教員に相談してください。
- **「数学が好き，面白いと思っている人」** は，**数学概論Ⅰ**，**数学概論Ⅱ**は復習ということになるでしょう。しかし，通りいっぺんの学習をただで消化不良になっていないか，確認をおこたらないでください。線形代数学は将来いろいろな所に顔を出してきます。まずは，入学しての新規科目として**線形代数学Ⅰ**を勉強してください。ノートをしっかり整理し，予習復習を習慣づけ，新たな数学の世界に立ち向かってください。同じ問題でもいろいろな解法があります。図書館を最大限に利用することも大切です。幾何学序論や確率統計の理論重視の科目で磨きをかけてみてください。今まで学んだ数学とは異なる厳密な論理や緻密な証明にふれることができます。また，**微分積分学Ⅰ**や**微分積分学Ⅱ**では高校で学んだ「**数学Ⅲ**」を超えた広範囲な内容を学習します。後は，図の流れに沿って学習して行けるでしょう。あなたの興味と数学の力を伸ばして行ってください。分からないときはいつでも質問を，またスランプや壁にぶつかったら一人で悩まずに担当教員に相談してください。
- **「数学の教員免許の取得を目指す人」** は開講されている数学の科目を全て履修し，修得するようにしてください。図にあるように数学の広い分野にわたる科目が開講されています。特に理論重視の科目である代数学，幾何学，解析学，確率統計，数理統計学や環境統計学・演習は数学の教職課程の必修科目になっています。先に学ぶ科目は後で学ぶ科目の基礎になるので，先の分をキッチリ勉強しておけば自然に積み上げが効いて自信が出てくると同時に，数学の本質的な部分も理解できるようになってくると思います。そのときは，単に公式を覚えて適用すれば良いという考えはあなたから消えてしまうでしょう。計算力充実を目標とする科目である**数学概論**，**線形代数学**，**微分積分学**も学習しておきましょう。すでに学習したものは分からなくて困っている人を教えてやるぐらいの余裕も欲しいものです。これから教員の職も厳しくなるようなので，少なくとも数学には自信を持って心配なくやっていけるよう，開講されている科目の受講だけで満足せずに4年間，十分な数学の勉強を積んでください。なお，代数学序論，幾何学序論，解析学序論と確率統計は山鼻校舎では開講されていないので，進級してからの受講は大変です。その他の事項も教職課程の「学修ガイド」などで十分に確認して受講してください。

- **数学セミナー** は平成22年度から新しく始まりました。教職課程の必須科目になっている理論重視科目(主に代数学, 幾何学, 解析学)を学習していくための力をつけるためのものです。このために, 履修者による黒板での発表や証明を常時行いますので, 事前の準備やレポートの作成に時間を必要としますが, 数学の教員免許を目指す人には受講が欠かせないと言えます。

工学部 1 年次一般教育科目 Ⅲ のセミナーについて

工学部1年次 一般教育科目のセミナーについて

1. 受講希望者は、次ページの一覧表にて受講申込の有無を確認してください。
2. 受講申込が必要な科目の受講希望者は、別ページのセミナー受講申込書に必要事項を記入の上、希望するセミナーの初回講義に出席し提出してください。
3. 受講申込科目の許可発表は、初回講義時もしくは、受講者数が多数の場合は選抜し数日以内にLMSで発表します。
また、再募集するセミナーがある場合は最初の受講許可者発表と同時に掲示しますので、選抜にもれた学生で、受講希望をする場合は担当教員の受講許可を得てください。
4. 受講申込科目の履修登録は、必ず受講許可発表の確認をしてから行ってください。（受講許可者以外は履修を認めません。）また、受講許可者以外が履修登録した場合、当該科目は履修登録者から削除されますので注意してください。
5. 受講申込みが必要な科目の受講を許可された学生は、たとえ履修変更期間であっても、許可なく履修を変更することができませんので、十分検討したうえで申込みをしてください。（※履修変更の可否については次ページで確認してください。）また、履修変更可能な科目であっても、担当教員に許可を得たうえで、履修変更期間内に教務センター窓口まで申し出てください。
6. 第2学期受講希望者も第1学期の初回講義に必ず出席してください。（受講申込不要科目を除く。）

※履修登録期間前に、LMSを通じて事前申込を行う科目もありますので、一般教育科目のセミナーを受講予定の学生はLMSを確認してください。

一般教育科目セミナー一覧

科目名	担当教員	受講申込 必要=○ 不要=×	履修変更				テーマ
			1 学期		2 学期		
			追加	削除	追加	削除	
①音声学セミナー	小野 智香子	×	×	○	×	○	人間の音声はどのように生み出されるのか
②一般言語学セミナー		×	×	○	×	○	未知の言語を解明する方法を学ぶ
①デザインセミナーⅠ	原井 憲二	○	×	○	要 相 談	○	構想を練り、イメージしたものを形にする、一連の行為としてのデザイン
②デザインセミナーⅡ		○	×	○		○	
①地球環境セミナーⅠ	青木 かおり	○	×	○	要 相 談	○	札幌周辺の地形・地質をとおして自然環境を考える 日本付近の気象・気候をとおして大気の動きを理解する
②地球環境セミナーⅡ		○	×	○		○	
①宇宙科学セミナーⅠ	但木 謙一	○	×	○	要 相 談	○	宇宙を観る、宇宙を知る
②宇宙科学セミナーⅡ		○	×	○		○	
①環境生物科学セミナーⅠ	早矢仕 有子	○	×	○	要 相 談	○	身近な鳥類をとおして自然環境を考える
②環境生物科学セミナーⅡ		○	×	○		○	
①②化学セミナーⅠ	久保 勘二	○	×	○	要 相 談	○	ものづくりを通して身近な物質を知る
①②化学セミナーⅡ		○	×	○		○	
①数学セミナーⅠ	佐野 貴志	×	○	○	○	○	論理学, 証明法, 集合論の初歩を学ぶ
②数学セミナーⅡ	山本 隆範	×	○	○	○	○	多変数二次関数と固有値問題を学ぶ

※①第1学期, ②第2学期。

一般教育科目セミナー受講申込書

工学部

学科

コース 1 年

組

--	--	--	--	--	--	--	--

番

フリガナ	
氏 名	

曜日	時限	担当教員名	科目名
(志望理由) ※セミナーによっては、志望理由の内容を指定している場合がありますので注意してください。 <hr/> <hr/>			

注) この用紙を複数必要な場合は各自でコピーしてください。

IV 工学部規則・規程

北海学園大学工学部規則

(目的)

第1条 この規則は、北海学園大学学則（以下「学則」という。）第3条第2項により、工学部の学生（以下「学生」という。）に関する事項を定める。

2 学生の教育課程に関する必要な事項は、学則に定めるもののほか、この規則の定めるところによる。

(学科及び教育研究上の目的)

第2条 本学部には、学則第3条により、次の学科を置く。

社会環境工学科

(1) 社会環境コース

(2) 環境情報コース

建築学科

電子情報工学科

生命工学科

2 社会環境工学科の目的は次の各号とする。

(1) 社会環境コースは、国民の安全・安心のための生活基盤、および経済活動の活性化のための生産・流通基盤等の計画、設計、建設のための基礎的な技術者教育を行い、新しい時代の要請に応え得る“専門建設技術者”の育成を目的とする。

(2) 環境情報コースは、環境保全対策、防災政策、福祉政策に必要不可欠なリスク管理、社会調査、及び合意形成等の手法に習熟し、環境への配慮を常に欠かさない人間中心の視野を持ち、あらゆる人にとって優しい安全、安心なまちづくりを目指す“文理融合型の技術者”の育成を目的とする。

3 建築学科は、空間、環境、構造・材料の各分野の教育研究を通じ、機能と空間造形のあり方、建物内外の快適な環境づくり、建物の品質と安全・耐久性の確保等に関して必要な知識を身に付け、建築を創造性豊かに考究する能力を培うと共に、建築と地域・都市との関係や地球環境の未来に関する課題に取り組む幅広い問題意識を持ち、プレゼンテーションやコミュニケーションの能力を発揮して積極的に社会に貢献する人材の育成を目的とする。

4 電子情報工学科は、ハードウェアとソフトウェアの両面を基礎から応用にいたるまで幅広く学び、新しい技術を生み出すための知識と能力をもつ人材の育成を目的とする。

5 生命工学科は、次世代の最先端工学である生命科学と人間情報工学の両面において深い知識を有し、地域・国際社会のニーズを的確に捉える広い洞察力と、生命・地球環境への高い倫理観を併せ持つ人材の育成を目的とする。

(授業科目)

第3条 学生の授業科目、その必修科目、選択科目、自由科目の区別、単位数及びその年次配当については、学則別表9に掲げるとおりとする。ただし、教授会の議を経て、年次配当を変更することができる。

2 履修の手引に定めた場合は、教授会の議を経て、上級年次に配当された授業科目を履修することができる。

(単位数の計算方法)

第4条 外国語科目のうち学則第20条第2号ただし書きの規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは、別に定める。

2 専門教育科目の演習科目のうち学則第20条第2号た

だし書きの規定により、15時間の授業をもって1単位とするものは、別に定める。

3 卒業研究については、15時間の授業をもって1単位とする。

(履修)

第5条 学生は、その学年又はその学期の当初に所定の手続きによって履修する授業科目を願い出て、学部長の許可を受けなければならない。

(外国人留学生・海外帰国生徒学生の履修)

第6条 外国人留学生及び海外帰国生徒学生のための特別入学試験によって入学を許可された学生は、学則別表9に定める日本語・日本事情（外国人留学生・海外帰国生徒学生向け）科目にそれぞれ掲げる授業科目を履修することができる。これらの学生で学部長が必要と認められた者は、この科目のうち1つ又は複数の授業科目を履修しなければならない。

2 前項で修得した単位は、一般教育科目の修得単位に算入することができる。

(大学院学生の履修)

第7条 本大学大学院工学研究科の学生が、工学部の授業科目の履修を希望するときは、学部長は、教授会の議を経て、これを許可することができる。

(履修手続き)

第8条 授業科目の履修制限、履修登録手続きその他の履修に関する事項は、この規則に定めるもののほか、履修の手引きその他に定めるところによる。

(単位の修得)

第9条 学生が、単位を修得するためには、履修した授業科目の試験等に合格し、教授会の議を経なければならない。

2 卒業研究については、当該研究の担当教員がその成果を評価し、教授会の議を経なければならない。

(入学前の既修得単位の認定)

第10条 本学部1年次に入学した学生が、工学部に入学する前に大学、短期大学、高等専門学校又は専修学校において履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を、工学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、別に定める認定の基準により教授会の議を経て認定することができる。

2 学則第12条・第13条に基づいて編入学又は転入学を許可された学生が、入学する前に履修した授業科目について修得した単位（科目等履修生として修得した単位を含む。）を工学部における授業科目の履修により修得したものとみなし、別に定める認定の基準により教授会の議を経て認定することができる。

(試験)

第11条 試験は、その授業科目の授業の終了した学期末に期間を定めて行う。ただし、必要ある場合には臨時に試験を行うことができる。

2 試験に不合格となった授業科目については、教授会の議を経て試験を行うことができる。

(成績の評価)

第12条 授業科目の成績は、秀、優、良、可及び不可の5種によって評価し、秀、優、良及び可を合格とする。ただし、この成績評価になじまない一部の科目は、合、否とする。

(進級)

第13条 社会環境工学科にあっては学則別表社会環境コース9(1)及び環境情報コース9(2)に掲げる

授業科目で1年次に配当されている授業科目のうちから、次に定める単位を修得した1年次学生は、2年次に進級することができる。

社会環境コース

- (1) 一般教育科目の教養科目(留学生科目を含む)のうち人文科学・社会科学から6単位以上
- (2) 専門教育科目の総合系のうち必修科目2単位以上
- (3) 一般教育科目の基盤科目のうち言語、教養科目(留学生科目を含む)のうち人文科学・社会科学・自然科学の環境、工学基礎科目の1～3群及び専門教育科目の合計14単位以上

環境情報コース

- (1) 一般教育科目の教養科目(留学生科目を含む)のうち人文科学・社会科学から6単位以上
- (2) 専門教育科目の総合系のうち必修科目2単位以上
- (3) 一般教育科目の基盤科目のうち言語、教養科目(留学生科目を含む)のうち人文科学・社会科学・自然科学の環境、工学基礎科目の1～3群及び専門教育科目の合計14単位以上

2 建築学科にあっては学則別表9(3)に掲げる授業科目で1年次に配当されている授業科目のうちから、一般教育科目、工学基礎科目及び専門教育科目合計30単位以上を修得した1年次学生は、2年次に進級することができる。

3 電子情報工学科にあっては学則別表9(4)に掲げる授業科目で1年次に配当されている授業科目のうちから、次に定める単位を修得した1年次学生は、2年次に進級することができる。

- (1) 一般教育科目から14単位以上
- (2) 専門教育科目から7単位以上(基礎数物系科目を除く)、基礎数物系必修科目6単位以上

4 電子情報工学科にあっては4年次進級には、3年次終了時において総単位数90単位以上を修得していなければならない。

5 生命工学科にあっては学則別表9(5)生命工学科に掲げる授業科目で1年次に配当されている授業科目のうちから、一般教育科目及び専門教育科目合計28単位以上を修得した1年次学生は、2年次に進級することができる。

6 生命工学科にあっては4年次進級には、3年終了時において総単位数90単位以上を修得していなければならない。

(卒業)

第14条 社会環境工学科を卒業し、学士(工学)の学位を得るためには、学則別表社会環境コース9(1)及び環境情報コース9(2)に掲げる授業科目中、次に定める単位を修得しなければならない。

社会環境コース

- (1) 一般教育科目の教養科目(留学生科目を含む)のうち人文科学・社会科学及び基盤科目の言語(技術英語を含む)から20単位以上
- (2) 一般教育科目の教養科目(留学生科目を含む)のうち人文科学・社会科学から10単位以上
- (3) 一般教育科目の基盤科目の言語(技術英語を含む)のうち1科目1単位の英語科目2単位以上
- (4) 一般教育科目の教養科目の自然科学の環境、工学基礎科目の1～3群、専門教育科目の基盤数理系1～2群から22単位以上
- (5) 一般教育科目の教養科目の自然科学の環境から4単位以上

(6) 工学基礎科目の1～3群から必修2単位、1・2群から各2単位以上

(7) 専門教育科目の基盤数理系1群から1.5単位以上

(8) 専門教育科目(基盤数理系及び技術英語以外)のうち必修47単位、かつ選択35単位以上(ただし、環境工学系、計画・設計・維持管理系からそれぞれ4単位以上とその他の系からそれぞれ2単位以上を含む)

(9) 一般教育科目、工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

環境情報コース

(1) 一般教育科目の教養科目(留学生科目を含む)のうち人文科学・社会科学及び基盤科目の言語(技術英語を含む)から20単位以上

(2) 一般教育科目の教養科目(留学生科目を含む)のうち人文科学・社会科学から10単位以上

(3) 一般教育科目の基盤科目の言語(技術英語を含む)のうち1科目1単位の英語科目2単位以上を含む4単位以上

(4) 一般教育科目の教養科目の自然科学の環境、工学基礎科目の1～3群、専門教育科目の基盤数理系1～2群から22単位以上

(5) 一般教育科目の教養科目の自然科学の環境から6単位以上

(6) 工学基礎科目の1・2群から各2単位以上

(7) 専門教育科目の基盤数理系1群から1.5単位以上

(8) 専門教育科目(基盤数理系及び技術英語以外)のうち必修33単位、かつ選択49単位以上(ただし、総合系選択必修4.5単位以上、都市環境系から4単位以上、都市経営系と都市防災系からそれぞれ2単位以上を含む)

(9) 一般教育科目、工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

2 建築学科を卒業し、学士(工学)の学位を得るためには、学則別表9(3)に掲げる授業科目中、次に定める単位を修得しなければならない。

(1) 専門教育科目82単位以上

(2) 一般教育科目、工学基礎科目及び専門教育科目合計124単位以上

3 電子情報工学科を卒業し、学士(工学)の学位を得るためには、学則別表9(4)に掲げる授業科目中、次に定める単位を修得しなければならない。

(1) 一般教育科目のうち英語科目4科目4単位以上を含む22単位以上

(2) 専門教育科目のうち選択科目76単位以上(選択必修30単位以上を含む、基礎数物系科目を除く)を含む98単位以上

(3) 一般教育科目及び専門教育科目合計128単位以上

4 生命工学科を卒業し、学士(工学)の学位を得るためには、学則別表9(5)に掲げる授業科目中、次に定める単位を修得しなければならない。

(1) 一般教育科目の基盤科目の言語のうち2科目2単位以上

(2) 専門教育科目のうち必修17単位と選択必修29単位以上を含み、かつB群とC群それぞれから24単位以上を含む80単位以上

(3) 一般教育科目及び専門教育科目の合計124単位以上

(転学部・転学科・転コース)

第15条 学則第13条の規定による転学部の願い出があつ

た場合、学部長は、教授会の議を経て、学長に許可を求めるものとする。

- 2 工学部の学科間の転学科を希望する者については、学部長は、教授会の議を経て、学長に許可を求めるものとする。
- 3 社会環境工学科の2つのコース間の転コースを希望する者については、学部長は、教授会の議を経て、学長に許可を求めるものとする。
- 4 転学部・転学科の許可を得た学生の既修得単位の認定は、別に定めるところによる。

(他学部及び他学科の履修)

第16条 学生が、学則第19条の規定により他学部の授業科目を履修する場合、工学部及び履修を希望する当該学部の学部長の許可を受けなければならない。

ただし、単位の認定は、別に定めるところによる。

- 2 学生は、工学部の他学科の授業科目を履修することができる。この場合、工学部の教授会で承認されなければならない。

ただし、単位の認定は、別に定めるところによる。

- 3 他学部の学生が、学則第19条の規定により工学部の授業科目を履修する場合、工学部及び所属する学部の学部長の許可を得なければならない。

(学籍異動)

第17条 学生の学籍異動に関する事項については、この規則に定めるもののほか、別に定めるところによる。

附 則

- 1 この規則は、平成10年4月1日から施行する。
- 2 次の各号に該当する者については、変更後の規則にかかわらず、原則として従前の例による。
 - (1) 平成10年3月31日に在籍する者
 - (2) 平成10年3月31日以前に入学した者で、再入学又は復籍する者
 - (3) 平成10年4月1日以降平成12年3月31日以前に編入学する者
- 3 前項の取り扱いにおいて、教養部、教養部長又は教養部教授会の審議又は決定若しくは認定すべき事項については、工学部、工学部長又は工学部教授会が行うものとする。

附 則

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
- 2 ただし、平成13年度以前の入学者については、従前の規則による。

附 則

- 1 この規則は、平成15年4月1日から施行する。
- 2 ただし、第2条に掲げる別表9の専門教育科目は入学年度にかかわらず、平成15年度開講年次学生から適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 ただし、第15条(他学部及び他学科の履修)は、平成15年度以前の入学者については、従前の規則による。
- 3 ただし、第2条に掲げる学則別表9の専門教育科目のうち「建築プレゼンテーション」「工学倫理」「データ工学」および「電子デバイス」は入学年度にかかわらず、平成16年度開講年次学生から適用する。
- 4 ただし、第2条に掲げる学則別表9の共通基礎科目のうち「海外文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」は平成13年度入学

者から適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
- 2 ただし、平成16年度以前の入学者については、従前の規則による。

附 則

- 1 この規則は、平成18年4月1日から施行する。
- 2 ただし、第2条に掲げる学則別表9の専門教育科目のうち「構造特別セミナー」「電気電子技術入門」「電気電子技術基礎」「電気回路基礎」「情報技術入門」「情報リテラシー演習」「電気電子技術基礎演習」「電波工学」「システムとネットワーク」および「通信法規」は入学年度にかかわらず、平成18年度開講年次学生から適用する。

附 則

- 1 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
- 2 ただし、第3条に掲げる学則別表9の専門教育科目のうち「電気電子技術演習Ⅰ」「電気電子技術演習Ⅱ」「情報技術演習Ⅰ」「情報技術演習Ⅱ」は入学年度にかかわらず、平成19年度開講年次学生から適用する。

附 則

この規則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成21年10月1日から施行する。

附 則

- 1 この規則は、平成22年4月1日から施行する。
- 2 ただし、第3条に掲げる学則別表9の共通基礎科目のうち「数学セミナーⅠ」「数学セミナーⅡ」は入学年度にかかわらず、平成22年度開講年次学生から適用する。

附 則

この規則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和4年4月1日から施行する。

附 則

この規則は、令和6年4月1日から施行する。

北海学園大学工学部転学部規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、工学部規則第15条に基づき、転学部に係わる必要事項を定める。

(条 件)

第2条 本学部へ転学部は、定員に余裕のある場合に限り、これを許可することができる。

(学 年)

第3条 本学部他学部1年次及び2年次の学生は、本学部への転学部を志願することができる。

(志 願)

第4条 本学部への転学部を志願する学生は、学則第13条第2項の許可証、所定の転学部志願書を指定の期日までに提出しなければならない。

2 他学部への転学部を志願する学生は、所定の転学部願いにより、指定の期日までに教授会の議を経て願出なければならない。

(要 件)

第5条 本学部への転学部を志願できる学生は、履修登録した科目の相当数の単位を修得した者とする。

第6条 本学部への転学部の許可は、書類審査及び所定の試験の結果に基づき、教授会で選考のうえ、学長が行う。

(手続き)

第7条 転学部の許可を得た学生は、指定の期日までに転学部に必要な手続きをしなければならない。

(単位の認定)

第8条 転学部の許可を得た学生の既修得単位の認定は、教授会の議を経て行う。

附 則

(適 用)

この規程は、平成10年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和8年4月1日から施行する。

北海学園大学工学部転学科規程

(趣 旨)

第1条 この規程は、工学部規則第15条に基づき、転学科に係わる必要事項を定める。

(条 件)

第2条 転学科は、定員に余裕のある場合に限り、これを許可することができる。

(学 年)

第3条 本学部1年次及び2年次の学生は、本学部他学部への転学科を志願することができる。

(志 願)

第4条 転学科を志願する学生は、所定の転学科願いにより、指定の期日までに願出なければならない。なお、社会環境工学科を希望する学生はコースを願出ることとする。

(要 件)

第5条 転学科を志願できる学生は、履修登録した科目の相当数の単位を修得した者とする。

第6条 転学科の許可は、学業成績及び所定の試験の結果に基づき、教授会で選考のうえ、学長が行う。

(手続き)

第7条 転学科の許可を得た学生は、指定の期日までに転学科に必要な手続きをしなければならない。

(単位の認定)

第8条 転学科の許可を得た学生の既修得単位の認定は、教授会の議を経て行う。

附 則

(適 用)

この規程は、平成10年12月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和8年4月1日から施行する。

(5) 証明書・届出

1) 学生証

学生証について

学生証は、本学の学生としての身分を証明するものです。試験や学内各窓口での手続き等あらゆる場面で必要となりますので、提示できるように常に携帯するようにしてください。

なお、学生証の有効期限は、原則発行日から4年間です。破損や紛失には十分に気を付けてください。

(退学・除籍によって学籍を離れた時は、直ちに学生証を所属の学部事務室へ返却してください。)

学生証の提示について

以下の状況においては学生証を提示しなければなりません。

①定期試験の受験時、②各種証明書の発行時、③本学教職員(警備員を含む)からの請求時、④通学定期乗車券や学生割引乗車券の購入時(利用中に係員の請求があった場合)、⑤図書館の利用時

2) 証明書の発行

「学生証」を使用して自動証明書発行機で証明書を直接発行するか、自動証明書発行機で発行した申請書を各窓口へ提出して証明書発行を行ってください。

申請書提出による証明書の発行は、申し込みの翌日以降の発行となります。時間にゆとりをもって手続きしてください。

電話・FAX・メール等での申し込みは受け付けていませんので、ご注意ください。

・証明書の発行

3) 各種届出・学籍に関する手続き

○届出

入学時に届け出た事項(住所、学費支給者、保証人など)の変更や授業・試験の欠席については届出をする必要があります。

各種届出についてはG-PLUS!>キャビネットよりダウンロードしてご使用ください。

届出の種類	届出の内容	届出先
住所変更届兼 学生証変更願 	本人または学費支給者、保証人の現住所が変更になった場合	所属学部窓口
学費支給者・ 保証人変更届 	学費支給者や保証人が変更になった場合	所属学部窓口
身分異動届 	本人の身分等に変更があった場合	所属学部窓口
授業欠席届 	授業を欠席する(した)場合	科目担当者
定期試験欠席届 	やむを得ない理由で試験を欠席する(した)場合	科目担当者

○学籍に関する手続き

(休学・退学・復学・転部・転学部)

在学中に様々な事情により就学に支障をきたす場合が発生し、休学や退学等を考えている場合は、手続き等について早めに所属学部の事務室までご相談ください。

○各種願出

下記の各種の願出については、事由が発生した時点で、必要な書類を添付して、速やかに所属の学部事務室へ向いて手続きを行うこと。

なお、休学・退学・復学・再入学・復籍など学籍異動に伴う手続き・方法等については、p.5以降の「学生異動関係」の欄を参照したうえで、早めに所属の学部事務室で相談すること。

届出の種類	内容および添付書類等	受付窓口
休学願	疾病の他、やむを得ない理由で3カ月以上就学できない場合。(疾病の場合は、医師の診断書が必要)	学部事務室
退学願	疾病やその他の理由で、本学の学籍を離れる場合。学生証を添付すること。	学部事務室
復学願	休学を許可されたものが、休学理由の解消とともに、再び修学可能となった場合。(休学事由がなくなったことを証明する書類が必要)	学部事務室
再入学願	退学を許可された者が、その後の状況等の変化により、再度本学への入学を希望する場合。(修学可能であることを証明する書類が必要)	学部事務室
復籍願	学則第31条第1項の第3号、第4号または第5号で除籍された者で、その後の状況等の変化により、本学における学籍の復活とともに、修学を希望する場合。	学部事務室
休学願 (延長)	休学を許可された者が、休学期間満了後も休学理由の解消が見込めないか、その他特別な理由で、更に休学期間の延長を希望する場合。(疾病の場合は、医師の診断書が必要)	学部事務室
転学部願	本学部の学生が、本学の他の学部への転学部を希望する場合。	所属学部 と他学部 事務室

届出の種類	内容および添付書類等	受付窓口
転部願	1部(昼間部)から2部(夜間部)へ、または、2部から1部への転部を希望する場合。	学部事務室
転学科願	2学科以上を設置している学部で、所属の学科から、他の学科への転学科を希望する場合。	学部事務室
他大学受験許可願並びに受験許可証交付願	本学に在籍したまま、他大学の入学試験、編入学または転入学試験の受験を希望する場合。(注)受験許可を受けた学生は、その受験結果について可否の如何を問わず所属の学部事務室へ報告すること。また、これらの試験に合格して、他大学へ入学、編入学または転入学する場合には、速やかに、本学所定の「退学願」(3月31日付)用紙に必要事項を記入し、所属の学部事務室へ提出すること。	学部事務室
学生証更新願*	学生証の記載事項に変更があった場合。	学部事務室
学生証再発行願*	学生証を紛失または汚損した場合。自動証明書発行機より再発行手数料(1,000円)を支払い申請書を入手する必要がある。	学部事務室

*印の付いている願出用紙は、G-PLUS!のキャビネットからダウンロード可能

○学籍異動関係①—休学，退学，除籍—

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
休学	<p>(1)内 容 疾病、その他のやむを得ない理由により、3カ月以上就学することが困難になったときや、その他の特別な理由があると認められたときなど、一時的に修学の状態から離れる場合。</p> <p>(2)休学期間 ①当該年度限り(その年度の3月31日まで)とする。ただし、特別の理由があると認められるときは、願出により、更に1年間の休学を許可されることがある。 学則第27条2項により、第1学期を休学したものについては、特別の理由があると認められるときは、願出により、当該年度内において更に6カ月間の休学を、また更に次年度内において6カ月ないし1年間の休学を許可されることがある。また、当該年度の第2学期のみ休学した者(学期途中からの休学を含む)については、特別の理由があると認められるときは、願出により、次年度内において6カ月ないし1年間、更に次の年度内において6カ月の休学を許可されることがある。 ②休学できる期間は、連続しては2カ年を限度とし、通算としては4年以内とする。 ③休学期間は、修業年限および在学期間に加えない。</p> <p>(3)手 続 き ①やむを得ない理由、その他特別な理由により休学しようとするときは、所定の「休学願」用紙に休学理由を具体的かつ明確に記入し、保証人連署のうえ、所属学部長を経て学長に願出すること。なお、疾病やけがの場合は、医師の診断書を、また2部の勤労学生で、勤務等の都合により休学する場合は、職場長の証明書または理由書を必ず添付すること。</p>	学則第27条 学則第28条

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
休学	<p>(休学期間の延長) ②以下の場合、休学期間満了前に、改めて所定の「休学願(延長)」用紙に必要事項を記入し、所属学部長を経て学長に願出すること。 ・休学期間満了後も休学理由の解消が見込めない場合 ・その他特別な理由で更に1カ年の休学期間の延長を希望する場合 ・学則第27条第2項により、第1学期を休学した者が、更に当該年度内における6カ月の、また更に次年度内における6カ月ないし1カ年の休学期間の延長を希望する場合 ・当該年度の第2学期のみ休学した者(学期途中からの休学を含む)が次年度内において6カ月ないし1カ年の、更に次年度内における6カ月の休学期間の延長を希望する場合</p> <p>(4)授業料等 ①休学を願出するときは、その願出する期までの授業料、教育充実費、実験実習費および大学諸費を納入していなければならない。 ②休学を許可された期間中の授業料、教育充実費、実験実習費および大学諸費は徴収しない。</p> <p>(5)そ の 他 休学期間満了前に復学、退学または休学の願出のないものは、休学期間満了と同時に除籍となる。</p>	学則第27条 学則第28条
退学	<p>(1)内 容 疾病、その他やむを得ない理由により、修学の継続が困難となったときや、修学の意志がなくなったとき、または他大学への編入学や転入学をするときなど本学の学籍を離れる場合。</p> <p>(2)手 続 き 退学しようとする場合は、所定の「退学願」用紙にその理由を具体的かつ明確に記入し、保証人連署のうえ学生証を添えて所属学部長を経て学長に願出すること。</p> <p>(3)授業料等 退学を願出するときは、その願出する期までの授業料、教育充実費、実験実習費および大学諸費を納入していなければならない。</p>	学則第29条
除籍	<p>(1)内 容 次の各号の一に該当する者を、学長が所属学部教授会の議を経て、本学の学籍から除くことをいう。</p> <p>(2)対象事項 ①学則第7条に規定する在学期間(8年)を超えた者 ②死亡した者 ③行方不明になった者 ④授業料等の納付を怠り督促してもなお納入しない者 ⑤休学期間満了前に、復学、退学または休学の願出がない者 ⑥入学を辞退した者</p> <p>(3)そ の 他 除籍になった場合は、速やかに学生証を所属していた学部事務室へ返還すること。</p>	学則第31条

○学籍異動関係②—復学，再入学，復籍—

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
復学	<p>(1)願出資格：内容 疾病,その他のやむを得ない理由により, 3カ月以上就学することが困難となったときや,その他の特別な理由があると認められて休学を許可された者で,休学理由の解消に伴い,休学期間満了とともに,所属学部長を経て学長に願い出て許可を得た者が,再度,就学の状態に復することをいう。</p> <p>(2)願出手続 ①上記の者が復学しようとする場合は, 所定の「復学願」用紙に, その理由を具体的かつ明確に記入し, 保証人連署のうえ, 休学期間満了前までに, 所属学部長を経て学長に願い出ること。 ②疾病・けが等の理由で休学していた場合は, 復学しても差支えない旨の医師の診断書を添付すること。</p> <p>(3)復学の時期 復学は, 年度初めに許可するものとし, 年度の途中では許可しない。ただし, 学則第27条第2項および第3項によって休学した者については, 第2学期の始めに許可する。</p> <p>(4)許可後の手続 ①復学の許可通知を受けたときは, 10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②復学料は新生検定料の2分の1の額とし, 復学後の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費は, 入学時に示した各年次の額のもの適用する。 ③4月1日より復学するときは, 復学料および第1期分の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。学則第27条第2項および第3項によって休学した者が10月1日より復学するときは, 復学料および第2期分の授業料, 教育充実費, 実験実習費の2分の1の額, 大学諸費の全額を納入しなければならない。</p>	学則第27条
再入学	<p>(1)願出資格内容 疾病, その他のやむを得ない理由等により, 本学を退学した者で, その後の状況の変化にともない, 退学後3年以内に願い出て, 所属学部教授会の議を経て学長の許可を得た者が, 再度修学の状態に復する事をいう。</p> <p>(2)願出手続 ①上記の者が再入学しようとする場合は, 所定の「再入学願」に, その理由を具体的かつ明確に記入し, 保証人連署のうえ, 所属学部長を経て学長に願い出ること。 ②疾病等の理由で退学した場合は, 再入学しても差支えない旨の医師の診断書を添付すること。</p> <p>(3)再入学の時期 再入学は, 年度初めに許可するものとし, 年度の途中では許可しない。</p>	学則第30条

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
再入学	<p>(4)許可後の手続 ①再入学の許可通知を受けたときは, 10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②再入学料は再入学する年度の新生検定料と同額, 入学金は再入学する年度の新生の入学金と同額とし, 再入学後の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費は当該学部の再入学した年次のものを適用する。 ③再入学するときは, 再入学料, 入学金および第1期分の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。 ④再入学手続きの際には, 所定の用紙に学生証用写真(3カ月以内撮影, 単身, 正面, 上半身, 無帽)を1枚貼付し, 提出しなければならない。</p>	学則第30条
復籍	<p>(1)願出資格内容 学則第31条第1項の第3号, 第4号または第5号により, 本学を除籍された者で, その後の状況の変化にともない, 除籍後3年以内に願い出て, 所属学部教授会の議を経て学長の許可を得, 学籍を復活された者が, 再度修学の状態に復する事をいう。</p> <p>(2)願出手続 上記の者が, 復籍をしようとする場合は, 所定の「復籍願」に, その理由を具体的かつ明確に記入し, 保証人連署のうえ, 所属学部長を経て学長に願い出ること。</p> <p>(3)復籍の時期 復籍は, 年度初めに許可するものとし, 年度の途中では許可しない。</p> <p>(4)許可後の手続 ①復籍の許可通知を受けたときは, 10日以内に所定の手続を完了しなければならない。 ②復籍料は復籍する年度の新生検定料と同額, 入学金は復籍する年度の新生の入学金と同額とし, 復籍後の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費は, 当該学部の復籍した年次のものを適用する。 ③復籍するときは, 復籍料, 入学金および第1期分の授業料, 教育充実費, 実験実習費および大学諸費を納入しなければならない。 ④復籍手続きの際には, 所定の用紙に学生証用写真(3カ月以内撮影, 単身, 正面, 上半身, 無帽)を1枚貼付し, 提出しなければならない。</p>	学則第31条

○その他の学籍異動関係—転学部、転部、転学科—

種類	願出の内容・手続きなどに関する事項	関係学則等
転学部	(1)内 容 一つの学部の学生が他の学部へ転ずることをいう。 (2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので、転学部を希望する学生は、あらかじめ、転学部を希望する学部事務室、および、現在所属している学部事務室へ問い合わせること。	学則第13条
転部	(1)内 容 1部（昼間部）から2部（夜間部）へ、または、2部から1部へ転ずることをいう。 (2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので、転部を希望する学生は、あらかじめ、それぞれが所属する学部事務室へ問い合わせること。	各学部規則
転学科	(1)内 容 2学科以上を設置している学部で、一の学科から、他の学科へ転ずることをいう。 (2)問合せ先 各学部によって取扱いが異なるので、転学科を希望する学生は、あらかじめ、それぞれが所属する学部事務室へ問い合わせること。	各学部規則

○懲戒による学籍異動—退学—

種類	内容などに関する事項	関係学則等
退学	(1)内 容 学則第49条（懲戒）により、次の各号の一に該当する者は退学とする。 ①性行不良で改善の見込みがないと認められる者 ②学力劣等で成業の見込みがないと認められる者 ③正当な理由がなく出席が常でない者 ④本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者	学則第49条

(6) 学長賞

本学では、運動・文化活動で顕著な成績を収めた学生や難関資格試験に合格した学生に「学長賞」を授与します。

以下の試験に在学中に合格した学生は「学長賞」の対象となりますので、試験に合格した年度内に合格したことがわかるもの（合格証など）を持参のうえ所属の学部事務室にご報告ください。

- ・公認会計士
- ・司法書士
- ・税理士
- ・弁理士
- ・不動産鑑定士
- ・無線従事者試験 第1級総合無線通信士
- ・無線従事者試験 第1級陸上無線技術士
- ・ITストラテジスト試験（ST）

なお、上記以外でもこれらと同等の資格試験とみなされる場合があります。合格した資格試験や運動・文化活動において収めた成績が対象となるかを確認したい場合は、所属の学部事務室にお申し出ください。

(7) 研究不正防止に関する取り組み

本学では、研究活動上の不正行為を防止するため、本学において研究を実施する全ての者が遵守すべき基本精神及び行動規範を定めるとともに、文部科学省「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」に基づき、不正行為が生じた場合の適正な対応について必要な事項を定めています。

- ・研究不正防止に関する取り組み 

(8) HGU数理・データサイエンス教育プログラム

本学では、学生のみなさんが大学4年間の間に、デジタル社会で自らの能力を十分発揮できる素養やスキルを身につけてもらうために、「HGU数理・データサイエンス教育プログラム」を設置しています。

- ・HGU数理・データサイエンス教育プログラム 

(9) 北海学園大学の沿革

北海学園大学は、1885（明治18）年の北海英語学校の設立を起源に、1950（昭和25）年の北海短期大学を経て、1952（昭和27）年に経済学部1部経済学科を創設しました。北海道における最初の私立大学の誕生です。

1950（昭和25）年

北海短期大学を創設し、経済科1部、2部を開設

1952（昭和27）年

北海学園大学（4年制）を創設し、経済学部1部経済学科を開設

1953（昭和28）年

北海学園大学経済学部2部経済学科を開設

1957（昭和32）年

北海学園大学開発研究所を開設

1962（昭和37）年

北海短期大学土木科1部、2部（南26条西11丁目）を開設

1964（昭和39）年

北海学園大学法学部1部法律学科、2部法律学科を開設

1965（昭和40）年

北海短期大学を北海学園大学短期大学部と改称

1966（昭和41）年

北海学園大学経済学部1部経営学科、2部経営学科を開設

1968（昭和43）年

北海学園大学工学部土木工学科、建築学科を開設

1970（昭和45）年

北海学園大学大学院経済学研究科経済政策専攻修士課程を開設

1986（昭和61）年

北海学園大学大学院法学研究科法律学専攻修士課程を開設

1987（昭和62）年

北海学園大学工学部電子情報工学科を開設

1991（平成3）年

北海学園大学大学院工学研究科建設工学専攻・電子情報工学専攻修士課程を開設

1992（平成4）年

北海学園大学大学院法学研究科法律学専攻博士（後期）課程を開設

1993（平成5）年

北海学園大学人文学部1部日本文化学科、2部日本文化学科、1部英米文化学科、2部英米文化学科を開設

1995（平成7）年

北海学園大学大学院経済学研究科経済政策専攻博士（後期）課程、大学院工学研究科建設工学専攻・電子情報工学専攻博士（後期）課程を開設

1999（平成11）年

北海学園大学法学部1部政治学科、2部政治学科を開設

北海学園大学大学院文学研究科日本文化専攻修士課程を開設

2000（平成12）年

北海学園大学大学院経営学研究科経営学専攻修士課程を開設

2001（平成13）年

北海学園大学大学院文学研究科日本文化専攻博士（後期）課程を開設

2002（平成14）年

北海学園大学大学院経営学研究科経営学専攻博士（後期）課程を開設

2003（平成15）年

北海学園大学経済学部1部地域経済学科、2部地域経済学科を開設

北海学園大学経営学部1部経営学科、1部経営情報学科を開設

北海学園大学経営学部2部経営学科を開設

北海学園大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程を開設

北海学園大学大学院文学研究科英米文化専攻修士課程を開設

2005（平成17）年

北海学園大学大学院法学研究科政治学専攻博士（後期）課程を開設

北海学園大学大学院文学研究科英米文化専攻博士（後期）課程を開設

北海学園大学大学院法務研究科（法科大学院）法務専攻専門職学位課程を開設

北海学園大学工学部土木工学科を社会環境工学科と改称

2012（平成24）年

北海学園大学工学部生命工学科を開設

2016（平成28）年

北海学園大学大学院工学研究科電子情報生命工学専攻修士課程を開設

2018（平成30）年

北海学園大学大学院工学研究科電子情報生命工学専攻博士（後期）課程を開設

2019（平成31）年

北海学園大学出版会（英文名称Hokkai-Gakuen University Press）が発足。

2024（令和6）年

北海学園大学大学院法務研究科（法科大学院）法務専攻専門職学位課程を廃止

2026（令和8）年

開発研究所及び地域連携推進機構を改組統合し、北方共創圏研究センターに名称変更

(10) サポート体制

○相談・支援依頼窓口

「学生相談・支援依頼窓口」は、皆さん一人ひとりが自分らしく充実した学生生活を送ることが出来るよう、さまざまな悩みの相談に応じています。学業・進路・就職・人間関係・こころの健康・修学上の障壁など、不安や戸惑いを感じる事があれば、どうぞお気軽にご相談ください。以下の利用案内をよくご覧になり、自分に合った相談方法を見つけてください。

- ・相談・支援依頼窓口 
- ・お問い合わせ一覧 

○学生部

学生部では、学生の皆さんに快適で健康な、充実した学生生活を送ってもらうために、奨学金業務、福利厚生や健康管理、学生相談、課外活動に関する支援、整備拡充のための活動を行っています。

山鼻キャンパスでは、工学部事務室内学生担当で窓口業務を取扱っています。

- ・学生部 

○医務室

医務室では、学生の皆さんが心身ともに元気に安心して学生生活を過ごせるように健康面のサポートを行っています。年に一度の健康診断や健康に関する情報の配信、健康相談、けがや体調不良時の応急処置や病院への紹介をしています。身体的・精神的な悩みなどありましたらお気軽に医務室にご相談ください。

- ・医務室（応急措置・健康診断） 

○PC教室（ITサポート）

PC教室の主なITサポートは、「教育用コンピュータ実習室および計算機実習室が提供するサービスに関するご質問・ご相談」「PCやプリント機器管理、ネットワーク障害の対応、実習室内PC」「ソフトウェア等利用の初歩的なサポート（豊平キャンパスのみ）」です。

以下のような相談にはお答えできませんので、ご了承ください。

- ・教務事項に関わること（所属学部事務室・教務センターにお問い合わせください。）
- ・個人持込PCの故障等（購入した販売店かメーカーのサポートセンターにご相談ください。）
- ・PC教室（ITサポート） 

(11) 大学の施設、構内マップ

○附属図書館

1911（明治44）年、北海学園の創設者である浅羽靖が、自らの所蔵する図書や、全国各地から寄贈を受けた図書など1万余冊による「北駕文庫」を設け、広く利用に供したことがその始まりです。

その後、1950（昭和25）年に北海学園大学の前身となる北海短期大学が設立されると、北駕文庫は附属図書館となりました。

1953（昭和28）年には、北海学園大学発足後初となる本格的建築物として北海学園図書館が完成しました。

以来、1968（昭和43）年の新図書館への移転を経て、1987（昭和62）年4月に北海学園創基百周年記念事業の一環として、3館目となる現在の図書館が開館しました。

また、山鼻キャンパスにある工学部図書室は、1962（昭和37）年の北海短期大学土木科開設に伴って設置されました。

その後、3度の移転を行い、1987（昭和62）年5月に現在の図書室が開室しました。

道内大学図書館では2番目となる蔵書数を誇り、質の高い教育・学習・研究を支える総合図書館として機能しています。

その他にも、「上原文庫」や「高倉文庫」など、貴重な資料が多数所蔵されています。

- ・北海学園大学附属図書館 

○ラーニング・commons

ラーニング・commonsとは“能動的で多様な学びを支援する空間”のことをいいます。

北海学園大学ラーニング・commonsは、「アクティブ・エリア」「サイレント・エリア」「ワーク・エリア」「ラウンジ」の4つで構成され、従来の図書館から機能別に分化した学修支援の場として生まれ変わりました。

“教室の延長線”にあるラーニング・commonsではグループでの学修だけではなく、静かな環境で集中して読書をしたり、思考力を磨いたりする学修空間を備えるため、1階から4階まで各階がそれぞれの最適な学修支援スタイルの実現のため設計されました。

- ・ラーニング・commons（図書館） 

○北方共創圏研究センター

北海学園大学北方共創圏研究センターは、経済開発、社会開発の両面にわたって北海道の発展に寄与することを目的として1957年に開設された開発研究所を改組し、2026年度、新たに創設されました。地域プラットフォーム構築事業（GIS）、地域貢献研究事業（調査研究系・地域連携系）、地域政策研究事業（受託研究等の外部資金による地域研究）、産官学連携人材育成事業を実施し、研究・教育面から地域連携を推進することで北海道に地域貢献をおこないます。

○判例演習室（5号館2階）

判例演習室は、わが国の法令集、判例集、判例および判例研究を収めた法律専門雑誌（大学紀要を除く）を整備し、わが国の判例を研究・教育するための施設として教員および学生の利用に供されています。また、求めに応じて一般の利用も認められます。収蔵されている判例集は18種、法律専門雑誌は60種以上にのぼり、それらの検索のために、「ロー・ライブラリー」「LLI判例秘書」「第一法規法情報総合データベース」「Westlaw」等のデータベースを導入し、検索サービスを行っています。なお、以上の基本的な判例集等の一層の充実のほか、文献情報を的確に入手できる最新諸機器の導入をはかり本学の特色の1つとなっています。

〔学生閲覧内規〕

1. 法学部学生および大学院法学研究科の学生は、備付けの図書を閲覧し、または検索用機器を利用することを目的とする場合に限り、本室を利用することができる。
2. 入室の際には、本室係員に学生証を提出しなければならない。
なお、本室に施錠してあって入室できないときは、法学部事務室で鍵を借りて本室を利用することができる。その場合、その者の学生証を法学部事務室で保管する（午後7時30分まで利用可）。
3. 第1項の学生を除く学部の学生または大学院の学生で、とくに本室の利用を希望する学生は、本室係員にその旨を申し出るものとする。
利用の手続きについては、第1項の学生に準じて扱う。
4. 本室備付け図書は、室外に帯出することはできない。
5. 本室備付け図書を複写するために、設置のコピー機を利用することができる。複写できる範囲は著作権法の定めるところに従う。
6. 本室内での携帯電話の利用、飲食および喫煙を禁止する。
7. 開室時間
月～金曜日 10:00～20:00
土曜日 10:00～15:00

○学園スタディールーム（5号館2階）

北海学園大学生が自学自習のために利用できる施設です。個人持込パソコンを利用することも可能です。室内掲示の注意事項を確認のうえ、利用してください。

利用時間：月～金曜日 9:00～22:00

土曜日 9:00～16:00

※日・祝日・学園休業日・学園関係入試日（準備日含む）は閉鎖

※夏季および春季休業期間は利用時間の変更あり

○学園オープンラウンジ（教育会館2階）

北海学園関係者（学生・教職員）が自学自習や飲食、休憩などに利用できるスペースです。

掲示の注意事項を確認のうえ、利用してください。

利用時間：月～土曜日 9:00～21:00

（日・祝日・学園休業日は閉鎖）

○国際交流課（教育会館2階）

学部主催プログラムを除く協定留学プログラムを中心に、協定校との学生派遣・受入れおよび教員派遣・受入れに関する業務を行っています。短期間の夏期海外研修や長期間の協定留学など、協定校との交流、留学手続きキャンパス内での国際交流等に関してご不明点等がある場合は、以下の時間帯にお問い合わせください。

窓口取扱時間：

月・水・金 9:00～12:40／13:40～16:00／
17:30～19:30

火・木 9:00～12:40／13:40～16:00

土 9:00～12:40／17:30～19:30

○国際交流サロン（教育会館2階）

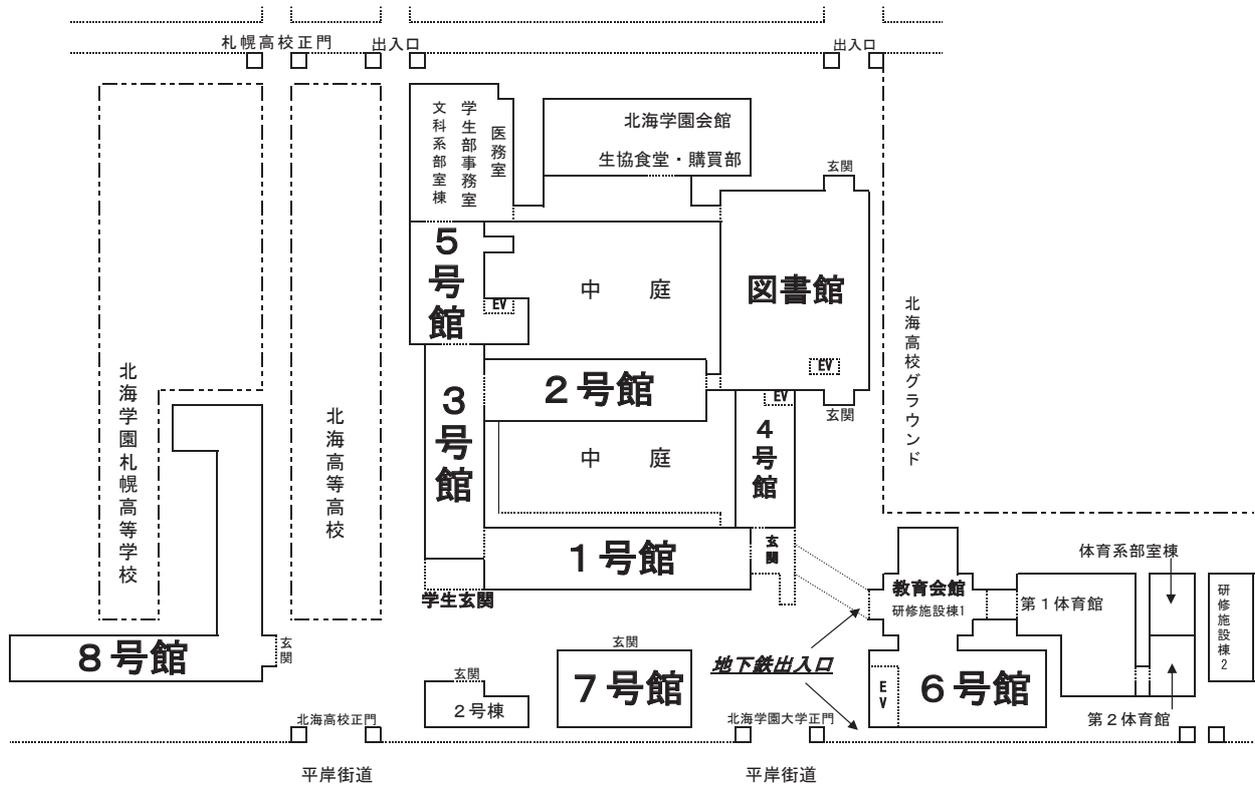
北海学園設置校（北海学園大学、北海商科大学、北海高等学校、北海学園札幌高等学校）で学ぶ大学生、高校生、留学生の国際交流活動をサポートしています。留学や留学イベントに関する情報発信、設置校への国際交流事業推進に向けた情報提供、交流イベントの開催、本学の協定留学プログラム以外の留学（私費留学やワーキングホリデーなど）に関するサポートを行っています。

窓口取扱時間：

月～金 9:00～12:40／13:40～16:00

○構内マップ

北海学園大学 豊平校舎教室等配置図



1号館		3号館		5号館		7号館		8号館		
3階	34番教室	4階	41番教室	6階	60番教室	6階	D60番教室	4階	B41番教室	
	A301~A305		42番教室		5階		50番教室		D601	B42番教室
2階	A201~A207	3階	32番教室	4階	40番教室	6階	グローバルラウンジ	3階	B31番教室	
	面談室A~D		33番教室		3階		コンピュータ実習室A		行動科学実験室1	B32番教室
	社会教育主事課程室	コンピュータ実習室C	2階	E22番教室	5階	D50番教室	5階	D501~D507	B301~B302	
教職指導室	コンピュータ実習室D	E23番教室		D51番教室		一般教育演習室1~2				
1階	キャリア支援センター事務室	2階	20番教室	2階	学園スタディールーム	4階	D40番教室	2階	B201~B215	
	事務部事務室		23番教室		6号館		3階		C30番教室	4階
	24番教室		C31番教室	3階		D42番教室		6階	図書館	
	25番教室		C301~C303			D401~D405			6階	
	26番教室		CALL教室	3階	D30番教室	4階	AV6番教室			
	27番教室		教育会館		2階		D31番教室	4階	AV1番教室	
	28番教室			1階		1階	D20番教室		4階	AV5番教室
	29番教室		第4会議室		1階		D101~D103	4階		AL1~AL6
	E20番教室		学部事務室	AV4番教室		教務センター事務室				
	第4会議室		非常勤講師室	2階	学園オープンラウンジ					
	1階		2階	国際交流課事務室						

北海学園大学 山鼻校舎教室等配置図

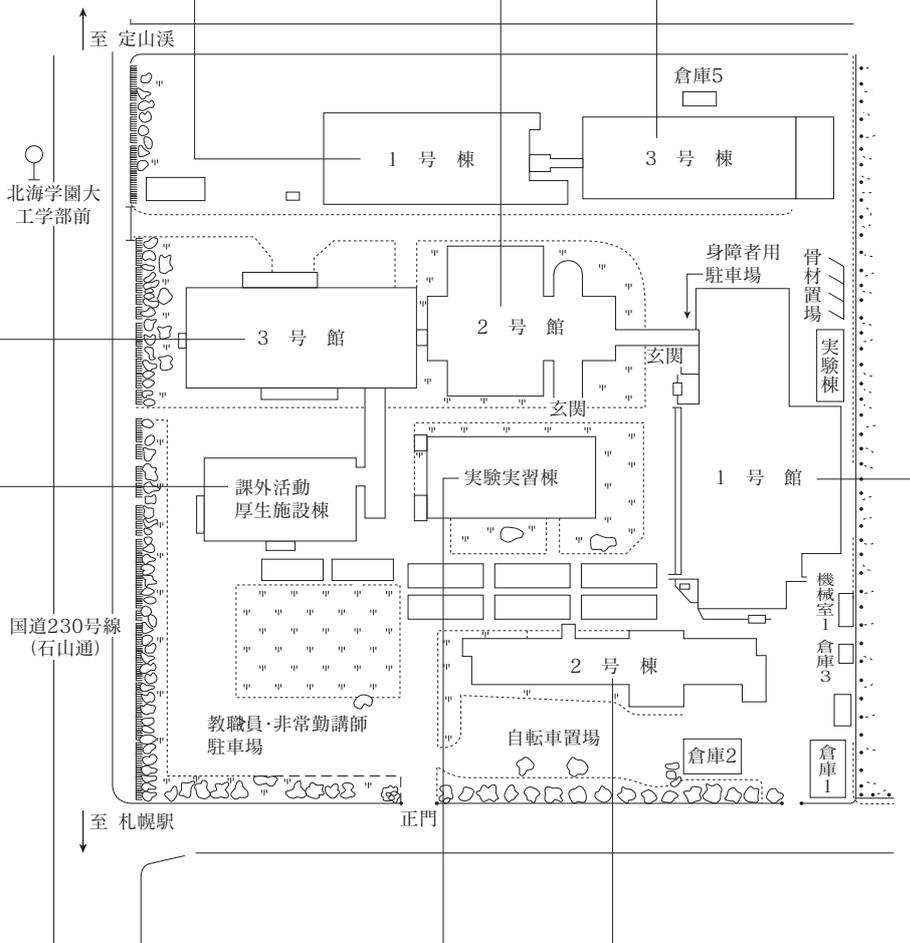
3号館	
5階	測定室
	セミナー室
	生命系実験室1~4
	生命系共同実験室
4階	動物実験室
	細胞培養室
	低温室
	数理情報処理実験室
3階	波動情報処理実験室
	学生自習室
	生命系学生実験室1
	生命系学生実験室2
2階	ロッカー室(男・女)
	3A番教室
	3B番教室
	計算機実習室4
1階	人間計測工学実験室
	生体計測実験室
	生体計測実験室(防音室)
	研究資料室・研究会議室
地下1階	大型振動実験室

1号棟	
2階	オープンデザインスタジオ
	資料展示コーナー
1階	共同研究センター
	多目的研修室

2号館	
6階	電子工学実験室
	電子材料・デバイス実験室
5階	暗室(電子材料)
	光通信実験室
4階	情報工学実験室
	演習室 5~6
3階	計算機実習室1
	計算機実習室2
2階	計算機実習室3
	計算機実習室受付
1階	35番教室
	36番教室
地下1階	37番教室
	38番教室
地下2階	事務室
	非常勤講師室
地下3階	医務室
	会議室
地下4階	学生相談室
	キャリア支援資料室
地下5階	管理室(受付)
	図書室

3号棟	
1階	11番教室
	断熱・気密住宅試験室
地下1階	室内凍結路面走行試験室

1号館	
5階	観測室
	大学院実験実習室4
4階	環境工学実験室
	社環製図室
3階	建築製図室
	31番教室
2階	32番教室
	33番教室
1階	34番教室
	演習室 1~4
地下1階	21番教室
	22番教室
地下2階	材料実験室
	土質実験室
地下3階	低温実験室
	測量準備室
地下4階	卒論室 K
	卒論室 L
地下5階	自由学習コーナー



課外活動厚生施設	
2階	部室①~⑩
1階	学生食堂(約180席)
	売店

実験実習棟	
1階	水環境工学実験室
	建築環境計画実験室
	道路材料実験室

2号棟	
2階	演習室 G
	演習室 H
1階	工学基礎実験室 1~3
	演習室 A~C

① スケジュール

◆履修登録期間

2026年4月11日(土)～4月15日(水)23:59まで

◆履修登録確認

2026年4月17日(金)10:00～

G-PLUS! 履修アイコンの「履修確認」で確認してください。

※履修登録期間終了後から履修登録確認開始前までは、「履修確認」メニューは利用できません。

※MY時間割・MYPAGEの履修情報も更新されます。

◆履修変更

2026年4月18日(土)～4月22日(水)23:59まで

※変更した内容は、4月24日(金)10:00以降に「履修確認」で確認してください。

◆履修登録確認書配付

配付方法は所属学部によって異なります。

◆第2学期履修変更

2026年9月26日(土)～9月30日(水)23:59まで

※第2学期履修変更の確認は、10月2日(金)10:00以降に「履修確認」で確認してください。

◆第2学期履修登録確認書配付

配付方法は所属学部によって異なります。

② 学内ネットワーク利用のユーザIDとパスワードの取得

◆履修登録はG-PLUS! を利用します。G-PLUS! を利用するには**ユーザIDとパスワードが必要**です。新生生にはWEB出願サイト・マイページで通知します。

ユーザIDとパスワードを忘れた場合は、学生証を必ず持参の上、教育用コンピュータ実習室A受付(豊平キャンパス5号館3階)か計算機実習室(山鼻キャンパス2号館4階)で再発行の手続きをしてください。

通常、再発行パスワードの受渡しは当日となります。

③注意事項

- ◆学期開始時にLMSで自己登録をしても履修登録は完了しません。必ずG-PLUS!で履修登録をしてください。
- ◆4月の履修登録期間に**必ず第1学期, 第2学期両方の履修登録**を行ってください。
- ◆履修登録期間終了間際は多くのアクセスが予想され, G-PLUS!や履修登録メニューの接続に時間がかかるなど, **動作が不安定になることが懸念**されますので注意してください。
- ◆履修登録期間中, 履修登録に関する情報をG-PLUS!の**お知らせ**で配信することがありますので, 必ず確認してください。配信されたお知らせを見逃さないように, G-PLUS!お知らせ設定のメッセージ転送設定でよく使う**メールアドレス**に転送することをお奨めします。
- ◆4月16日(木)以前, また履修変更期間に変更登録を行った時など, 履修が確定していない場合は, 休講情報や教室変更情報をお知らせとして受信することはできません。G-PLUS!教務お知らせ一覧の「休講情報一覧」等から確認してください。
- ◆履修登録する前に事前申込・許可が必要な科目があります。配信等で許可発表を確認した上で, 許可された科目の履修登録をしてください。

④G-PLUS! 利用環境

- ◆G-PLUS!の利用可能時間は午前6:00から翌午前3:00までとなります。
上記時間以外は, システムデータ連携のため利用できません。
- ◆G-PLUS!利用推奨環境は, 以下のOS・ブラウザです。
OS:Windows OS, Mac OS, iOS, Android
ブラウザ:Chrome, Firefox, Safari, Edge
- ◆G-PLUS!は3時間操作せずに放置すると, タイムアウトとなりセッションが断たれます。履修登録も初めからやり直しになるので注意してください。

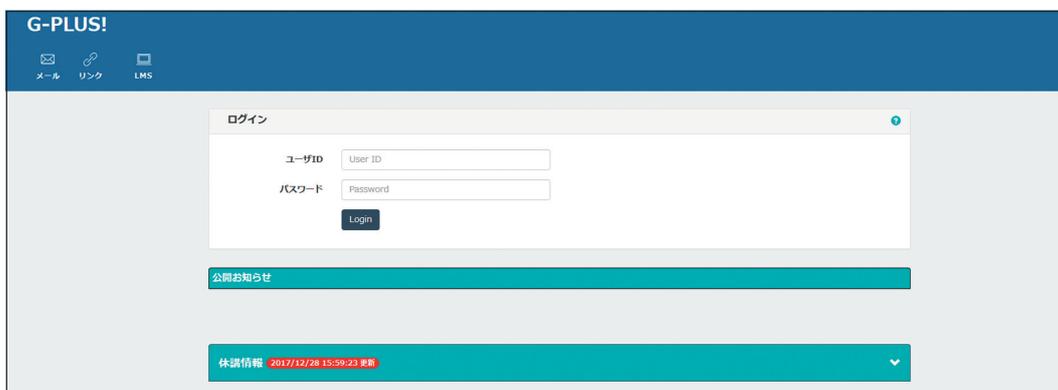
⑤問い合わせ

- ◆履修登録におけるG-PLUS!操作に関する質問は, メールで受け付けます。
学生番号・氏名を明記のうえ, **info-help@hgu.jp**宛に送信してください。
- ◆開講科目・時間割等のカリキュラムに関する質問は, 所属学部事務室へ問い合わせてください。

履修登録操作方法

1) 履修登録画面をひらく

G-PLUS! (<https://gplus.hgu.jp/>)を開き,
「ユーザID」と「パスワード」を入力し、ログインしてください。



ログイン後、アイコンバーの【履修】をクリックし、
【履修登録】を選択してください。



2) 履修登録画面について

履修登録は下の時間割表の画面で行います。

画面上部の履修単位数を確認しながら、第1学期、第2学期の登録をしてください。



動作不良の原因となるため、ブラウザの⏪(戻る)ボタンは使用しないでください。
時間割表の画面はパソコン・スマートフォンで異なります。
スマートフォンの画面は⑨ページを参照してください。

履修登録 時間割更新 20××年

履修単位情報

	第1学期		第2学期		通年	合計
履修単位	10		12		4	26
下限	0	-	0	-	-	0
上限	-	-	-	-	-	48
履修上限外	0		0		0	0
総合計	10		12		4	26

	1部		2部	
履修単位	26		0	
下限	0	48	0	-
上限	-	-	-	-

履修内訳 (科目種別)

一般	専門	履修上限外	総合計
10	16	0	26

第1学期 第2学期 集中講義

講義検索 課程申請 申請

期間中は何度でも申請可能です。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1	01021 体育実技 I B 複数の教員	01172 ※歴史学 IIヨーロッパ現代 複数の教員	03233 ドイツ語会話 II 複数の教員	変更不可 09027 ※CS-A 複数の教員		
2		変更不可 09027				

①履修単位情報

現在画面上で登録している科目の単位数が表示されます。
(次ページ参照)

②学期、集中講義の切替え

第1学期、第2学期、集中講義の切替えができます。

③各ボタン

講義検索

開講曜日・時限や担当教員名などの条件から講義を検索できる画面に移動します。(⑨ページ参照)

課程申請

今年度から新規に課程を申請する場合に、課程申請の画面に移動します。(⑪ページ参照)

④時間割画面

開講曜日・時限で履修登録する科目の検索や、登録した科目名・担当教員名が表示されます。

空白のマスはその曜日・時限が未登録である状態です。
網掛けのマスは選択できる科目がない状態です。

変更不可

事前に履修登録が決められていて、変更することができないことを表します。

特試

(工学部生のみ)特試科目を表します。

前半

後半

開講期が各学期の前半または後半の科目を表します。

エラー

エラーが発生している曜日・時限を表します。

履修単位数集計欄の見方

		第1学期		第2学期		通年		合計		1部		2部		
①	履修単位	24		28		0		52		52		0		
②	下限	0	-	0	-	-	0	52	②	下限	0	52	0	-
	上限									上限				
③	履修上限外	2		0		0		2		履修内訳 (科目種別)				
④	総合計	26		28		0		54		⑤	一般	専門	履修上限外	総合計
										28	24	2	54	

- ①履修単位 履修単位の合計が、各学期・通年・1部・2部ごとに表示されます。ただし、課程科目・自由科目・特試科目など、下限・上限の制限外の科目は含みません。
- ②下限・上限 当該学期・合計・1部・2部によって設定されています。上記の例だと、1部で合計52単位まで履修登録することが可能で、学期や通年の下限部分のように「-」または「0」が入っている欄は制限がないことを意味します。
- ③履修上限外 課程科目・自由科目・特試科目など、下限・上限の制限に含まれない科目の履修単位数が表示されます。
- ④総合計 履修上限外の科目も含んだ合計履修単位数が表示されます。上記の例だと、左表の第1学期履修単位数が24単位、第1学期履修上限外単位数が2単位となっているため、総合計の単位数は26単位となります。
- ⑤履修内訳(科目種別) 履修科目の一般教育科目・専門科目・履修上限外科目ごとの履修単位数が表示されます。ただし、遠隔授業の単位数はG-PLUS!の画面上では表示されませんので、ご注意ください。

スマートフォン版 履修登録画面

スマートフォン版の履修登録画面では時間割表の上部ボタンで[全曜日]と[各曜日]の表示切替ができます。

各マスを選択すると講義選択画面に移動します。

ただし、履修変更不可の曜日・時限や、選択できる講義がないマスは移動しません。

[全曜日]表示

全曜日	月	火	水	木	金	土
時限	月	火	水	木	金	土
1	色なし				色なし	
2	色なし		色なし			色なし
3		色なし	色なし		色なし	色なし
4		色なし	色なし	色なし		
5			色なし			
6						
7						

全曜日表示では、各マスの色で以下の状態を表しています。

- 色なし 科目が未選択の曜日・時限です。
- 科目が選択されている曜日・時限です。
- エラーが発生している曜日・時限です。
- 事前に履修登録が決められていて、変更することができない曜日・時限です。

[各曜日]表示

全曜日	月	火	水	木	金	土
1	エラー	01092 体育実技ⅣB 複数の教員				
2	エラー	01093 体育実技ⅣB 複数の教員				
3						
4						
5						
6						
7						

各曜日表示では、履修コード・科目名・教員名が表示されます。

マークによって以下の状態を表しています。

- エラー エラーが発生している曜日・時限です。
- 変更不可 事前に履修登録が決められていて、変更することができない曜日・時限です。
- 特試 (工学部生のみ) 特試科目を表します。

3) 履修科目を選択する(履修登録[講義選択]画面)

履修登録画面で各曜日・時限の空白枠内をクリックすると、その曜日・時限に開講されていて履修登録することができる科目の一覧が表示されます。

例えば、履修登録[時間割更新]画面で火曜日2時限目の枠をクリックすると下図のような[講義選択]画面になります。

選択	特試	履修コード	講義名	分野系列	シラバス	単位	担当教員	備考
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	01013	体育実技 I A	身体	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	01037	体育実技 II A	身体	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	03515	中国語文化演習 I	言語	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	21178	技術英語	技術英語	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	21230	流れ学 A・演習	流れ学選必	参照	1.5	複数の教員	特試

① 選択したい科目の (チェックボックス) をクリックし、チェックを入れてください。

② 選択科目に間違いがなければ **講義選択** ボタンをクリックしてください。

① 選択

登録したい科目のチェックボックスをクリックし、チェックを入れます。

※申請をしていない課程科目のチェックボックスはクリックできません。

※一度申請した科目を取り消したい場合は、チェックを外した上で登録する必要があります。

② 特試(工学部2021年度以前入学者が対象)

工学部専門科目のみ関係します。

前回「特試」か「特欠」の評価が付いた科目はチェックボックスをクリックし、チェックすることができます。

同一時間に他の科目と重複しても特試科目の場合は、両方履修することができるようになります。

※「①選択」をチェックすると、特試の登録はされません。

③ 講義名

課程科目の講義名の前には[課程(未)]または[課程]の表示がされます。

[課程(未)] その科目の課程を申請していないことを表します。

[課程] その科目の課程が申請済みであることを表します。

※課程を受講する場合は、事前に課程申請画面で申請する必要があります(⑪ページ参照)。

④ シラバス

参照ボタンをクリックすると、その科目のシラバスページが開きます。シラバスは授業の目的、到達目標、授業計画などが記載されています。履修登録はシラバスをよく読んで行いましょう。



講義選択画面に表示される科目の中には、履修登録する前に事前申込・許可が必要な科目があります。

掲示板等で許可発表を確認した上で、許可された科目を履修登録してください。画面に表示される科目に時間割(冊子)やカリキュラムと不整合がある場合は、所属学部事務室までお知らせください。



履修科目が遠隔授業かどうかは、G-PLUS!画面上では表示されませんので、時間割(冊子)及びシラバスで確認してください。

申請のエラー表示(例)

履修登録 講義選択

注意

【履修エラー】
01025：同じ曜日時限に2科目以上重複して履修登録されています。
09027：同じ曜日時限に2科目以上重複して履修登録されています。

同一の曜日・時限で1科目しか履修できないのに、2科目以上選択するとエラーが表示されます。

第2学期 火曜日 2時限

選択	履修コード	講義名	分野系列	シラバス	単位	担当教員	備考
<input checked="" type="checkbox"/>	01025	体育実技 I B	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	01048	体育実技 II B	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	01071	体育実技 III B	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	01096	体育実技 IV B	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	03232	ドイツ語会話 II	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	03296	フランス語基礎 II	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	03576	韓国・朝鮮語基礎 II	一般教育	参照	1	複数の教員	
<input type="checkbox"/>		実践英語		参照	4	複数の教員	変更不可

①エラーが表示された場合は、選択をしない科目のチェックボックスをクリックしてチェックを外してください。

②チェックを外したら、**講義選択**ボタンをクリックしてください。



【注意】表示について

履修登録時に注意事項がある場合、履修登録画面の上部に注意ウインドウが表示されます。

表示される内容は以下の2種類に分類されます。

履修エラー 履修の上限・下限単位数の条件を満たさない場合や、上記の例のように選択している科目の組み合わせに問題がある場合などに表示されます。
内容を修正しなければ履修申請することができません。

卒業／進級確認 卒業または進級の要件が設定されている学年で、要件を満たしていない場合に不足単位数が表示されます。

4) 履修科目を選択する(履修登録[講義検索]画面)

開講曜日・時限や担当教員名などの条件から講義を検索することもできます。



① **講義検索** ボタンをクリックして下さい。

講義検索 課程申請 申請

選択コース: 経済財政政策コース 期間中は何度でも申請可能です。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						

履修登録[講義検索]画面に移動します。



履修登録 講義検索

戻る

検索条件

学期

曜日

時限

履修コード (前方一致)

講義名 (部分一致、全角入力)

担当教員 (部分一致、全角入力)

検索

② 検索する条件を1つ以上入力して下さい。

③ 検索条件を入力したら**検索** ボタンをクリックして下さい。



検索時の注意

講義名もしくは担当教員を入力する際は、全角文字を使用して下さい。

講義検索結果が表示されます。

選択	学期	曜日時限	履修コード	講義名	分野系列	シラバス	単位	担当教員	備考
<input type="checkbox"/>	第1学期	月 6 時限	28820	[課程](未)博物館情報・メディア論	学芸員	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	水 5 時限	28009	[課程](未)情報資源組織論	司書	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	木 5 時限	28008	[課程](未)図書館情報資源概論	司書	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	木 6 時限	28309	[課程](未)情報資源組織論	司書	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	木 7 時限	28308	[課程](未)図書館情報資源概論	司書	参照	2	複数の教員	
<input type="checkbox"/>	第1学期	金 5 時限	01285	特) 電子・情報の世界	B群 一般教養				
<input type="checkbox"/>	第2学期	水 6 時限	28341	[課程](未)情報メディアの活用	司書教諭				
<input type="checkbox"/>	第2学期	木 5 時限	28004	[課程](未)情報サービス論	司書				
<input type="checkbox"/>	第2学期	木 7 時限	28304	[課程](未)情報サービス論	司書				

仮に講義名に“情報”と入力して、検索した結果の画面です。

[戻る](#) [講義選択](#)

科目の並び順は、学期,曜日時限,履修コード順です。

検索結果の中に履修したい科目があれば,該当する科目の選択チェックボックスをクリックし,チェックを入れてください。

チェックを入れたら, **講義選択** ボタンをクリックしてください。

5) 新規に課程の受講を申請する

今年度から新規で課程の受講を希望する際に必要です。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1						
2						
3						

課程申請画面に移動します。

選択	配当学年	状態
<input checked="" type="checkbox"/>		未申請
<input type="checkbox"/>	公民 (高校一種)	
<input type="checkbox"/>	日本語教員	

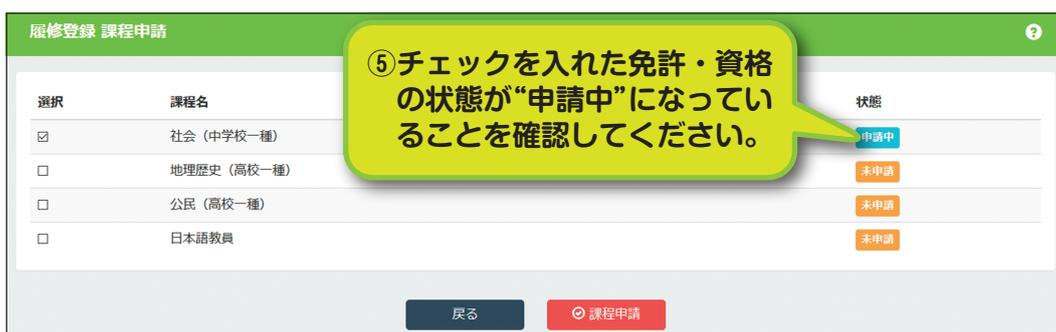
確認メッセージが表示されます。

選択	課程名	配当学年	状態
<input checked="" type="checkbox"/>	社会 (中学校一種)		未申請
<input type="checkbox"/>	地理歴史 (高校一種)		未申請
			未申請
			未申請

課程の申請が完了しました。



時間割画面に戻ったあと、課程申請画面を開き、状態が「申請中」になっていることを確認してください。



時間割画面に戻ると、申請した課程の科目のチェックボックスにチェックできるようになります。



課程の申請に関する注意

認定心理士を除く各課程の受講には、受講料が発生します(日本語教員養成課程については人文学部学生は免除)。
新規に課程の申請をする場合は、事前に申請する課程のガイダンスに必ず出席してください。



課程の申請を取り下げる場合(履修登録期間)

課程申請画面で取り下げたい課程申請のチェックを外してください。
課程申請を取り下げたことにより、履修対象外になる科目は、履修申請が自動的に取り下げられます。



課程の申請を取り下げる場合(第1学期履修登録変更期間)

取り下げたい課程科目の履修申請を取り下げてから、所属学部の窓口へ申し出てください。
また、新たに課程の申請をする場合は、⑪ページ「5)新規に課程の受講を申請する」の手順に従って申請してください。



過年度の課程の申請を取り下げることはできません。

6) 履修登録作業の完了(履修登録[時間割更新]画面)

履修する科目の選択(⑦~⑫ページ)が終わったら、
申請 ボタンをクリックします。

		第1学期		第2学期		通年		合計	
履修単位		6		14		4		24	
下限	上限	0	-	0	-	-	0	48	
履修上限外		0		0		0		0	
総合計		6		14		4		24	

		1部		2部	
履修単位		24		0	
下限	上限	0	48	0	-

各学期の登録作業が終わったら、**申請** ボタンをクリックしてください。

期間中は何度でも申請可能です。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1		変更不可 09022 ※CS-A 複数の教員	01097 体育実技IVB 複数の教員	03579 韓国・朝鮮語基礎Ⅱ 複数の教員		



この画面で **申請** を押さずに画面を閉じたり、別の画面に移動すると
内容が反映されなくなります。



一時的に中断する場合でも同様に **申請** → **OK** ボタンを押し申請完了画面まで進んでください。

確認メッセージが表示されます。

4 確認

履修登録を完了させる場合は、**OK** ボタンをクリックしてください。

申請して宜しいですか?

OK キャンセル

履修登録作業が完了しました。

履修登録 時間割更新 申請完了

履修登録が完了しました。履修登録内容は、「履修確認」で必ず確認してください。
また、「履修確認」画面は最終申請日時を含めて印刷または画像保存することをお奨めします。

履修確認画面



履修登録期間内であれば申請をした後でも科目の変更は可能です。

⑦～⑭ページの作業を再度行ってください。



体育実技を履修登録する場合

体育実技の教務お知らせ(休講や講義連絡など)は体育種目(硬式テニスなど)ごとに発信します。

履修登録作業の完了と同時にお知らせを受け取る種目を登録してください。

※お知らせの受信に関わる設定です。**種目の申込登録ではありません**。必ず許可を受けた種目を登録してください。

この設定は履修登録期間後も**お知らせアイコンのお知らせ設定**から修正することができます。

履修登録 時間割更新 申請完了

履修登録が完了しました。休講情報を受け取る体育種目を選択し登録ボタンを押してください。
また、履修登録内容は、「履修確認」で必ず確認してください。登録ボタンを押すと「履修確認」に移動します。
なお、「履修確認」画面は最終申請日時を含めて印刷または画像保存することをお奨めします。

休講情報を受け取る体育種目	1学期	<input type="text"/>	▼
	2学期	<input type="text"/>	▼

登録

7) 履修登録の確認(履修確認画面)

※履修登録作業終了時

履修登録後,必ず以下の操作で履修登録内容の確認をしてください。

控えとして,ブラウザの印刷機能でプリントアウトすることをお奨めいたします。



履修確認[時間割形式]画面になります。

履修確認 時間割形式 20xx年

履修単位情報

	第1学期		第2学期		通年	合計	
履修単位	22		22		4	48	
下限	0	-	0	-	-	0	48
上限	-		-		-	-	
履修上限外	0		0		0	0	
総合計	22		22		4	48	

	1部		2部	
履修単位	48		0	
下限	0	48	0	-
上限	-		-	

履修内訳 (科目種別)

一般	専門	履修上限外	総合計
6	42	0	48

第1学期 | 第2学期 | 集中講義

一覧形式

最終申請日時: 20xx年0月0日(△) 14時22分

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
1		変更不可 09001 ※ R & WS - A 複数の教員				
				変更不可		

一覧形式 をクリックすると履修確認[一覧形式]画面になります。

第1学期
第2学期
集中講義

時間割形式

最終申請日時：20××年○月○日(△) 15時24分

期間	履修コード	講義名	分野系列	単位	担当教員	備考
火1時限	09022	※C S - A	総合実践英語	4	複数の教員	変更不可
火3時限	03026	英語リーディングⅡ	一般教育	1	複数の教員	
水1時限	01097	体育実技ⅣB	一般教育	1	複数の教員	
水3時限	09088	心理学概論Ⅱ	導入	2	複数の教員	
水5時限	09181	※アカデミック・リテⅡ	キャリア	2	複数の教員	変更不可
木1時限	03579	韓国・朝鮮語基礎Ⅱ	一般教育	1	複数の教員	
木3時限	03475	中国語基礎Ⅱ	一般教育	1	複数の教員	
金3時限	09082	情報リテラシー	導入	4	複数の教員	変更不可, 通年
金5時限	01180	法学	一般教育	2	複数の教員	

時間割形式 をクリックすると履修確認[時間割形式]画面になります。

(13) 学則及び規程関係

(1) 北海学園大学学則

昭和43年4月1日	制定
昭和45年4月1日	変更
昭和51年4月1日	〃
昭和54年4月1日	〃
昭和56年4月1日	〃
昭和57年4月1日	〃
昭和58年4月1日	〃
昭和59年4月1日	〃
昭和60年4月1日	〃
昭和61年4月1日	〃
昭和62年4月1日	〃
昭和63年4月1日	〃
平成元年4月1日	〃
平成2年4月1日	〃
平成3年4月1日	〃
平成3年12月1日	〃
平成4年4月1日	〃
平成5年4月1日	〃
平成6年4月1日	〃
平成7年4月1日	〃
平成8年4月1日	〃
平成9年4月1日	〃
平成10年4月1日	〃
平成11年4月1日	〃
平成12年4月1日	〃
平成13年4月1日	〃
平成14年4月1日	〃
平成15年4月1日	〃
平成16年4月1日	〃
平成17年4月1日	〃
平成18年4月1日	〃
平成19年4月1日	〃
平成20年4月1日	〃
平成21年4月1日	〃
平成22年4月1日	〃
平成23年4月1日	〃
平成24年4月1日	〃
平成25年4月1日	〃
平成26年4月1日	〃
平成27年4月1日	〃
平成28年4月1日	〃
平成29年4月1日	〃
平成30年4月1日	〃
平成31年4月1日	〃
令和2年4月1日	〃
令和3年4月1日	〃
令和4年4月1日	〃
令和5年4月1日	〃
令和7年4月1日	〃
令和8年4月1日	〃

験（第17条－第26条）

第3節 休学，退学及び除籍（第27条－第31条）

第4節 卒業及び学士の学位（第32条・第33条）

第5節 授業料等，授業料等の免除，受講停止（第34条－第37条）

第6節 研究生，委託生，科目等履修生及び特別聴講学生（第38条－第46条）

第7節 賞罰（第47条－第49条）

第3章 教育職員免許状等（第50条－第51条の2）

第4章 公開講座（第52条）

第5章 組織

第1節 職員の組織（第53条－第56条）

第2節 教授会，協議会，全学教授会及び委員会等（第57条－第62条）

第6章 附属施設（第63条－第66条）

第7章 雑則（第67条）

附則

第1章 総則

（目的）

第1条 北海学園大学は，法令の定めるところに従い，最高の学術とその応用とを研究教授し，さらに人格の陶冶と身体の錬成とに努め，国家社会のために有為の人材を養成することを目的とする。

（自己評価等）

第2条 北海学園大学（以下「本大学」という。）は，その目的を達成するため，本大学における教育研究活動等の状況について，自ら点検及び評価を行い，その結果を公表するものとする。

2 前項の点検及び評価に関する事項については，別に定める。

（認証評価）

第2条の2 本大学は，前条の措置に加え，教育研究等の総合的な状況について，政令で定める期間ごとに，文部科学大臣の認証を受けた者による評価を受けるものとする。

（FD (Faculty Development) 及びSD (Staff Development)）

第2条の3 本大学は，教育内容及び方法を改善し向上させるため，研修及び研究をはじめとする必要な組織的取り組み（FD）を行う。

2 本大学は，教育研究活動等の適切かつ効果的な運営を図るため，その教育職員及び事務職員に必要な知識及び技能を習得させ，並びにその能力及び資質を向上させるための研修（前項に規定する研修に該当するものを除く。）をはじめとする必要な組織的取組（SD）を行う。

（情報公開）

第2条の4 本大学は，教育研究活動等の状況について，刊行物への掲載その他広く周知を図ることができる方法によって積極的に情報を提供するものとする。

（学部，学科，入学定員，編入学定員及び収容定員）

第3条 本大学に，次の学部及び学科を置き，入学定員及び収容定員は，次のとおりとする。

学 部 （学 科） （入学定員）（収容定員）

学 部	（学 科）	（入学定員）	（収容定員）
経済学部1部	経 済 学 科	160	640
同 上	地 域 経 済 学 科	140	560
経済学部2部	経 済 学 科	75	300
同 上	地 域 経 済 学 科	45	180

目次

第1章 総則（第1条－第7条）

第2章 学生

第1節 入学，編入学，転学部，転学及び留学（第8条－第16条）

第2節 授業科目，履修方法，単位認定基準及び試

経営学部1部	経営学科	160	640
同上	経営情報学科	140	560
経営学部2部	経営学科	100	400
法学部1部	法律学科	150	600
同上	政治学科	125	500
法学部2部	法律学科	100	400
同上	政治学科	75	300
人文学部1部	日本文化学科	100	400
同上	英米文化学科	95	380
人文学部2部	日本文化学科	40	160
同上	英米文化学科	30	120
工学部	社会環境工学科	60	240
同上	建築学科	70	280
同上	電子情報工学科	70	280
同上	生命工学科	60	240

- 2 各学部に関する規則は、別に定める。
- 3 前項の規則には、各学部・学科ごとに教育研究上の目的を定めるものとする。
- 4 本大学に、大学院を置く。大学院の学則は、別に定める。

(学年及び授業期間)

第4条 学年は、4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

- 2 1年間の授業を行う期間は、定期試験等の期間を含め、35週にわたることを原則とする。

第5条 学年を次の2学期に分ける。

第1学期 4月1日から9月30日まで

第2学期 10月1日から翌年3月31日まで

(休業日)

第6条 授業を行わない日(以下「休業日」という。)は、次の各号に掲げるとおりとする。

- (1) 日曜日
- (2) 国民の祝日 国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する日
- (3) 創立記念日 5月16日
- (4) 春季休業
- (5) 夏季休業
- (6) 冬季休業

- 2 前項第4号から第6号までに掲げる休業日は、別に定める。

- 3 学長は、協議会の議を経て休業日を変更し、臨時休業日を設け、又は休業日に授業を行うことができる。(修業年限及び在学期間)

第7条 本大学の修業年限は、4年とし、在学期間は、修業年限の2倍を超えることができない。

第2章 学生

第1節 入学、編入学、転入学、転学部及び留学

(入学)

第8条 入学期は、毎学年の始めとする。

第9条 本大学に入学することのできる者は、次の各号の一に該当するものとする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 12年の学校教育の課程を修了した者(通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。)
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者

(4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者

(5) 専修学校の高等課程(修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る)で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者

(6) 文部科学大臣の指定した者

(7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者(旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む。)

(8) その他、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学で認めた者

第10条 本大学に入学を志願する者は、所定の書類に別表13に定める入学検定料を添えて、学長に願い出なければならない。

第11条 入学志願者については、別に定める入学者選抜規程により、所定の入学者選抜を行い合格者を決定する。

- 2 前項による合格の通知を受けた志願者のうち、所定の期日までに所定の手続きを完了した者に、学長は、入学を許可する。

(編入学、転入学、転学部)

第12条 次の各号の一に該当する者について、教授会で選考のうえ、学長が編入学又は転入学を許可することができる。

- (1) 大学に2年以上在学し、所定の単位を修得した者(中途退学者を含む。)で、入学を志願する者
- (2) 大学を卒業した者で、入学を志願する者
- (3) 短期大学又は高等専門学校を卒業した者で、入学を志願する者

(4) 専修学校の専門課程のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

(ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る)

(5) 高等学校、中等教育学校の後期課程及び特別支援学校の専攻科(以下「高等学校等の専攻科」という。)のうち、文部科学大臣の定める基準を満たすものを修了した者

(ただし、学校教育法第90条に規定する大学入学資格を有する者に限る)

(6) 外国の短期大学を卒業した者及び外国の短期大学の課程を有するものとして当該外国の学校教育制度において位置付けられた教育施設であって、文部科学大臣が別に指定するものの当該課程を我が国において修了した者(学校教育法第90条第1項に規定する者に限る。)

- 2 前項の規定にかかわらず、大学に1年以上在学し、所定の単位を修得した者で、法学部第2年次に入学を志願する者については、法学部教授会で選考のうえ、学長が入学を許可することができる。

3 前二項の規定により入学を許可された者の入学前に履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)の一部又は全部の認定は、教授会の議を経て行うものとする。

4 前項に規定する者の入学前の大学、短期大学、高等専門学校、専修学校の専門課程又は高等学校等の専攻科における在学年数については、その一部又は全部を当該学部の教授会の議を経て、本大学における在学期間に算入することができる。

第13条 一つの学部の学生であって、他の学部に転学部を志願する者又は他の大学から本大学に転入学を志願する者については、欠員のある場合に限り、教授会で選考のうえ、学長が許可することができる。

2 前項の規定により転学部を志願する者にあつては、在学する学部の、転入学を志願する者にあつては、在学する大学の許可証を所定の書類に添えなければならない。

3 前項の規定により転学部又は転入学を許可された者の転学部又は転入学前に履修した授業科目について修得した単位の一部又は全部の認定は、教授会の議を経て行うものとする。

第14条 他の大学に転入学を志願する者は、書面をもってその旨学部長を経由して学長に願い出て、その許可を受けなければならない。

(留学)

第15条 学生が海外の大学その他の相当と認められる教育・研究機関等に留学する場合は、第24条の規定を準用するほか、別に定める規定による。

2 休学期間中に、学生が前項の機関等に留学する場合も、前項と同様とする。ただし、第24条第3項は準用しない。

(二重学籍の禁止)

第16条 本大学の学生は、他の大学に在籍することを認めない。ただし、本大学と海外の大学との共同学位にかかる協定による場合は、この限りではない。

第2節 授業科目、履修方法、単位認定基準及び試験

(授業科目)

第17条 授業科目は、必修科目、選択科目及び自由科目とする。

(授業科目の区別)

第18条 各学部の授業科目、授業科目の単位数及び年次配当並びに必修科目、選択科目及び自由科目の区別は、別表1から別表9のとおりとする。

(副専攻)

第18条の2 学位を取得する専攻以外の特定の分野又は課題に関する授業科目を体系的に修得させる教育課程として、副専攻を置くことができる。

2 副専攻に関する単位及び修了の認定等、必要な事項は別に定める。

(他学部の授業科目の履修)

第19条 学生は、他の学部の授業科目を履修することができる。この場合、所属する学部の学部長及び当該他学部の学部長の許可を得なければならない。

(単位数の計算方法)

第20条 各授業科目の単位数の計算は、1単位の授業科目を45時間の学修を必要とする内容をもって構成することを標準とし、授業の方法に応じて、次の各号に掲げる基準による。

- (1) 講義については、15時間の授業をもって1単位とする。
- (2) 外国語については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とすることができる。
- (3) 演習については、30時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、15時間の授業をもって1単位とする

ることができる。

(4) 実験及び実習については、45時間の授業をもって1単位とする。ただし、教育効果及び授業時間外に必要な学修等を考慮して、30時間の授業をもって1単位とすることができる。

(5) 体育実技については、30時間の授業をもって1単位とする。

2 本大学は、前項に規定する授業科目について、教育上有益と認めるときは、文部科学大臣が別に定めるところにより、多様なメディアを高度に利用して、当該授業を行う教室等以外の場所で履修させることができる。

(卒業論文等)

第21条 卒業論文、卒業研究及び卒業制作の履修方法並びに単位認定については、学部規則で定める。

(単位修得の認定)

第22条 履修した授業科目の単位修得の認定は、試験成績と平素の成績とを総合し、教授会の議を経て行うものとする。ただし、授業料等未納の者及び出席時数3分の2以下の者については、単位の認定をしない。

2 前項の規定にかかわらず、別表10に掲げる「教職課程授業科目」の単位修得の認定は、教職課程委員会に、別表11の(1)に掲げる「司書に関する科目」及び別表11の(2)に掲げる「司書教諭に関する科目」の単位認定は、図書館学課程委員会に、別表11の(3)に掲げる「社会教育主事に関する科目」の単位修得の認定は、社会教育主事課程委員会に、別表11の(4)に掲げる「学芸員に関する科目」の単位修得の認定は、学芸員課程委員会にそれぞれ委任するものとする。

ただし、社会教育主事に関する科目、学芸員に関する科目のうち、学部及び他の課程委員会に関わる授業科目の単位修得の認定は、社会教育主事課程委員会及び学芸員課程委員会にそれぞれ委任するものとする。

3 別表12(1)及び(2)に掲げる「日本語教員養成課程授業科目」の単位認定は、人文学部教授会が行う。ただし、他学部開講の授業科目の単位認定は、当該学部が行う。

4 第20条第2項に定める授業科目の履修により修得できる単位数は、第32条第1項各号に定める所定の単位のうち、60単位を超えないものとする。

(成績の評価)

第23条 授業科目の成績の評価は、秀(S)、優(A)、良(B)、可(C)及び不可(D)とし、秀、優、良及び可を合格とする。ただし、この成績の評価になじまない一部の科目は合及び否とし、合を合格とする。

2 前項に規定する成績評価と評点との対応は次の各号に掲げる基準による。

- | | |
|--------|---------|
| (1) 秀 | 100～90点 |
| (2) 優 | 89～80点 |
| (3) 良 | 79～70点 |
| (4) 可 | 69～60点 |
| (5) 不可 | 59～0点 |

(他大学等の授業科目の履修)

第24条 学部において、教育上有益と認めるときは、学生が他の大学又は短期大学の授業科目を履修することを認めることができる。

2 前項により学生が履修した授業科目について修得した単位は、60単位を超えない範囲で本大学において修得した単位とみなすことができる。

3 第1項及び前項により学生が授業科目を履修するために本大学を離れて他の地に滞在する期間は、本大学

の在学期間に含めることができる。

- 4 学部は、第1項の実施にあたって、履修できる授業科目の範囲等必要な事項について、教授会の議に基づき学長の許可を得て、当該他大学又は短期大学と協議しなければならない。

(大学以外の教育施設等における学修)

第25条 学部において、教育上有益と認めるときは、学生が行う短期大学又は高等専門学校の特攻科における学修その他文部科学大臣が別に定める学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定める認定の基準により教授会の議を経て単位を与えることができる。

- 2 前項により与えることができる単位数は、前条第2項により本大学において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

(入学前の既修得単位等の認定)

第26条 学部において、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に大学、短期大学、高等専門学校、専修学校の専門課程又は高等学校等の専攻科において履修した授業科目について修得した単位(科目等履修生として修得した単位を含む。)を、本大学における授業科目の履修により修得したものとみなし、別に定める認定の基準により教授会の議を経て認定することができる。

- 2 学部において、教育上有益と認めるときは、学生が本大学に入学する前に行った前条に規定する学修を、本大学における授業科目の履修とみなし、別に定める認定の基準により教授会の議を経て単位を与えることができる。
- 3 前二項により修得したものとみなし、又は与えることのできる単位数は、編入学、転学等の場合を除き、本大学において修得した単位以外のものについては、第24条第2項及び第25条第2項において修得したものとみなす単位数と合わせて60単位を超えないものとする。
- 4 前項の単位は、第7条に定める修業年限の短縮を伴わない。

第3節 休学、退学及び除籍

(休学)

第27条 学生は、疾病その他の事情で引続き3ヵ月以上就学できないとき、その他特別の理由があると認められるときは、教授会の議を経た後、学長の許可を得て、その学年の終わりまで休学することができる。

- 2 前項の規定にかかわらず、学年の始めにおいて既に4年の修業年限を満たしている者は、疾病その他の事情で引続き3ヵ月以上就学できないとき、その他特別の理由があると認められるときは、教授会の議を経た後、学長の許可を得て、第1学期の終わりまで休学することができる。
- 3 第1項の規定にかかわらず、学年の始めにおいて前年度の第2学期のみ休学した者(学期途中からの休学を含む)は、疾病その他の事情で引続き3ヵ月以上就学できないとき、その他特別の理由があると認められるときは、教授会の議を経た後、学長の許可を得て、第1学期の終わりまで休学することができる。
- 4 疾病のため就学することが適当でない学生については、教授会の議を経て、学長は、当該学生に休学を命じることができる。
- 5 休学理由が消滅し、休学期間が満了した学生につい

ては、教授会の議を経て、学長は復学させることができる。

(休学期間)

第28条 休学期間は当該年度限りとする。ただし、特別の理由があるときは、教授会の議を経た後、学長の許可を得て、さらに1ヵ年について休学することができる。

- 2 第27条第2項及び第3項による休学の場合、前項の「1ヵ年」は「次の学期とその翌年度の第1学期」と読み替える。
- 3 前二項の規定により休学延長をするときは、当初の休学期間を含めて連続して2ヵ年を限度とする。
- 4 通算して休学できる期間は、4年以内とする。
- 5 休学期間は、第7条の修業年限及び在学期間に加えない。

(退学)

第29条 学生が退学しようとするときは、所定の書類をもって学部長を経由して学長に願い出、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。

(再入学)

第30条 前条による退学者が3年以内に再入学を願い出た場合は、学長は、教授会の議を経て、これを許可することができる。

(除籍)

第31条 学生が次の各号の一に該当する場合は、学長は、教授会の議を経て、これを除籍することができる。

- (1) 第7条に規定する在学期間を超えるとき
 - (2) 死亡したとき
 - (3) 行方不明になったとき
 - (4) 授業料等の納付を怠り督促してもなお納入しないとき
 - (5) 休学期間満了前に、復学、退学又は休学の願い出がないとき
 - (6) 入学を辞退したとき
- 2 前項第3号、第4号又は第5号により除籍された者が復籍を願い出たときは、第30条の規定を準用する。

第4節 卒業及び学士の学位

(卒業)

第32条 学長は、本大学に4年以上在学し、学部長が教授会の議を経て次の各号に定める単位の修得を認定した者に卒業を許可することができる。

- (1) 経済学部1部経済学科にあつては、別表1(1)に掲げる授業科目のうち、132単位以上
- (2) 経済学部1部地域経済学科にあつては、別表1(2)に掲げる授業科目のうち、132単位以上
- (3) 経済学部2部経済学科にあつては、別表2(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (4) 経済学部2部地域経済学科にあつては、別表2(2)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (5) 経営学部1部経営学科にあつては別表3(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (6) 経営学部1部経営情報学科にあつては別表3(2)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (7) 経営学部2部経営学科にあつては別表4(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (8) 法学部1部法律学科にあつては、別表5(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
- (9) 法学部1部政治学科にあつては、別表5(2)に掲げる授業科目のうち、128単位以上

- (10) 法学部2部法律学科にあつては、別表6(1)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
 - (11) 法学部2部政治学科にあつては、別表6(2)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
 - (12) 人文学部1部日本文化学科にあつては、別表7(1)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
 - (13) 人文学部1部英米文化学科にあつては、別表7(2)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
 - (14) 人文学部2部日本文化学科にあつては、別表8(1)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
 - (15) 人文学部2部英米文化学科にあつては、別表8(2)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
 - (16) 工学部社会環境工学科にあつては、社会環境コース別表9(1)及び環境情報コース別表9(2)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
 - (17) 工学部建築学科にあつては、別表9(3)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
 - (18) 工学部電子情報工学科にあつては、別表9(4)に掲げる授業科目のうち、128単位以上
 - (19) 工学部生命工学科にあつては、別表9(5)に掲げる授業科目のうち、124単位以上
- 2 卒業要件の細目については、学部規則で定める。
- 3 卒業の時期は学年末とする。
- 4 前項の規定にかかわらず、学年の始めにおいてすでに4年の修業年限を満たしている者で、第1学期の履修により第1項各号に定める単位を修得した者から申し出のあるときは、第1項の定めるところにより、学年途中において卒業を許可する。この場合、卒業の時期は第1学期末とする。
- 5 第1項の規定にかかわらず、学長は本大学に3年以上在学し、学部長が教授会の議を経て、学部の定める卒業に必要な基準を満たしたと認定した者に卒業を許可することができる。

(学位の授与)

- 第33条 学長は、本大学を卒業した者に、卒業証書を授与するとともに、北海学園大学学位規則に定めるところにより学士の学位を授与する。
- 2 北海学園大学学位規則は、別に定める。

第5節 授業料等、授業料等の免除、受講停止(授業料等)

- 第34条 学生は、別表13に定める入学金、授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費を、別に定めるところにより納入しなければならない。
- 2 特別の事情により、授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費の納入が困難な場合は、学生は、別に定めるところにより当該納入金を延納することができる。

(授業料等の免除)

- 第35条 休学者は、その期間中の授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費の納入を免除する。
- ただし、別表13による各分納期の中で休学、退学又は転学する場合は、その期の授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費の納入を免除しない。
- 2 第32条第4項に基づき第1学期末の卒業を認められた者については、第2期分の授業料等の納入を免除する。
- 3 第16条に基づき本大学と海外の大学との共同学位にかかる協定により海外の大学に在籍している者については、その期間中の授業料、教育充実費、実験実習費

及び大学諸費の納入を免除することができる。

(受講停止)

- 第36条 正当な理由なく授業料等を納入しない者は、受講を停止する。

(入学検定料等の不返還)

- 第37条 既に納入した入学検定料、入学金、授業料、教育充実費、実験実習費及び大学諸費は、返還しない。

第6節 研究生、委託生、科目等履修生及び特別聴講学生

(研究生)

- 第38条 本大学において、特定事項について研究しようとする者があるときは、学長は、学生の教育に支障のない限り、教授会の選考を経て、研究生として、これを許可することができる。

2 研究生の取扱いは、別に定める規程による。

(委託生)

- 第39条 公共団体又はその他の機関より、本大学の特定の授業科目について修学を委託される者があるときは、学長は、学生の教育に支障のない限り、教授会の選考を経て、委託生とし、これを許可することができる。

(科目等履修生)

- 第40条 本大学の特定の授業科目について、履修を希望する者があるときは、学長は、学生の教育に支障のない限り、教授会の選考を経て、科目等履修生として、これを許可することができる。

2 科目等履修生の取扱いは、別に定める規程による。

3 第1項の規定にかかわらず、司書となる資格又は司書教諭の所要資格、社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格を取得するための科目等履修生の選考については、それぞれの課程委員会に委任するものとする。

4 科目等履修生の履修することのできる授業科目数は、これを制限することができる。

(委託生、科目等履修生の資格)

- 第41条 委託生又は科目等履修生を志願する者は、第9条の入学資格と同等以上の資格を有する者でなければならない。

2 教育職員の免許状授与の所要資格の取得、司書となる資格又は司書教諭の所要資格、社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格を取得するための科目等履修生を志願する者の資格は、別に定める。

(手続)

- 第42条 委託生又は科目等履修生を志願する者は、所定の入学願書に履修しようとする授業科目等を記載し、別表14に定める入学検定料を添えて、願い出なければならない。

(試験及び証明書)

- 第43条 委託生又は科目等履修生は、その履修した授業科目の試験を受けることができる。

2 試験に合格した授業科目について、学長は、願い出により、証明書を交付することができ、科目等履修生については、単位を認定することができる。

(特別聴講学生)

- 第44条 本大学において、特定の授業科目を履修し、単位を修得しようとする他の大学又は短期大学若しくは外国の大学又は短期大学の学生があるときは、学長は、学生の教育に支障のない限り、教授会の議を経て、当該他大学又は短期大学との協議に基づき、特別聴講学

生として、これを許可することができる。
(入学金及び受講料等)

第45条 研究生、委託生、科目等履修生及び特別聴講学生は、別表14に定める入学金、研究料又は受講料及び実験実習費を納入しなければならない。

2 既に納入した入学金、研究料又は受講料、実験実習費及び入学検定料又は審査料は、返還しない。

3 単位互換協定校又は海外との学生交流協定に基づく特別聴講学生の入学金、受講料、実験実習費及び入学検定料は所定の手続きを経て不徴収とすることができる。
(準用)

第46条 研究生、委託生、科目等履修生及び特別聴講学生については、本節で定めるもののほかは、本学則及び本大学の学生に関する規定を準用する。ただし、研究生、委託生、科目等履修生及び特別聴講学生については、第32条及び第33条の規定を準用しない。

第7節 賞罰

(表彰)

第47条 将来有為の社会人としての素質を有し、本大学の伝統を形成し得ると認められる学生は、別に定める表彰規程により表彰する。
(奨学制度)

第48条 本大学学生育英のため、奨学制度を設ける。

2 奨学規程は、別に定める。

(懲戒)

第49条 学生が、その本分にもとる行為又は本大学の諸規程に違反する行為を行ったときは、教授会又は必要により協議会の議を経て、学長が懲戒を行う。

2 懲戒は、譴責、停学又は退学とし、退学は、次の各号の一に該当するものに対して行う。

- (1) 性行不良で改善の見込みがないと認められる者
- (2) 学力劣等で成業の見込みがないと認められる者
- (3) 正当の理由がなく出席が常でない者
- (4) 本大学の秩序を乱し、その他学生としての本分に反した者

第3章 教育職員免許状等

(教育職員の免許状授与の所要資格の取得)

第50条 本大学の学部の各学科に、教育職員の免許状授与の所要資格を取得する課程(以下「教職課程」という。)を置く。

2 教育職員の免許状授与の所要資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、教育職員免許法及び教育職員免許法施行規則に定める所要の単位を修得しなければならない。

3 教職課程授業科目は、別表10のとおりとする。

4 教科に関する専門的事項の一部については、同一学部の他の学科又は他の学部の授業科目を履修することができる。

5 本大学の教職課程において、当該所要資格を取得できる教育職員の免許状の種類は、次に掲げるとおりとする。

学部	学科	免許状の種類	(免許教科)
経済学部	1部経済学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商業)
経済学部	1部地域経済学科	中学校教諭一種免許状	(社会)

同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
経済学部	2部経済学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商業)
経済学部	2部地域経済学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
経営学部	1部経営学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商業)
経営学部	1部経営情報学科	高等学校教諭一種免許状	(商業)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情報)
経営学部	2部経営学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(商業)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情報)
法学部	1部法律学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
法学部	1部政治学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
法学部	2部法律学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
法学部	2部政治学科	中学校教諭一種免許状	(社会)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(公民)
人文学部	1部日本文化学科	中学校教諭一種免許状	(国語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(国語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	1部英米文化学科	中学校教諭一種免許状	(英語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(英語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	2部日本文化学科	中学校教諭一種免許状	(国語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(国語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
人文学部	2部英米文化学科	中学校教諭一種免許状	(英語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(英語)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(地理歴史)
工学部	社会環境工学科	中学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(工業)
工学部	建築学科	中学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(工業)
工学部	電子情報工学科	中学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(数学)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情報)
工学部	生命工学科	中学校教諭一種免許状	(理科)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(理科)
同	上	高等学校教諭一種免許状	(情報)

6 教職課程を履修するために必要な事項は、別に定める。

7 教職課程授業科目を履修する者は、別表14に定める受講料を納入しなければならない。

(司書となる資格、司書教諭の所要資格、社会教育主事となる資格及び学芸員となる資格の取得)

第51条 本大学に、司書となる資格又は司書教諭の所要

資格を取得する課程（以下「図書館学課程」という。）、社会教育主事となる資格を取得する課程（以下「社会教育主事課程」という。）及び学芸員となる資格を取得する課程（以下「学芸員課程」という。）を置く。

- 2 本大学の図書館学課程で取得できる資格の種類は、司書となる資格又は司書教諭の所要資格とする。
- 3 本大学の社会教育主事課程で取得できる資格は、社会教育主事となる資格とする。また、この資格を取得した者は、社会教育士（養成課程）と称することができる。
- 4 本大学の学芸員課程で取得できる資格は、学芸員となる資格とする。
- 5 第2項、第3項及び第4項の資格を取得しようとする者は、卒業に必要な単位を修得するほか、別表11の(1)、(2)、(3)及び(4)に定める所要の単位を修得しなければならない。
- 6 図書館学課程、社会教育主事課程及び学芸員課程を履修するために必要な事項は、別に定める。
- 7 図書館学課程、社会教育主事課程及び学芸員課程の授業科目を履修する者は、別表14に定める受講料を納入しなければならない。
(日本語教員養成課程)

第51条の2 本大学に日本語教員養成課程を置く。

- 2 日本語教員養成課程を履修するために必要な事項は、別に定める。
- 3 日本語教員養成課程の授業科目を履修する者は、学則別表14(9)に定める受講料を納入しなければならない。

第4章 公開講座

(公開講座)

第52条 本大学は、公開講座を設けることができる。

第5章 組織

第1節 職員の組織

(職員)

第53条 本大学に、次の職員を置く。

- (1) 教育職員（学長、教授、准教授、講師及び助教）
 - (2) 事務職員
- 2 学長は、前項のほか、必要な職員を置くことができる。
 - 3 教授、准教授、講師及び助教の選考基準に関する規程は、別に定める。
(学長)

第54条 学長は、校務をつかさどり、所属職員を統督する。

- 2 学長候補の選出については別に定める。
- 3 学長の任期は4年とし、これに満たない在任期間も1期とみなす。
- 4 再任の場合の任期は2年とし、学長在任が連続3期となる選出は認めない。
(副学長)

第54条の2 本大学に内部質保証担当と総務担当の副学長を置き、本大学の教授をもって充てる。

- 2 副学長は学長を補佐し、学長の命を受け、内部質保証または総務に関する校務をつかさどる。
- 3 学長に事故あるときは、予め学長の指名した副学長がその職務を代行する。
- 4 副学長の任期は2年とし、これに満たない在任期間も1期とみなす。

- 5 再任の場合の任期は2年とし、副学長在任が連続4期となる選出は認めない。
- 6 副学長候補の選出方法については、別に定めるところによる。

(学部長)

第54条の3 学部に学部長を置き、本大学の教授をもって充てる。

- 2 学部長は学長を補佐し、当該学部を統轄する。
- 3 学部長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 再任の場合の任期は1年とし、学部長在任が連続3期となる選出は認めない。
- 5 学部長候補の選出方法については、別に定めるところによる。
(学生部、キャリア支援センター、入試部及び教務センター)

第55条 本大学に学生部、キャリア支援センター、入試部及び教務センターを置き、部長及びセンター長は、第59条第1項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

- 2 学生部、キャリア支援センター、入試部及び教務センターに関する規程は、別に定める。
(事務組織)

第56条 本大学は、その事務を遂行するため、事務組織を設ける。

- 2 事務組織及び事務分掌については、別に定める。

第2節 教授会、協議会、全学教授会及び委員会等

(教授会)

第57条 学部に、教授会を置き、所属の専任の教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。

- 2 教授会は、学長が次に掲げる事項について決定を行うに当たり意見を述べるものとする。
 - (1) 教育研究上の目的に関する事項
 - (2) 学部の規則及び内規に関する事項
 - (3) 学部長及び協議員の選出に関する事項
 - (4) 教育課程の編成に関する事項
 - (5) 学生の入学、退学、休学、卒業その他の学籍に関する事項
 - (6) 学位授与に関する事項
 - (7) 賞罰に関する事項
 - (8) 研究に関する事項
 - (9) 教員の選考に関する事項
 - (10) 予算概算の要求及び配布予算の執行に関する事項
 - (11) 学長より諮問された事項
- 3 教授会は、前項に規定するものの他、学長及び学部長がつかさどる教育研究に関する事項について審議し、学長及び学部長の求めに応じ、意見を述べることができる。
- 4 教授会は、学部長が招集し、その議長となる。ただし、構成員の3分の1以上の請求があるときは、これを招集しなければならない。
- 5 教授会は、構成員の半数以上が出席しなければ議事を開き議決することができない。教授会の議事は、出席者の過半数をもって決する。
- 6 教員選考に関する事項は、別に定めるところによる。
- 7 学部長は、教授会が必要と認めるときは、他の職員の出席を求め、意見を聴くことができる。ただし、この職員は、議決に加わることはできない。

(協議会)

第58条 本大学に、重要事項を調整又は協議するため協議会を置き、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 研究科長
- (5) 各学部の教授会から選出された教員各2人。このうち少なくとも1人は教授をもって充てる。
- (6) 学生部長、キャリア支援センター長、入試部長、教務センター長、図書館長及び北方共創圏研究センター長。

なお、本号に定める構成員を総称して、機関長という。

2 協議会は、次の各号に掲げる事項の調整又は協議を行う。

- (1) 予算概算の方針に関する事項
- (2) 人事基準の運用に関する事項
- (3) 学科課程の調整に関する事項
- (4) 全学的機関、学部間の調整事項
- (5) 学生の厚生補導又はその賞罰に関する重要事項
- (6) 学則その他の重要な規則の制定又は改廃に関する事項
- (7) 学部、学科及び重要な施設の設置又は変更並びに廃止に関する事項
- (8) 事務機構及び事務職員の配置に関する事項
- (9) 大学の重要行事に関する事項

3 第1項第5号により選出された協議員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 前項の協議員の欠員により選出された協議員の任期は、前任者の残任期間とする。

5 協議会は、学長が必要であると認めるとき、教授会の議により開催の要求があったとき、又は第1項に掲げる構成員の3分の1以上から開催の要求があるとき学長が、これを招集する。

6 学長は、協議会の議長となる。

7 協議会は、学部を代表する協議員1人以上が出席し、かつ、第1項に掲げる構成員の3分の2以上の出席がなければ、開催することができない。

8 協議会は、第2項第8号の事項に関して、学長の諮問に応じるため、人事委員会を設けることができ、副学長、学部長、機関長及び事務部長をもって構成する。

9 協議会には、学長の指定する所要の職員を列席させるほか、協議員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(全学教授会)

第59条 本大学に重要事項を審議するため、全学教授会を置き、学長並びに各学部の専任の教授、准教授、講師及び助教をもって構成する。

2 全学教授会は、次の各号に掲げる事項を審議する。

- (1) 機関長の選出
- (2) 協議会において、協議不調となった事項中、次に掲げる事項
 - イ 学部、学科又は重要な施設の設置、変更又は廃止に関する事項
 - ロ 学則その他の重要な規則の制定又は改廃に関する事項
 - ハ 大学の重要行事に関する事項
 - ニ 学長又は協議会が必要と認める事項

3 学長は、全学教授会を招集する。ただし、構成員の

3分の1以上から前条の事項につき開催の要求があるとき、又は協議会が必要と認めるときは、これを招集しなければならない。

4 全学教授会は、構成員の過半数が出席しなければ、開催することができない。

5 学長は、全学教授会の議長となる。

6 全学教授会の議決は、出席者の過半数をもって決し、可否同数の場合は、議長の決するところによる。

7 全学教授会には、学長の指定する所要の職員を列席させるほか、構成員以外の者に出席を求め、その意見を聴くことができる。

(学長室)

第60条 本大学に、重要事項に関する学長提案を調整し、あわせてその運営に資するため、学長室を置き、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 学長
- (2) 副学長
- (3) 学部長
- (4) 事務部長
- (5) 大学院事務部長(兼)学長秘書業務総括担当
- (6) 事務部課長
- (7) 学長が必要と認め、協議会が承認した者

2 学長室は、次の各号に掲げる事項について学長提案の調整を行う。

- (1) 協議会の協議事項
- (2) 将来構想委員会の審議事項
- (3) その他学長が必要と認めた事項

3 学長室は、次の各号に掲げる事項について、事前協議又は調整を行うことができる。

- (1) 協議会の議題
- (2) 将来構想委員会の議題
- (3) その他学長が必要と認めた事項

4 学長は、年度毎に、第1項に規定する構成員の分掌及び第2項に基づく検討事項を協議会の議を経て定める。

5 第1項第7号構成員の任期は1年とする。ただし、再任を妨げない。

6 学長室は、必要に応じ構成員以外の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(委員会)

第61条 本大学に学生委員会、キャリア支援委員会、入試委員会、図書委員会及び教務委員会を設ける。

2 委員会に関する規程は、別に定める。

第62条 前条第1項のほか、必要に応じて委員会を設けることができる。

第6章 附属施設

(図書館)

第63条 本大学に、図書館を置き、館長は、第59条第1項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

2 図書館に関する規程は、別に定める。

(北方共創圏研究センター)

第64条 本大学に、北方共創圏研究センターを置き、センター長は、第59条第1項に定める全学教授会の構成員である教授をもって充てる。

2 北方共創圏研究センターに関する規程は、別に定める。

(厚生施設)

第65条 本大学の職員及び学生は、学園経営の厚生施設

を利用することができる。

(診療所)

第66条 本大学の職員及び学生は、診療所において治療及び保健衛生に関する指導を受けることができる。

第7章 雑則

(学則の改廃)

第67条 本学則の改廃は、協議会の議を経て学長が行い、理事会の承認を得るものとする。

附則

この学則は、昭和43年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和45年4月1日から施行する。

附則

この学則は、昭和51年4月1日から施行する。

附則

1 この学則は、昭和54年4月1日から施行する。

2 ただし、第28条第1項の規定は昭和53年度以降の入学者から適用し、昭和52年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

この学則は、昭和56年4月1日から施行する。

附則

1 この学則は、昭和57年4月1日から施行する。

2 ただし、第28条第1項の規定は昭和57年度以降の入学者から適用し、昭和56年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

1 この学則は、昭和58年4月1日から施行する。

2 ただし、第28条第1項の規定は昭和58年度以降の入学者から適用し、昭和57年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

1 この学則は、昭和59年4月1日から施行する。

2 ただし、第28条第1項の規定は昭和59年度以降の入学者から適用し、昭和58年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

1 この学則は、昭和60年4月1日から施行する。

2 ただし、第28条第1項の規定は昭和60年度以降の入学者から適用し、昭和59年度以前の入学者については従前の規定による。

附則

1 この学則は、昭和61年4月1日から施行する。

2 ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、昭和61年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木学科	100
		建築学科	100
計			1,445

附則

1 この学則は、昭和62年4月1日から施行する。

2 ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、昭和62年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附則

1 この学則は、昭和63年4月1日から施行する。

2 ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、昭和63年度から昭和74年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

3 第22条の別表1、別表3及び別表5のイの一般教育科目、別表1、別表2、別表3及び別表4のこの専門教育科目並びに第25条第5号の法学部1部、2部の単位数は、昭和63年度第1年次入学者から適用し、昭和62年度以前の入学者については、従前の規定による。

附則

1 この学則は、平成元年4月1日から施行する。

2 ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、平成元年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附則

1 この学則は、平成2年4月1日から施行する。

2 ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、平成2年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

りとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

附 則

- この学則は、平成3年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず、平成3年度から平成11年度までの間の入学定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	295
		経営学科	295
経済学部	2部	経済学科	120
		経営学科	120
法学部	1部	法律学科	295
	2部	法律学科	120
工学部		土木工学科	90
		建築学科	90
		電子情報工学科	100
計			1,525

- 第27条第2項の規定は、平成2年度の入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成4年4月1日から施行する。
- ただし、第28条第1項の規定は平成4年度以降の入学者から適用し、平成3年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

- この学則は、平成5年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成5年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

- ただし、第28条第1項の規定は平成5年度以降の入学者から適用し、平成4年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

- この学則は、平成6年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成6年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

- ただし、第28条第1項の規定は平成6年度以降の入学者から適用し、平成5年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

- この学則は、平成7年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成7年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学 部 ・ 学 科 等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

- ただし、第28条第1項の規定は平成7年度以降の入学者から適用し、平成6年度以前の入学者については従前の規定による。

- ただし、第25条の第5号の専門教育科目工学部土木工学科の卒業単位数は、平成7年度第1年次入学者から適用し、平成7年度第2年次以降の学生については、従前の規定による。

- ただし、別表7のへの専門教育科目は、平成7年度第3年次学生から適用し、平成7年度第4年次学生については、従前の規定によることを追加する。

附 則

- この学則は、平成8年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成8年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3 ただし、第28条第1項の規定は平成8年度以降の入学から適用し、平成7年度以前の入学者については従来の規定による。

附 則

- この学則は、平成9年4月1日から施行する。
- ただし、第2条第1項の規定にかかわらず平成9年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員
経済学部	1部	経済学科	1,080
		経営学科	1,080
経済学部	2部	経済学科	480
		経営学科	480
法学部	1部	法律学科	1,080
	2部	法律学科	480
人文学部	1部	日本文化学科	240
		英米文化学科	240
人文学部	2部	日本文化学科	160
		英米文化学科	120
工学部		土木工学科	320
		建築学科	320
		電子情報工学科	400
計			6,480

3 ただし、第28条第1項の規定は平成8年度以降の入学から適用し、平成7年度以前の入学者については従来の規定による。

附 則

- この学則は、平成10年4月1日から施行する。
- 次の各号に該当する者については、変更後の北海学園大学学則の規定にかかわらず、なお従前の例による。
 - 平成10年3月31日に本大学に在籍する者
 - 平成10年3月31日以前に本大学に入学した者で、再入学（復籍）する者
 - 平成10年4月1日以降平成12年3月31日以前に編入学する者
- 前項の取り扱いにおいて、教養部、教養部長又は教養部教授会の審議又は決定若しくは認定すべき事項については、それぞれ学部、学部長又は学部教授会が行うものとする。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成10年度から平成11年度までの間の収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員	収容定員
経済学部	1部	経済学科	270	1,080
同	上	経営学科	270	1,080
経済学部	2部	経済学科	120	480
同	上	経営学科	120	480
法学部	1部	法律学科	270	1,080
法学部	2部	法律学科	120	480
人文学部	1部	日本文化学科	60	240
同	上	英米文化学科	60	240
人文学部	2部	日本文化学科	40	160
同	上	英米文化学科	30	120
工学部		土木工学科	80	320
同	上	建築学科	80	320
同	上	電子情報工学科	100	400
計			1,620	6,480

附 則

- この学則は、平成11年4月1日から施行する。
- 第3条に定める編入学定員により法学部1部法律学科に編入学する者については、平成10年4月1日施行学則附則第2項第3号の規定にかかわらず、本学則を適用する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成11年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

学部・学科等			入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部	1部	経済学科	270	人	1,080
同	上	経営学科	270	人	1,080
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	190	20	800
同	上	政治学科	100	10	420
法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		240
人文学部	1部	日本文化学科	60		240
同	上	英米文化学科	60		240
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
計			1,700	30	6,860

附 則

- この学則は、平成12年4月1日から施行する。
 - 第3条第1項の規定にかかわらず、平成12年度から平成16年度までの入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。
- 平成12年度

学部・学科等			入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部	1部	経済学科	263	人	1,073
同	上	経営学科	263	人	1,073
経済学部	2部	経済学科	120		480
同	上	経営学科	120		480
法学部	1部	法律学科	183	20	953
同	上	政治学科	100	10	200

法学部	2部	法律学科	120		480
同	上	政治学科	60		120
人文学部	1部	日本文化学科	100		280
同	上	英米文化学科	95		275
人文学部	2部	日本文化学科	40		160
同	上	英米文化学科	30		120
工学部		土木工学科	80		320
同	上	建築学科	80		320
同	上	電子情報工学科	100		400
			1,754	30	6,734

平成13年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		
人	人	人	人		
経済学部 1部 経済学科	256		1,059		
同 上 経営学科	256		1,059		
経済学部 2部 経済学科	120		480		
同 上 経営学科	120		480		
法学部 1部 法律学科	176	20	859		
同 上 政治学科	100	10	310		
法学部 2部 法律学科	120		480		
同 上 政治学科	60		180		
人文学部 1部 日本文化学科	100		320		
同 上 英米文化学科	95		310		
人文学部 2部 日本文化学科	40		160		
同 上 英米文化学科	30		120		
工学部 土木工学科	80		320		
同 上 建築学科	80		320		
同 上 電子情報工学科	100		400		
			1,733	30	6,857

平成14年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		
人	人	人	人		
経済学部 1部 経済学科	249		1,038		
同 上 経営学科	249		1,038		
経済学部 2部 経済学科	120		480		
同 上 経営学科	120		480		
法学部 1部 法律学科	169	20	758		
同 上 政治学科	100	10	420		
法学部 2部 法律学科	120		480		
同 上 政治学科	60		240		
人文学部 1部 日本文化学科	100		360		
同 上 英米文化学科	95		345		
人文学部 2部 日本文化学科	40		160		
同 上 英米文化学科	30		120		
工学部 土木工学科	80		320		
同 上 建築学科	80		320		
同 上 電子情報工学科	100		400		
			1,712	30	6,959

平成15年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
人	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	242		1,010
同 上 経営学科	242		1,010
経済学部 2部 経済学科	120		480

同 上 経営学科	120		480		
法学部 1部 法律学科	162	20	730		
同 上 政治学科	100	10	420		
法学部 2部 法律学科	120		480		
同 上 政治学科	60		240		
人文学部 1部 日本文化学科	100		400		
同 上 英米文化学科	95		380		
人文学部 2部 日本文化学科	40		160		
同 上 英米文化学科	30		120		
工学部 土木工学科	80		320		
同 上 建築学科	80		320		
同 上 電子情報工学科	100		400		
			1,691	30	6,950

平成16年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員		
人	人	人	人		
経済学部 1部 経済学科	235		982		
同 上 経営学科	235		982		
経済学部 2部 経済学科	120		480		
同 上 経営学科	120		480		
法学部 1部 法律学科	155	20	702		
同 上 政治学科	100	10	420		
法学部 2部 法律学科	120		480		
同 上 政治学科	60		240		
人文学部 1部 日本文化学科	100		400		
同 上 英米文化学科	95		380		
人文学部 2部 日本文化学科	40		160		
同 上 英米文化学科	30		120		
工学部 土木工学科	80		320		
同 上 建築学科	80		320		
同 上 電子情報工学科	100		400		
			1,670	30	6,866

3 ただし、第22条第3項、第51条の2は、平成10年度以降入学者から適用する。

附 則

- この学則は、平成13年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成13年度から平成16年度までの入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成13年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
人	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	256		1,059
同 上 経営学科	256		1,059
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	176	20	859
同 上 政治学科	100	10	310
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		180
人文学部 1部 日本文化学科	100		320
同 上 英米文化学科	95		310
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320

同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,733	30	6,857

平成14年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	249		1,038
同 上 経営学科	249		1,038
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	169	20	758
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		360
同 上 英米文化学科	95		345
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,712	30	6,959

平成15年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	242		1,010
同 上 経営学科	242		1,010
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	162	20	730
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,691	30	6,950

平成16年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	235		982
同 上 経営学科	235		982
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	155	20	702
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380

人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,670	30	6,866

附 則

- この学則は、平成14年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成14年度から平成16年度までの入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成14年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	249		1,038
同 上 経営学科	249		1,038
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	169	20	758
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		360
同 上 英米文化学科	95		345
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,712	30	6,959

平成15年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	242		1,010
同 上 経営学科	242		1,010
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	162	20	730
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工学部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,691	30	6,950

平成16年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	235	人	982
同 上 経営学科	235		982
経済学部 2部 経済学科	120		480
同 上 経営学科	120		480
法学部 1部 法律学科	155	20	702
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,670	30	6,866

3 ただし、第50条第3項及び第5項並びに第6項の規定は、平成13年度の入学生から適用する。

附 則

- この学則は、平成15年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成15年度から平成16年度までの入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成15年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	167	人	935
同 上 地域経済学科	140		140
同 上 経営学科	-		768
経済学部 2部 経済学科	75		435
同 上 地域経済学科	45		45
同 上 経営学科	-		360
経営学部 1部 経営学科	167		167
同 上 経営情報学科	140		140
経営学部 2部 経営学科	100		100
法学部 1部 法律学科	162	20	730
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,801	30	7,060

備考 経済学部1・2部は、平成15年4月1日改組転換を実施したため経済学部1部経営学科・2部経営学科は、募集停止となるため収容定員のみの表示とする。

平成16年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	832
同 上 地域経済学科	140		280
同 上 経営学科	-		505
経済学部 2部 経済学科	75		390
同 上 地域経済学科	45		90
同 上 経営学科	-		240
経営学部 1部 経営学科	160		327
同 上 経営情報学科	140		280
経営学部 2部 経営学科	100		200
法学部 1部 法律学科	155	20	702
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,086

附 則

- この学則は、平成16年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成16年度の入学生定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成16年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
経済学部 1部 経済学科	160	人	832
同 上 地域経済学科	140		280
同 上 経営学科	-		505
経済学部 2部 経済学科	75		390
同 上 地域経済学科	45		90
同 上 経営学科	-		240
経営学部 1部 経営学科	160		327
同 上 経営情報学科	140		280
経営学部 2部 経営学科	100		200
法学部 1部 法律学科	155	20	702
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 土木工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,086

備考 経済学部1・2部は、平成15年4月1日改組転換を実施したため経済学部1部経営学科・2部経営学科は、募集停止となるため収容定員のみの表示とする。

附 則

- この学則は、平成17年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成17年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。
- ただし、土木工学科から社会環境工学科に名称変更することについては、平成17年4月1日に在籍している者から適用する。

平成17年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		736
同 上 地域経済学科	140		420
同 上 経営学科	-		249
経済学部 2部 経済学科	75		345
同 上 地域経済学科	45		135
同 上 経営学科	-		120
経営学部 1部 経営学科	160		487
同 上 経営情報学科	140		420
経営学部 2部 経営学科	100		300
法学部 1部 法律学科	155	20	681
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 社会環境工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,133

備考 経済学部1・2部は、平成15年4月1日改組転換を実施したため経済学部1部経営学科・2部経営学科は、募集停止となるため収容定員のみを表示とする。

附 則

- この学則は、平成18年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成18年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成18年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		647
同 上 地域経済学科	140		560
同 上 経営学科	-		-
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
同 上 経営学科	-		-
経営学部 1部 経営学科	160		647
同 上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	667
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240

人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 社会環境工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,201

附 則

- この学則は、平成19年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成19年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成19年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同 上 地域経済学科	140		560
同 上 経営学科	-		-
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
同 上 経営学科	-		-
経営学部 1部 経営学科	160		640
同 上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 社会環境工学科	80		320
同 上 建築学科	80		320
同 上 電子情報工学科	100		400
	1,780	30	7,180

附 則

この学則は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、平成24年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成24年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成24年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同 上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同 上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 社会環境工学科	60		300
同 上 建築学科	70		310
同 上 電子情報工学科	70		370
同 上 生命工学科	60		60
	1,780	30	7,180

附 則

- この学則は、平成25年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成25年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成25年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同 上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同 上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 社会環境工学科	60		280
同 上 建築学科	70		300
同 上 電子情報工学科	70		340
同 上 生命工学科	60		120
	1,780	30	7,180

附 則

- この学則は、平成26年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、平成26年度の入学定員、編入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

平成26年度

学 部 ・ 学 科 等	入学定員	編入学定員 (3年次)	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同 上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同 上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同 上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	155	20	660
同 上 政治学科	100	10	420
法学部 2部 法律学科	120		480
同 上 政治学科	60		240
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同 上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同 上 英米文化学科	30		120
工 学 部 社会環境工学科	60		260
同 上 建築学科	70		290
同 上 電子情報工学科	70		310
同 上 生命工学科	60		180
	1,780	30	7,180

附 則

この学則は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、令和2年4月1日から施行する。
- ただし、第32条第5項の規定は平成31年度以降の入学者から適用し、平成30年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

この学則は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、令和4年4月1日から施行する。
- ただし、第35条第3項の規定は令和2年度以降の入学者から適用し、平成31年度以前の入学者については従前の規定による。
- 学部長職務規程は廃止する。

附 則

この学則は、令和5年4月1日から施行する。

附 則

この学則は、令和7年4月1日から施行する。

附 則

- この学則は、令和8年4月1日から施行する。
- 第3条第1項の規定にかかわらず、令和8年度から令和10年度までの入学定員及び収容定員は、次のとおりとする。

令和8年度

学部・学科等	入学定員	編入学定員	収容定員
	人	人	人
経済学部 1部 経済学科	160		640
同上 地域経済学科	140		560
経済学部 2部 経済学科	75		300
同上 地域経済学科	45		180
経営学部 1部 経営学科	160		640
同上 経営情報学科	140		560
経営学部 2部 経営学科	100		400
法学部 1部 法律学科	150		635
同上 政治学科	125		435
法学部 2部 法律学科	100		460
同上 政治学科	75		255
人文学部 1部 日本文化学科	100		400
同上 英米文化学科	95		380
人文学部 2部 日本文化学科	40		160
同上 英米文化学科	30		120
工学部 社会環境工学科	60		240
同上 建築学科	70		280
同上 電子情報工学科	70		280
同上 生命工学科	60		240
	1,795		7,165

法学部 2部 法律学科	100	420
同上 政治学科	75	285
人文学部 1部 日本文化学科	100	400
同上 英米文化学科	95	380
人文学部 2部 日本文化学科	40	160
同上 英米文化学科	30	120
工学部 社会環境工学科	60	240
同上 建築学科	70	280
同上 電子情報工学科	70	280
同上 生命工学科	60	240
	1,795	7,165

令和9年度

学部・学科等	入学定員	収容定員
	人	人
経済学部 1部 経済学科	160	640
同上 地域経済学科	140	560
経済学部 2部 経済学科	75	300
同上 地域経済学科	45	180
経営学部 1部 経営学科	160	640
同上 経営情報学科	140	560
経営学部 2部 経営学科	100	400
法学部 1部 法律学科	150	610
同上 政治学科	125	450
法学部 2部 法律学科	100	440
同上 政治学科	75	270
人文学部 1部 日本文化学科	100	400
同上 英米文化学科	95	380
人文学部 2部 日本文化学科	40	160
同上 英米文化学科	30	120
工学部 社会環境工学科	60	240
同上 建築学科	70	280
同上 電子情報工学科	70	280
同上 生命工学科	60	240
	1,795	7,150

令和10年度

学部・学科等	入学定員	収容定員
	人	人
経済学部 1部 経済学科	160	640
同上 地域経済学科	140	560
経済学部 2部 経済学科	75	300
同上 地域経済学科	45	180
経営学部 1部 経営学科	160	640
同上 経営情報学科	140	560
経営学部 2部 経営学科	100	400
法学部 1部 法律学科	150	605
同上 政治学科	125	475

(2) 北海学園大学奨学規程

第1条 この制度は学則第48条に基づき本大学の優秀な学生で、経済的理由により修学困難なものに奨学金を与えることにより、教育の成果をあげることを目的とする。

第2条 奨学生を希望する学生は、所定の奨学生採用願を学長に提出するものとする。

第3条 奨学生の決定は、年度毎に協議会の議を経て学長が行う。

第4条 奨学生にふさわしくない行為があった場合には、協議会の議を経て奨学生たることを取消すものとする。

附 則

この規程は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和56年4月1日から施行する。

(3) 北海学園大学表彰規程

第1条 この制度は、学則第47条に基づき、将来有為の社会人たる資質を有し、体育、文化活動において特に顕著な成績をおさめ、本大学の伝統を形成し得ると認められる学生を表彰することを目的とする。

第2条 表彰学生、表彰団体は、体育、文化活動において特に顕著な成績をおさめた学生の生活態度、学業成績、将来の見込等を精査の上、卒業審査教授会に付し全員の同意を得て学長が決する。

第3条 表彰は、卒業証書・学位記授与式において賞状及び副賞をもってする。

第4条 表彰にあたっては、別に表彰学生、表彰団体表彰要領を定める。

附 則

この規程は、昭和43年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

(4) 北海学園大学学生の懲戒及び教育的措置に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、北海学園大学学則（以下「学則」という。）第49条に基づき、学生の懲戒及び教育的措置に関する必要な事項を定める。

(基本方針)

第2条 学生に対する懲戒は、対象行為の内容及びその影響等を総合的に判断して、教育的配慮を加えて行うものとする。

(懲戒の対象となる行為)

第3条 学則第49条で定める学生の本分にもとるものとして懲戒の対象となる行為（以下「懲戒対象行為」という。）は、次に掲げるものとする。

- (1) 犯罪行為
- (2) 非違行為
- (3) 交通事故又は交通法規違反
- (4) 試験等における不正行為
- (5) 本学の秩序を乱し、教育・研究・社会貢献活動を妨げる行為
- (6) その他本学の名誉と信用を失墜させる行為

(懲戒の種類及び内容)

第4条 学則第49条で定める懲戒の種類及び内容は次のとおりとする。

- (1) 退学 本学における修学の権利を剥奪し、学籍関係を一方的に終了させることをいう。
- (2) 停学 無期又は6か月以下の期間において、教育課程の履修、大学施設の利用及び課外活動を禁止することをいう。
- (3) 譴責 学生の行った行為について反省を求め、今後同様の行為が行われないよう口頭又は書面により学長が注意することをいう。

(懲戒処分の基準)

第5条 学長は、学生の懲戒対象行為が次の各号に該当する場合には、当該各号に掲げる懲戒処分のいずれかを行うものとする。

- (1) 行為の悪質性が認められ、かつ、その結果に重大性が認められる場合 退学又は停学
 - (2) 行為の悪質性が認められるが、その結果に重大性が認められない場合 退学、停学又は譴責
 - (3) 行為の悪質性は認められないが、その結果に重大性が認められる場合 停学又は譴責
- 2 前項各号の行為の悪質性については、当該学生の態度、故意の有無及び過失の程度、当該行為の内容及び性質、当該行為に至る経緯及び動機並びに反省の程度等を勘案して、学長が判断する。
- 3 学長は、前項の行為の悪質性について判断するにあたり、当該学生が過去に懲戒処分又は教育的措置を受けたことがある場合には当該事情を斟酌する。
- 4 第1項各号の結果の重大性については、当該行為によって被害を受けた者の精神的・肉体的・経済的被害の程度、当該行為が本学又は社会に及ぼした被害及び影響等を勘案して、学長が判断する。
- 5 懲戒処分の内容は、別表に定める懲戒処分の標準例に準拠するものとする。ただし、情状等によりその処分の程度を減じ、又は重くすることができる。

(懲戒の手続)

第6条 学生部長は、学生による懲戒対象行為があったと認めるときには、学長及び当該学生の所属学部の長

に対して速やかに報告する。

2 学長は、学部長及び学生部長と協議したうえで、学生の行為が懲戒対象行為に該当することが明白であり、かつ、懲戒処分が確実であると判断した場合には、懲戒処分の決定前に当該学生に対して謹慎を命じることができる。この場合において、謹慎期間は、停学期間に算入することができる。

3 学生部長は、第1項の懲戒対象行為について、速やかに当該学生の所属学部の学生委員に対して調査を命じる。

4 学生部長は、学則に基づき他の委員会から学生の処分案の提示を受けた場合には、速やかに当該学生の所属学部の学生委員に対して調査を命じることができる。

5 前2項の学生委員は、調査を行うにあたり、当該学生からの事情聴取を通じて事実関係の把握に努め、その内容を正確に記録しなければならない。

6 前項の学生委員は、事情聴取を行うにあたり、当該学生に対してその旨を告知し、弁明の機会を与えなければならない。その際、当該学生から申し出があれば、原則1名の付添人を同席させることができる。ただし、付添人は、事情聴取を妨げてはならない。

7 学生委員会は、第3項の調査結果に基づき、懲戒の要否及び懲戒処分案について審議する。

8 学生委員会は、学則に基づき他の委員会から学生の処分案の提示を受けた場合には、それを考慮しつつ、第4項の調査が行われた際にはその結果に基づき、懲戒の要否及び懲戒処分案について審議する。

9 学生部長は、前2項の学生委員会の審議に基づき懲戒処分案を作成し、学部長に対して書面により報告する。

10 学生部長は、懲戒対象行為が第3条第4号の試験等における不正行為である場合には、本条で定める手続に従い懲戒処分案を作成する前に、第5条における行為の悪質性の有無及び結果の重大性の有無について、学部長及び教務センター長と協議する。

11 前項における行為の悪質性及び結果の重大性が認められない場合には、学部長は、第12条第2項で定める教育的措置をとる。

12 学部長は、教授会において第9項の懲戒処分案を審議する。学生部長は、審議結果に基づく懲戒処分案を学長に対して書面により報告する。

(懲戒処分の決定及び通知)

第7条 懲戒処分の決定は、前条第12項の報告に基づき、学長が行う。

2 学長は、前項の懲戒処分を決定した場合には、当該学生に対して通知しなければならない。

3 学長は、前項の通知については、処分理由を記載した懲戒処分書を当該学生に対して交付することにより行う。

(懲戒処分の公示)

第8条 学長は、懲戒処分を決定した場合には、処分内容及び期間を学長が指定する学内の掲示板において公示しなければならない。

2 公示の期間は、次条で定める懲戒の発効の日から起算して7日とする。

(懲戒の発効及び効果)

第9条 懲戒の発効は、懲戒処分書の交付日とする。

2 懲戒処分を受けた学生は、本学の学生表彰、授業料の減免及び各種奨学金の推薦等の対象とならないもの

とする。

- 3 停学又は謹慎期間中の学生には、原則として一切の大学施設の利用を禁止する。ただし、学部長又は学生部長が教育指導上必要と認めた場合には、この限りではない。
- 4 停学又は謹慎期間が当該学生の履修手続期間と重複する場合には、当該学生の履修手続については、これを認めるものとする。
- 5 停学期間中の学生からの休学の申し出は認めないが、退学の申し出は認める。ただし、停学期間中に退学した者の再入学は認めない。

(不服申立て)

第10条 懲戒処分を受けた学生は、学長に対して、不服を申し立てることができる。

- 2 前項の不服申立てを行う場合には、不服理由を記載した不服申立書を学長に対して提出しなければならない。
- 3 第1項の不服申立ての期日は、第7条第3項で定める処分の通知を受けた日から起算して30日を経過した日とする。ただし、正当な理由がある場合には、その理由が消滅した日から起算して10日以内に不服申立てを行うことができる。
- 4 学長は、第1項の不服申立てがあった場合には、不服申立審査委員会（以下「委員会」という。）を設置する。
- 5 委員会は、次の各号に掲げる委員をもって構成する。
 - (1) 副学長（総務担当）
 - (2) 副学長（内部質保証担当）
 - (3) 不服申立てを行った学生（以下「不服申立学生」という。）が所属する学部以外のすべての学部長
 - (4) 学長が指名する者（学生部長、不服申立学生が所属する学部の学部長及び学生委員を除く。）
- 6 委員会の長は、前項第1号の副学長とする。
- 7 委員会は、不服申立書に基づき審査を行い、必要と認める場合には、学外有識者（弁護士その他の外部専門家）の出席を求めることができる。
- 8 不服申立学生は、書面で意見を述べ、資料を提出することができる。
- 9 委員会は、懲戒の内容が相当であると判断した場合には、学長に対して、不服申立ての却下を求める勧告を書面により通知する。
- 10 委員会は、懲戒の内容が相当でないと判断した場合には、学長に対して、懲戒の取消し又は変更を求める勧告を書面により通知する。
- 11 第7項により学外有識者が委員会に出席する場合には、当該学外有識者が前2項の勧告に係る文書の起案を行う。
- 12 学長は第9項の勧告を受け、懲戒の内容が相当であると判断した場合には、不服申立学生に対して、不服申立てを却下する旨を書面により通知する。
- 13 学長は、第10項の勧告を受け、懲戒を取り消すのが相当であると判断した場合には、不服申立学生に対して、懲戒を取り消す旨を書面により通知する。
- 14 学長は、第10項の勧告を受け、懲戒の内容の変更が相当であると判断した場合には、学生部長に対して、学生委員会の議を経て新たな懲戒処分案を作成するよう指示する。ただし、学生部長は、より重い懲戒処分案を作成することはできない。
- 15 学長は、前項の懲戒処分案を不服申立学生が所属する学部の教授会に諮り、新たな懲戒処分を決定して、

不服申立学生に対して、書面により通知する。

- 16 不服申立てにより懲戒処分が取消し又は変更された場合には、学部長は、当該不服申立学生が被った修学上の不利益を回復するよう努めなければならない。
- 17 不服申立てにより懲戒処分が取消し又は変更された場合には、学長は、当該不服申立学生の名誉を回復するのに相当な措置を講じなければならない。
(起訴・逮捕・勾留時の取扱い)

第11条 学生が懲戒対象行為に起因して起訴された場合には、懲戒処分の決定は当該裁判所の判断が確定した後にを行い、当該判断を参考にして処分内容を決定するものとする。

- 2 前項の規定にかかわらず、大学の社会的責任及び他の学生への影響等に鑑み、当該学生に対して直ちに懲戒処分を決定すべき特段の事情がある場合には、本学が独自に行う事実認定に基づき、裁判所の判断が確定するのを待つことなく懲戒処分を行うことができる。この場合には、当該学生の修学の権利を損なうことがないように、十分な配慮をしなければならない。
- 3 懲戒対象行為を行った学生が勾留されている場合には、学生部長は、当該学生の所属学部の学生委員による接見を通じて、事実関係の把握に努めなければならない。
- 4 前項の学生と接見できない場合には、学生部長は、学長及び学部長と協議したうえで、第6条第6項で定める弁明の機会を当該学生に対して与えることなく懲戒処分手続を行うことができる。ただし、当該学生に対して弁明の機会を与えることなく懲戒処分を行う場合には、当該学生の修学の権利を損なうことがないように、十分な配慮をしなければならない。
(教育的措置)

第12条 学生部長は、停学又は謹慎期間中の学生に対して、当該学生の所属学部の学生委員を通じて、定期的に面談及び指導を行い、その更生に努めるものとする。

- 2 学部長又は学生部長は、学生による行為が懲戒処分に相当しない場合であっても、必要があると認めるときは、教育的措置として当該学生に対して嚴重注意を行うことができる。
(停学の解除)

第13条 学生部長は、停学の処分を受けた学生について、その反省の程度、生活態度及び学習意欲等を総合的に判断して、当該処分の解除が相当であると認めるときは、学生委員会の議を経て当該処分の解除案を作成し、学部長に対して書面により報告する。

- 2 学部長は教授会において前項の停学処分の解除案を審議する。学生部長は、その審議結果に基づく停学処分の解除案を学長に対して書面により報告する。
- 3 停学処分の解除の決定は、前項の報告に基づき、学長が行う。
- 4 学長は、前項の停学処分の解除を決定した場合には、当該学生に対して通知しなければならない。
- 5 学長は、前項の通知については、停学処分を解除する旨の書面を当該学生に対して交付することにより行う。
(懲戒に関する記録)

第14条 学長は、懲戒処分を行ったときは、懲戒原因たる事実並びに懲戒処分の内容及び理由を記載した書面を、第9条第1項の懲戒の発効日、又は第10条の不服申立手続の終了後に不服申立学生に対して通知した日から起算して5年間保存しなければならない。ただ

- し、当該日から5年が経過しても、懲戒処分を受けた学生の在籍中は当該書面を保存しなければならない。
- 2 学長は、懲戒処分を受けた学生から請求があったときは、開示の範囲について学部長及び学生部長と協議したうえで、前項の書面の全部又は一部を開示しなければならない。
- 3 懲戒処分に関する記録は、学籍簿の賞罰欄に記載するものとする。ただし、本学が発行する証明書及び推薦書等には、その記録を記載しないものとする。
(再審査請求)

第15条 懲戒処分を受けた学生は、処分の根拠となった事実が存在しないことが明らかになった場合には、学長に対して、再審査を請求することができる。

- 2 前項の請求は、再審査理由を記載した再審査請求書を学長に対して提出することにより行う。
- 3 第1項の請求の権利は、処分の根拠となった事実が存在しないことが明らかになった日から起算して30日を経過した日に消滅する。ただし、正当な理由があるときは、この限りではない。
- 4 再審査の請求がなされた場合には、学長は、再審査の要否の審査を第10条第4項の不服申立審査委員会に付議する。
- 5 再審査請求により懲戒処分が取り消された場合には、学部長は、当該学生が被った修学上の不利益を回復するよう努めなければならない。
- 6 再審査請求により懲戒処分が取り消された場合には、学長は、当該学生の名誉を回復するのに相当な措置を講じなければならない。
(大学院生への準用)

第16条 大学院生の懲戒及び教育的措置に関して必要な手続等については、この規程を準用する。
(雑則)

第17条 この規程に定めるもののほか、学生の懲戒及び教育的措置に関して必要な事項は、別に定める。

附 則

【別表】懲戒処分の標準例

<p>【犯罪行為】 (殺人、強盗、強姦等の凶悪な犯罪行為又はその未遂行為) 退学 (傷害行為) 退学又は停学 (窃盗、万引き、詐欺、他人を傷害するに至らない暴力行為等の犯罪行為) 退学、停学又は譴責 (薬物犯罪行為) 退学又は停学 (売買春、痴漢、のぞき、強制わいせつ、盗撮等のわいせつ行為) 退学、停学又は譴責 (侮辱、名誉毀損) 退学、停学又は譴責 (リベンジポルノ、児童ポルノ法違反行為) 退学又は停学 (ストーカー行為) 退学、停学又は譴責 (コンピュータ又はネットワークの不正使用) 退学、停学又は譴責</p>
<p>【非違行為】 (公序良俗に反するソーシャルネットワークの利用、公共交通機関における不快行為など、学内・学外における社会的迷惑行為) 停学又は譴責 (セクシュアル・ハラスメント、アカデミック・ハラスメント、パワー・ハラスメント、その他の人権侵害等に当たる行為) 退学、停学又は譴責</p>

(飲酒を強要し、重大な事態を生じさせた場合) 退学、停学又は譴責
(20歳未満の者に対してそれを知りながら飲酒・喫煙を強要した場合) 退学、停学又は譴責
(20歳未満の者自ら飲酒・喫煙した場合) 停学又は譴責

【交通事故又は交通法規違反】
(自動車、原動機付き自転車、軽車両等の悪質・危険な運転による交通事故) 退学又は停学
(悪質な交通法規違反) 停学又は譴責

【試験等における不正行為】
(本学が実施する試験等における悪質な不正行為) 退学、停学又は譴責

【本学の秩序を乱し、教育・研究・社会貢献活動を妨げる行為】
(本学構成員に対する暴力行為、威嚇、拘禁、拘束、迷惑行為等) 退学、停学又は譴責
(本学の教育研究又は管理運営を著しく妨げる行為) 退学、停学又は譴責
(本学が管理する施設又は部品の破壊、汚損、不法改築等) 停学又は譴責
(本学が管理する建造物への不法侵入又はその不正使用若しくは占拠) 退学、停学又は譴責
(本学の教育・研究・社会貢献活動に関する評判を不当に貶める投稿、本学の構成員を誹謗中傷する投稿) 退学、停学又は譴責

【その他本学の名誉と信用を失墜させる行為】
退学、停学又は譴責

附 則

この規程は、令和5年4月1日から施行する。

(5) 北海学園大学海外留学規程

(趣旨)

第1条 この規程は、北海学園大学学則第15条に規定する留学について、これを実施するために必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この規程において留学とは、学生が海外に滞在し、大学その他の相当と認められる教育・研究機関等(以下「留学先」という。)における授業科目の履修又は学修を行うことをいう。

(適用範囲)

第3条 この規程は、留学先と本大学との協定に基づく留学(以下「協定留学」という。)及び協定によらない留学に適用する。

(資格)

第4条 留学をする者は、本大学に1年以上在学していなければならない。ただし、1年未満在学の者であっても夏季・冬季休業期間の場合、及び国際交流委員会が認めた場合には留学をすることができる。

2 協定留学については、その定めるところによる。

(留学期間)

第5条 学生が留学のため海外に滞在する期間は、原則として1年以内とする。

(許可)

第6条 留学は、留学許可願書の提出により、教授会の議に基づき学長が許可をする。

2 留学許可願書の提出は、原則として留学をする3月前までに行わなければならない。

3 留学許可願書には、次の書類を添付しなければならない。

- (1) 留学計画書
- (2) 留学先において履修する授業科目又は学修の内容を示す書類
- (3) 留学先の受入証明書
- (4) 成績証明書
- (5) その他本大学が必要と認める書類

4 第2項及び前項の規定にかかわらず、協定留学については別に取扱うことができる。

(計画の変更)

第7条 留学の計画を変更するときは、速やかに留学計画変更願書を提出し、教授会の議に基づき学長の許可を得なければならない。

(費用の負担)

第8条 留学のために要する授業料その他の費用は、奨学制度を利用する場合を除き、原則として全額を自己負担とする。ただし、協定留学については、その定めるところによる。

(留学報告)

第9条 留学をした者は、帰国後速やかに次の書類をその所属する学部に提出しなければならない。その後、当該学部は学長へ報告するものとする。

- (1) 留学報告書
- (2) 留学先において履修した授業科目又は学修の内容を示す書類
- (3) 前号の科目についての成績又は学修成果を証明する書類
- (4) その他本大学が必要と認める書類

(単位認定)

第10条 留学先において授業科目の履修により修得した

単位は、教授会の議を経て本大学において修得した単位とみなすことができる。

2 留学先における学修はこれを本大学における授業科目の履修とみなし、教授会の議を経て単位を与えることができる。

3 第1項及び前項により修得したとみなし、又は与えることのできる単位数は、学則第24条第2項、第25条第1項並びに第26条第1項及び第2項による単位数と合わせて60単位を超えないものとする。

4 第1項又は第2項の措置を希望する者は、前条に定める書類とともに単位認定願を提出しなければならない。

(許可の取消等)

第11条 留学を不相当と認める事情があるときは、教授会の議に基づき、学長は留学の許可を取消し又は留学計画の変更を命ずることができる。

(所管)

第12条 協定留学に関する学生の相談並びに留学許可に係る手続きの受付及び教授会の審議に必要な資料の調整等に係る業務は、これを本大学国際交流委員会規程第4条第2項に定める各専門委員会において行う。

2 協定によらない留学に関する学生の相談並びに留学許可に係る手続きの受付及び教授会の審議に必要な資料の調整等に係る業務は、これを国際交流委員会において行なう。

附 則

この規程は、平成14年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年10月1日から施行する。

(6) 北海学園大学研究生規程

第1条 北海学園大学学則第38条にもとづき、研究生の取扱いをつぎのように定める。

第2条 研究生を志願することができる者は、つぎの各1号に該当する者でなければならない。

- (1) 大学を卒業した者
- (2) 志願する学部において、前号に掲げる者と同等以上の学力があると認められた者

第3条 研究生の入学時期は、原則として学年、学期の始めとする。ただし、特別の事由があるときは、この限りでない。

第4条 研究生を志願する者は、所定の願書に、学則別表14(1)に定める審査料を添えて、志願する学部へ提出しなければならない。

第5条 研究生の選考は、各学部で行い、教授会の議を経て、合格者を決定する。

第6条 研究生の選考に合格した者のうち、指定期日までに、学則別表14(1)に定める研究料等を納入し、所定の手続きを完了した者に、学長は、入学の許可を与える。

2 前項の研究料等のほか、必要に応じ研究実費を納入させることができる。

第7条 研究生の在学期間は、入学日からその年度末までとする。ただし、引き続き在学の願い出があったときは、教授会の議を経て、在学期間の延長を許可することがある。

第8条 研究生は、指導教員の指導をうけて研究に従事するものとする。

第9条 研究生は、指導教員が必要と認めるときは、学部の講義、演習若しくは実習に担当教員の許可を得て出席することができる。

第10条 学部が必要と認めるときは、研究生のため特別の講座を設けることがある。

第11条 学部長は、研究生の願い出により、研究証明書を交付することができる。

第12条 研究生が退学しようとするときは、退学願を学部長に提出し、教授会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。

第13条 研究生について、本規程に規定のない事項については、本大学の学則（ただし第2章第1節ないし第4節を除く）その他学生に関する規程等を準用する。

附 則

この規程は、昭和45年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、昭和59年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成元年4月1日から施行する。

了解事項

1 第7条に定める在学期間は、3年を超えることができない。

2 第10条に定める講座については、学部学生等の聴講を認めることがある。聴講料については別に定める。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年8月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

(7) 北海学園大学科目等履修生規程

第1条 北海学園大学（以下「本大学」という。）学則第40条に基づき、科目等履修生に関する事項を定める。

第1条の2 科目等履修生の履修区分は次によるものとする。

- (1) 特定の授業科目の単位取得を目的とする履修（科目履修制・教職課程含む）
- (2) 特定の課程（図書館学課程・社会教育主事課程・学芸員課程・日本語教員養成課程）の所要資格を得るための単位取得を目的とする履修（課程履修制）
- (3) 履修証明取得を目的とする履修（履修証明プログラム制）

第2条 科目等履修生を志願することのできる者は、次の各号の一に該当する者とする。

- (1) 高等学校を卒業した者
- (2) 12年の学校教育の課程を修了した者（通常の課程以外の課程によりこれに相当する学校教育を修了した者を含む。）
- (3) 外国において学校教育における12年の課程を修了した者又はこれに準ずる者で文部科学大臣の指定した者
- (4) 文部科学大臣が高等学校の課程と同等の課程を有するものとして認定した在外教育施設の当該課程を修了した者
- (5) 専修学校の高等課程（修業年限が3年以上であることその他の文部科学大臣が定める基準を満たすものに限る）で文部科学大臣が別に指定したものを文部科学大臣が定める日以後に修了した者
- (6) 文部科学大臣の指定した者
- (7) 高等学校卒業程度認定試験規則による高等学校卒業程度認定試験に合格した者（旧規程による大学入学資格検定に合格した者を含む）
- (8) その他、相当の年齢に達し高等学校を卒業した者と同等以上の学力があると本大学で認められた者

2 教育職員免許状授与の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。

3 司書となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者、同法第108条の短期大学を卒業した者、又は同法115条の高等専門学校を卒業した者とする。

4 司書教諭の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、教育職員免許法に定める小学校、中学校、高等学校、特別支援学校の教諭の普通免許状を有する者又はそれを取得する見込みの者とする。

5 社会教育主事となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。

6 学芸員となる資格を得るに必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。

7 日本語教員養成課程修了に必要な授業科目を履修する科目等履修生を志願することのできる者は、学校教育法第83条の大学を卒業した者とする。

第3条 科目等履修生の入学の時期は、学年又は学期の始めとする。

第4条 科目等履修生を志願する者は、次の各号に定め

る書類に、学則別表14(4)に定める入学検定料を添えて、学長に願い出なければならない。

- (1) 科目等履修生入学願書
- (2) 科目等履修生入学出願理由書
- (3) 最終学校の卒業証明書及び成績証明書
ただし、前年度に引きついで入学を志願する者(同一学部に限る)は、免除する。
- (4) 科目等履修生カード

2 前項の規定にかかわらず、履修証明プログラムの履修を志願する者は、入学検定料を免除する。

第5条 科目等履修生の選考は、志願をした学部で行い、教授会の議を経て合格者を決定する。

第6条 科目等履修生の選考に合格した者のうち、指定期日までに、学則別表14(4)に定める入学金及び受講料等の納入金を納入し、所定の入学手続を完了した者に、学長は、入学を許可する。

2 前項の規定にかかわらず、履修証明プログラムの選考に合格した者は、入学金を免除する。

第7条 科目等履修生が履修できる期間は、許可をした年度に限るものとする。

第8条 科目等履修生が履修することのできる授業科目については、当該学部又は当該委員会が許可する。

第9条 科目等履修生が1年間に履修できる単位数は、28単位以内とし、当該学部において定める。

2 前項の規定にかかわらず、教育職員免許状授与の所要資格を得るに必要な授業科目を履修する場合は、30単位以内とし、司書となる資格を得るに必要な授業科目のみを履修する場合は、28単位以内、司書となる資格並びに司書教諭の所要資格を得るに必要な授業科目のみを履修する場合は、38単位以内とする。

3 前項の規定にかかわらず、履修証明プログラムを履修する者は、履修するコースで定められた科目のみ履修することができる。

第10条 科目等履修生は、その履修した授業科目につき、試験を受けることができる。

第11条 科目等履修生が単位を修得するためには、履修した授業科目の試験に合格しなければならない。

2 単位修得の認定は、科目等履修生の合格を決定した学部教授会の議を経て決定する。

3 前項の規定にかかわらず、本大学学則別表10に掲げる「教職課程授業科目」の単位修得の認定は、教職課程委員会の議を経て、同学則別表11に掲げる「司書又は司書教諭に関する科目」の単位修得の認定は、図書館学課程委員会の議を経て、「社会教育主事に関する科目」の単位修得の認定は、社会教育主事課程委員会の議を経て、「学芸員に関する科目」の単位修得の認定は、学芸員課程委員会の議を経て、それぞれ決定する。

4 合格した授業科目については、本人の願い出により、単位修得証明書又は科目等履修証明書を交付することができる。

第12条 第1条の2第2号に規定する科目等履修生の修了要件は、履修規程に基づく。

2 第1条の2第3号に規定する科目等履修生の修了要件は別に定める。修了の認定は教務委員会規程第5条第1号に定める小委員会の議を経て決定する。

第13条 第1条の2第2号に規定する科目等履修生が、第12条の規定により修了した場合、学長は修了証書又は修了証明書を交付する。

2 第1条の2第3号に規定する科目等履修生が、第12条第2項の規定により修了した場合、学長は履修証明

書を交付する。

第14条 科目等履修生が退学しようとするときは、退学願を当該学部長又は当該委員会の委員長に提出し、当該学部の教授会又は当該委員会の議を経て、学長の許可を受けなければならない。

第15条 科目等履修生が、その本分に反する行為を行ったときは、当該学部の教授会又は当該委員会の議を経て、学長は、科目等履修生の許可を取り消す。

第16条 科目等履修生について、本規程に規定のない事項については、本大学の学則(ただし、第32条及び第33条の規定を除く。)その他学生に関する規定を準用する。

附 則

この規程は、平成6年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成12年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成13年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成15年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

(8) 北海学園大学授業料等に関する規程

- 第1条 この規程は、北海学園大学学則（以下「学則」という。）第34条、第35条、第36条及び第37条に基づき授業料等納入金に関する事項を定める。
- 第2条 北海学園大学の入学金、授業料、教育充実費、実験実習費、大学諸費（以下「授業料等」という。）及び入学検定料は、学則別表13に掲げる額とする。
- 第3条 授業料等の納入期限は、学則別表13に掲げる期日とする。
- 2 学則第32条第4項に基づき第1学期末の卒業を認められた者は、第2期分の授業料、教育充実費、実験実習費の納入を免除する。
- 3 学則第16条に基づき本大学と海外の大学との共同学位にかかる協定により海外の大学に在籍している者は、その期間中の授業料等の納入を免除することができる。
- 第4条 退学、転入学、休学を許可、又は、命じられたものの授業料等は、その期分までを納入し、また、復学を許可された者は、その期分から納入しなければならない。
- 第5条 納入期日を経過してもなお納入しない学生は、学則第31条及び第36条により処分する。
- 第6条 経済等の事情により授業料等を定められた期日までに納入が困難な場合は、納入期限の10日前までに所定の学費延納願を学費支給者連署の上提出し許可を得なければならない。
- 第7条 学則第42条及び第45条に基づく研究生、委託生、科目等履修生、特別聴講学生に係る入学金、受講料、実験実習費及び入学検定料又は審査料は、学則別表14に掲げる額とする。
- 2 前項の入学金、受講料、実験実習費は、所定の期日までに納入しなければならない。所定の期日までに納入しない場合は、入学を許可しない。
- 3 単位互換協定又は海外との学生交流協定に基づく特別聴講学生の入学金、受講料、実験実習費及び入学検定料は所定の手続きを経て不徴収とすることができる。
- 4 研究生講座を学部学生等が聴講する場合の受講料は、学則別表14に掲げる額とする。
- 第8条 学則第50条第7項、第51条第7項及び第51条の2第3項に基づく教職課程、図書館学課程、社会教育主事課程、学芸員課程及び日本語教員養成課程を受講する場合の受講料は、学則別表14に掲げる額を、所定の期日までに納入しなければならない。
- 第9条 学則第12条、第13条及び第30条、第31条に基づく編入学、転入学、学士入学、転学部、復学、再入学、復籍の授業料等及び入学検定料等は、次のとおりとする。ただし、北海学園大学・北海商科大学からの編入学・転入学・学士入学については入学金の納入を免除する（納入済入学金と差額があれば差額を徴収）。また、学部規則に基づく転部、同一学部転学科の授業料等及び入学検定料等は、次のとおりとする。

	編入学 転入学 学士入学	転部 1部→2部	転部 2部→1部	転学部	復学	同一学部 転学科	再入学・ 復籍
入学金	入学する年度の額	-	入学した年度の1部入学金と納入済入学金との差額徴収	-	-	-	再入学又は復籍する年度の額
授業料 教育充実費 実験実習費 大学諸費	当該年次に適用される年度の額	入学時に示した各年次の額	入学時に示した各年次の額	入学時に示した各年次の額	入学時に示した各年次の額	入学時に示した各年次の額	当該年次に適用される年度の額
入学検定料	入学する年度の額	-	-	-	-	-	-
転部料	-	転部する年度の入学検定料と同額	転部する年度の入学検定料と同額	-	-	-	-
転学部料	-	-	-	転学部する年度の入学検定料と同額	-	-	-
復学科	-	-	-	-	復学する年度の入学検定料の1/2の額	-	-
同一学部 転学科料	-	-	-	-	-	同一学部転学科する年度の入学検定料と同額	-
再入学 及び復籍料	-	-	-	-	-	-	再入学又は復籍する年度の入学検定料と同額

- 2 前項の入学金、入学検定料、転部料、転学部料、復学科、同一学部転学科料並びに再入学及び復籍料は、所定の期日までに納入しなければならない。
- 3 学則第27条第2項に基づき休学した者が第2学期より復学するときは、復学科、第2期分の授業料、教育充実費、実験実習費（40,000円・工学部のみ）及び大学諸費（1部10,000円、2部4,000円）を納入しなければならない。
- 第10条 既納の授業料等納入金は、これを返還しない。
- 第11条 本規程に定めるもののほか、授業料等及びその他納付金の徴収について必要な事項は、学長がこれを定める。

附 則

この規程は、平成元年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成2年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成9年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成10年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成11年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成11年度入学者から適用し、平成10年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成12年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成12年度入学者から適用し、平成11年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成13年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成13年度入学者から適用し、平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成14年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成14年度入学者から適用し、平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成15年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成15年度入学者から適用し、平成12年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成17年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成17年度入学者から適用し、平成13年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成19年4月1日より施行する。

ただし、この規程は、平成19年度入学者から適用し、平成18年度以前の入学者については従前の規程による。

附 則

この規程は、平成20年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成20年8月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日より施行する。

附 則

この規程は、令和2年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日より施行する。

ただし、第3条第3項の規定は令和2年度以降の入学者から適用し、平成31年度以前の入学者については従前の規定による。

附 則

- この規程は、令和7年4月1日より施行する。
- ただし、この規程は、令和7年度入学者から適用し、令和6年度以前の入学者については従前の規程による。
- 前項の規定にかかわらず、第9条第1項は令和6年度以前の入学者にも適用する。

別表13 授業料等

(1) 1部

区 分	金 額
入 学 検 定 料	30,000円
経 済 学 部	30,000
経 営 学 部	30,000
法 学 部	30,000
人 文 学 部	30,000
工 学 部	30,000

入 学 金	経 済 学 部	220,000
	経 営 学 部	220,000
	法 学 部	220,000
	人 文 学 部	220,000
	工 学 部	220,000
授 業 料	経 済 学 部	1年次年額 872,000 2年次以降年額 920,000
	経 営 学 部	1年次年額 872,000 2年次以降年額 920,000
	法 学 部	1年次年額 872,000 2年次以降年額 920,000
	人 文 学 部	1年次年額 872,000 2年次以降年額 920,000
	工 学 部	年額 1,140,000
教 育 充 実 費	経 済 学 部	1年次年額 140,000 2年次以降年額 160,000
	経 営 学 部	1年次年額 140,000 2年次以降年額 160,000
	法 学 部	1年次年額 140,000 2年次以降年額 160,000
	人 文 学 部	1年次年額 140,000 2年次以降年額 160,000
	工 学 部	1年次年額 140,000 2年次以降年額 160,000
実 験 実 習 費	工 学 部	年額 80,000
大 学 諸 費	経 済 学 部	年額 10,000
	経 営 学 部	年額 10,000
	法 学 部	年額 10,000
	人 文 学 部	年額 10,000
	工 学 部	年額 10,000

(2) 2部

区 分	金 額	
入 学 検 定 料	経 済 学 部	30,000円
	経 営 学 部	30,000
	法 学 部	30,000
	人 文 学 部	30,000
入 学 金	経 済 学 部	110,000
	経 営 学 部	110,000
	法 学 部	110,000
	人 文 学 部	110,000
授 業 料	経 済 学 部	1年次年額 436,000 2年次以降年額 460,000
	経 営 学 部	1年次年額 436,000 2年次以降年額 460,000
	法 学 部	1年次年額 436,000 2年次以降年額 460,000
	人 文 学 部	1年次年額 436,000 2年次以降年額 460,000
教 育 充 実 費	経 済 学 部	1年次年額 70,000 2年次以降年額 80,000
	経 営 学 部	1年次年額 70,000 2年次以降年額 80,000
	法 学 部	1年次年額 70,000 2年次以降年額 80,000
	人 文 学 部	1年次年額 70,000 2年次以降年額 80,000
大 学 諸 費	経 済 学 部	年額 4,000
	経 営 学 部	年額 4,000
	法 学 部	年額 4,000
	人 文 学 部	年額 4,000

授業料、教育充実費、実験実習費、大学諸費の納入期限は、次のとおりとする。

第1期 4月20日

第2期 9月30日

ただし、新入学生及び再入学、復籍を許可された者に限り第1期分の授業料等は、所定の期日までに納入しなければならない。

別表14 受講料等

(1) 研究生

区 分		金 額	
審 査 料		15,000円	
入 学 金	(本学卒業生免除)	55,000	
受 講 料 (ただし、第2学期以降の入学者の場合は、受入学部 の年額受講料の半額とする。)	経 済 学 部	年額	227,000
	経 営 学 部	年額	227,000
	法 学 部	年額	227,000
	人 文 学 部	年額	227,000
	工 学 部	年額	285,000
実 験 実 習 費 (ただし、第2学期以降の入学者の場合は、半額とする。)	工 学 部	年額	80,000

(2) 学部学生等が聴講する研究生講座

区 分		金 額	
受 講 料	経 済 学 部	1 単位	9,000円
	経 営 学 部	1 単位	9,000
	法 学 部	1 単位	9,000
	人 文 学 部	1 単位	9,000
	工 学 部	1 単位	10,000

(3) 委託生

区 分		金 額	
入 学 検 定 料		30,000円	
入 学 金		55,000	
受 講 料	経 済 学 部	1 単位	9,000
	経 営 学 部	1 単位	9,000
	法 学 部	1 単位	9,000
	人 文 学 部	1 単位	9,000
	工 学 部	1 単位	10,000
実 験 実 習 費	工 学 部	実験を履修する者	80,000

(4) 科目等履修生

区 分		金 額	
入 学 検 定 料	(本学卒業生免除) (履修証明プログラム受講生免除)	30,000円	
入 学 金	(本学卒業生免除) (履修証明プログラム受講生免除)	55,000	
受 講 料	経 済 学 部	1 単位	9,000
	経 営 学 部	1 単位	9,000
	法 学 部	1 単位	9,000
	人 文 学 部	1 単位	9,000
	工 学 部	1 単位	10,000
	履修証明プログラム受講生		54,000
実 験 実 習 費	工 学 部	実験を履修する者	80,000

(5) 教職課程 (在学生)

区 分		金 額	
受 講 料	教 科		56,000円
	経 済 学 部	1 単位	9,000
	経 営 学 部	1 単位	9,000
	法 学 部	1 単位	9,000
	人 文 学 部	1 単位	9,000
	工 学 部	1 単位	10,000

(6) 図書館学課程

区 分		金 額	
入 学 検 定 料	(本学卒業生免除)	30,000円	
受 講 料	司 書 在 学 生 本 学 卒 業 生 他 大 学 卒 業 生		66,000
			194,000
			250,000
	司 書 教 諭 在 学 生 本 学 卒 業 生 他 大 学 卒 業 生		33,000
			80,000
			124,000
	同 時 受 講 在 学 生 本 学 卒 業 生 他 大 学 卒 業 生		69,000
			223,000
			277,000
科 目 受 講 者	1 単位	9,000	

(7) 社会教育主事課程

区 分		金 額	
入 学 検 定 料	(本学卒業生免除)	30,000円	
入 学 金	(本学卒業生免除)	55,000	
受 講 料	在 学 生 本 学 卒 業 生 他 大 学 卒 業 生		24,000
			71,000
			91,000
	科 目 受 講 者 (実習費は、実費徴収)	1 単位	9,000

(8) 学芸員課程

区 分		金 額	
入 学 検 定 料	(本学卒業生免除)	30,000円	
入 学 金	(本学卒業生免除)	55,000	
受 講 料	在 学 生 本 学 卒 業 生 他 大 学 卒 業 生		41,000
			121,000
			154,000
	科 目 受 講 者 (実習費は、実費徴収)	1 単位	9,000

(9) 日本語教員養成課程

区 分		金 額	
入 学 検 定 料	(本学卒業生免除)	30,000円	
入 学 金	(本学卒業生免除)	55,000	
受 講 料	在 学 生 人 文 学 部 (免 除) 他 の 学 部 卒 業 生		30,000
		本 大 学 卒 業 生	1 単位 9,000
		他 大 学 卒 業 生	1 単位 9,000
	科 目 受 講 者	1 単位	9,000
	修了証書手数料		5,000

(10) 特別聴講学生

区 分		金 額	
入 学 検 定 料		30,000円	
入 学 金		55,000	
受 講 料	経 済 学 部 経 営 学 部 法 学 部 人 文 学 部 工 学 部	1 単位	9,000
		1 単位	10,000
実 験 実 習 費	工 学 部	実験を履修する者	80,000

平成28年度より、入学検定料及び入学金の取扱いについては、次のとおりとする。

(1) 研究生、(4) 科目等履修生、(6) 図書館学課程、(7) 社会教育主事課程、(8) 学芸員課程、(9) 日本語教員養成課程に記載のある本学卒業生免除には北海道大学卒業生を含む。

(9) 北海学園大学学位規則

昭和45年3月26日 制定

(授与する学位)

第1条 北海学園大学(以下「本大学」という。)が授与する学位は、次のとおりとする。

経済学部 1部	経済学	科学士(経済学)
経済学部 2部	地域経済学	科学士(経済学)
経営学部 1部	経営学	科学士(経営学)
経営学部 2部	経営情報学	科学士(経営学)
法学部 1部	法学	科学士(法学)
法学部 2部	政治学	科学士(法学)
人文学部 1部	日本文学	科学士(文学)
人文学部 2部	英米文学	科学士(文学)
工学部	社会環境工学	科学士(工学)
	建築学	科学士(工学)
	電子情報工学	科学士(工学)
	生命工学	科学士(工学)
経済学研究科 経済政策専攻	修士(経済学)	博士(経済学)
経営学研究科 経営学専攻	修士(経営学)	博士(経営学)
法学研究科 法学専攻	修士(法学)	博士(法学)
	政治学専攻	修士(政治学)
文学研究科 日本文学専攻	修士(文学)	博士(文学)
	英米文学専攻	修士(文学)
工学研究科 建設工学専攻	修士(工学)	博士(工学)
	電子情報生命工学専攻	修士(工学)

(学位の授与の要件)

第2条 学士の学位は、本大学を卒業した者に授与する。

2 修士の学位は、本大学の大学院(以下「本大学院」という。)の修士課程を修了した者に授与する。

3 博士の学位は、本大学院の博士(後期)課程を修了した者に授与する。

4 前項の規定にかかわらず、博士の学位は、本大学院博士(後期)課程を修了しない者であっても、博士論文を提出して、その審査に合格し、かつ、その関係専攻分野に関し本大学院博士(後期)課程修了者と同等以上の学力を有することを試験により確認された場合には、授与することができる。

5 本大学院の博士(後期)課程に所定の修業年限以上在学し、所定の単位を修得し、かつ、必要な研究指導を受けて退学した者が、再入学せず論文を提出するときは、前項の規定によるものとする。ただし、退学したときから3年以内に提出する場合に限り、審査手数料の納入を免除する。

6 削除

(論文の提出)

第3条 修士論文は、在学第2年次以降において、各研究科において指定する期間内に、研究科長に提出しなければならない。

2 博士論文は、在学第3年次以降において、各研究科において指定する期間内に、研究科長に提出しなければならない。

3 前条第4項の規定により博士の学位の授与を申請す

る者は、所定の博士学位申請書、研究業績一覧表、博士論文の要旨、履歴書及び別に定める審査手数料を添えて、博士論文を研究科長に提出しなければならない。

4 提出する論文は1編とし、3通を提出するものとする。

5 提出した論文及び納入した審査手数料は、返還しない。

(論文の審査及び試験)

第4条 修士論文の審査及び試験は、「学位規則」(昭和28年文部省令第9号)第3条に定めるところを基準として行うものとする。

2 博士論文の審査及び試験は、「学位規則」(昭和28年文部省令第9号)第4条に定めるところを基準として行うものとする。

3 論文の審査及び試験に関し必要な事項は、研究科委員会の議を経て、研究科長が定める。

(論文の審査)

第5条 修士論文及び博士論文の審査は、研究科の審査委員会が行う。

2 前項の審査委員会は、原則として、当該研究科委員会に所属する3人の委員をもって構成する。第2条第2項、第3項に定める学位論文の審査のための審査委員会には、学位申請者の指導教授を加えるものとする。

3 第2条第2項、第3項に定める学位論文の審査は、原則として在学期間内に終了するものとし、第2条第4項及び第5項に定める博士論文の審査は、その提出日から1年以内に終了するものとする。

(試験)

第6条 試験は、審査委員が筆記又は口頭で行う。

2 試験は、修士論文又は博士論文の内容を中心として行う。

3 第2条第4項に定める学力を確認するための試験は、博士論文の内容、関連する専攻分野の科目及び外国語について行う。ただし、学位申請者の経歴、研究上の業績から優れた学力が認められる場合は、関連する専攻分野の科目及び外国語についての試験を免除することができる。

(審査等の報告)

第7条 修士論文又は博士論文の審査及び試験が終了したときは、審査委員会は、その結果を、修士論文又は博士論文及び試験の要旨を記載した書面により研究科委員会に報告しなければならない。

2 審査を終了した修士論文又は博士論文は、おおむね1週間、研究科委員会の委員に対して公開するものとする。

3 研究科長は、研究科委員会の委員に対し、修士論文又は博士論文の提出者の氏名、修士論文又は博士論文の題目、公開の期間及び期日と場所その他必要な事項を、公開期間前7日までに書面をもって通知しなければならない。

(合格又は不合格の決定)

第8条 修士論文及び博士論文並びに試験の合格又は不合格は、研究科委員会において決定する。

2 前項の研究科委員会は、委員総数の3分の2以上の者が出席しなければ、開催することができない。

3 第1項の合格の決定は、研究科委員会の委員の無記名投票により出席者の3分の2以上の者が賛成することを必要とする。

(合格者の報告)

第9条 修士論文及び博士論文並びに試験の合格者が決

定したときは、研究科長は、遅滞なく、その旨を学長に報告しなければならない。	この規則は、平成4年4月1日から施行する。
2 前項の報告には、修士論文又は博士論文の審査及び試験の結果の要旨並びに履歴書2通を添付しなければならない。	附則 この規則は、平成5年4月1日から施行する。
(学位の授与及び学位記)	附則 この規則は、平成7年4月1日から施行する。
第10条 学長は、教授会の議を経て、本大学学則第32条の定める単位を修得した者に、第1条に該当する学士の学位を授与する。	附則 この規則は、平成8年4月1日から施行する。
2 学長は、大学院委員会の議を経て、修士論文又は博士論文の審査及び試験の合格者に対し、第1条に該当する学位を授与する。	附則 この規則は、平成10年4月1日から施行する。
3 削除	附則 この規則は、平成11年4月1日から施行する。
4 学位記は、別記様式のとおりとする。	附則 この規則は、平成12年4月1日から施行する。
(論文要旨等の公表)	附則 この規則は、平成13年4月1日から施行する。
第11条 本大学は、博士の学位を授与したときは、当該博士の学位を授与した日から3ヶ月以内に、その学位論文の内容の要旨及び審査結果の概要をインターネットの利用により公表するものとする。	附則 この規則は、平成14年4月1日から施行する。
2 博士の学位を授与された者は、当該博士の学位を授与された日から1年以内に、当該博士の学位の授与に係る論文の全文を公表しなければならない。ただし、当該博士の学位を授与される前にすでに公表している場合は、この限りではない。	附則 この規則は、平成15年4月1日から施行する。
3 前項の規定にかかわらず、博士の学位を授与された者は、やむをえない理由がある場合には、本大学の承認を得て、当該博士の学位授与に係る論文の全文に代えてその内容を要約したものを公表することができる。この場合において、本大学は、その論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。	附則 この規則は、平成17年4月1日から施行する。
4 博士の学位を授与された者が行う前2項の規定による公表は、本大学の機関リポジトリHOKUGA（以下「HOKUGA」という。）を活用して、インターネットによるものとする。	附則 この規則は、平成19年4月1日から施行する。
5 前項の規定にもかかわらず、博士の学位を授与された者がHOKUGA以外の形態によって公表する場合には、本大学が授与した学位に係る論文またはその要旨である旨を明記しなければならない。	附則 この規則は、平成24年4月1日から施行する。
(学位の取消)	附則 この規則は、平成26年4月1日から施行する。
第12条 学位を授与された者が、次の各号の一に該当するときは、学長は、教授会又は大学院委員会の議を経て、授与した学位を取り消すものとする。	附則 この規則は、平成27年4月1日から施行する。
(1) 不正な方法により学位を受けた事実が判明したとき	附則 この規則は、平成28年4月1日から施行する。
(2) 学位を授与された者にその名誉を汚辱する行為があったとき	附則 この規則は、平成30年4月1日から施行する。
2 前項の規定により学位を取り消された者は、その学位記を本大学に返さなければならない。	附則 この規則は、令和2年4月1日から施行する。
(規則の改正)	附則 この規則は、令和6年4月1日から施行する。
第13条 この規則の改正は、本大学協議会又は本大学大学院委員会の議を経て行う。	
附則 この規則は、昭和45年4月1日から施行する。	
附則 この規則は、昭和61年4月1日から施行する。	
附則 この規則は、平成3年4月1日から施行する。	
附則 この規則は、平成3年12月1日から施行する。	
附則	

別記様式

1 (本学を卒業した場合の卒業証書・学位記)

卒業証書・学位記	氏名	年 月 日生
印		
本学〇〇学部〇〇学科所定の課程を修めたことを認める		
年 月 日		
北海学園大学〇〇学部長 〇〇〇〇		
本学〇〇学部長の認定により		
卒業証書を授与し学士(〇〇)の		
学位を授ける		
北海学園大学長 〇〇〇〇		
学(済・営・法・文・工)第 号		
印	印	

3 (博士(後期)課程を修了した場合の学位記)

学位記	氏名	年 月 日生
印		
本学大学院〇〇研究科 〇〇専攻の博士課程を 修了したので博士(〇〇)の 学位を授ける		
年 月 日		
北海学園大学		
博(経済・経営・法・政治・文・工)		
甲第 号		
印		

2 (修士課程を修了した場合の学位記)

学位記	氏名	年 月 日生
印		
本学大学院〇〇研究科 〇〇専攻の修士課程を 修了したので修士(〇〇)の 学位を授ける		
年 月 日		
北海学園大学		
修(経済・経営・法・政治・文・工)		
第 号		
印		

4 (論文提出による場合の学位記)

学位記	氏名	年 月 日生
印		
本学に学位論文を提出し 所定の審査及び試験に合格 したので博士(〇〇)の 学位を授ける		
年 月 日		
北海学園大学		
博(経済・経営・法・政治・文・工)		
乙第 号		
印		

5 削除